学ぶ○南満州鉄道(株)社員、時事新報記者となりのち著述業に従事、東京市電従業員交通労働同盟組織顧問、日本無産党中央常任委員となる、また雑誌「人民戦線」主幹となる㊎小説「赭土に芽ぐむもの」「汝等の背後より」「人生記録」○当選二回(22 24)○昭和33年9月1日死去

中西 新作 (なかにし しんさく) 熊本県郡部選出 立憲政友会

天保11年4月生・熊本県出身・漢学を修む○大庄屋となる、のち大阪府庁出仕、司法省出仕、熊本裁判所判事補を歴任し、宮地岳村戸長、天草郡連合町村会議員、所得税調査委員となり、熊本県会議員、宮地岳村会議員、天草郡会議員となる○当選二回(8 9)○明治44年11月17日死去

中西 敏憲 (なかにし としのり) 福井県選出 日本進歩党

明治27年3月生・福井県出身・大正8年東京帝国大学英法科卒、のち欧米各国に留学○南満州鉄道(株)地方課長、地方、総務各部長、理事、南満州瓦斯、満州航空各(株)取締役、東亜経済懇談会常務理事、大連商工会議所特別議員となる、外務省嘱託として松岡外務大臣の渡欧に随行す、また商工省、軍需省各委員、小磯内閣の大東亜参与官となる、のち福井鉱業、共栄印刷各(株)社長、東洋埠頭、北陸コンクリート各(株)取締役となる○当選一回(21)

中西 孫太郎 (なかにし まごたろう) 香川県郡部選出 立憲政友会

文久3年3月生・香川県出身・漢学を修む○川津村長、所得税調査委員、綾歌郡会議員、同議長、香川県会議員、同議長、香川地方森林会議員となる、また香川県麦稈真田同業組合長となる○当選一回(9補)○昭和9年1月17日死去

中西 光三郎 (なかにし みつさぶろう) 和歌山県郡部選出 立憲政友会

弘化2年1月生・和歌山県出身・漢学を修む○農業を営む、和歌山県野上組郷長、小区長、和歌山県会議員、同常置委員、同副議長、同議長となり、伊都、那賀各郡長となる○当選一回(9)・(貴族多額)○明治43年7月10日死去

中西 六三郎 (なかにし ろくさぶろう) 北海道選出 勅選

慶応2年1月生・北海道出身○判事試補、敦賀治安裁判所判事、増毛治安裁判所判事、札幌地方裁判所判事を歴任す、のち弁護士の業務に従事し、北海道会議員、同議長、鉄道会議議員、臨時法制審議会委員となる、また立憲政友会総務、政友本党総務となる・第十九回列国議会同盟会議(ストックホルム)に参列し欧米各国を視察す○当選五回(9 12 13 14 16)○昭和5年2月3日死去

中沼 信一郎 (なかぬま しんいちろう) 島根県隠岐選出 立憲政友会

明治6年4月生・島根県出身・明治36年京都帝国大学独法科卒○司法官試補、神戸地方裁判所検事代理となり、のち弁護士の業務に従事す、また横浜市助役となる○当選一回(10)○大正8年7月10日死去

中野 猪之助 (なかの いのすけ) 大分県第五区選出 立憲民政党

明治5年6月生・大分県出身・漢学を修む○久留米市会議員、同参事会員となる、また(資)中野材木店代表者、久留米材木同業組合長、九州材木連合協会長、日田実業銀行取締役、九州材木(株)専務取締役、久留米商業会議所特別議員、同顧問となる○当選一回(15)○昭和13年1月18日死去

中野 貫一 (なかの かんいち) 新潟県郡部選出 憲政会

弘化3年9月生・新潟県出身・朝日実学館に学ぶ○庄屋、戸長、金津村長となる、また石油鉱業の発達に尽力し、中央石油(株)社長、豊磐石油(株)取締役、宝田石油、日本石油各(株)監査役となるほか、新潟鉄物、沼垂銀行、新津運輸倉庫各(株)取締役、新潟水力電気(株)監査役となる○当選二回(11 12)○昭和3年2月25日死去

中野 四郎 (なかの しろう) 愛知県第四区選出 新党同志会

明治40年1月生・愛知県出身・東京市豊山中学校に学ぶ○東京市牛込区会議員、同議長、東京市会議員、同予算委員長、碧南市長となる、また日本食糧協会専務理事、(資)日本旅行クーポン社長、第一中外印刷(株)取締役、協進海運(株)社長、日本農民党中央執行委員長、改進党政調会副会長となる○当選五回(22 23 24 25 26)

中野 治介 (なかの じすけ) 山口県第二区選出 翼賛議員同盟

明治11年5月生・山口県出身○裁判所書記となり、のち弁護士試験に合格し、弁護士の業務に従事す、山口町会議員、山口県会議員、同議長、山口市長となる、また山口土地建物(株)監査役、山口地方裁判所々属弁護士会長、広島保護観察所保護司となる・台湾、フィリピン及び南洋視察のため、また派遣軍慰問のため北支那に派遣さる○当選二回(19 20)○昭和26年3月8日死去

中野 治兵衛 (なかの じひょうえ) 大阪府第四区選出 実業同志倶楽部

天保5年4月生・大阪府出身・漢籍を修む○農業を営む、戸長、大阪府会議員となる○当選一回(4)○大正5年2月14日死去

中野 正剛 (なかの せいごう) 福岡県第一区選出 無所属

明治19年2月生・東京都出身・明治42年早稲田大学政治経済科卒、のち欧米に留学す○東京朝日新聞記者となる、パリ講和会議に特派員として赴く、のち雑誌東方時論社を起し社長兼主筆となる、また第一次若槻内閣の大蔵参与官、濱口内閣の逓信政務次官、立憲民政党総務、国民同盟総務、東方会会長となり政党解消後振東社総裁、大政翼賛会常任総務となる、のち東方会を再建し総裁となる㊎「明治民権史論」「世界政策と極東政策」「講和会議を目撃して」「国家改造計画綱領」「建武中興史論」○当選八回(14 15 16 17 18 19 20 21)○昭和18年10月27日死去

中野 武雄 (なかの たけお) 京都府第二区選出 自由党

明治34年4月生・京都府出身・昭和4年早稲田大学英法科卒○京都市会議員、同参事会員となり、第三次吉田内閣の大蔵政務次官となる、また京阪伏見桃山農業会連合会長、京都市開拓協会長、鳳凰醸造(株)監査役、日本食料(株)専務取締役、伏見小運搬(株)取締役社長、近畿砂利(株)社長、京都府民主自由党総務となる○当選四回(22 23 24 25)

中野 猛雄 (なかの たけお) 熊本県第二区選出 立憲政友会

明治16年11月生・熊本県出身・明治40年早稲田大学政治経済科卒○宮地岳村長、熊本県会議員となる、また中西銀行、九州商船、再製樟脳、菊池電気軌道各(株)取締役、肥州窯業(株)取締役社長、九州新聞社長となる○当選四回(16 17 18 19)○昭和25年8月27日死去

中野 種一郎 (なかの たいちろう) 京都府第二区選出 立憲政友会

明治9年9月生・京都府出身・明治32年西山派仏教専門学校卒○伏見町会議員、紀伊郡会議員、同議長、京都市会議員、同参事会員、京都府会議員、伏見町長、同市長、京都府町村長会長、昭和大礼京都府参与となる、また酒造業を営み、伏見瓦斯、八幡電気鉄道各(株)取締役、京阪自動車(株)社長、京都通商銀行頭取、京都放送(株)会長となるほか、京都府酒造組合連合会長、京都市商工会議所会頭、日本商工会議所副会頭となる・第十九回万国議院商事会議(ベルグラード)及び第三十回列国議会同盟会議(イスタンブール)に参列す○当選一回(18)

中野 悌治 (なかの ていじ) 山形県郡部選出 憲政会

元治元年12月生・山形県出身・明治23年東京法学

院卒○小学校訓導となる、のち代言人となり、次いで弁護士の業務に従事し、鶴岡町会議員、同市会議員、水利組合会議員、所得税調査委員、山形県会議員、同参事会員となる○当選一回(12)○昭和13年5月5日死去

中野徳次郎 福岡県郡部選出 立憲政友会
安政4年12月生・福岡県出身○木浦、宝満津等の炭坑開鑿を管理、肥前松島、筑前熊田、相田、大分、鞍手の各鉱区を経理す、また嘉穂銀行、大分紡績、九州水力電気、大正電球、筑前参宮鉄道各(株)取締役、日本電化工業(株)監査役となる○当選一回(7)○大正7年6月1日死去

中野寅吉 福島県第二区選出 新自由党
明治12年4月生・福島県出身・明治34年早稲田大学法律科卒○北海道庁、台湾総督府、韓国統監府、朝鮮総督府、警視庁各警部、南洋群島防備隊民政事務官を歴任す、また日本電気窯業(株)常務取締役、東洋ペイント(株)取締役となる、のち僧侶となる・派遣軍慰問のため北支那に派遣さる○当選六回(14 15 18 20 22 23)○昭和37年7月5日死去

中野寅次郎 高知県高知市選出 立憲政友会
元治元年9月生・東京都出身・明治15年高知県師範学校卒○小学校訓導となる、のち土陽、愛国各新聞記者、自由党報、人民新聞各監督、自由通信社主幹となり、小石川区長、東京市土木部長、小石川区学務委員長、同区会議員、東京市会議員となる、また満州興信公所長、東京鉄道(株)庶務課長、満州水力電気(株)取締役、鬼怒川水力電気(株)副社長、渋谷急行電気鉄道、東京郊外鉄道各(株)監査役、土陽新聞社長となる○当選一回(13)○昭和15年4月21日死去

中野武營 東京府東京市選出 無所属
嘉永元年1月生・香川県出身・藩校弘道館に学ぶ○史生、権少属、農商務省権少書記官、愛媛県会議員、同議長、東京市会議員、同議長となる、また日本大博覧会評議員、東洋拓殖(株)設立委員、関西鉄道(株)取締役、東京株式取引所理事長、東京会議所会頭となる○当選八回(1 2 3 4 5 6 7 10)○大正7年10月8日死去

中野邦一 佐賀県第一区選出 第一控室
明治17年10月生・佐賀県出身・明治42年東京帝国大学英法科卒○警視庁警部、同警視、芝西久保、本郷駒込、浅草南元町各警察署長、高知、愛知各県理事官、香川、岡山、宮城各県及び京都府各警察部長、愛媛、秋田各県内務部長、秋田、石川、岡山、新潟各県知事を歴任す、また東京市助役、立憲民政党総務となる、のち弁護士の業務に従事す㊟「中野方蔵先生」「皇道之真意義」「消防読本」○当選二回(19 20)

中野實 佐賀県第二区選出 立憲民政党
安政元年7月生・福岡県出身・漢学を修む○愛国生命保険会社専務取締役兼大阪支社長、九州電燈鉄道、関西電力、泉尾綿毛、鹿児島電気軌道、松尾鉄工所、朝鮮中央鉄道、九州土地建物各(株)取締役、札幌市街軌道、太宰府軌道、筑豊製氷各(株)取締役社長、博多株式取引所理事長、東邦電力会社顧問、佐賀琺瑯(株)監査役、佐賀大授搦耕地整理組合長となる○当選一回(15)○昭和4年8月23日死去

中野勇治郎 東京府第四区選出 立憲政友会
明治12年1月生・東京都出身・明治34年日本法律学校、同34年東京法学院卒○司法官試補、検事代理となり、のち弁護士の業務に従事し、本所区会議員、同議長、東京府会議員、同参事会員、同副議長、同議長となる、また東京弁護士会副会長、東京府教育会評議員会議長、帝都教育会議長、白根硫黄(株)取締役となる○当選一回(18)○昭和21

年4月22日死去

中琴半左衛門 愛知県第二区選出 日本進歩党
明治21年2月生・愛知県出身・明治45年早稲田大学政治経済学科卒○(株)中埜酢店監査役、亀甲富中埜醤油店、知多鉄道各(株)取締役、半田運送倉庫(株)取締役社長、名古屋金城商業学校主となる、また半田町会議員、同町長、半田商工会議所副会頭、半田市長となり、愛知県社会教育委員、半田市農地委員会長、拓務省委員、大東亜省委員、大政翼賛会半田市支部長となる○当選一回(21)○昭和32年10月3日死去

中埜廣太郎 大阪府第五区選出 立憲政友会
安政5年5月生・大阪府出身○農業を営む、村長、村会議員、組合町村会議員、徴兵参事員、大阪府会議員、同常置委員となる、また三島実業銀行、三島煉瓦各(株)取締役となる○当選三回(4 5 6)○昭和2年11月7日死去

中橋徳五郎 石川県第一区選出 立憲政友会
元治元年9月生・石川県出身・明治19年東京帝国大学法律科撰科卒、のち同大学院に学ぶ○判事試補、特許局審判官、農商務省参事官、法制局参事官、衆議院書記官、逓信省参事官兼会計局長、逓信書記官、監査局長、鉄道局長を歴任、大阪市会議員、同議長、原内閣の文部大臣次いで高橋内閣に留任、田中内閣の商工大臣、犬養内閣の内務大臣となる、また大阪商船、宇治川電気各(株)取締役社長、湖南汽船、日本火災保険、東洋木材防腐、日清汽船各株取締役、南満州鉄道株監事、日本窒素肥料(株)取締役会長、大阪商業会議所特別議員、立憲政友会総務、政友本党顧問となる○当選七回(11 12再 13 14 16 17 18)○昭和9年3月25日死去

中林友信 大阪府第十区選出 立憲民政党
明治4年2月生・大阪府出身・明治26年明治法律学校卒○破産管財人、泉北郡会議員、大阪府会議員、同部会議長、大阪府教育会副会長、泉北郡衛生会副会長となる、また東京自由通信社主幹、日刊近畿新聞社主兼社長、大阪盲人学校主兼校長、堺市梅鉢鉄工所顧問となる○当選五回(7 8 9 10 15)○昭和3年2月18日死去

中原清 宮崎県選出 立憲政友会
慶応元年4月生・宮崎県出身・明治23年明治法律学校卒○弁護士の業務に従事す、宮崎県会議員、宮崎町会議員となる○当選一回(7)○大正11年1月3日死去

中原謹司 長野県第三区選出 無所属倶楽部
明治22年2月生・長野県出身・早稲田大学哲学科に学ぶ○陸軍歩兵中尉となる、信濃時事新聞編集部員、同主筆、南信電気(株)支配人、同監査役、国民精神作興会幹事、信州郷軍同志会幹事長となる、週刊「信州郷軍新聞」を発刊す、また長野県会議員、平沼内閣の海軍参与官、拓務省委員、大東亜省委員となる・派遣軍慰問のため中支那へ派遣さる㊟「局地ニ於ケル赤化思想ノ進撃ト攻勢防禦」○当選三回(19 20 21)○昭和26年3月1日死去

中原健次 岡山県第二区選出 日本社会党
明治29年5月生・岡山県出身○岡山市会議員、岡山県会議員、同参事会員、岡山県地方労働委員、日本専売公社広島地方調停委員となる、政治研究会、労働農民党、日本労働組合評議会、日本労働組合全国評議会に入り、労働運動を指導、戦後組合組織の再建に尽し、日本労働組合総同盟、日本社会党等の結成に参加す、次いで労働者農民党を結成書記長となり、のち日本社会党と統一合同す・中共を視察す○当選六回(22 23 24 26 27 28)

中原徳太郎 東京府第九区選出 立憲民政党
明治4年7月生・京都府出身・明治33年東京帝国

大学医学科卒、のちドイツに留学、外科及び整形外科学を研修す、医学博士○医術開業試験委員、日露戦役中陸軍篤志医員、楽山堂病院副院長、中原病院長、日本医学専門学校長となる、また憲政会幹事長となる○当選二回(14補15)○昭和2年11月17日死去

中村梅吉 (なかむらうめきち) 東京都第五区選出 自由民主党

明治34年3月生・東京都出身・大正11年法政大学法律科卒○弁護士、東京府会議員、同参事会員、東京市会議員、同参事会員、農林大臣秘書官、大蔵大臣秘書官、小磯内閣の軍需参与官となり、司法省委員、商工省参与、衆議院議院運営委員長、石橋内閣次いで第一次岸内閣の法務大臣となる、また中村学園理事長、国民生活改善連盟理事長、自由党政策審議会副会長、日本自由党政務調査会長、日本民主党政調会副会長、同顧問、自由民主党国会対策委員長、首都圏整備特別委員長、政務調査会長、オリンピック準備特別委員長となる・憲法調査会委員として欧米各国を視察す○当選七回(19 20 21 25 26 27 28)

中村榮助 (なかむらえいすけ) 京都府第二区選出 立憲政友会

嘉永2年2月生・京都府出身・漢学、経済学を修む○区会議員、同議長、上下京連合区会議員、同議長、京都市会議員、同議長、京都府会議員、同常置委員、同副議長、京都府会議員、同議長となり、また京都商工会議所副会頭、臨時博覧会評議員、同志社理事、鴨東銀行副頭取、京都鉄道、伏見紡績、農商銀行各(株)取締役、京都電気鉄道、京都倉庫、京都米穀取引所各(株)監査役となる○当選二回(1 6)○昭和2年9月17日死去

中村嘉壽 (なかむらかじゅ) 鹿児島県第一区選出 民主自由党

明治13年11月生・鹿児島県出身・明治33年水産講習所卒、同38年ニューヨーク大学卒、マスター・オブ・アーツの学位を受く○紐育日米週報社員となり、ポーツマス平和会議に参列、ニューヨークに中村、木村、ケルハー法律事務所を開く、のち福徳貯金銀行、輸出水産会社、(株)山神組各専務取締役、雑誌「海外之日本」を創刊し、社長となる、また東洋文化学会、海外貿易振興会各代表者、法政大学教授、内閣綜合計画局参与、民主党会計監督、衆議院図書館運営委員長となる・第二十三回(ワシントン・オットワ)、第二十四回(パリ)、第二十六回(ロンドン、第二十九回(マドリッド)の各列国議会同盟会議に、また第十六回万国議院商事会議(ブラッセル)に参列す㊎翻訳「単純生活」(英文)「伊藤公」「日本の水産一般」○当選六回(15 17 18 19 22 23)

中村克昌 (なかむらこくしょう) 東京府第十三区選出 同志倶楽部

嘉永6年4月生・東京都出身○呉服雑貨商を営む、神奈川県会議員、同常置委員となる、また帝国電気鉄道(株)、調布銀行各取締役となる○当選三回(3 4 5)○昭和6年4月11日死去

中村喜平 (なかむらきへい) 滋賀県第六区選出 立憲政友会

文久2年9月生・滋賀県出身○長浜町会議員、同町長、滋賀県会議員、同参事会員、営業税調査委員となる、また縮緬生糸商を営み、長浜糸米取引所理事長、同相談役、長浜瓦斯(株)取締役社長となる○当選二回(13 14)○大正15年8月12日死去

中村清 (なかむらきよし) 三重県第二区選出 自由党

明治36年5月生・三重県出身・昭和4年東京商科大学本科卒○警視庁属兼警部、同警視、岡山県商工水産課長兼知事官房秘書、人事各課長、島根県経済部長、陸軍司政官、内務書記官、岐阜県経済第一部長、山梨県内務部長、埼玉県経済部長、三重県総務部長、同県副知事を歴任、公正取引委員会委員となる、また東方物産(株)社長、民主自由党組織副部長、自由党政調会水産副部長となる○当選二回(24 26)

中村啓次郎 (なかむらけいじろう) 和歌山県第一区選出 無所属

慶応3年10月生・和歌山県出身・東京英語学校に学び明治23年英吉利法律学校卒○日清戦役に陸軍省雇員として大本営附となり、次いで占領地総督府民政部庶務課長兼司法課長となる、のち弁護士の業務に従事し、台北弁護士会長、北港製糖、台湾瓦斯各(株)監査役、北海鉱業(株)社長となる、日刊台湾民報を発刊す、また濱口内閣の逓信政務次官、衆議院議長となるほか、政友本党総務、立憲民政党総務、顧問となる○当選六回(10 11 13 15 16 17)○昭和12年5月22日死去

中村幸八 (なかむらこうはち) 静岡県第三区選出 自由民主党

明治31年12月生・静岡県出身・大正11年東京帝国大学政治科卒○農商務省へ入り、商工省各課長、鉱山監督局長、特許局長官、軍需監理部長官を歴任、第四次吉田内閣の外務政務次官、衆議院商工委員長となる、また自由党政調会資源部長、政調会相談役、総務、自由民主党総務、組織総局次長、科学技術特別委員会委員長となる㊎発明五十年史○当選四回(24 25 26 28)

中村貞吉 (なかむらさだきち) 新潟県第八区選出 立憲民政党

明治10年8月生・新潟県出身○三島郡会議員、同参事会員、所得調査委員となる、土木請負業を営む○当選一回(15)○昭和6年2月26日死去

中村三之丞 (なかむらさんのじょう) 京都府第一区選出 自由民主党

明治27年9月生・京都府出身・大正7年早稲田大学政治経済科卒、英独に留学し政治経済学を研究す○商工大臣、大蔵大臣各秘書官、第一次近衛内閣の大蔵参与官、大蔵省委員、綜合計画局参与、鈴木内閣の大蔵政務次官、衆議院社会労働委員長、第一次岸内閣の運輸大臣となる、また改進党中央常任委員、日本民主党両院議員総会長、総務、自由民主党総務、相談役となる・第二十八回列国議会同盟会議(ジュネーブ)に参列し、欧米各国を視察、また中共を視察す㊎「英国の総選挙」、(訳書)「近代都市政治論」○当選七回(18 19 20 21 26 27 28)

中村四郎兵衛 (なかむらしろべえ) 静岡県第二区選出 立憲政友会

慶応2年4月生・静岡県出身○浜松町会議員、同評議員、浜松市会議員、同参事会員、静岡県会議員、同議長となる、また浜松商業会議所議員、浜松瓦斯(株)常務取締役、静岡県消防組連合会常議員となる○当選一回(15)○昭和5年5月15日死去

中村舜次郎 (なかむらしゅんじろう) 神奈川県郡部選出 立憲政友会

弘化4年8月生・神奈川県出身・漢学を修む○戸長、足柄県副区長、神奈川県区長、足柄上郡長兼学区取締、足柄下郡長、町村組合会議長、行政裁判所評定官を歴任す○当選一回(10)○昭和6年3月14日死去

中村純一 (なかむらじゅんいち) 愛媛県第三区選出 自由党

明治34年10月生・愛媛県出身・大正14年東京帝国大学英法科卒○通信書記、関東庁逓信局長、興亜院経済第三課長、逓信省電務局長、逓信院貯金保険局長を歴任、衆議院通商産業委員長、宇和島市長となる、また関東港湾労務厚生協会長、前田学園理事、民主自由党政調会逓信部長となる○当選一回(24)

中村清一郎 (なかむらせいいちろう) 埼玉県選出 立憲政友会

明治3年9月生・埼玉県出身・明治23年東京学館卒○農業を営む、日清戦役に従軍す、北葛飾郡書記、田宮村会議員、北葛飾郡会議員となる○当選一回(9)○昭和13年7月17日死去

中村清造 (なかむらせいぞう) 福岡県第九区選出 立憲政友会

明治4年3月生・福岡県出身・明治22年県立福岡中学校卒○日清、日露戦役に従軍す、上西郷村長、津屋崎町長、宗像郡会議員、同参事会員、福岡県会議員、同参事会員となる、また酒造業を営み、

県地方森林会議員、全国酒造組合連合会評議員となる○当選二回(14 15)○昭和7年7月21日死去

中村靜興(なかむらせいこう) 鹿児島県郡部選出 無所属

元治元年3月生・鹿児島県出身・明治23年第五高等中学医学部、同26年東京帝国大学専科、同33年伝染病研究所研究科卒○医師を開業す、郡会議員、村会議員、郡医師会長、県医師会代議員、日本医師会代議員となる、阿久根村において温泉を経営す、また織物の授産場を起す○当選一回(13)○昭和2年4月22日死去

中村巍(なかむらたかし) 和歌山県第二区選出 立憲政友会

明治6年7月生・和歌山県出身・東京高等商業学校に学ぶ○領事館書記生、領事官補、外交官補、公使館三等書記官、領事、外務書記官、総領事(オッタワ、ロンドン、ニューヨーク在勤)、外務省通商局長、アルゼンチン国駐剳特命全権公使(パラグァイ、ウルグァイ国兼勤)を歴任、加藤(高明)内閣の外務政務次官、対支文化事業調査会委員となる、また立憲政友会総務となる○当選二回(15 16)○昭和24年12月17日死去

中村高一(なかむらたかいち) 東京都第七区選出 日本社会党

明治30年7月生・東京都出身・大正12年早稲田大学法学部英法科卒○弁護士の業務に従事す、東京市会議員、東京都会議員、衆議院貿易振興に関する調査特別委員長、衆議院副議長、皇室会議、皇室経済会議各議員、第四十九回列国議会同盟会議日本議員団副団長となる、また民主法曹団幹事長、農民総同盟常任中央委員、日農東京都連合会中央執行委員、選挙対策委員会副会長、総務局長、綱紀粛正委員長、東京都連合会長、教育宣伝局長、沖縄対策特別委員会委員長となる・第四十六回列国議会同盟会議(ロンドン)に出席し、欧米各国を視察、また中共、ソ連邦を視察す○当選六回(20 22 25 26 27 28)

中村千代松(なかむらちよまつ) 秋田県郡部選出 立憲国民党

慶応3年1月生・秋田県出身・明治18年秋田県師範学校卒○博文館編集員、忠愛新報編集長、秋田魁新聞主筆、報知新聞記者、秋田毎日新聞社長となる○当選一回(12)○昭和16年8月4日死去

中村繼男(なかむらつぐお) 東京府第六区選出 国民同盟

明治21年10月生・熊本県出身・明治45年長崎高等商業学校卒○税務監督局属兼大蔵属、税務監督局事務官を歴任、滝野川町会議員、文部大臣秘書官、内閣調査局参与、国民同盟総務となる、また税務懇談会を組織しこれを主宰す・第二十六回列国議会同盟会議(ロンドン)並びに第十六回万国議院商事会議(ブラッセル)に参列す(著)「法人所得税法詳解」○当選三回(16 17 18)○昭和21年6月5日死去

中村亨(なかむらとおる) 東京府第七区選出 立憲政友会

明治9年1月生・東京都出身・二松学舎に学ぶ○農業を営む、調布町会議員、調布町助役、同町長、北多摩郡会議員、同参事会員、営業税調査委員、東京府会議員、同参事会員、郡教育会副会長となる○当選一回(16)○昭和32年6月17日死去

中村時雄(なかむらときお) 愛媛県第一区選出 民主社会党

大正4年6月生・愛媛県出身・昭和18年北京大学農学院研究院卒○農林省行政査察官、農林大臣秘書官となる、社団法人日本農村調査会顧問、国民年金協会理事、日中貿易促進議員連盟理事、日本社会党青年部長、国会共闘副委員長、愛媛県連合会顧問、四国開発特別委員長、民社クラブ代議士会長、民主社会党国会対策副委員長となる・南米、中国を視察す○当選三回(26 27 28)

中村俊夫(なかむらとしお) 兵庫県第二区選出 民主党

明治31年7月生・兵庫県出身・大正12年京都帝国

大学法律科卒○弁護士の業務に従事す、日本冷却器(株)専務取締役となる、また神戸保護観察所嘱託保護司、兵庫県司法保護委員、同県体育連盟副会長、同県教育審議会委員となる、民主党常任幹事となる○当選一回(23)

中村豊次郎(なかむらとよじろう) 三重県郡部選出 無所属

明治4年10月生・北海道出身・東京専門学校に学ぶ○北海道に中村農場を経営、開墾事業に従事す、また京都電気鉄道(株)取締役となる○当選一回(10)○昭和20年8月8日死去

中村寅太(なかむらとらた) 福岡県第一区選出 自由民主党

明治35年8月生・福岡県出身・大正8年福岡県糸島農学校卒○福岡県農業会主事、福岡県青果物統制会社副参事、福岡県農村連盟書記長となり、同連盟機関誌「耕作者」を発刊す、衆議院農林水産委員長、第二次岸内閣の法務政務次官となる、また日本農民党書記長、農民協同党書記長、改進党副幹事長、日本民主党青年局長、自由民主党副幹事長となる・西独政府の招請に応じ同国青少年運動並びに欧州諸国を視察す○当選五回(23 24 25 27 28)

中村尚武(なかむらなおたけ) 千葉県選出 憲政会

明治元年12月生・千葉県出身・明治23年東京専門学校法律科卒○商業を営む、千葉県会議員、同副議長となる○当選一回(12)○昭和12年5月11日死去

中村彦次(なかむらひこじ) 福岡県第五区選出 公同会

天保11年1月生・福岡県出身・漢学を修む○郡長、島根県知事となる○当選二回(2 4)○明治44年11月18日死去

中村英男(なかむらひでお) 島根県選出 日本社会党

明治37年5月生・島根県出身・昭和2年日本歯科医学専門学校卒○歯科医を開業す、のち日本生活協同組合島根支部長、波子村農会長、島根県農業会理事、島根県経済連会長、島根県議会議員となる、また日本社会党朝鮮問題対策特別委員長となる・朝鮮、中共を視察す○当選四回(25 26 27 28)

中村不二男(なかむらふじお) 長崎県第一区選出 立憲民政党

明治24年2月生・長崎県出身・明治42年長崎中学校卒○長崎県会議員となる、また長崎日日新聞記者、同社取締役となるほか、私立長崎女子商業学校を設立し経営す○当選三回(18 19 20)○昭和16年5月9日死去

中村又一(なかむらまたいち) 佐賀県選出 改進党

明治23年10月生・佐賀県出身・明治大学法律科卒○青島の戦役に従軍す、東京市会議員、同参事会員、第一次吉田内閣の司法参与官、裁判官訴追委員会委員長となる、また弁護士、弁理士の業務に従事し、日本弁護士協会理事、明治大学評議員、朝鮮釜山(株)田中造船所相談役、台湾製糖、三菱化成工業各(株)顧問、麻布教育会長となるほか、日本進歩党副幹事長、民主党総務、顧問、国民民主党顧問、改進党顧問となる○当選四回(19 22 23 24)

中村又七郎(なかむらまたしちろう) 新潟県第四区選出 無所属倶楽部

明治17年1月生・新潟県出身・明治40年早稲田大学大学部政治経済科卒○早稲田大学講師、中央新聞社、自由通信社各記者、高田日報主筆、同社長となる、また糸魚川町会議員、同町長、新潟県会議員、同参事会員、西頸城郡教育会副会長、同郡水産会長、新潟県漁業組合連合会長、糸魚川市長となる○当選一回(21)

中村元治郎　奈良県選出　第一議員倶楽部
明治24年11月生・奈良県出身○商業組合奈良県神農会長、日本仮設興行副会長、日本神農党執行委員長となり、全国仮設興行協同組合会長、大阪神農商業協同組合連合会顧問となる○当選一回(23)

中村彌六　長野県郡部選出　中央倶楽部
安政元年12月生・長野県出身・大学南校に学び、のち大蔵省の命によりドイツに留学す、林学博士○独逸語学校教員、大阪師範学校教師兼監事、大蔵省御用掛、農商務省権少書記官、東京山林学校教授、東京農林学校教授、林務官、農商務技師、司法次官を歴任、また臨時政務調査委員、司法事務に関する法令審査委員長となる、のち材木商、鉱業等に従事し、伊那電車軌道(株)取締役となる○当選八回(1 2 3 4 5 6 7 10)○昭和4年7月7日死去

中村雄蔵　福岡県郡部選出　立憲政友会
慶応3年4月生・福岡県出身・漢学、独逸学を修業し、のち明治法律学校に学ぶ○台湾総督府民政局嘱託、同雇、台北県属、宣蘭庁属、臨時台湾土地調査局属、同監督官を歴任し、のち福州銀行重役となる○当選一回(9)○昭和10年2月12日死去

中村庸一郎　千葉県第三区選出　自由民主党
明治29年5月生・千葉県出身・大正9年専修大学専門部経理科卒○商工省委員、軍需省委員、衆議院経済安定委員長となる、また桜護謨、日東交通各(株)社長、大日本セロファン、日本エボナイト各(株)会長、昭和産業(株)取締役となり、成城学園理事長、東部ゴム工業会理事、日本ゴム工業会理事、東京連合防火協会常務理事となる、改進党会計監督、日本民主党総務、自由民主党会計監督、相談役となる○当選四回(21 25 26 27)

中谷宇平　石川県郡部選出　大同倶楽部
文久3年10月生・石川県出身○かつて陶器製造業を営む、塩津村長、石川県町村会長となる、また安全自動車(株)取締役、温泉電軌(株)監査役となる○当選三回(7 8 9)○昭和11年2月27日死去

中谷徳恭　大阪府郡部選出　立憲同志会
嘉永4年9月生・大阪府出身・漢学、英学を学ぶ○戸長、西成郡書記、学務委員、川北村長、区会議員、同議長、大阪市会議員、同議長、大阪府会議員、同議長となるほか、大阪市衛生会、同教育会各評議員、大阪地方森林会議員、大阪府防疫評議員となる、また大阪運河(株)取締役、桜島開墾会社代表社員となる○当選一回(12)○大正11年12月21日死去

中安信三郎　京都府京都市選出　立憲同志会
万延元年7月生・京都府出身・和仏法律学校に学ぶ○京都市会議員、同参事会員、京都府会議員、京都商業会議所議員、大日本国粋会総本部会長となる○当選二回(10 11)○昭和7年10月26日死去

中山梅治郎　奈良県郡部選出　立憲民政党
明治2年5月生・奈良県出身・漢学を修む○農業を営む、青年義会、青年脩弁会を起し青年教育に努力す○当選三回(11 12 13)○大正8年10月24日死去

中山榮一　茨城県第一区選出　自由民主党
明治28年10月生・茨城県出身・大正7年早稲田大学商学部卒○竜ケ崎町会議員、茨城県会議員、同参事会員となり、石橋内閣、第一次岸内閣の北海道開発政務次官となる、また茨城県議副蚕糸組合、同海産物商業協同組合、新利根川土地改良区各理事長、全国水防管理団体連合会長、自由民主党全国組織委員会副委員長となるほか、茨城県絹織工業(株)社長、関東銀行取締役、東部林業(株)社長となる○当選三回(22 25 27)

中山五兵衛　新潟県佐渡選出　交友倶楽部
文久元年10月生・旧名小四郎・新潟県出身・漢籍を修め、東京共立学校に学ぶ○河原田町会議員、同町長、佐渡郡会議員、新潟県会議員となる、また所得税調査委員、相続税審査委員、県農会員、佐渡国誌編纂調査委員、地方森林会議員、佐渡郡山林会副会長、同会長となる○当選二回(7 8)○昭和3年5月7日死去

中山佐市　千葉県第一区選出　立憲政友会
元治元年9月生・千葉県出身・明治23年東京法学院卒○大蔵省御用掛、大蔵属、逓信属兼鉄道会議書記となる、のち東京府農工銀行支配役、同頭取、農工貯蓄銀行頭取、全国農工銀行同盟会長、北海道採炭、玉川水道各(株)社長、横浜電気鉄道、東京薬品、横浜土地、金包里炭鉱各(株)監査役、横浜取引所理事、台湾炭鉱(株)取締役となる・支那視察のため派遣さる○当選一回(14)○昭和18年12月10日死去

中山貞雄　熊本県第二区選出　立憲政友会
明治23年1月生・東京都出身・明治大学に学ぶ○東京朝日新聞記者となる、のち東亜拓殖(株)専務取締役、亜細亜活動写真、東北鉄道鉱業、阪神土地住宅、丸ノ内銀行、奉天証券各(株)取締役、満州取引所理事、富士鉱業(株)監査役、大同産業公司社長、日平産業(株)取締役、秋葉原会館、東栄貿易各(株)会長となる○当選三回(15 16 17)

中山たま　兵庫県第一区選出　民主党
明治22年6月生・兵庫県出身・明治43年東京日本医学校卒○医師を開業す、日本女医会評議員、日本海員掖済会明石保養院顧問、県立第一神戸高等女学校、諏訪山高等女学校、北神商業学校等の各校医となる○当選一回(22)

中山丹治郎　栃木県第一区選出　自由党
嘉永6年1月生・栃木県出身・法律学を修む○代言人、次いで弁護士となる、町村連合会議員、町会議員、宇都宮市会議員、同議長、所得税調査委員、栃木県会議員、同副議長、同議長、栃木県教育諮問会員、宇都宮商業会議所特別委員となる○当選一回(4補)○明治33年12月4日死去

中山福藏　大阪府第四区選出　第二控室
明治20年6月生・大阪府出身・大正7年東京帝国大学独法科卒○弁護士の業務に従事す、破産管財人、大阪弁護士会評議員、大阪府立貿易館南洋調査嘱託、参議院法務、建設各委員長、裁判官弾劾裁判所裁判長となる、また全日本薬業連合会会頭、石原産業(株)相談役となる・植民政策研究のため南洋、蘭領印度を視察、また満ソ蒙国境方面視察のため派遣さる○当選三回(18 19 20)・(参)二回(1補 3)

中山平八郎　奈良県第一区選出　憲政本党
弘化2年11月生・奈良県出身・国漢学を修む○農業を営む、学区取締、大阪府会議員、奈良県会議員、同議長となる○当選四回(3 4 5 6)○昭和5年10月2日死去

中山マサ　大阪府第二区選出　自由民主党
明治24年1月生・大阪府出身・大正5年米国オハヨウェスレヤン大学卒、昭和25年同大学より米国名誉法学博士号を授与さる○長崎市活水女子英語専門学校、長崎市立高等女学校等に奉職、衆議院海外同胞引揚に関する特別委員長、第五次吉田内閣の厚生政務次官、第一次池田内閣の厚生大臣となる、また活水女子短期大学監事、自由党婦人部長、自由民主党婦人局長、総務、代議士会副会長、青年婦人対策副委員長となる・引揚問題に関しオブザーバーとして国連に出席、またサンフランシスコ平和会議に派遣さる○当選六回(23 24 25 26 27 28)

仲井間宗一 沖縄県選出　日本進歩党
明治24年3月生・沖縄県出身・日本大学専門部法律科に学ぶ○弁護士の業務に従事し、那覇弁護士会長となる、また米内内閣の文部参与官、大政翼賛会東亜局庶務部副部長、大日本興亜同盟運動第一局第二部長となる○当選四回(17 19 20 21)

仲内憲治 千葉県第二区選出　自由党
明治35年1月生・千葉県出身・中央大学専門部法科に学び、のち米国クラーク大学に学ぶ○外務書記生、外務属、外交官補、領事官補、外務事務官、領事、大使館一等書記官、外務書記官、終戦連絡中央事務局連絡官を歴任、退官後県立銚子高等女学校、笹川高等女学校各教師、エコノミック・プレス(株)社長となる、また民主自由党渉外局次長、政調会外務部長、自由党総務、衆議院外務委員長となり、のちアフガニスタン駐剳特命全権大使となる㊫「これからは外交だ」○当選二回(23 24)

仲川房次郎 奈良県選出　自由民主党
明治28年6月生・奈良県出身・大淀町会議員、奈良県会議員、同副議長、大淀町助役、同町長となり、第五次吉田内閣の行政管理政務次官となる、また大淀町農会長、大淀町及び吉野郡各養蚕実行組合長、奈良県土木建築組合、同家庭薬協同組合各顧問、同木工組合理事長、東亜製薬(株)社長、日本進歩党会計監督、自由党総務、代議士会副会長、自由民主党宣伝局次長となる○当選四回(22 25 26 27)○昭和32年6月6日死去

仲子　隆 山口県選出　民主党
明治25年11月生・山口県出身・大正9年東京高等師範学校卒○小学校訓導、山口県師範学校教諭兼訓導、愛知県女子師範学校教諭兼女学校教諭、地方視学官、山口県立徳山中学校長を歴任す、また国民党 渉外部長、民主党総務、山口県教育公務員弘済会理事長となる○当選一回(22)・参一回(1・2)○昭和33年1月5日死去

仲田徳三 沖縄県第四区選出　立憲政友会
明治元年8月生・沖縄県出身・明治23年沖縄県師範学校、同27年大日本水産会附属水産伝習所卒、のち日本大学に学ぶ○小学校教員、金武村長、沖縄県議会議員、同副議長となる、農業を営む○当選一回(24)

仲西三艮 福島県第二区選出　日本進歩党
明治23年3月生・福島県出身・大正9年京都帝国大学法学部卒○司法官試補、東京地方裁判所予備検事、札幌区裁判所検事を歴任し、のち矢吹銀行副頭取、矢吹信用組合理事、矢吹町長、同農会長、西白河郡農会長、福島県農会議員、西白河郡産業組合連合会部会長、人事、借地借家、金銭債務各調停委員、内閣委員となる、また弁護士の業務に従事す○当選三回(19 20 21)○昭和31年12月6日死去

永井　英修 佐賀県選出　自由党
明治26年11月生・佐賀県出身・大正9年東京帝国大学採鉱科卒○高取鉱業に入り、杵島、大鶴各炭鉱長、鉱業部長を経て、湘南製作所、住ノ江造船、西日本坑木各(株)取締役、大日鉱業(株)常務取締役、杵島炭礦(株)専務取締役、花菱商事有社長、自由文化出版社代表者となる、また九州石炭、日本石炭各鉱業連盟理事、日本経営者団体連盟理事、佐賀県商工会議所連合会長、佐賀商工会議所会頭となる○当選一回(24)

永井嘉六郎 静岡県第七区選出　立憲政友会
弘化2年10月生・静岡県出身・漢学を修む○農業を営む、戸長、学務委員、町村組合議員、連合町村会議員、長泉村会議員、静岡県会議員、同副議長、長泉村長、駿東郡会議員、同参事会員となるほか、所得税調査委員、徴兵参事員、郡蚕糸業組合長、郡及び村農会長、県米穀改良組合長となる、また駿豆銀行頭取、富士煉瓦(株)監査役となる○当選一回(6)○大正11年3月27日死去

永井勝次郎 北海道第五区選出　日本社会党
明治34年1月生・北海道出身・札幌師範学校に学ぶ○野付牛町会議員、北海道会議員、衆議院電気通信委員長となる、また北見新聞社編集局長、北見時論社、北見木材工業(株)、常盤澱粉(有)各社長、北海道治山治水協会長、日本治山治水協会理事、日本社会党中小企業部長、中小企業政策確立委員会副委員長、貿易調査特別委員長、政策審議会副会長、両院議員総会副会長、物価対策委員長となる・ソ連、東欧を視察、また第四十八回列国議会同盟会議(ワルソー)に出席、欧米各国を視察す㊫「林業の展望」○当選六回(22 23 25 26 27 28)

永井謙蔵 千葉県第七区選出　進歩党
安政3年1月生・千葉県出身・慶応義塾に学ぶ○千葉県師範学校翻訳係、千葉県属、同警部、県農商課長、天羽郡長を歴任、千葉県農会議員、県教育会議員、県会議員となる、また共立汽船(株)監査役となる㊫「警察紀要」「勧業卑見」○当選一回(5)○大正3年5月7日死去

永井作次 宮崎県第二区選出　立憲政友会
明治4年11月生・鹿児島県出身・明治27年和仏法律学校卒○司法官試補、鹿児島区裁判所検事兼同地方裁判所検事を歴任、のち弁護士の業務に従事し、鹿児島市会議員となる、また鹿児島商業会議所特別議員となる○当選二回(14 15)○昭和5年6月5日死去

永井頴雄 広島県第九区選出　公同会
万延元年3月生・広島県出身○再度広島県会議員となる○当選一回(4)○明治41年5月29日死去

永井松右衛門 愛知県第二区選出　議員倶楽部
嘉永6年12月生・愛知県出身・藩校明倫堂にて和漢学を修む○愛知病院の創立に尽力す、愛知給入新聞を発刊す、また第八国立銀行を創立し取締役となり、のち頭取となるほか、横浜正金銀行神戸支店支配人、東京米商会所肝煎、愛知県農工銀行、尾三銀行各取締役、日本共立汽船、丸善各(株)監査役、真田貿易(株)社長となる○当選二回(12)○大正2年3月15日死去

永井　要造 神奈川県第二区選出　自由党
明治22年7月生・山梨県出身○横浜市会議員、同参事会員、神奈川県会議員、同参事会員となるほか、所得税調査委員、商事調停委員、横浜商工会議所議員、自由党総務となる、また日清煉乳(株)取締役社長、日清製菓(株)取締役、A B C製菓(株)取締役社長、早川鉄工監査役となる○当選一回(24)

永井柳太郎 石川県第一区選出　翼賛政治会
明治14年4月生・東京都出身・明治38年早稲田大学政治経済学部政治科卒、のち英独に留学、同41年マンチェスター・カレッジ(オックスフォード)卒○早稲田大学教授となり傍ら雑誌「新日本」の主筆となる、加藤(高明)内閣、第一次若槻内閣の外務参与官、濱口内閣の外務政務次官、齋藤内閣の拓務大臣、第一次近衛内閣の逓信大臣、阿部内閣の逓信大臣兼鉄道大臣を歴任す、また北陸毎日新聞社長、日本発送電(株)設立委員長、立憲民政党総務、幹事長、政務調査会長、大政翼賛会総務、東亜局長となる・中華民国国民政府に対する答訪特派大使として派遣さる㊫翻訳「英国植民発達史」「独逸富強論」、「植民原論」「社会問題と植民問題」「世界政策十講」「戯曲大隈重信」○当選八回(14 15 16 17 18 19 20 21)○昭和19年12月4日死去

永江一夫 兵庫県第一区選出　日本社会党
明治35年2月生・岐阜県出身・大正13年関西学院大学法学部卒○司法官試補、東京地方裁判所予備検事、札幌区裁判所検事を歴任し、のち矢吹銀行副頭取、矢吹信用組合理事、矢吹町長、同農会長、西白河郡農会長、福島県農会議員、西白河郡産業組合連合会部会長、人事、借地借家、金銭債務各調停委員、内閣委員となる、また弁護士の業務に従事す○当選三回(19 20 21)○昭和31年12月6日死去

高等商業部卒○神戸市会議員、同議長、兵庫県会議員、片山内閣の文部政務次官、芦田内閣の農林大臣となる、また大衆診療所を創設、神戸外国語学校、日ノ本高等女学校各理事、日本労農党神戸支部書記長、社会大衆党中央執行委員、日本労働組合総同盟兵庫県連合会長となる○当選三回（20 22 23）

永江純一（ながえじゅんいち） 福岡県郡部選出 立憲政友会

嘉永6年2月生・福岡県出身・漢学、数学を修む○福岡県会議員、日本大博覧会評議員となる、また三池銀行頭取、三池士木、三池紡績、九州肥料、九州紡績、鐘渕紡績各（株）取締役、立憲政友会幹事長となる○当選五回（5 6 10 11 12）○大正6年12月9日死去

永島龜代司（ながしまきよじ） 神奈川県郡部選出 立憲政友会

慶応3年5月生・神奈川県出身・漢学を修む○農業を営む、神奈川県会議員、同常置委員、村会議員となるほか、学務委員、村農会長、神奈川県農工銀行創立委員、同取締役となる○当選三回（7 8 9）○大正14年6月18日死去

永田吉右衛門（ながたきちえもん） 岐阜県第七区選出 立憲革新党

嘉永元年4月生・岐阜県出身○高山町長となる、また飛騨電燈、濃飛自動車、飛騨銀行取締役、濃飛農工銀行各（株）取締役、飛騨銀行各（株）監査役となる○当選一回（3）○明治34年6月12日死去

永田吉右衛門（ながたきちえもん） 岐阜県郡部選出 憲政会

明治6年8月生・岐阜県出身・東京商業学校に学ぶ○高山町会議員、高山町長、学務委員となる、また飛騨電燈、濃飛自動車、飛騨林業、濃飛農工銀行各（株）取締役、飛騨銀行取締役、同頭取、富山電気、大垣銀行、十二銀行各（株）監査役となる○当選一回（13）○大正7年2月26日死去

永田佐次郎（ながたさじろう） 佐賀県第三区選出 憲政本党

嘉永3年10月生・佐賀県出身・鹿嶋藩学校に学び、のち英学を修む○鹿嶋藩学校寮監、仏式練兵教師、予備隊長となり、のち小学校訓導、副戸長、戸長、学区取締、佐賀県藤津郡書記、沖繩県属、同県中頭役所長を歴任、高津原村会議員、佐賀県会議員、同常置委員、勧業諮問会員となる、また志保多銀行取締役、同頭取、鹿嶋銀行取締役となる○当選一回（6）○昭和3年1月7日死去

永田定右衛門（ながたさだえもん） 福井県第三区選出 自由党

嘉永4年11月生・福井県出身○福井県会議員、同副議長となる、また北陸自由新聞を発刊す○当選一回（1）○大正3年8月6日死去

永田新之允（ながたしんのじょう） 山口県第九区選出 新正倶楽部

明治4年4月生・山口県出身・漢学を修む○国民新聞記者、読売新聞記者、同編集長となり、のち実業之日本社に入り征露戦報主筆、実業之日本記者、編集長、同社理事、営業部長、総務部長となり、秀英舎（株）取締役となる、また岩国町長、岩国市長となる○当選一回（15）

永田善三郎（ながたぜんさぶろう） 静岡県第三区選出 立憲民政党

明治18年6月生・静岡県出身・早稲田大学政治経済科に学ぶ○台湾日日新報記者、満州日日新聞編集長、大連汽船（株）天津支店長、永田鉱業、大連関東報漢字紙、静岡民友新聞各株社長となる、また満州経済調査会委員、廣田内閣の海軍参与官となる・第十五回万国議院商事会議（ベルリン）に参列す○当選五回（15 16 17 18 19）○昭和25年12月6日死去

永田節（ながたみさお） 大分県第二区選出 自由党

明治35年11月生・東京都出身○（株）ながた社長、馬来貿易協会常任理事、南洋通商（株）社長、別府観光土地（株）取締役、東豊汽船（株）社長となる、また自由党大分県連合支部顧問となる○当選一回（24）

永田安太郎（ながたやすたろう） 愛知県第四区選出 日本民主党

明治28年7月生・愛知県出身・大正6年明治大学専門部法律科卒○弁護士の業務に従事す、愛知県会議員となる○当選一回（27）○昭和30年5月13日死去

永田良吉（ながたりょうきち） 鹿児島県第三区選出 自由党

明治19年9月生・鹿児島県出身・明治39年加治木中学校卒○農業、骨粉肥料及び澱粉製造業を営み、傍ら大隈鉱山を経営、大姶良村会議員、同助役、同村長、鹿児島県会議員、同参事会員、逓信省委員、鹿屋市長となるほか、村農会長、郡養蚕同業組合長、県養蚕連合組合長、立憲政友会総務、自由党総務となる、また笠野原に飛行場を開設し、帝国飛行協会評議員となる・第三十一回列国議会同盟会議（ブラッセル）並びに第二十回万国議院商事会議（ロンドン）に参列、また派遣軍慰問のため北支那に派遣さる○当選八回（16 17 18 19 20 21 25 26）

永田亮一（ながたりょういち） 兵庫県第二区選出 自由民主党

明治44年9月生・兵庫県出身・昭和10年慶応義塾大学経済学部卒○王子製紙（株）社員、亡父秀次郎（東京市長、拓相、鉄相）秘書、亡父と共に欧米歴訪、柳学園高等学校理事、兵庫県三原郡倭文村長、兵庫県教育委員、同委員長、第二次旭山内閣の自治政務次官、衆議院運輸委員長となる、また弁護士、大蔵省委員、商工省参与、第二次岸内閣の運輸大臣となる㊟「灰色の壁」「敗戦真相記」○当選二回（21 25）・㊟一回（4）

永見寛二（ながみかんじ） 長崎県長崎市選出 立憲政友会

安政5年9月生・長崎県出身○長崎市会議員、所得調査委員、長崎商業会議所議員、同会頭、日本大博覧会評議員、十八銀行、長崎貯蓄銀行各副頭取、長崎県農工銀行取締役、長崎米穀取引所監査役、長崎電燈、長崎製氷各（株）社長、東洋浚渫、汽船漁業、島原鉄道各（株）取締役となる○当選二回（9 11）○大正11年4月16日死去

永屋茂（ながやしげる） 広島県第十二区選出 立憲政友会

明治10年1月生・広島県出身・明治43年日本大学卒○弁護士及び特許弁理士の業務に従事す、また日本人造絹糸（株）監査役となる○当選一回（14）○大正12年11月8日死去

永山忠則（ながやまただのり） 広島県第三区選出 自由民主党

明治30年10月生・広島県出身・大正8年広島県師範学校、同13年中央大学卒○広島県三原女子師範学校訓導、同県格致学院長、敷信村長、広島県会議員、阿部内閣の厚生参与官、内閣委員（情報局

勤務)、初代庄原市長、第三次鳩山内閣の防衛政務次官、衆議院社会労働委員長となる、また自由民主党政調会社会部長、代議士会副会長、全国組織副委員長、国会対策副委員長となるほか、東京旅客自動車協同組合理事長、全国乗用自動車協会、日本中小企業団体連盟各相談役、県国民健康保険団体連合会理事長、全国国民健康保険団体中央会副会長、県森林組合連合会長となる○当選六回(19 20 21 25 27 28)

長井氏克 (ながい うじよし)　三重県津市選出　立憲政友会

天保12年10月生・三重県出身・津藩学校に学ぶ○奥羽征討の役に大軍監として従軍、のち津藩少参事、同大参事、三重県会議員、同常置委員、同議長、津市会議員、同議長、津市長となる、また日本赤十字社三重県委員長、日本海員掖済会津市部委員長となる、百五銀行監査役となる○当選三回(7 8 9)○明治37年10月9日死去

長井源 (ながい げん)　三重県第二区選出　自由民主党

明治27年8月生・三重県出身・大正12年明治大学法学部法律科卒○弁護士の業務に従事し、松阪市会議員、三重県会議員、同副議長となり、司法省委員、衆議院懲罰委員長となる、また三重県弁護士会長、日本進歩党総務委員、改進党両院議員総会長、日本民主党代議士会長、自由民主党総務となる・派遣軍慰問のため南、中支那に派遣さる○当選六回(19 20 21 22 25 27)

長井松太郎 (ながい まつたろう)　広島県第七区選出　中央交渉部

嘉永3年7月生・広島県出身・漢学及び武術を学ぶ○東野村及び木原村里正、御調郡書記、広島県会議員、同常置委員、同副議長、同議長となる○当選一回(2)○明治25年8月10日死去

長尾四郎右衛門 (ながおしろうえもん)　岐阜県第五区選出　議員倶楽部

安政2年12月生・岐阜県出身・漢学を学ぶ○菅田町会議員、武儀郡会議員、岐阜県会議員、同常置委員、相続税審査委員、所得税調査委員、地方森林会議員となる、また農業、林業、製糸業等を営み、濃飛農工銀行創立委員、同頭取となる○当選二回(1 2)・貴(多額)○大正5年1月31日死去

長尾達生 (ながお たつお)　福岡県第四区選出　自由党

明治25年12月生・福岡県出身○後藤寺町会議員、福岡県会議員、同参事会員となる、位登炭坑、石灰工場、丸山劇場を経営し、豊前石灰工業(株)社長、長尾鉱業(株)会長、田川市商工会議所会頭、純正日本民主主義連盟会長となる、また日本進歩党常議員会長、総務委員、民主党議員総会長、日本民主党代議士会長、自由民主党総務となる・派遣軍慰問のため南、中支那に派遣さる○当選六回(19 20 21 22 25 27)

長井松太郎 (ながい まつたろう)　広島県第七区選出　中央交渉部

嘉永3年7月生・広島県出身・漢学及び武術を学ぶ○東野村及び木原村里正、御調郡書記、広島県会議員、同常置委員、同副議長、同議長となる○当選一回(2)○明治25年8月10日死去

長尾四郎右衛門 (ながおしろうえもん)　岐阜県第五区選出　議員倶楽部

安政2年12月生・岐阜県出身・漢学を学ぶ○菅田町会議員、武儀郡会議員、岐阜県会議員、同常置委員、相続税審査委員、所得税調査委員、地方森林会議員となる、また農業、林業、製糸業等を営み、濃飛農工銀行創立委員、同頭取となる○当選二回(1 2)・貴(多額)○大正5年1月31日死去

長尾達生 (ながお たつお)　福岡県第四区選出　自由党

明治25年12月生・福岡県出身○後藤寺町会議員、福岡県会議員、同参事会員となる、位登炭坑、石灰工場、丸山劇場を経営し、豊前石灰工業(株)社長、長尾鉱業(株)会長、田川市商工会議所会頭、純正日本民主主義連盟会長となる、また日本進歩党常議員会長、総務委員、民主党議員総会長、日本民主自由党代議士会長、常任総務となる○当選三回(22 23 24)

長尾半平 (ながお はんぺい)　新潟県第二区選出　立憲民政党

慶応元年7月生・新潟県出身・明治24年東京帝国大学土木工科卒○土木監督署技師補、同技師、山形、埼玉各県技師、台湾総督府民政部土木課長、土木局長心得、台北電気作業所長、台湾総督府電気所長、土木部次長、鉄道院技師、監理部長、九州鉄道管理局長、鉄道院理事、中部鉄道管理局長を歴任のほか、地方森林会議員、台湾総督府市区計画委員長、鉄道会議議員となる、のち東京市参与、同電気局長となる・第二十七回列国議会同盟会議(ブカレスト)に参列す○当選一回(17)○昭和11年6月20日死去

長尾秀太郎 (ながお ひでたろう)　香川県第二区選出　立憲民政党

明治26年10月生・香川県出身・大正9年早稲田大学専門部法律科卒○香川県会議員となる、また弁護士の業務に従事し、高松地方裁判所所属弁護士会長、同常議員となる○当選一回(19)○昭和23年6月24日死去

長尾元太郎 (ながお もとたろう)　岐阜県郡部選出　憲政会

明治7年11月生・岐阜県出身・東京高等商業学校

及び慶応義塾に学ぶ○菅田町会議員、同町長、同教育会長となる、また農業、林業等を営み、大垣銀行監査役、美濃銀行、濃飛農工銀行、岐阜不動産各(株)取締役となる○当選二回(12 13)・(貴)多額○昭和10年3月28日死去

長岡外史 (ながおか がいし)　山口県第七区選出　新正倶楽部

安政5年5月生・山口県出身・明治12年陸軍士官学校、同18年陸軍大学校卒、のちドイツに留学す○陸軍歩兵少尉より陸軍中将に累進、その間日清、日露戦役に従軍、第一師団参謀、大島混成旅団参謀、陸軍省歩兵課長、軍事課長、歩兵第九旅団長、大本営参謀次長、歩兵第二旅団長、軍務局長、第十三師団長、第十六師団長を歴任す、また帝国飛行協会副会長、飛行倶楽部理事長となる○当選一回(15)○昭和8年4月21日死去

長坂重孝 (ながさか しげたか)　愛知県第七区選出　立憲政友会

嘉永元年12月生・愛知県出身・漢学を修む○愛知県属、郡長となる、また農業を営み、太陽生命保険、加富登麦酒各株常務取締役となる○当選二回(5 6)○明治45年7月8日死去

長澤市蔵 (ながさわ いちぞう)　山梨県郡部選出　憲政本党

文久2年7月生・東京都出身・明治19年東京帝国大学哲学科卒、のち大学院に入り倫理学を専攻す○東京大学予備門教諭、第一高等学校教授を歴任す、のち石炭業を営む○当選二回(7 8)○大正4年3月3日死去

長澤倉吉 (ながさわ くらきち)　福島県郡部選出　憲政会

明治16年1月生・福島県出身・明治41年早稲田大学商科卒○味噌醤油醸造販売業を営む、また福島瓦斯、打狗土地各株専務取締役、新竹製脳、明治製革、藤松組各株取締役となる○当選一回(12)○昭和9年6月16日死去

長島律太郎 (ながしま りつたろう)　埼玉県選出　憲政会

明治元年2月生・埼玉県出身・明治23年東京専門学校政治科卒○農業を営む、北足立郡会議員、同参事会員、埼玉県会議員、同参事会員、小谷村長となる○当選一回(13)○大正14年1月31日死去

長島隆二 (ながしま りゅうじ)　埼玉県第二区選出　無所属

明治11年11月生・埼玉県出身・明治35年東京帝国大学政治科卒○大蔵省試補、ロンドン在勤、外務省試補、専売局事務官、大蔵書記官、国庫課長兼造幣支局長、兼内閣総理大臣秘書官、理財局長心得日本銀行監理官を歴任す・パリ講和会議の実況を視察す○当選一回(17)○昭和23年9月12日死去

10月8日死去

長島鷲太郎 (ながしま わしたろう)　千葉県選出　立憲政友会

明治元年4月生・東京都出身・明治23年東京帝国大学独法科卒、法学博士○司法省参事官試補となる、のち代言人となり引続き弁護士の業務に従事し、破産管財人、法律取調委員となる、また明治、日本、和仏各法律学校、専修学校、東京法学院各講師、東京毛織、房総練乳、大日本セルロイド、明治菓子各株取締役、日本曹達工業株社長となる・第十五回列国議会同盟会議(ベルリン)に参列す○当選三回(10 11 12)○昭和9年7月27日死去

長瀬清一郎 (ながせ せいいちろう)　埼玉県第三区選出　立憲政友会

万延元年11月生・埼玉県出身○農業を営む、杉戸銀行古河支店長となる○当選三回(4補 5 6)○明治39年9月26日死去

長塚忠策 (ながつか ちゅうさく)　茨城県第一区選出　立憲民政党

明治12年3月生・茨城県出身・明治31年東京法学院卒○司法官試補、水戸区裁判所検事代理、横浜、高崎、前橋各区裁判所判事、前橋地方裁判所判事を歴任す、のち弁護士の業務に従事、茨城県会議員となる○当選一回(17)○昭和23年9月12日死去

長沼權一（ながぬまごんいち） 新潟県第一区選出　無所属倶楽部

明治20年9月生・新潟県出身・明治37年県立新潟中学校卒○陸軍歩兵少尉となる、農業を営み、道上村収入役、同村長となるほか、帝国在郷軍人会西蒲原郡連合分会長、金銭債務、小作、人事、戦時特別各調停委員、軍人援護会県支部理事、新潟県翼賛壮年団副団長となる○当選一回(21)○昭和27年4月26日死去

長野一誠（ながのいっせい） 熊本県第三区選出　議員倶楽部

天保5年4月生・熊本県出身・漢学及び劒、炮、槍、馬術、兵学を修む○里正、戸長、学区取締、熊本県会議員、同常置委員、阿蘇郡教育会長、同徴兵参事員、県農業諮問会議員、地方森林会議員、肥後山林協会評議員、熊本県神職会顧問となる、また戸下温泉を経営す○当選一回(2)○大正元年12月7日死去

長野重右ヱ門（ながのじゅうえもん） 滋賀県選出　民主党

明治31年7月生・滋賀県出身○法性寺村会議員、滋賀県会議員、同副議長、同議長となる、また県・河川砂防協会、失業対策委員会、開拓協会、蚕糸業会各会長、日本真綿協会長、県真綿商工業協同組合、日本真綿工業組合連合会、日本真綿商工業組合各理事長、滋賀栄養食糧、富士産業各株取締役、東洋メリヤス、協商織物各株社長、民主党、国民民主党各総務委員となる○当選二回(22 23)○昭和32年6月13日死去

長野高一（ながのたかいち） 東京府第二区選出　日本進歩党

明治26年3月生・愛媛県出身○下谷区会議員、東京市会議員、東京府会議員、鉄道省委員、小磯内閣の農商参与官となる、また鶴翼金山、理研アルマイト工業、日本アガー、江東天然瓦斯、ウブラ工業各(株)取締役、上野信用金庫理事長、東京都信用金庫協会副会長となる○当選三回(19 20 21)

長野綱長（ながのつなよし） 大分県第一区選出　翼賛議員同盟

明治12年1月生・大分県出身・英、漢学を修む○農業を営む、戸上村会議員、同村長、大分県会議員となる、また長谷緒耕地整理組合長、南豊物産(株)専務取締役、大分水産(株)取締役社長となる・派遣軍慰問のため満州へ派遣さる○当選二回(17 20)○昭和25年7月29日死去

長野高廣（ながのひろ） 高知県選出　自由党

明治42年高知県立・高知県出身・明治42年高知県立部省社会教育官、宇都宮高等農林学校教授を歴任、第一次吉田内閣の文部政務次官、片山内閣の内務政務次官、衆議院文部委員長となる、また日本進歩党総務委員、総務委員会副会長、民主党総務、顧問、両院議員総会長、国会対策委員長、自由党総務となる(著)「農村教育新論」「青年教育の真髄」「日本農村の新経営」「経済日本の農業政策」○当選七回(19 20 22 23 24 25 26)

長場龍太郎（ながばりゅうたろう） 新潟県第五区選出　庚申倶楽部

嘉永2年9月生・新潟県出身・儒学を修む○農業を営む、新潟県会議員となる○当選二回(10 14)○大正11年6月16日死去

長峰與一（ながみねよいち） 宮崎県第一区選出　立憲民政党

明治7年1月生・宮崎県出身・東京帝国大学政治科に学び、のち米国に留学す○支那に渡航、天津に在留し、骨粉肥料製造及び販売業に従事、傍ら倉庫業を経営し、天津商工銀行取締役となる、また天津居留民団行政委員会議員、同議長、天津日本人商業会議所評議員となる○当選三回(13 14 15)○昭和6年4月17日死去

長屋忠明（ながやただあき） 愛媛県第一区選出　自由倶楽部

天保14年9月生・愛媛県出身・藩校明教館に学ぶ○松山藩新制軍隊係、代官役、馬廻役、遊撃隊長等を経て松山藩少参事、大蔵省出仕、東京府権中属、愛媛県権中属、同県野間、風早各郡長を歴任、愛媛県会議員、松山市会議員、同参事会員、愛媛県教育協会副会長となる○当選一回(1)○大正9年1月2日死去

梨木作次郎（なしきさくじろう） 石川県第一区選出　日本共産党

明治40年9月生・東京都出身・昭和3年日本大学専門部法律科卒○弁護士の業務に従事す、自由法曹団常任幹事となる○当選一回(24)

灘尾弘吉（なだおひろきち） 広島県第一区選出　自由民主党

明治32年12月生・広島県出身・大正13年東京帝国大学英法科卒○内務属、社会局事務官、内務書記官、大臣官房会計課長、大分県知事、厚生省生活局長、衛生局長、内務省地方局長、内務次官を歴任、石橋内閣、第一次、第二次岸内閣の文部大臣となる、恩賜財団慶福育児会、中央共同募金会、全国社会福祉協議会各会長、人口問題研究会理事となる、また自由民主党政務調査会副会長、総務、党基本問題調査会副会長、政調文教調査会長、同和対策特別委員長となる・第十八回国際労働総会(ジュネーブ、第一回アジア・アフリカ会議(バンドン)に政府顧問として出席、また中華民国政府の招請により同国を訪問す○当選四回(25 26 27 28)

夏井保四郎（なついやすしろう） 愛媛県郡部選出　立憲政友会

元治元年9月生・愛媛県出身・明治17年愛媛県師範学校、同22年和仏法律学校卒○小学校長兼訓導となり、のち代言人試験に合格し、代言人となり引続いて弁護士の業務に従事す、愛媛県会議員、同議長となる、また破産管財人、松山弁護士会長、公証人となる○当選一回(10)○昭和8年5月4日死去

夏堀源三郎（なつぼりげんざぶろう） 青森県第一区選出　自由民主党

明治20年4月生・青森県出身・県立八戸中学校に学ぶ○株八戸魚市場を創立し社長となるほか、東北振興水産株社長、八戸漁港製氷株取締役、八戸興亜造船鉄工、東京都中央魚類、大洋冷凍母船、東北冷蔵、日南興産各株社長となり、八戸商工会議所会頭、県水産業会長、県機船底曳網漁業組合長、東北、関東、北陸、北洋漁業出漁組合連合会長となる、また衆議院大蔵委員長、民主自由党、自由党、日本民主党各総務、自由民主党中南米問題調査会副会長となる・中国、米国及び中南米諸国を視察す○当選六回(22 23 24 26 27 28)○昭和37年7月20日死去

並河理二郎（なびかりじろう） 島根県第二区選出　立憲政友会

万延元年8月生・島根県出身・漢学を修む○安来村戸長、学務委員、所得税調査委員、安来町会議員、徴兵参事員、島根県会議員、同議長、安来町長、能義郡会議員、島根県農会長、地方森林会議員、能義郡教育会長となる、また安来銀行頭取、島根県農工銀行監査役、松江銀行、山陰電気各(株)取締役、合同汽船、安来製鋼所各(株)取締役社長となる○当選三回(3 5 6)○大正15年6月4日死去

並木弘（なみきひろし） 和歌山県第三区選出　無所属

天保12年10月生・和歌山県出身○牧畜業を営む、県会議員、同副議長となる○当選一回(3)○明治31年10月11日死去

並木芳雄（なみきよしお） 東京都第七区選出　自由民主党

明治41年4月生・東京都出身・昭和6年東京帝国大学法律科卒○大阪商船(株)入社、米国に留学、ニューヨーク・ナショナル・シテイ銀行に英語及び事務管理を研究、のちマニラ支店在勤中マニラ軍政部通訳、比島留日学生寄宿舎監となり、駐日比島大使館に出向中、終戦となり退社す、また民主党労働部長、国民民主党国際局次長、改進党外

交政策部長、日本民主党政調会外交部長、総務となる○当選五回(23 24 25 26 27)

楢橋 渡 ならはし わたる　福岡県出身・中央大学、仏国リオン大学、ソルボン大学に学ぶ○弁護士の業務に従事す、ヘーグ国際連盟協会軍縮委員、東京市顧問、内務省、大蔵省、外務省、東京市の市債事件三省委員会嘱託、駐仏日本大使館顧問、大蔵省委員、総動員補償委員会々長、幣原内閣の法制局長官、内閣書記官長、国務大臣、衆議院予算委員長、第二次岸内閣の運輸大臣等を歴任、また民主党最高委員、国民民主党最高委員、最高顧問、改進党顧問、宣伝情報委員長、日本民主党顧問、総務、自由民主党総務、党基本問題調査会副会長となる・訪英国会議員団員として英国に派遣され、また仏貨公債処理のため東京都代表として仏国へ出張す○当選五回(21 22 25 27 28)

成清 信愛 なりきよ しんあい　大分県第二区選出　立憲政友会　明治19年1月生・大分県出身・早稲田大学法科に学ぶ○金鉱業、酒造業を営む、大分県山林会副会長、同農会長、速見郡酒造組合長、県酒造組合連合会長、大分司法保護委員会参与、日出町教育会長、日出町長となる、また宇佐参宮鉄道、同バス、成清鉱業、三帆醤油、大分交通各株社長、朝陽銀行、成清貯金銀行各頭取、両豊銀行、九州電気工業各株取締役、三池銀行、大分セメント各株監査役、日出家政女学校長となる○当選一回(16)・(貴)多額○昭和21年10月10日死去

成清 博愛 なりきよ ひろえ　大分県選出　立憲政友会　元治元年10月生・福岡県出身・漢学を修め、のち慶応義塾に学ぶ○小川村会議員、同村長、郡会議員、福岡県会議員となる、さきに炭坑経営に従事、のち大分県速見郡馬上金山を経営す、また瀬高銀行取締役、大湯鉄道㈱監査役、宇佐参宮鉄道、両豊銀行各株取締役となる○当選一回(12)○大正5年1月18日死去

成重 光眞 なりしげ みつま　福岡県第四区選出　社会革新党　明治31年9月生・福岡県出身・大正7年小倉工業学校機械科卒○鉄道省門司鉄道局技手、同小倉工場鍛冶職場長となる、小倉市会議員、同副議長、同議員、福岡県会議員となる、また九州合同製罐㈱専務取締役、九州車輛㈱取締役社長、同会長となる(兼)「小倉市会の裏面相」「工場災害予防労働衛生安全運動大綱」○当選一回(23)

成島 勇 なるしま いさむ　千葉県選出　民主党　明治24年5月生・千葉県出身・大正4年東北帝国大学農学科卒○農業を営む、富勢村会議員、千葉県会議員、富勢村長、郡農会議員、県販購利用組合特別議員となり、農地開発営団設立委員、農林省委員、農商務省委員となる、また日本進歩党民情部長、政務調査会長、総務委員会副会長、朝日乳業㈱取締役となる・派遣軍慰問のため南支那へ派遣さる○当選三回(20 21 22)○昭和31年2月11日死去

成島 巍一郎 なるしま ぎいちろう　千葉県第二区選出　議員集会所　嘉永6年7月生・千葉県出身○農業を営む、布施村戸長、富勢村長、千葉県会議員となる○当選一回(1)○大正12年6月18日死去

成島 憲子 なるしま のりこ　千葉県第一区選出　民主党　明治31年7月生・千葉県出身・大正5年台北州立第一高等女学校卒○各種婦人運動に参加す、民主党婦人部副部長となる、農業を営む○当選一回(23)

成瀬 喜五郎 なるせ きごろう　徳島県選出　日本社会党　明治34年3月生・徳島県出身○農業を営む、徳島県農地、食糧各委員、中央農地委員会委員となる、

また日本農民組合岩脇支部長、日農中央常任委員、同徳島県連合会長となる○当選一回(23)

成田 榮信 なりた しげのぶ　愛媛県第二区選出　無所属　明治2年11月生・愛媛県出身・関西法律学校及び英吉利法律学校に学び、のち水産講習所卒○生命保険事業に従事す、のち東京社を創立し週刊雑誌を発行す、また日本織物㈱取締役、海南新聞社、東洋通信社各社長となり、日満新興公司(資)を設立し代表社員となる○当選五回(11 12 13 14 15)○昭和21年1月1日死去

成田 直一郎 なりた なおいちろう　秋田県第四区選出　政友本党　明治11年3月生・秋田県出身・明治33年東京専門学校政治科卒○農業を営む、陸軍騎兵中尉、秋田県会議員、同参事会員、秋田県産牛馬組合会議員、鷹巣町長となる、また秋田電業、秋田火山灰各㈱取締役、前山酒造㈱取締役社長となる○当選一回(14)○昭和10年1月10日死去

成田 直衛 なりた なおえ　秋田県郡部選出　帝国党　嘉永元年9月生・秋田県出身・藩立郷学校に漢学、武道を修む○戸長、秋田県出仕、同属、秋田県会議員、同常置委員、同議長、畜産協議会長、地方衛生会委員、鷹巣村会議員、勧業諮問会員、

山本郡長となる、また農業及び牧場を経営し、秋田県農工銀行取締役頭取、秋田県育英会主事となる○当選四回(1478)○大正7年12月29日死去

成田 知巳 なりた ともみ　香川県第一区選出　日本社会党　大正元年9月生・香川県出身・昭和10年東京帝国大学独法科卒○三井化学工業㈱文書課長、日本社会党香川県連合会長、党機関紙局調査部長、政治局政務調査部長、中央執行委員、統制委員長、国会対策副委員長、左右社会党統一交渉委員会事務局長、政策審議会副会長兼事務局長、総務局長、政策審議会長となる、また衆議院電気通信委員長となる・アジア社会党会議(ラングーン)に出席し、ビルマ、インドを視察、第四十五回列国議会同盟会議(バンコック)に参列し欧米を視察、また日本社会党訪中使節団員として中国を訪問す○当選六回(23 24 25 26 27 28)

鳴海 文四郎 なるみ ぶんしろう　青森県第二区選出　立憲政友会　明治11年10月生・青森県出身○酒造業を営む、黒石町会議員、営業税審査委員、全国酒造組合連合会評議員、青森県酒造組合長、同林檎同業組合長、南津軽郡農会特別議員となる、また青森県商工連合会副会長、鳴海資取締役、黒石銀行、東奥銀行、福島醸造、弘前電燈各株取締役、鳴海共立、弘前無尽各(株)取締役社長となる・第二十五回列国議会同盟会議(ベルリン)、第十四回万国議院商事会議(パリ)に参列す○当選二回(13 16)○昭和8年2月28日死去

南雲 正朔 なぐも せいさく　北海道第五区選出　日本進歩党　明治36年1月生・北海道出身・昭和3年中央大学法学部卒○弁護士の業務に従事す、商工省委員、鈴木内閣の大東亜参与官となる、また会社重役となる・東印度方面及び満州国、中華民国を視察す○当選三回(19 20 21)○昭和29年4月7日死去

南郷 武夫 なんごう たけお　鹿児島県第一区選出　日本進歩党　明治17年3月生・鹿児島県出身・明治37年鹿児島県立第一中学校卒○鹿沖木材㈱取締役となる、また鹿児島県会議員、東市来町長、県森林会議員、東市来町農会長、鹿児島県産業組合連合会監事、全国森林組合連合会監事、県林業普及協会長、東市来町森林組合長、日置郡愛林会々長となる○当選一回(21)

南條吉左衛門 なんじょうきちざえもん　長野県郡部選出　大同倶楽部　嘉永6年9月生・長野県出身○戸長、村会議員、小県郡書記、長野県会議員、同常置委員、別所村長、小県郡会議員、同参事会員となる、また農業、

蚕種製造販売業を営み、郡蚕糸業組合副組合長、所得税調査委員、郡徴兵参事員、郡蚕種同業組合組長、蚕糸業諮問会委員、県蚕種同業組合連合会組長となる○当選一回(9)○昭和11年5月6日死去

南條 徳男 なんじょう とくお
北海道第四区選出　自由民主党
明治28年7月生・北海道出身・大正9年東京帝国大学独法科卒○弁護士の業務に従事す、鉄道大臣秘書官、小磯内閣の運輸通信参与官、石橋内閣、第一次岸内閣の建設大臣、首都圏整備委員会委員長、衆議院懲罰委員長、同災害地対策特別委員長、第一次池田内閣の農林大臣となる、南光学園及び東北薬学専門学校理事、札幌テレビ㈱取締役となる、また自由党総務、日本民主党総務会副会長、自由民主党総務会副会長、自由民主党総務会長となる・東南アジア視察に派遣され、また第四十七回列国議会同盟会議(リオデジャネイロ)に議員団長として参列、欧米各国を視察す㊟「自立経済と北海道」○当選七回(19 20 21 25 26 27 28)

南條 文五郎 なんじょう ぶんごろう
宮城県郡部選出　帝国党
天保13年10月生・宮城県出身・普通学及び武道を修む○農業を営む、戸長、太沢村会議員、同会議員、同常置委員、同参事会員、栗原郡会議員となる、また仙台産牛馬組合長、馬匹調査会委員、宮城県農工銀行取締役となる○当選三回(7 8 9)○明治38年4月4日死去

南波 三五郎 なんぱ さんごろう
広島県第六区選出　弥生倶楽部
万延元年2月生・旧姓(田邊)・広島県出身・経学を修め、のち東京法学校に法律、経済、行政学を学ぶ○大阪北区にあった太田北山の成章館に入り儒学を研究、同館塾頭となる、一時田邊家を嗣ぎ酒造業に従事す、のち東京地方裁判所管内公証人となり公証事務に従事す、また経世詩社を創立し経営す○当選一回(1)○昭和16年4月28日死去

南部 英麿 なんぶ ひでまろ
岩手県郡部選出　憲政本党
安政3年9月生・旧姓大隈・東京都出身・米国に留学、明治11年プリンストン大学卒、バチェラー・オブ・サイエンスの学位を受く○内務省奏任御用掛となり、のち東京専門学校長兼講師、第二高等中学校教諭、高等商業学校教諭となり、早稲田中学校長兼早稲田実業中学校長、東京専門学校評議員となる○当選三回(5 6 7)○明治43年5月14日死去

南里 琢一 なんり たくいち
佐賀県第四区選出　政友本党
安政6年1月生・佐賀県出身・漢学を修む○農業を営む、村長、西芦刈水利組合議員、小城郡会議員、同参事会員、佐賀県会議員となる○当選三回(12 13 14)○昭和13年4月14日死去

難波 清人 なんば きよと
岡山県第一区選出　昭和会
明治21年8月生・岡山県出身・大正2年明治大学法律科卒○中外商業新報経済市場部長となり、金川中学校理事となる○当選三回(15補 17 18)○昭和15年10月11日死去

難波 作之進 なんば さくのしん
山口県第八区選出　庚申倶楽部
慶応元年5月生・山口県出身・漢学を修む○周防村会議員、熊毛郡会議員、同参事会員、勧業諮問会員、周防村長、地方森林会議員、山口県会議員、同参事会員となる、また防長米同業組合熊毛郡支部長、山口県防疫評議員、同教育会代議員、熊毛郡農会長、防長農工銀行監査役、同取締役となる○当選一回(14)○大正14年5月25日死去

二位 景暢 にい かげのぶ
佐賀県第三区選出　進歩党
嘉永2年7月生・佐賀県出身○祐徳軌道㈱取締役となる○当選四回(1 3 4 5)○大正10年1月13日死去

二階堂 進 にかいどう すすむ
鹿児島県第三区選出　自由民主党
明治42年10月生・鹿児島県出身・昭和4年県立志布志中学校卒、のち米国南加大学院政治経済科卒、マスター・オブ・アーツの学位を受く○外務省嘱託、海軍司政官、第一次岸内閣の労働政務次官、離島振興対策審議会長となる、また自由党政調会国土部長、自由民主党出版局次長、政調会建設部長、災害対策副委員長、水資源対策副委員長、国会対策副委員長、政調会副会長、同党鹿児島県連合会長となる・水産貿易研究のため米国を視察、また欧米各国の建設行政を視察す㊟「総評を理解するために」○当選四回(22 24 27 28)

丹尾 頼馬 にお らいま
福井県郡部選出　立憲政友会
安政5年9月生・福井県出身・慶応義塾に学ぶ○農業を営む、戸長、村長、郡会議員、福井県会議員、同参事会員となる、また北陸絹糸㈱社長となる○当選四回(7 8 9 10)○昭和3年7月8日死去

丹羽 喬四郎 にわ きょうしろう
茨城県第三区選出　自由民主党
明治37年3月生・茨城県出身・昭和5年東京帝国大学商業科卒○内務省に入り大阪、長野、埼玉、京都、厚生省社会局、内務省各事務官、警視を経て千葉県官房長、群馬県警察部長、内務省外事課長、警視庁官房主事を歴任す、第二次岸内閣の自治政務次官となる、また自由党青年部長、農村二三男対策特別委員長、自由民主党広報委員会副委員長兼商工局長、全国組織委員会副委員長兼商工行政部長、和興産業㈱社長となる○当選三回(25 26 28)

丹羽 圭介 にわ けいすけ
京都府京都市選出　壬寅会
安政3年8月生・京都府出身・府立新英語学校、府立農学講習所に学び、のち慶応義塾に学ぶ○京都府属、京都新古美術品展覧会委員長、京都市立絵画専門学校、同美術工芸学校各商議員、シカゴ、パリの万国博覧会、日英博覧会、第五回内国勧業博覧会各審査官、京都商品陳列所長、京都市会参与員、日仏協会理事、京都美術協会幹事長となる㊟「議員必携」「議事剳記」、(英文)「ザ・ホーム・オブ・トピカル・ジャパニーズ」「京都」○当選一回(24)・(貴二勅選)○昭和25年4月10日死去

丹羽 彪吉 にわ ひょうきち
岐阜県第二区選出　自由党
明治18年1月生・東京都出身・明治38年大阪実業学館高等科卒○三井物産㈱社員、大畑伸銅所顧問、大畑伸銅㈱専務取締役を経て、日東金属工業、伸銅工業所各㈱社長となる、また日本アルミニウム板工業組合理事、関東アルミニウム管棒工業組合専務理事、軽金属圧延工業会理事、日本伸銅協会長、全日本軟式野球連盟会長、民主自由党相談役、顧問となる○当選一回(24)・(貴二勅選)○昭和25年4月10日死去

丹羽 兵助 にわ へいすけ
愛知県第二区選出　自由民主党
明治44年5月生・愛知県出身・関西学院神学部に学ぶ○守山町会議員、愛知県議会議員、同副議長となり、第一次池田内閣の郵政政務次官となる、また東春運輸、守山建設各㈱社長、自由民主党広報委員会副委員長、遊説局長、政調会農林副部長、同水産副部長となるほか、全国道路利用者会議常任顧問、愛知県土地改良事業連合会長代理、同県農業共済組合連合会長となる○当選二回(27 28)

仁田 大八郎 にった だいはちろう
静岡県第二区選出　立憲政友会
明治4年10月生・静岡県出身・明治28年東京帝国

大学農学科卒○函南村会議員、田方郡会議員、郡立田方農林学校長兼教諭、田方郡農会長、同教育会長、同産牛組合長、静岡県農会副会長、同畜産会長、同山林会評議員、同産業組合連合会長、伊豆密柑同業組合長、所得調査委員、小作調停委員となる、また駿豆電気株社長、三島銀行、伊豆銀行、伊豆相互貯蓄銀行、三島工業製紙各株取締役、駿豆鉄道㈱監査役となる○当選一回(18)○昭和20年3月1日死去

新田甚左衛門（にったじんざえもん） 石川県第二区選出 弥生倶楽部

弘化4年3月生・石川県出身○能美郡高坂村外十二箇村戸長、北陸繭改良小松出張所総組長、輸出羽二重検査組合長、石川県精練株社長、石川県絹織物同業組合長となる、機業の改良、発達に尽す○当選一回(2)○明治41年10月12日死去

新妻イト（にいつまいと） 北海道第一区選出 日本社会党

明治23年8月生・神奈川県出身・明治44年横浜英語商業学校卒、のちサンフランシスコ・ビジネスカレッジに学ぶ○相互タイピスト女塾を創設経営す、のち家庭新聞を発刊す、北海道生活物資活用協会嘱託、日本社会党北海道連合会婦人部長となる、また労働省婦人少年局婦人課長、婦人緑十字社理事長、新農村生活管理研究会長、家の光協会嘱託となる○当選一回(22)

西英太郎（にしえいたろう） 佐賀県第二区選出 立憲民政党

元治元年9月生・佐賀県出身・漢学及び英学を修む○小城郡会議員、佐賀県会議員、同常置委員、同参事会員、米穀委員会委員となる、また佐賀県農工銀行頭取、肥前電気鉄道、唐津鉄道、高取鉱業各株取締役、佐賀毎日新聞、九州窯業各株社長、㈱唐津製鋼所監査役、同顧問、憲政会総務、立憲民政党相談役となる○当選六回(11補12 13 15 16 17)○昭和5年8月4日死去

西毅一（にしきいち） 岡山県第二区選出 無所属

天保14年7月生・岡山県出身・漢学を修め、のち上海に赴き英語を学ぶ○岡山藩外交応接方、学校督事、権参事、参事、東京上等裁判所判事となる、また学校を創設し、育英に従事○当選二回(1・2)○明治27年3月28日死去

西尾末廣（にしおすえひろ） 大阪府第二区選出 民主社会党

明治24年3月生・大阪府出身○片山内閣の国務大臣、芦田内閣の国務大臣(副総理)となる、また大正4年労働運動に入り、大阪織紡労組、大阪造船労組、大阪機械労組、関西労働同盟各会長歴任、日本労働組合会議執行委員、社会民衆党中央委員、日本社会党中央執行委員、書記長、顧問、民主社会党中央執行委員長、尾崎行雄記念財団副会長となる・再度国際労働会議(スイス)に労働者側代表として出席し、欧米各国、ロシアを視察す、また社会主義インターナショナル第三回大会(ストックホルム)に出席す、中国、満州、台湾を視察す㊟『大衆と共に』「私の政治手帖」『新党への道』○当選十一回(16 17 20 20補 21 22 23 25 26 27 28)

西尾傳藏（にしおでんぞう） 静岡県第五区選出 独立倶楽部

安政元年12月生・静岡県出身○静岡県豊田、磐田、山名各郡長となる○当選一回(1)○明治28年7月16日死去

西岡竹次郎（にしおかたけじろう） 長崎県第一区選出 興亜議員同盟

明治23年5月生・長崎県出身・大正5年早稲田大学法律科卒、のちロンドン大学に学ぶ○都新聞記者となる、のち雑誌「青年雄弁」を創刊し社長兼主筆となり、長崎民友新聞、佐世保民友新聞を創刊し社長となる、また阿部内閣の海軍政務次官、長崎県知事となる・派遣軍慰問のため議員団長として上海、台湾へ、またフィリピン、南洋方面視察のため派遣さる○当選六回(15 16 17 18 19 20)○昭和33年1月14日死去

西風重遠（にしかぜしげとお） 和歌山県郡部選出 立憲政友会

明治5年4月生・和歌山県出身・明治32年東京帝国大学政治科卒○大阪商船㈱に入社、長崎、台湾、宇品、朝鮮各支店長となる、退社後回漕業を営み、富島組、武庫酒造、摂陽商船各株取締役、大阪商運㈱監査役となる○当選一回(11)○昭和17年11月30日死去

西方利馬（にしかたとしま） 山形県第一区選出 日本進歩党

明治16年3月生・山形県出身・大正8年中央大学法律科卒○山形県会議員、内閣東北局委員、内務省委員となる、また昭和工業資有限責任社員、中山葡萄、山形新聞社各株取締役社長、山形県体育会長、立憲政友会総務となる○当選六回(15 16 18 19 20 21)

西潟爲蔵（にしかたためぞう） 新潟県第四区選出 弥生倶楽部

弘化2年10月生・新潟県出身○農業を営む、長沢村会議員、連合村会議員、水利土功会議員、学務委員、郡勧業委員、組合村長、南蒲原郡会議員、郡徴兵参事員、宅地賃貸調査委員、新潟県会議員となる○当選二回(12)○大正13年9月6日死去

西ケ谷可吉（にしがやかきち） 静岡県第二区選出 立憲政友会

安政5年11月生・静岡県出身・漢学を修む○農業及び植林事業を営む、庵原村会議員、同村長、静岡県会議員、同農会長、同柑橘同業組合長、庵原耕地整理組合長となる、庵原報徳社を創立し幹事となり、また駿河東報徳社長、江尻貯蓄銀行を創立し同専務取締役、富士川銀行、静岡農工銀行各取締役となる○当選一回(6補)○大正15年10月26日死去

西川宇吉郎（にしかわうきちろう） 愛知県第六区選出 立憲政友会

嘉永6年2月生・愛知県出身・小学師範学科を修む○地祖改正取調係、学区取締、小学校、師範学校各教員、高等小学校長、郡書記、愛知県属、名古屋市会議員、破産管財人、学務委員、愛知県会議員、商業会議所会員となる、また名古屋電気鉄道、尾西鉄道各㈱取締役、三重紡績、豊川鉄道各㈱監査役となる○当選二回(56)○明治36年1月31日死去

西川嘉門（にしかわかもん） 千葉県第七区選出 政友本党

明治9年1月生・千葉県出身○商業を営む、小石川区会議員、東京市会議員、同参事会員となる、また江戸川製紙㈱取締役となる○当選一回(14)○昭和21年6月7日死去

西川貞一（にしかわていいち） 山口県第一区選出 自由党

明治35年2月生・山口県出身○関門日日新聞記者同社編集局長、顧問、防長経済更生協会理事、顧問、山口県商工連合会顧問、塩業組合中央会副会長、沖宇部炭礦㈱常務取締役、山口新聞社、宇部時報社各社長となる、また大蔵省委員、鈴木内閣の大蔵参与官となる・派遣軍慰問のため支那へ派遣さる㊟『日本精神の展開と農村問題』○当選四回(19 20 21 25)

西川重威（にしかわしげたけ） 滋賀県第三区選出 山下倶楽部

嘉永元年12月生・滋賀県出身・国学を修む○蚊帳商を営む、蒲生郡第六区長、滋賀県会議員、県勧業諮問会員、郡所得税調査委員、八幡町会議員、徴兵参事員となる、また滋賀県実業会々頭、滋賀県立商業学校商議員、八幡銀行取締役、同頭取となる○当選一回(5)○明治38年4月11日死去

西川太治郎（にしかわたじろう） 滋賀県大津市選出 憲政会

元治元年5月生・滋賀県出身・明治21年東京専門学校政治科卒○山梨日々新聞記者、近江新報主筆、同社長となる、また大津市会議員、同参事会員、滋賀県会議員、大津市長となり、大津商業会議所

会頭、大津市農会長、同教育会長、勧業協会長となる○当選二回(12・13)○昭和17年6月15日死去

西川義延(にしかわぎえん) 京都府第四区選出 同盟倶楽部

嘉永元年12月生・京都府出身・漢籍を学ぶ○農業を営む、区長、郡地券取調掛、京都府会議員、同副議長、同議長、同郡部会副議長、同常置委員、綴喜郡長兼相楽郡長となる○当選一回(2)○明治41年10月26日死去

西澤定吉(にしざわさだきち) 山形県第一区選出 立憲政友会

明治4年11月生・山形県出身・明治26年専修学校理財科卒○農業を営む、天童町会議員、県、郡農会議員、山形県会議員、同参事会員、東村山郡会議員、天童町長、郡農会長、県農会特別議員となる、また天童製粉株社長、山形製紙、荘内電気各(株)取締役となる・樺太方面視察のため派遣され、また第二十四回列国議会同盟会議(パリ)に参列す○当選四回(10・14・15・17)○昭和16年9月24日死去

西田郁平(にしだいくへい) 和歌山県第一区選出 翼賛議員同盟

明治15年2月生・和歌山県出身・明治43年東京帝国大学仏法科卒○海軍主計中尉となる、のち弁護士の業務に従事し、和歌山市会議員、同議長、和歌山商工会議所顧問となる○当選三回(17・19・20)○回(12)○大正14年7月24日死去

西谷金蔵(にしたにきんぞう) 鳥取県郡部選出 立憲政友会

安政5年8月生・鳥取県出身・漢学を修む○農業を営む、戸長、北谷村長、同村会議員、同議長、東伯郡会議員、同議長、学務委員、徴兵参事員、所得税調査委員、鳥取県会議員、県農会長となる、また鳥取県農工銀行、共立商工銀行、協立銀行各取締役、山陰物産会社長、東洋生命保険、山陰製糸、倉吉電気、境電気、倉吉染織、横浜生糸取引所各(株)社長、倉吉倉庫、伯州製紙、因伯時報社各(株)監査役となる○当選八回(4補・5・6・7・8・10・11・12)○昭和8年12月15日死去

西野久右衛門(にしのきゅうえもん) 福井県第三区選出 山下倶楽部

明治元年3月生・福井県出身・済生学舎に医学を修む○帝国党幹事となる○当選一回(5)○明治33年2月1日死去

西野謙四郎(にしのけんしろう) 徳島県郡部選出 立憲政友会

嘉永2年1月生・徳島県出身・漢学を修む○小松島村会議員、勝浦郡会議員となる、また阿波国共同汽船、阿波商業銀行、阿波貯蓄銀行各(株)取締役、金陵西野商店(株)監査役となる○当選一回(12補)○昭和8年8月12日死去

西村伊亮(にしむらいすけ) 滋賀県第五区選出 立憲政友会

明治7年2月生・滋賀県出身・東京法学院に学ぶ○農業を営む、滋賀県会議員、近江米穀取引所理事、同監査役となる○当選一回(14)○昭和26年1月8日死去

西村英一(にしむらえいいち) 大分県第二区選出 自由民主党

明治30年8月生・大分県出身・大正13年東北帝国大学電気工学科卒○鉄道技師、門司鉄道局電気部長、仙台鉄道局施設部長、鉄道監、運輸省鉄道総局電気局長を歴任、第五次吉田内閣の運輸政務次官、衆議院建設委員長、同地方行政委員長となる、また鉄道電化協会相談役、信号保安協会副会長、長岡鉄道(株)取締役、北海道コンクリート工業株取締役となる、自由党政調会電源開発委員長、同交通々信部長、自由民主党全国組織委員会副委員長、同産業局長、科学技術特別委員会副委員長、同産業局長となる・東南アジア、中近東諸国を視察す○当選四回(24・25・26・28)

西村榮一(にしむらえいいち) 大阪府第五区選出 民主社会党

明治37年3月生・大阪府出身・大正9年上海フランス国民高等学校卒○堺市会議員、通貨安定本部副部長、芦田内閣の経済安定政務次官となる、また昭和生命保険(互)大阪支店長、民生科学経済研究会理事長となる、日本社会党政策審議会事務局長、同副会長、中央執行委員、国会活動連絡会議委員長、民主社会党中央執行委員、選挙対策委員長、組織局長となる(著)「実践期の社会主義」○当選七回(22・23・24・25・26・27・28)

西村関一(にしむらかんいち) 滋賀県選出 日本社会党

明治33年6月生・滋賀県出身・大正7年膳所中学校、昭和2年フリー・メソヂスト神学校卒○ミンダナオ島に赴き開墾拓植に従事、帰国後丹那トンネル開さく工事に従事す、のち牧師となり農山漁村の開拓伝道に従事、堅田教会を創立す、また大阪基督教短期大学講師、全日農中央常任委員となる・国際児童福祉、国際社会福祉会議(インド)に日本代表として出席、また宗教関係会議に出席し、世界各国を視察す(著)「イスラエル・インド紀行」(訳著)「ゼローム・デビス、行動の中の宗教」○当選一回(28)

西村金三郎(にしむらきんさぶろう) 京都府第一区選出 翼賛議員同盟

明治9年1月生・京都府出身・明治37年東京帝国大学政治科卒○京都市会議員、同府会議員、京都市都市計画委員、同方面委員、同教育会理事長と

昭和31年8月11日死去

西田作次郎(にしださくじろう) 京都府郡部選出 立憲政友会

元治元年4月生・京都府出身・漢学を修む○大宮村会議員、同村収入役、同村長、郡徴兵参事員、京都府会議員、府教育会愛宕郡部会副会長、郡農会副会長、同議長、所得税調査委員となる、また(名)七星社、(名)西田賃山会を組織し各代表社員、京都府農工銀行監査役、宮内省京都御猟場監守となる○当選一回(9補)○昭和10年7月26日死去

西田收三(にしだしゅうぞう) 富山県第二区選出 憲政本党

安政元年6月生・富山県出身・漢籍、英学を修む○農業を営む、若栗村戸長、同村会議員、学務委員、若栗村産業組合長、下新川郡会議員となり、地方銀行、会社の重役となる○当選二回(5・6)○大正14年6月19日死去

西田庄助(にしだしょうすけ) 滋賀県郡部選出 公正会

安政6年1月生・滋賀県出身・漢学を学ぶ○農業及び商業を営む、町村連合会議員、同議長、郡所得税調査委員、県勧業諮問会員、千木村長、滋賀県会議員となる、滋賀県農工銀行監査役、近江銀行、近江水力電気各株取締役となる○当選一回(12)○昭和12年6月23日死去

西田隆男(にしだたかお) 福岡県第二区選出 民主党

明治34年10月生・福岡県出身・大正13年早稲田大学専門部法律科卒○秋山鉱業所坑長兼経理部長となり、のち筑前炭坑及び第二筑前炭坑を経営し、互助会石炭、北九州石炭統制各(株)監査役、日本石炭鉱業会、九州石炭鉱業会、炭鉱文化協会各理事、日本産業協議会評議員、日本石炭鉱業連盟常任理事、石炭復興会議全国委員会幹事となる、また第一次鳩山内閣の国務大臣、行政管理庁長官、自治庁長官、第二次鳩山内閣の労働大臣となる○当選一回(23)・(参二回(2・4)

西田忠之(にしだただゆき) 滋賀県第三区選出 進歩党

天保10年11月生・滋賀県出身・漢字及び書法を学ぶ○刑法官書記、補亡司判事、鞫獄司判事、徴士補亡司知事、逮部権正、太政官八等出仕、大審院大属、判事補、陸軍裁判所少主理、治安裁判所判事、北条区裁判所監督判事等を歴任す○当選一回(4)○明治32年4月6日死去

西田爲之(にしだためゆき) 大阪府郡部選出 憲政会

慶応2年11月生・大阪府出身・明治21年大阪府師範学校卒○多年教育に従事し、のち農業及び工業を営む、化学工業機械(株)取締役となる○当選一

なる、またマヌフツクチュラース生命保険会社日本中央部総支配人、京都同志社理事、同財務部長、両丹電気㈱社長、大門製作所専務取締役となる・南洋、フィリピン、台湾視察のため派遣さる○当選三回(17 19 20)○昭和32年4月23日死去

西村治兵衛(にしむらじへえ) 京都府京都市選出 無所属

文久元年3月生・京都府出身・漢学及び法律学を修む○京都市会議員、同参事会員、同議長、勧業委員長、京都市教育委員長、第四回内国勧業博覧会審査官、第五回内国勧業博覧会評議員、日本大博覧会評議員、セントルイス万国博覧会織物審査官となる、また関西鉄道会社監査役、京都鉄道会社取締役、同清算人、京都商業会議所会頭、京都商工銀行副頭取、商工貯金銀行頭取、京都織物㈱取締役、京都銀行集会所委員長、京都染呉服商組合組長となる○当選一回(10)○明治43年12月14日死去

西村茂生(にしむらしげお) 山口県第二区選出 自由党

明治18年2月生・山口県出身・明治40年農商務省水産講習所養殖科卒、のち東京帝国大学理科大学に動物学を学ぶ○水力電気事業、水産業を経営す、岩国町会議員、玖珂郡会議員、山口県会議員、同副議長、犬養内閣の海軍参与官、平沼内閣の陸軍政務次官、岩国市長となる、また岩国商工会長、小瀬川水力電気㈱重役、岩国証券会社重役、自由党総務、電源開発㈱顧問となる・南米視察のため派遣さる○当選七回(16 17 18 19 20 21 25)

西村淳蔵(にしむらじゅんぞう) 兵庫県第九区選出 立憲政友会

元治元年4月生・兵庫県出身・明治23年慶応義塾卒○農業を営む、多年八鹿村長、八鹿町長となる○当選一回(6)○昭和14年2月14日死去

西村彰一(にしむらしょういち) 長野県第一区選出 日本社会党

明治31年5月生・長野県出身・大正12年東京帝国大学農業経済科、同13年政治科卒○農林属、農林事務官、同書記官、大阪営林局長、農林省山林局長、富山県知事、農商省農政局長、馬政局長官、農林省開拓局長を歴任す、また京都帝国大学農学部、日本大学、専修大学各講師、大東文化大学教授となるほか、全国種苗協会長、拓洋水産㈱社長、同顧問、長野県農業委員協議会長、東京教育研究所長、日本社会党企画部長、同党長野県連委員長となる㊟「農業政策論」「昭和農業発達史」、(翻訳)「ラッセンウオーレス、土地国有論」○当選一回(27)○昭和33年11月24日死去

西村眞太郎(にしむらしんたろう) 兵庫県郡部選出 憲政本党

安政6年11月生・兵庫県出身・漢学を修む○加東郡農事会議員、同議長、戸長、郡徴兵参事員、同学務委員、兵庫県会議員となる、また播磨鉄道㈱取締役、加東郡米穀取引所理事長、関西競馬倶楽部監事、社銀行、大阪四ツ橋銀行各頭取、西丹貯蓄銀行取締役、兵庫県農工銀行、台湾銀行各監査役となる○当選八回(3 4 5 6 7 8 9 10)○大正11年9月13日死去

西村甚右衛門(にしむらじんうえもん) 千葉県第四区選出 公同会

弘化4年1月生・千葉県出身・漢学を修む○千葉県会議員となる、また東京醤油会社、東京乗合馬車会社を創立す○当選四回(1 2 3 4)○大正15年10月24日死去

西村專太郎(にしむらせんたろう) 大阪府郡部選出 立憲政友会

文久2年2月生・大阪府出身・漢学を修む○農業を営む、南郷村会議員、同村長、北河内郡会議員、大阪府会議員となる○当選一回(9)○大正13年1月2日死去

西村種禮(にしむらたねのり) 鹿児島県郡部選出 立憲政友会

明治2年10月生・鹿児島県出身・慶応義塾大学部

に学ぶ○農業及び漁業を営む、阿久根村長、鹿児島県会議員、同参事会員、同副議長、地方森林会議員となる○当選一回(13)○昭和7年1月25日死去

西村丹治郎(にしむらたんじろう) 岡山県第二区選出 立憲民政党

慶応2年10月生・岡山県出身・明治23年東京専門学校卒、のち欧米に留学し政治、経済学を修む○新聞記者となる、第二次若槻内閣の農林政務次官となる、また立憲政友会政務調査会長、立憲民政党総務、顧問となる・第十六回列国議会同盟会議(ブラッセル)に参列す・永年在職議員として院議表彰さる○当選十四回(7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18補 19 20)○昭和12年12月20日死去

西村直己(にしむらなおみ) 静岡県第一区選出 自由民主党

明治38年10月生・静岡県出身・昭和4年東京帝国大学政治科卒○静岡県警察部長、鈴木内閣総理大臣秘書官、警視庁警務部長、高知県知事、内務省調査局長を歴任、第三次吉田内閣の大蔵政務次官、衆議院建設委員長、同予算委員長となる、また自由党政調会治安対策委員長、政調会副会長、自由民主党総務、産業組織局長、国会対策副委員長、臨時税制調査会間接税部会長、中小企業対策副委員長、政調会行政調査会副会長となる・議員団長としてソ連、中国を訪問、また東南アジア各国及び米国を視察、さらにチエッコスロバキア訪問親善使節議員団長として派遣さる㊟「モスクワの異風客」○当選五回(24 25 26 27 28)

西村規矩(にしむらき く) 長崎県郡部選出 憲政本党

安政5年2月生・長崎県出身・明治10年長崎英語学校普通科、同13年学農社卒○農業及び酒造業を営み、傍ら西村製糸場を経営、諫早銀行頭取となる、また長崎県会議員となる○当選二回(7 8)○明治36年3月30日死去

西村久之(にしむらひさゆき) 長崎県第二区選出 自由党

明治26年9月生・長崎県出身・早稲田大学商科に学ぶ○南松浦郡岐宿町会議員、長崎県会議員、同参事会員、同議長、衆議院水産委員長、第三次吉田内閣の経済安定政務次官となる、また西村漁業(資代表者、福江製氷株社長、長崎県鮮魚介藻配給統制組合理事長、西村物産㈱社長となる○当選四回(22 23 24 26)

西村正則(にしむらまさのり) 石川県第二区選出 政友本党

慶応2年4月生・石川県出身○農業を営む、出城村長、石川県会議員、同参事会員、帝国農会議員となる、また朝鮮興農、北陸土木各株社長となる○当選四回(12 12再 13 14)○大正13年4月30日死去

西村力弥(にしむらりきや) 山形県第一区選出 日本社会党

明治42年10月生・山形県出身・昭和4年山形県師範学校卒○小学校訓導となり、のち農業、自由労働者、役場書記等を経て、再び教職に復帰し、全教協最高闘争委員、全官公共闘委員会渉外部長、山形県教員組合執行委員長、山形県官公労働組合会議々長となる、また日本社会党出版部副部長、軍事基地委員会事務局長、軍事基地対策特別委員長、社会主義理論委員会副委員長、日本原水協顧問、日本平和委員会常任理事となる・中共を視察す○当選四回(25 26 27 28)

西村禮作(にしむられいさく) 山口県郡部選出 立憲政友会

文久3年6月生・山口県出身・漢学、英学を修む○農業を営む、学務委員、県勧業諮問会員、奈古村会議員、阿武郡所得税調査委員、同徴兵参事員山口県会議員となり、奈古村長となる、また(名)藤田組理事となる○当選三回(3 4 7)○昭和18年3月8日死去

西山彰(にしやまあきら) 香川県郡部選出 立憲政友会

万延元年5月生・香川県出身・漢学を修む○香川県会議員、観音寺町会議員、三豊郡会議員、同議

長、観音寺町長となる、また西讃織物㈱社長、西讃銀行頭取、西讃製糸、西讃醤油、西讃煉瓦各㈱社長となる○当選二回(9 10)○昭和18年10月9日死去

西山關一郎(にしやまかんいちろう) 島根県郡部選出 帝国党

嘉永元年10月生・島根県出身・漢学、英学及び医学を修む○島根県公立病院長心得となり、地方衛生会員、島根県会議員、同議長となる○当選一回(7)○明治36年7月4日死去

西山冨佐太(にしやまふさた) 岡山県第一区選出 民主党

明治22年7月生・岡山県出身・明治43年岡山県師範学校卒○小学校、女子師範学校各訓導、小学校訓導兼校長、岡山県清輝青年訓練所長、同内山下青年学校長となる、また広島少年審判所司法保護委員、岡山県体育会評議員、日本教育会岡山県支部参与、岡山市教員組合長、岡山県連合教員組合長となる○当選二回(22 23)

西山志澄(にしやまゆきずみ) 高知県郡部選出 立憲政友会

天保13年6月生・旧姓(植木)・高知県出身・藩校致道館に学ぶ○親兵一等官、奈良県出仕、大蔵省出仕となる、また立志社副社長、土陽新聞社長、立憲自由党幹事となる、のち警視総監となる○当選五回(2 3 4 5 9補)○明治44年5月27日死去

西脇 晋(にしわきしん) 愛知県第二区選出 立憲民政党

明治15年1月生・東京都出身・明治40年東京帝国大学独法科卒○大蔵属、税務監督官、東京監督局間税部長、税務副監督官を歴任し、のち弁護士及び弁理士の業務に従事す、齋藤内閣の外務参与官となる、また法政大学講師、帝国製鉄、満蒙土地建物、横浜倉庫各㈱監査役、大阪造船所、蔵内商事各㈱取締役となる○当選四回(15補 16 17 18)○昭和8年12月19日死去

庭田次平(にわたじへい) 石川県郡部選出 立憲政友会

安政5年1月生・石川県出身・漢学、政治、経済、法律学を修む○戸長、中条村長、石川県会議員、河北郡会議員、同参事会員、同議長、所得税調査委員となる、また農業、運送業を営み、郡蚕糸業組合幹事、郡農会長、県農会幹事となる○当選一回(7)○明治36年3月5日死去

貫井清憲(ぬくいきよのり) 埼玉県第三区選出 自由党

明治25年4月生・埼玉県出身・明治43年群馬県富岡中学校卒○若泉村会議員、同村長、埼玉県会議員、埼玉県農業委員となる、また県森林組合連合会常務理事、若泉村酪農組合長、埼玉酪農業協同組合顧問、埼玉県緬羊協会長、鬼石銀行代表取締役、鬼石製材、上武自動車㈱社長、上信電気鉄道㈱取締役、若泉製材工業会社取締役社長、武蔵野銀行取締役となる○当選一回(25)

布利秋(ぬのとしあき) 愛媛県選出 民主党

明治22年8月生・愛媛県出身・明治42年早稲田大学政治経済科卒、のちワシントン大学文科及びロンドン大学文科に学ぶ○コーストタイムス旬刊雑誌社主幹、東京中央新聞のヨーロッパ通信員となり、世界経済、文化、風俗、習慣等研究のため世界各国を歴遊す、また著述業に従事、国民協同党政調会復員部長となる㊎「世界地理風俗」「日本没落か」「北支案内記」○当選一回(22)

沼田宇源太(ぬまたうげんた) 秋田県郡部選出 憲政本党

文久元年6月生・秋田県出身・明治24年東京法学院卒○弁護士の業務に従事す、秋田県会議員、同常置委員となる、また秋田駐新聞社理事となる○当選四回(4 5 7 8)○明治44年8月12日死去

沼田嘉一郎(ぬまたかいちろう) 大阪府第二区選出 立憲政友会

明治11年8月生・大阪府出身○大阪市会議員、大阪府方面委員、同常務委員、同理事、借地借家、小作、商事各調停委員となる、また西浜土地建物㈱常務取締役となる・朝鮮、満州、支那視察のため派遣さる○当選三回(15 16 18)○昭和12年11月13日死去

ね の 部

根岸嵯太郎 群馬県郡部選出 憲政会
万延元年9月生・群馬県出身・漢学を修む○農業を営む、学務委員、大類村会議員、群馬県会議員、同常置委員、同参事会員、大類村長、県森林会議員、同勧業諮問会員、郡徴兵参事会員、大類村農会長、県農会評議員、県町村長会長となる、また群馬県農工銀行取締役、烏川水電㈱副社長、岩鼻鉄道㈱社長となる○当選三回(10 11 12)○昭和21年12月15日死去

根津嘉一郎 山梨県郡部選出 憲政会
万延元年6月生・東京都出身・漢学を修む○東山梨郡会議員、同参事会員、山梨県会議員、同参事会員、鉄道会議議員となる、また東京商業会議所副会頭、東京米穀商品取引所理事長、東武鉄道、加富登麦酒、帝国石油、日清製粉、大日本製粉、帝国火災保険、東上鉄道、東京地下鉄道、南朝鮮興業、太平生命保険各㈱社長、富国徴兵保険(互)社長、東京電燈、山梨日日新聞社、京浜地下鉄道、大日本航空、東京高速度鉄道各㈱取締役等となるほか、武蔵高等学校を創立、根津育英会理事長となる○当選四回(9 10 11 12)・貴勅選○昭和15年1月4日死去

根本 正 茨城県第三区選出 無所属
嘉永4年10月生・茨城県出身・水戸学及び英学を修め、のち米国に留学、明治22年ヴァーモント州立大学卒○外務省、農商務省より嘱託を受け、海外移民地探検視察並びに商工業視察のためメキシコ、ブラジル、西インド、中央アメリカ、印度方面へ派遣さる、農業を営む、また「国の光」記者、国勢調査評議会評議員、水戸瓦斯会社監査役、(株)旭貿易商会顧問となる㊟「米国国民論」「米国地方制度」「女子立身伝」○当選十回(5 6 7 8 9 10 11 12 13 14)○昭和8年1月3日死去

根本龍太郎 秋田県第二区選出 自由民主党
明治40年5月生・秋田県出身・昭和7年京都帝国大学農林経済科卒○満州国官吏となり、建国大学助教授、綏陽県長、総務庁参事官となる、第三次吉田内閣の農林大臣、第一次、第二次、第三次鳩山内閣の内閣官房長官、第一次岸内閣の建設大臣、首都圏整備委員会委員長を歴任す、また民主自由党総務、自由党政務調査会長、総務、国会対策委員長、日本民主党総務、自由民主党相談役、水資源開発公団総裁、公営競技特別委員長となる・首相特使としてビルマその他南方諸国を歴訪、また欧米各国を視察す○当選六回(23 24 25 26 27 28)

の の 部

野出鎗三郎 秋田県第三区選出 立憲革新党
安政6年6月生・秋田県出身○弁護士の業務に従事す○当選二回(2 3)○大正4年2月23日死去

野方次郎 神奈川県第一区選出 翼賛議員同盟
明治9年2月生・静岡県出身・明治30年東京医学専門学校、同40年東京帝国大学医学部専科卒○警視庁検疫委員、神奈川県会議員、同参事会員となる、また野方病院長、神奈川県医師会常任理事、横浜市学校医会長、神奈川県学校医副会長となるほか、横浜日日新聞社長、本牧中学校、貿易商業学校各理事長、横浜盲人学校理事、豊国石油㈱社長となる○当選三回(17 18 20)○昭和31年2月6日死去

野上嘉平 兵庫県郡部選出 憲政本党
文久3年7月生・兵庫県出身・東京法学校に学ぶ○賀集村会議員、三原郡町村組合会議員、町村学校組合会議員、兵庫県会議員、賀集村長、三原郡会議員、所得調査委員となる、また淡路銀行、福良汽船資、淡路製紙㈱各取締役、淡路製陶㈱社長、福良精米㈱監査役となる、淡路民報を発刊す○当選三回(7 8 9)○大正2年10月3日死去

野上健次 大分県第一区選出 日本社会党
明治41年7月生・福岡県出身○西部鉱山労働組合、日本大衆党、全国大衆党各常任書記、社会大衆党常任書記兼九州統一労働組合常任委員を経て㈱興中公司社員となり、山西省山西炭礦、江蘇省柳泉炭礦各鉱業所に勤務、のち天津兼松㈱社員となる、日本社会党大分県支部連合会書記長となる○当選一回(23)

野木善三郎 福島県郡部選出 憲政本党
文久元年6月生・福島県出身・明治11年福島県師範学校卒、のち東京法学校に学ぶ○小学校教員、戸長、学務委員、福島県会議員、宮城県御用掛となり、のち公証人となる、また農業を営み、福島新聞社主となる○当選二回(8 9)○大正7年3月28日死去

野口勝一 茨城県第二区選出 自由党
嘉永元年10月生・茨城県出身・和漢学を修む、師範学校卒○農商務省二等属となる、のち茨城県会議員、同常置委員、同議長となり、第四回内国勧業博覧会評議員となる、また新聞、雑誌記者となる○当選三回(2 3 4)○明治38年11月23日死去

野口喜一 神奈川県第二区選出 日本自由党
明治28年4月生・神奈川県出身・大正11年明治大学法律科卒○学務委員、川崎市会議員、同参事会員、神奈川県会議員、同参事会員となり、内閣委員、幣原内閣の陸軍参与官次いで第一復員参与官となる、また東京綿油再生、特殊鋳工、東神商事各㈱取締役社長、川崎乗合自動車㈱監査役、直喜鉄工所、大東鉄工所、川崎食品市場各㈱取締役となる・派遣軍慰問のため北満州へ派遣さる○当選二回(20 21)○昭和32年4月2日死去

野口駿 埼玉県第三区選出 議員倶楽部
安政5年11月生・埼玉県出身○埼玉県会議員、所得税調査委員となる○当選四回(1補 2 3 4)・(貴)多額○明治38年12月27日死去

野口源一郎 茨城県郡部選出 憲政本党
明治2年12月生・茨城県出身・慶応義塾に学ぶ○農業を営む、茨城県会議員、朝日村長となる○当選一回(9)○大正15年11月18日死去

野口孝治 新潟県郡部選出 立憲国民党
明治5年9月生・新潟県出身・明治27年慶応義塾

卒○農業を営む、津有村会議員、新潟県会議員、普通水利組合会議員、学務委員となる、また高田百三十九銀行監査役、高田織物会社、高田羽二重会社各取締役となる○当選一回(13)○昭和35年9月1日死去

野口代治 (のぐちだいじ) 岐阜県第三区選出 進歩党

安政6年5月生・岐阜県出身・岐阜中学校に学ぶ○学務委員、所得調査委員、岐阜県会議員、同常置委員、徴兵参事員、地方衛生会員、大浦村外四ケ村長、正木村会議員となる、また三井物産会社社員、岐阜物産、岐阜倉庫各会社々長となる○当選一回(4)○明治44年12月2日死去

野口忠夫 (のぐちただお) 福島県第二区選出 日本社会党

明治44年3月生・福島県出身・昭和4年福島県師範学校本科第二部卒○福島県公立学校教員となる、また福島県教員組合中央執行委員長、福島県学校生活協同組合理事長、福島県労働金庫理事、福島県公立学校教員互助会副理事長、福島県教育委員会社会教育、産業教育各委員、福島県教育会館理事長、福島県労働組合協議会副議長、日本社会党東北開発特別委員会事務局長となる○当選一回(28)

野口忠太郎 (のぐちゅうたろう) 福岡県第七区選出 立憲政友会

慶応元年8月生・福岡県出身・明治15年福陵校中学部卒○大牟田市会議員、同参事会員となる、また三池銀行監査役、九州電燈鉄道、大東畜産工業、大牟田瓦斯各株取締役、大牟田商工談話会長となる○当選一回(14)○昭和6年2月24日死去

野坂参三 (のさかさんぞう) 東京都第一区選出 日本共産党

明治25年3月生・兵庫県出身・大正6年慶応義塾大学理財科卒○大正2年友愛会に入会以来労働運動、社会運動に専念、日本共産党の創立に参加す、産業労働調査所を設立し所長となる、昭和6年ソ連に渡りコミンテルン総会執行委員となる、のち中国延安に移り日本人解放連盟を創立す、帰国後日本共産党中央委員、中央委員会第一書記、同議長となる・第三インターナショナル大会(モスクワ)に出席す㊒「レーニン・労働組合論(共訳)」「民主戦線のために」「亡命十六年」○当選三回(22 23 24)・㊒一回(4)

野坂茂三郎 (のさかもさぶろう) 鳥取県第三区選出 山下倶楽部

文久元年2月生・鳥取県出身○呉服商を営む、米子町会議員となる、また中国貯蓄銀行頭取、米子銀行、山陰鉄道各株取締役となる○当選一回(5)○大正12年5月7日死去

野崎定次郎 (のざきさだじろう) 岡山県第一区選出 進歩党

安政元年7月生・岡山県出身・慶応義塾に学ぶ○農業を営む、味野町長、岡山県会議員となる、また児島銀行頭取、味野紡績㈱社長となる○当選一回(5)○昭和8年12月20日死去

野澤卯市 (のざわういち) 新潟県第一区選出 立憲民政党

明治元年9月生・新潟県出身・明治23年東京専門学校卒○佐渡郡会議員、新潟県会議員となり、新潟県水産試験場評議員、同衛生会商議員、同森林会議員、同産業調査会員となる、また佐渡水電、二葉社各㈱取締役、新潟貯蓄銀行監査役となる○当選一回(17)○昭和36年7月26日死去

野澤清人 (のざわきよんど) 栃木県第一区選出 自由民主党

明治40年7月生・栃木県出身・昭和5年東京薬学専門学校卒○第一化学工業所を創立し、社長となり、のち関東化学㈱と改称、社長となる、また東京薬科大学理事長、自由民主党総務局庶務部長、政調会社会部長となる・訪ソ議員団に参加、中共、ソ連、西欧各国を視察す㊒「ソ連の乳房」○当選三回(25 27 28)○昭和34年10月18日死去

野澤武之助 (のざわたけのすけ) 栃木県第一区選出 山下倶楽部

慶応2年1月生・栃木県出身・明治21年ドイツ国ミュルハイム市立工業学校卒、スイス国ジュネーブ市法科大学に学びドクトル・アン・ドロアの学位を受く○韓国政府法部参与官、韓国法官養成所長、韓国法学校長、外務省嘱託、外務省翻訳官となる、また東京専門学校、明治法律学校各教授となる㊒(仏文)「日本憲法論」○当選一回(5)○昭和16年8月1日死去

野尻岩次郎 (のじりいわじろう) 京都府郡部選出 立憲政友会

安政5年3月生・京都府出身・漢学を修む○戸長、学務委員、村会議員、京都府会議員、同常置委員、同副議長、同議長、山国村長、北桑田郡会議員、同議長、所得税調査委員、府徴兵参事員、相続税審査委員となる、また酒造業及び山林業を営み、地方銀行、材木会社各取締役となる○当選二回(6 12)○昭和4年9月15日死去

野尻邦基 大分県選出 大同倶楽部

天保14年10月生・旧姓(首藤)・大分県出身・藩校由学館に学ぶ○岡藩少属、同大属、大分県出仕、中属、権大属、大属、兼任判事、大分県属、同警部、大分郡長、直入郡長、大蔵省御用掛、主税官、佐賀県書記官、高知県書記官を歴任す○当選二回(6補9)○明治43年8月1日死去

野尻彌重郎 (のじやじゅうろう) 福井県第二区選出 憲政会

明治元年3月生・福井県出身・明治22年福井県師範学校卒○小学校訓導、西田中小学校長、神明村長、福井県会議員となる、また農業を営み、武周電力㈱社長、神明村産業組合長となる○当選一回(14)○昭和22年11月27日死去

野副重一 (のぞえじゅういち) 宮城県第三区選出 立憲政友会

慶応元年9月生・宮城県出身・明治25年東京帝国大学英法科卒○弁護士の業務に従事す、仙台市会議員、同議長となる・第十九回列国議会同盟会議(ストックホルム)に参列す○当選一回(14)○昭和2年3月28日死去

野添宗三 (のぞえそうぞう) 兵庫県神戸市選出 立憲国民党

明治3年3月生・兵庫県出身・明治23年明治法律学校卒○司法官試補、検事、判事を歴任す、のち弁護士の業務に従事し、破産管財人、神戸弁護士会副会長、同会長、神戸市会議員となる○当選四回(10補11 12 13)○大正8年8月27日死去

野田卯一 (のだうういち) 岐阜県第一区選出 自由民主党

明治36年9月生・岐阜県出身・昭和2年東京帝国大学英法科卒○大蔵属、財務官附・英、米、仏駐在、税務署長、銀行検査官、大蔵省、興亜院各課長、大蔵省調査官、門司海運局次長、大蔵省金融局次長兼日本銀行監理官、外資局長、主計局長、専売局長官、大蔵次官を歴任、日本専売公社副総裁、第三次吉田内閣の建設大臣、北海道開発庁長官、首都建設委員長、行政管理庁長官となる、また日本セイロン協会、全国海岸協会、地盤変動対策協議会、全日本不動産協会、全国学校保健推進協議会各会長、自由民主党政策審議会議長代理、国民年金特別委員長、行政調査会長、九州地方開発特別委員長、たばこ事業専門委員長、社会保障調査会副会長、災害対策特別副委員長となる㊒「外国為替管理法の解説」「たばこの経済」「国民年金法と解説」○当選三回(26 27 28)・㊒一回(2)

野田卯太郎 (のだうたろう) 福岡県第七区選出 立憲政友会

嘉永6年11月生・福岡県出身・漢学を修む○福岡県会議員、同副議長、原内閣の逓信大臣次いで高橋内閣に留任、加藤高明内閣の商工大臣となる、また東洋拓殖㈱設立委員、監事、副総裁、立憲政友会幹事長、総務委員、政務調査会長、副総裁

となるほか、三池紡績株取締役社長、三池土木、九州製油、三池銀行、福岡県農工銀行各株重役、中央新聞社長、東洋製麻株取締役となる○当選十回(5 6 7 8 9 10 11 13 14 15)○昭和2年2月23日死去

野田俊作(のだしゅんさく) 福岡県第三区選出 翼賛議員同盟

明治21年5月生・福岡県出身・大正2年東京帝国大学経済科卒○南満州鉄道株社員となる、犬養内閣の鉄道参与官、鉄道会議議員、廣田内閣の司法政務次官、福岡県知事、参議院外務委員長となる、また立憲政友会総務、朝鮮紡織、満州製麻、日本電報通信各株取締役、西日本新聞社監査役、同相談役、自由民主党相談役となる・第二十五回列国議会同盟会議に参列、また派遣さる・永年在職議員として参議院より表彰さる○当選六回(15 16 17 18 19 20)・(参三回(1 3 5)・(貴一勅選)

野田武夫(のだたけお) 神奈川県第二区選出 自由民主党

明治28年2月生・神奈川県出身・大正12年早稲田大学法学部独法科卒○東京朝日新聞社政治部記者、神奈川新聞社長となり、商工大臣秘書官、商工省、軍需省各委員、行政査察使随員、綜合計画局参与、鈴木内閣の軍需政務次官、商工省参与を歴任、また大平産業

大学高等科卒○農業を営む、高原町長、宮崎県会議員、同議長となる、また農林省委員、大政翼賛会宮崎県協力会議長となる○当選一回(21)○昭和34年3月4日死去

野村嘉六 富山県第一区選出 翼賛議員同盟

明治6年8月生・富山県出身・明治26年東京法学院卒○富山区裁判所判事、富山、大津各地方裁判所判事を歴任、のち弁護士の業務に従事し、富山県会議員、加藤高明内閣、第一次若槻内閣の商工参与官、濱口内閣の文部政務次官、鉄道会議議員となる、また富山県弁護士会長、立憲民政党総務となる・永年在職議員として院議表彰さる○当選十回(11 12 13 14 15 16 17 18 19 20)・貴(勅選)○昭和27年1月17日死去

野村勘左衛門 福井県第三区選出 政友本党

明治3年2月生・福井県出身・明治23年東京専門学校政治科卒○日清、日露の戦役に従軍す、陸軍歩兵大尉となる、農業を営む、坂井郡会議員、福井県会議員、所得税調査委員、地方森林会議員、郡教育会長、県教育会副会長、県救済改良協会副会長となる○当選一回(14○昭和[illegible]年8月6日死去

野村治三郎 青森県第六区選出 立憲民政党

明治10年10月生・青森県出身・慶応義塾に学ぶ○農業を営む、地方森林会議員、恩賜財団済生会評議員、野辺地町農会長、野辺地産業協会評議員、野辺地町産馬畜産組合長、日本産業協会評議員、野辺地町会議員となる、また青森県農工銀行、野村銀行、上北銀行各頭取、野辺地電気(株)社長、七戸水電(株)取締役となる○当選四回(12 13 14 15)○昭和24年1月13日死去

野村脩造 富山県第二区選出 立憲改進党

天保6年12月生・富山県出身・漢学を修め、のち緒方洪庵について医術を学ぶ○区副長、新川郡医務取締、町村連合議会議長、小学校長、県地方衛生委員となる、また魚津病院医師、小学校教員集会々頭、免囚保護会評議員、下新川郡医師会長、下新川郡史編纂委員長となる○当選一回(3)○大正5年5月12日死去

野村專太郎 東京都第一区選出 自由党

明治34年2月生・東京都出身・大正7年中央工学校建築高等科卒○淀橋区会議員、同議長、東京市会議員となる、また東京土木建築業組合副理事長、京西信用組合長、野村工事(株)取締役会長、東横運動施設、東京製氷、新日本興業各株取締役、中央工学校理事長となる○当選一回(24)

野村恒造 山口県第四区選出 無所属

嘉永3年9月生・山口県出身○徳山村会議員、同村長、山口県会議員、郡会議員、同参事会員、徴兵参事員、所得税調査委員となる、また松下銀行代表社員となる○当選一回(1)・貴(多額)○大正9年1月4日死去

野村ミス 新潟県第二区選出 国民協同党

明治29年8月生・山口県出身・大正8年東京上野家政女学校高等科卒○中魚沼郡中深見村田代小学校訓導、国民党婦人部副部長となる○当選一回(22)

野本吉兵衛 愛媛県第三区選出 日本進歩党

明治31年6月生・愛媛県出身・大正11年高千穂高等商業学校卒○八幡浜町会議員、八幡浜市会議員、同市助役、同市長となる、また愛媛県方面委員、八幡浜市翼賛壮年団長、予州銀行監査役、理研木材工業(株)社長となる○当選一回(21)

野本品吉 群馬県第二区選出 国民協同党

明治26年3月生・群馬県出身・大正2年群馬県師範学校卒○小学校訓導、同校長、群馬県社会教育主事補、同視学、太田青年学校校長を歴任す、参議院法務委員長となる、また国民協同党中央常任委員、自由民主党全国組織委員会副委員長、文教調査会副会長、日本退職公務員連盟会長となる・東南アジア各国を視察す○当選二回(22 23)・(参)二回(3 5)

野依秀市 大分県第二区選出 自由民主党

明治18年7月生・大分県出身・慶応義塾商業学校に学ぶ○慶応義塾商業学校在学中雑誌「三田商業界」を発刊し主幹となり、のち「実業之世界」と改題、社長、同会長、「真宗の世界」、「世界仏教」、「女性仏教」を創刊、帝都日日新聞社長、日本真宗宣伝協会長、世界仏教協会長となる、また日本民主党総務、自由民主党総務となる(著)「宗教と社会主義と資本主義」「真宗宣伝世界漫遊記」「印度仏教史講話」「日本国民に訴う」「日本国力論並びに新天皇論」「だれにもわかる仏教の解説」「絶対の慈悲に浴して」「軍部を衝く」「愛国の真理」○当選二回(1827)

野呂駿三 岐阜県第七区選出 政友本党

慶応元年6月生・岐阜県出身○酒、醤油醸造業を営む、御嵩町長、岐阜県会議員、同議長となる、また東美銀行、濃飛農工銀行各頭取、東美鉄道(株)取締役、中央製紙、木曽興業、樺太工業各(株)監査役となる○当選一回(14)○昭和20年12月7日死去

野呂丈太郎 埼玉県第一区選出 憲政会

明治7年1月生・埼玉県出身○北足立郡会議員、埼玉県会議員となる、織物業を営む○当選一回(14)○昭和2年10月3日死去

能川登 京都府京都市選出 中正倶楽部

嘉永4年11月生・京都府出身・漢籍を学ぶ○京都七条米商会所会頭、金沢為替荷会社々長となり、京都府勧業場商務用掛、京都府副用達、勧業諮問会員、京都府会議員となる、また貿易商を営み、大日本農会京都支会常置議員、京都貿易商組合組長、京都商業会議所会員、京都貿易銀行頭取となる○当選一回(8)○明治43年4月7日死去

納富陳平 福岡県第八区選出 庚申倶楽部

明治9年12月生・福岡県出身・明治36年京都帝国大学政治科卒○陸軍三等主計となる、また北浜銀行、福岡銀行、垂水土地、加古川製紙各株取締役、北九州鉄道、筑豊電気軌道、播州鉄道、木津川土地運河各株監査役となる○当選一回(14)○昭和9年3月1日死去

信正義雄 滋賀県選出 日本自由党

明治30年8月生・滋賀県出身・大正11年関西大学卒○大阪府巡査、同警部補となる、のち弁護士の業務に従事し、大津市会議員、同副議長、同議長、滋賀県会議員、同副議長となる、また人事、商事各調停委員、大政翼賛会滋賀県支部組織部長、滋賀県翼賛壮年団長、大津弁護士会長となる○当選一回(21)

則井萬壽雄 岡山県第二区選出 立憲政友会

明治12年10月生・岡山県出身・明治33年明治法律学校卒、のち同高等研究科に学ぶ○司法官試補となる、のち弁護士の業務に従事し、岡山県会議員、同参事会員、同議長となる、また小作調停委員、高梁川漁業組合長となる○当選一回(18補)○昭和11年10月26日死去

則元卯太郎 長崎県第一区選出 翼賛政治会

明治24年11月生・長崎県出身・大正6年東京帝国大学英法科卒○弁護士の業務に従事す、長崎市会

議員、同副議長、長崎県会議員、同副議長、司法省委員となる、また長崎弁護士会長、長崎日日新聞社副社長となる○当選二回(20 21)○昭和19年7月16日死去

則元 由庸(のりもと なおつね) 長崎県第一区選出 立憲民政党

文久2年2月生・長崎県出身・明治法律学校に学ぶ○弁護士の業務に従事す、長崎市会議員、同議長となる、また九州鉄道、九州瓦斯各株取締役、長崎電燈株監査役、長崎日日新聞取締役、同社長となる○当選七回(11 12 13 14補 15 16 17)○昭和6年8月6日死去

はの部

土生 彰(はぶ あきら) 福井県第四区選出 立憲民政党

元治元年2月生・福井県出身・福井県師範学校卒○富山日報、福井新報、日刊新聞「福井」各主筆を経て若越新聞、福井新聞各主筆となる、その間武生町長、福井県地方教育会議議員、福井市会議員、福井県会議員となる○当選一回(15)○昭和18年7月20日死去

羽田 彦四郎(はだ ひこしろう) 大分県第三区選出 立憲民政党

明治2年7月生・東京都出身・明治24年東京法学院卒○弁護士、弁理士の業務に従事し、東京弁護士会副会長、帝国福神漬株専務取締役、東京競馬株取締役、中央鉄道株、恵美須銀行、佐渡物産株各監査役となる、また鉱山業に従事す○当選一回(15)○昭和21年7月16日死去

羽田 武嗣郎(はた ぶしろう) 長野県第二区選出 自由民主党

明治36年4月生・長野県出身・昭和4年東北帝国大学法律科卒○東京朝日新聞社政治部記者となる、鉄道大臣秘書官、鉄道省、運輸通信省各委員、運輸通信大臣秘書官、鈴木内閣の運輸通信、運輸各参与官、鉄道輸送中央協議委員、第五次吉田内閣の農林政務次官、衆議院建設委員長となる、また長野電鉄株取締役、自由党政調会副会長、自由民主党代議士会副会長、全国組織委員会副委員長兼組織総局長、広報委員会副委員長となる・派遣軍慰問のため満州、次いで南方諸地域に派遣さる○当選五回(20 21 25 26 28)

羽田野 次郎(はたの じろう) 大分県第一区選出 協同党

明治36年2月生・大分県出身・昭和3年長崎高等商業学校卒○緒方村農地委員、同農地委員会長、大分県農地委員、緒方村助役となる、また緒方村産業組合理事、同村農業協同組合長、大分県信用農業協同組合連合会長、同県農業協同組合中央会長となる○当選一回(24)

羽室嘉右衛門(はむろ かえもん) 京都府郡部選出 立憲政友会

安政3年11月生・京都府出身・漢学を修む○農業及び酒造業を営む、戸長、中筋村長、京都府会議員、何鹿郡農会長、同教育会長となる、また製糸工場を設立、蚕糸業開発に尽し郡是製糸株社長となる○当選一回(7)○大正13年8月25日死去

羽室 庸之助(はむろ ようのすけ) 大阪府第一区選出 実業同志会

明治元年9月生・兵庫県出身・明治23年東京工業学校機械科卒○私立中学鳳鳴義塾教師となる、また農商務省製鉄所技手となりドイツに留学す、のち住友製鋼所副支配人、羽室鋳鋼所所長、日本水道衛生、大阪機械工作所各株監査役となる○当選一回(15再)○昭和19年12月30日死去

波多野 喜右衛門(はたの きえもん) 愛知県第五区選出 立憲政友会

安政4年6月生・愛知県出身・漢学を修む○農業を営む、戸長、大草村長、篠岡村長、所得調査委員、愛知県会議員、同参事会員となる○当選一回(14)○昭和12年3月1日死去

波多野 承五郎(はたの しょうごろう) 栃木県第四区選出 政友本党

安政5年11月生・東京都出身・明治7年慶応義塾卒○慶応義塾教員、郵便報知新聞、時事新報各記者、東京市会議員となる、のち外務省奏任御用掛、在天津領事、外務書記官を歴任、退官後朝野新聞社長兼主筆、三井銀行理事、同監査役、王子製紙、東神倉庫各株取締役、三井鉱山、北海道炭礦汽船各株監査役となる○当選一回(14)○昭和4年9月16日死去

波多野 傳三郎(はたの でんさぶろう) 新潟県郡部選出 憲政本党

安政3年8月生・新潟県出身・漢籍、英学を修む○共立学舎教授、同舎長、毎日新聞社員となる、また新潟県会議員、福井県知事となる、のち宝田石油会社、南北石油会社各監査役、国有共同販売所監査役となる○当選五回(1補 2 4 5 9)○明治40年2月13日死去

芳賀 宇之吉(はが うのきち) 福島県第一区選出 進歩党

安政3年2月生・福島県出身○福島県会議員、同常置委員、同参事会員、所得税調査委員となる○当選一回(5)○大正5年9月19日死去

芳賀 貢(はが みつぐ) 北海道第二区選出 日本社会党

明治41年1月生・北海道出身○剣渕産業組合青年連盟理事長、北海道産業組合青年総連盟、北海道農村建設連盟各理事、剣渕村農業会長、同農業委員会長、同農業協同組合長、北紡株取締役等となり、旭川地方民主々義懇話会長、上川農民同盟執行委員長、北海道農民同盟顧問、全国農民連盟中央委員等となる、また日本社会党農民部副部長、政策審議会農林漁業部長、党北海道開発特別委員長となる・中南米各国視察のため派遣され、また欧米各国並びに中国を視察す○当選四回(25 26 27 28)

葉住 利蔵(はすみ りぞう) 群馬県郡部選出 立憲政友会

慶応2年7月生・群馬県出身・横浜商業学校に学

ぶ○新田郡書記、群馬県会議員、同参事会員、地方森林会議員、県教育会副会頭となる、また群馬県農工銀行、新田銀行各頭取、太田軽便鉄道、利根軌道、利根発電各(株)社長、前橋瓦斯、藪塚石材、幸手電燈各株取締役、上毛撚糸株監査役となる○当選二回(11 12)○大正15年9月14日死去

葉梨新五郎　茨城県第一区選出　自由党

明治34年2月生・東京都出身・明治大学専門部法律科及び国士館高等部に学ぶ○私立弘学館副館長、中央新聞、日本電報通信各政治部記者となる、のち関東長官秘書官となり、鉄道会議議員、衆議院補助金等の臨時特例等に関する法律案特別委員長、衆議院労働委員長となる、また富士インキ、栄養化学工業、大稲計器各(株)常務取締役、新興採炭株取締役会長、大阪時事新報社、桜川紡績、日東農産、三綱商会各(株)取締役社長、日本自由党総務となる○当選五回(18 20 22 23 26)○昭和31年3月27日死去

馬場秀夫　埼玉県第四区選出　日本社会党

明治34年9月生・埼玉県出身・大正11年東京外国語学校ロシヤ語科卒○東京日日新聞記者、モスクワ特派員、外国通信部副部長、同ロシヤ課長、出版局編集部長、「時局情報」編集長、毎日新聞社出版局次長、同局長、同局顧問となり、のちソビエト文化協会理事長となる、また鴻巣町長、行田市長となるほか、毎日商事(株)社長、母子衛生研究会理事長、欧ア協会理事となる○当選一回(23)

馬場元治　長崎県第一区選出　自由民主党

明治35年12月生・長崎県出身・大正14年東京帝国大学独法科卒○弁護士の業務に従事し、長崎市会議員、長崎県会議員、農林省、外務省各委員、小磯内閣の厚生参与官、衆議院法務委員長、第三次鳩山内閣の建設大臣、首都圏整備委員会委員長となる、また自由党総務、自由民主党総務、党基本問題調査会副会長、政調会地盤沈下対策特別委員長となる・蒙古及び南洋群島を視察す○当選七回(19 20 21 25 26 27 28)

馬場義興　奈良県第三区選出　新正倶楽部

明治8年2月生・奈良県出身・上海日清貿易研究所に学ぶ○多年支那に在つて貿易並びに紡績、製油等の事業に従事し、(名半田棉行員、日本棉花(株)上海支店長、同社取締役、同監査役、東華紡績(株)取締役、同社取締役、同監査役、東華紡績泉各株監査役、奈良安全素道株取締役社長となる○当選一回(15)○昭和18年1月9日死去

萩原寿雄　神奈川県第三区選出　国民協同党

明治29年4月生・神奈川県出身・大正8年東京帝国大学農学実科卒○産業組合中央会主事補、全国購買組合連合会主事、肥料部長、常任理事、農林省一般農林水産物価格形成専門委員会専門委員、県農業会長、県蚕糸業会長、県販売農業協同組合連合会長となるほか、有機肥糧株専務取締役、宝運汽船、神奈川協同通運、横浜協同埠頭、萩原産業各株社長となる、また国民協同党事業部長と

生原忠右衛門　山梨県郡部選出　立憲政友会

明治元年2月生・山梨県出身○東山梨郡会議員、春日居村会議員、山梨県会議員、所得税調査委員、春日居村助役となる、また第十銀行、中央電力(株)各取締役、中央護謨(株)監査役となる○当選一回(13)○昭和7年12月20日死去

萩亮　鹿児島県第五区選出　立憲政友会

元治元年4月生・東京都出身・明治25年明治法律学校卒○司法官試補、検事代理、鹿児島、久留米、佐賀各区裁判所検事、鹿児島、佐賀、宮崎、熊本各地方裁判所検事、山形県警察部長、青森、和歌山各県内務部長を歴任す○当選二回(13 14)○大正12年12月18日死去

なる○当選一回(23)

萩原正夫　静岡県第七区選出　自由党

文久3年8月生・静岡県出身・静岡皇学舎に学び、のち漢学を修む○学務委員、町村組合会議員、伊豆四郡組合会議員、田方郡会議員、静岡県会議員となる(著)「柚乃涙」「増訂豆洲志稿」「国文鑑」「仮名鑑」「歌集・伊豆乃海」「伊豆七島志」○当選一回(5)○大正6年2月14日死去

萩原錬太郎　群馬県第五区選出　山下倶楽部

天保14年7月生・群馬県出身○名主、副戸長、群馬県会議員、碓氷郡長となる、また器械製糸場を設立し、次いで碓氷社々長となり、生糸の改良及び製糸業の発展に尽す○当選一回(5)○大正5年7月31日死去

萩野左門　新潟県郡部選出　猶興会

嘉永4年8月生・新潟県出身・漢学を修む○農業を営む、庄屋、戸長、小区長、副大区長、新潟県会議員、同常置委員、同議長、西蒲原郡会議員、同議長、地方衛生会委員、教育諮問会議員、徴兵参事員、地方森林会議員となり、栃木県知事、新潟市長となる、また私立北越学館を創立す○当選五回(3 5 7 8 9)○大正6年12月30日死去

萩元たけ子　長野県第四区選出　日本社会党

明治33年2月生・長野県出身・東京府立第一高等女学校に学ぶ○太田水穂主宰「潮音」同人となる○当選一回(26)

硲俊聰　山口県郡部選出　憲政会

嘉永5年12月生・山口県出身・大阪開成所に仏蘭西学を学び、のち明治11年文部省大阪師範学校卒○兵庫県三田同盟学校、柏原崇広館各教師、大阪風雲館長、吉野師範学校兼中学校教師となり、のち育英館を創設し、育英に従事す、山口県会議員、同参事会員、同議長、玖珂郡会議員、同参事会員、同議長、地方衛生会議員、地方森林会議員、玖珂郡農会長、同教育会々長となる○当選二回(7 12)○昭和6年8月30日死去

箸本太吉　石川県第一区選出　日本自由党

明治25年7月生・石川県出身・日本大学政治科に学ぶ○中外商業新報社政治部記者、同支那、ロンドン各特派員、万朝報社常務取締役兼営業並びに編集局長、専務取締役兼主筆となる、平沼内閣の外務参与官、外務省委員となる、また少年保護司、少年保護協会幹事、日本大学講師、同大学総長秘書、日本加工紙工業会々長、内外紙業株監査役、大倉電気(株)取締役、ヘンミ計算尺(株)相談役となる○当選五回(16 18 19 20 21)○昭和36年7月25日死去

橋元勗　石川県第四区選出　憲政本党

安政6年7月生・石川県出身・普通学を修む○石川県会議員、珠洲郡会議員、同参事会員、村長となる、また県勧業諮問委員、珠洲郡製塩同業組合会長、大日本塩業調査委員、珠洲郡畜産組合会長となる○当選一回(6)○大正6年4月18日死去

橋本喜造　長崎県第四区選出　新正倶楽部

明治5年10月生・長崎県出身・長崎商業学校、長崎外国語学校卒、のち海外に遊学す○佐世保市会議員、長崎県会議員となる、また橋本汽船、佐賀紡績、堂島ビルヂング、長崎新聞社、日本タイプライター、龍王汽船、雲仙観光ホテル各(株)社長、佐世保商業銀行頭取、日本海運、国際汽船各(株)取締役となるほか、憲政会総務、港湾協会、日本船主協会、日本ホテル協会各理事、大阪ビルヂング協会長、日本ビルヂング協会副会長となる○当選三回(13 14 15)○昭和22年2月7日死去

橋本久太郎　徳島県郡部選出　立憲政友会
安政2年1月生・徳島県出身・共慣義塾及び慶応義塾に学ぶ○町村連合会議員、徳島県会議員、同常置委員、地方衛生会委員、県徴兵参事員、県勧業諮問会員、阿波国教育会、同衛生会各評議員となる、のち東京市麴町区長となる○当選十回(1 2 3 4 5 6 7 8 9 10)○大正15年11月23日死去

橋本金一　愛知県第一区選出　改進党
明治23年12月生・愛知県出身○名古屋市会議員、愛知県会議員、同副議長となる、また食料品販売業を営み、名古屋青果物商業協同組合、愛知県木製品商工組合、名古屋青果物荷受商業協同組合各理事長、新日本興論実践連盟主宰者、愛知県生活用品価格査定委員会副委員長となるほか、愛知県木製工業株社長、名古屋青果物㈱取締役、大西証券、大金証券各㈱社長、民主党政調会決算部長、総務委員となる○当選二回(23 24)○昭和34年11月18日死去

橋本欣五郎　福岡県第四区選出　無所属倶楽部
明治23年2月生・福岡県出身・大正9年陸軍大学校卒○陸軍砲兵少尉より同大佐に累進、その間参謀本部員、トルコ在勤帝国大使館附武官、ハイラル特務機関長、三島野戦重砲兵第二聯隊長を歴任す、支那事変に際し野戦重砲兵第十三聯隊長として出征す、のち大日本青年党、大日本赤誠会を創立す、翼賛政治会総務となる㊟「橋本欣五郎宣言」「世界再建の道」○当選一回(21)○昭和32年6月29日死去

橋本二郎　熊本県選出　国民協同党
明治37年9月生・熊本県出身・大正15年早稲田大学専門部政治経済科卒○滑石村会議員、熊本県会議員、滑石村長、玉名市長となる、また滑石村産業組合長、同農業会長、同漁業会長、熊本県産業組合専務理事、同農業会常務理事、同水産業会理事、県農地委員、協同民主党常任中央委員となる○当選一回(22)

橋本次六　石川県郡部選出　立憲政友会
嘉永5年11月生・石川県出身・漢学を修む○農業を営む、戸長、鹿島郡会議員、同参事会員、石川県会議員、中島村長、県勧業諮問会員、県地方森林会議員、七尾貿易同盟会相談役、鹿島郡蚕業組合評議員となる、また蚕業の拡張、植林事業、開墾、銀行業及び土木等に係る商事会社等を設立し経営す○当選二回(2 10)○昭和4年1月5日死去

橋本省吾　東京府第十一区選出　無所属
安政2年11月生・東京都出身○農業を営む、東京府会議員となり、東京府農工銀行創立委員、同頭取となる、また東京乾海苔株重役となる○当選一回(4)○昭和4年8月17日死去

橋本清吉　三重県第二区選出　新党同志会
明治31年8月生・三重県出身・大正11年東京帝国大学政治科卒○大阪府警部、内務属、佐賀県警視、北海道事務官、鳥取県警察部長、警視庁刑事部長、静岡県警察部長、京都府総務部長、内務省保安課長、福島県知事、内務省警保局長、岡山県知事を歴任す、また北海道帝国大学工学部講師、東洋埠頭㈱顧問、改進党中央常任委員となる○当選一回(26)○昭和30年7月2日死去

橋本善右衛門　大阪府第四区選出　大阪派
安政4年6月生・大阪府出身○戸長、村長、大阪府会議員、同常置委員、同参事会員、同議長、大阪市会議員となる○当選一回(2)○大正11年11月9日死去

橋本太吉　広島県尾道市選出　正交倶楽部
明治5年6月生・広島県出身・明治24年慶応義塾卒○尾道市会議員となる、また醸造業を営み、尾道米塩取引所理事、尾道電燈㈱社長、中外石油アスファルト、日本リンネット、東海化学工業、日本夏帽各㈱取締役、日本軽銀製造㈱監査役となる○当選四回(10 11 12 13)○昭和8年8月28日死去

橋本登美三郎　茨城県第一区選出　自由民主党
明治34年3月生・茨城県出身・昭和2年早稲田大学政経学部政治科卒○朝日新聞社入社、通信、報道、東亜各部長を歴任、のち潮来町長、衆議院電気通信委員長、湯田単作地域農業改良促進審議会長、第一次池田内閣の建設大臣、首都圏整備委員会委員長となる、また自由党副幹事長、政調会副会長、自由民主党副幹事長、地方工業開発特別委員長となる・東南アジア視察のため派遣さる○当選五回(24 25 26 27 28)

橋本平左衛門　秋田県第三区選出　無所属
安政3年4月生・秋田県出身・和漢学を修む○酒造業を営む、秋田県会議員、和田組合戸長、学務委員、村勧業委員となる、和田村会議員、河辺郡第四学区連合会議員、所得税調査委員、連合町村会議員、河辺郡会議員、同議長代理となる○当選一回(4)○大正9年10月18日死去

橋本正之　山口県第二区選出　自由民主党
大正元年12月生・山口県出身・昭和10年京城帝国大学法文学部卒○朝鮮総督府殖産局事務官、黄海道警察部長、戦時産業推進本部第二課長、内務省官房調査部業務第一課長、山口県教育部長、山口県副知事、同知事となる、また山口県漁業信用基金協会理事長、山口県農業信用協会理事長、山口県農業会長、自由民主党全国組織委員会国民生活局長、政調会国防部会副部長となる○当選一回(28)

橋本祐幸　東京府第一区選出　翼賛政治会
明治23年1月生・福岡県出身・東京帝国大学哲学科に社会学を専攻す○警視庁属、警部、警視、本所、向島、四谷各警察署長、警視庁監察官を歴任し、東京市会議員、同参事会員、東京市助役、大政翼賛会参与となる・日本万国博覧会外国参同招請委員として欧州に出張す○当選二回(19 21)○昭和19年1月27日死去

橋本雄造　長崎県長崎市選出　無所属
嘉永元年10月生・長崎県出身○多年貿易業に従事、兼ねて運輸業を営む、長崎県会議員、長崎市会議員、長崎商業会議所議員となる○当選一回(4)○大正9年10月18日死去

橋本龍伍　岡山県第二区選出　自由民主党
明治39年6月生・岡山県出身・昭和9年東京帝国大学独法科卒○大蔵属、司税官、大蔵省官房課長、内閣調査局調査官、内閣参事官、経済安定本部員を歴任、のち内閣官房次長、第三次吉田内閣の厚生大臣、行政管理庁長官、第二次岸内閣の厚生大臣、文部大臣となる、また自由党副幹事長、政調会副会長、総務、自由民主党社会保障制度特別委員長となるほか、労働科学研究所、ボーイスカウト日本連盟、日本肢体不自由児協会、藤楓協会、国立公園協会各理事、日本体育会監事、全国鯛業振興協会長、岡山県国民健康保険団体連合会理事長となる・世界諸地域を視察す○当選五回(24 25 26 27 28)○(29・昭和37年11月21日死去)

蓮井藤吉　香川県第四区選出　立憲政友会
明治5年1月生・香川県出身○農業を営む、大川郡会議員、同参事会員、香川県会議員、同参事会員、同議長、地方森林会議員となる、また香川県水産組合長、屋島登山鉄道㈱常務取締役、日本殖産㈱監査役となる○当選一回(14)○昭和16年7月9日死去

長谷 長次　石川県第一区選出　翼賛議員同盟

明治36年8月生・石川県出身・大正15年東京高等工業学校電気化学科卒○司法官試補、検事代理、東京地方兼区裁判所、札幌地方兼区裁判所各予備検事、岩見沢区裁判所検事、釧路区兼地方裁判所検事を歴任し、のち弁護士の業務に従事す・派遣軍慰問のため南支那へ派遣さる○当選一回(20)

長谷川龜一郎　愛知県第四区選出　公同会

文久3年2月生・愛知県出身○木曽川外三川四百七箇村土功会議員、愛知県会議員、丹羽郡会議員、同参事会員、県税賦課額調査委員となる、日清戦役に従軍す、製糸業、石炭販売業を営む○当選一回(4)○昭和2年3月4日死去

長谷川敬一郎　佐賀県郡部選出　無所属

弘化2年6月生・佐賀県出身○農業を営む、長崎県会議員、佐賀県会議員、同常置委員、同参事会員、同議長となる、また西海商業銀行取締役、唐津魚市場取締役、東、西松浦郡水産組合組長となる○当選一回(11)○大正7年9月28日死去

長谷川四郎　群馬県第二区選出　自由民主党

明治38年1月生・群馬県出身○群馬県議会議員、石橋内閣、第一次岸内閣の通商産業政務次官、衆議院商工委員長、第四十九回列国議会同盟会議日本議員団代表となる、また群馬県鮮魚配給統制組合専務理事、群馬県魚介配給、長谷川商事㈱社長、桐生製氷凍化工業㈱取締役、桐生市商工会議所副会頭となる、改進党代議士会副会長、日本民主党遊説局次長、自由民主党国会対策副委員長、科学技術特別委員会副委員長、副幹事長となる・議会制度視察のため欧米各国へ派遣され、また列国議会同盟春季会議(アテネ)に出席し、欧米各国を視察す○当選五回(24 25 26 27 28)

長谷川 泰　新潟県第五区選出　自由党

天保13年6月生・新潟県出身・蘭学及び医学を修む○警視庁病院長、大学東校次長、内務省衛生局長となる、済生学舎及び蘇門病院を設立しその長となる、また東京市会議員、中央衛生会委員となる○当選五回(1 2 3)○明治45年3月11日死去

長谷川 峻　宮城県第二区選出　自由民主党

明治45年4月生・宮城県出身・昭和7年早稲田大学専門部政治経済科卒○新聞連合社入社、九州日報編集長、東久邇宮内閣及び第四次吉田内閣の緒方国務大臣秘書官となる、また自由民主党東北開発特別委員会参与、広報委員会党報局長兼副委員長、基地問題専門委員会副委員長、副幹事長となる・吉田総理特使緒方竹虎氏に随行東南アジア各国を歴訪、また議会制度視察のため欧米各国へ派遣さる(著)「山座円次郎伝」○当選二回(26 28)

長谷川 保　静岡県第三区選出　日本社会党

明治36年9月生・静岡県出身・昭和4年東京神学社神学校に学ぶ○社会事業結核療養所ベテルホームを創立経営し、のち社会福祉法人聖隷保養園理事長となる、また静岡県社会福祉協議会副会長、衆議院文教委員長、日本社会党静岡県連合会長、党厚生部長、静岡県連副会長となる・東南アジア、中共、北鮮、アメリカ各国を視察、また欧米各国視察のため派遣さる○当選五回(22 25 26 27 28)

長谷川 東藏　岐阜県第二区選出　新自由党

明治37年6月生・旧名(俊一)・岐阜県出身・昭和5年東北帝国大学法律科卒○岐阜県会議員、同参事会員、同副議長、同議長、恵那市長となる、また大日本亜炭鉱業会理事長、全国亜炭産業統制組合理事、第一証券、日本陶磁器加工各(株)社長となる○当選一回(23)○昭和38年2月20日死去

長谷川豐吉　神奈川県郡部選出　無所属

嘉永5年2月生・神奈川県出身・漢学を修む○農業を営む、名主、戸長、学務委員、郡徴兵参事員、下曽我村長、同村会議員、神奈川県会議員、同常置委員、県徴兵参事員、学校組合会議員、水利組合会議員となる、また小田原通商銀行監査役、小田原電気鉄道、足柄肥料各株取締役となる○当選四回(7 9 10 11)○大正12年9月1日死去

長谷川 政友　福井県選出　民主党

明治43年11月生・福井県出身・昭和11年日本大学法文学部政治科卒○北海道庁嘱託、同農林主事となる、のち大和食品株を創設し、取締役社長となる、また福井油脂工業、帝国理化学工業、横浜油脂工業、東海汽船各株顧問、首都高速道路公団顧問となる○当選一回(23)

長谷川 宗治　埼玉県第三区選出　立憲政友会

安政3年9月生・埼玉県出身・普通学を修む○三本村戸長、御正村会議員、同助役、同村長、埼玉県会議員、同参事会員、同議長となる○当選一回(14)○昭和11年11月21日死去

長谷川芳之助　鳥取県郡部選出　無所属

安政2年12月生・東京都出身・数学、蘭学、英学を修め、開成学校に学び、のちコロンビア大学に採鉱冶金学を専攻、ドクトル・オブ・フイロソフイーの学位を受け、さらに英、仏、独各国に留学す、工学博士○さきに大阪開成学校英語教員となる、留学帰朝後三菱会社に入り高島炭坑、吉岡銅山、槇峯、尾去沢その他各鉱山、炭坑の開発、採掘、経営に参画す、退社後肥前牟田部、筑前藤棚、赤堀各炭坑を経営す、また我が国の製鉄事業の急務を主唱し製鉄事業調査委員、製鉄所創立委員、製鉄所事業調査委員となる○当選一回(7)○大正元年8月12日死去

長谷川 陸郎　宮城県第一区選出　立憲民政党

明治23年1月生・東京都出身・大正7年日本大学専門部法律科卒○弁護士の業務に従事す、仙台市会議員、宮城県会議員、同参事会員となる○当選一回(17)○昭和21年4月3日死去

長谷場 敦　東京府第十三区選出　政友本党

明治11年3月生・鹿児島県出身・明治35年東京外国語学校別科清語科卒○陸軍通訳第十二師団附となり、日露戦役に従軍す、洪谷町会議員、豊多摩郡会議員、同副議長となる、また三井物産社員、南薩鉄道㈱支配人、帝国調帯㈱専務取締役、東京文房具製造㈱取締役社長となる○当選一回(14)○昭和34年1月14日死去

長谷場 純孝　鹿児島県郡部選出　立憲政友会

安政元年4月生・鹿児島県出身・薩藩学寮に学ぶ○警視庁権少警部、少警部、鹿児島県教授、同監事となる、西南の役に従軍す、のち鹿児島県会議員、同常置委員、同県薩摩外三郡長、内務省官房長、衆議院議長、第二次西園寺内閣の文部大臣となり、再度衆議院議長となる○当選十一回(1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11)○大正3年3月15日死去

長谷部 倉藏　愛媛県郡部選出　立憲政友会

万延元年10月生・愛媛県出身・小松藩校養正館に学ぶ○波止浜町長、橘村長、小松町長、愛媛県会議員となる、また西像銀行取締役、周桑銀行監査役となる○当選一回(9)○昭和14年2月8日死去

畑 和孝　兵庫県第五区選出　昭和会

明治16年1月生・旧名(七右衛門)・兵庫県出身・明治33年県立柏原中学校卒、のち農商務省第一回産業組合講習及び第一回林野講習各修了○農業を営む、日露戦役に従軍す、春日部村長、兵庫県会

議員、同副議長、同郡部会議長、同議長となる、また兵庫県農会特別議員、多利信用購買組合長、春日部村信用組合長、黒井銀行、葛野銀行各取締役となる○当選一回(18)○昭和33年5月26日死去

畑　桃作（はた　もさく）　群馬県第二区選出　立憲政友会

明治29年7月生・群馬県出身・大正4年県立富岡中学校卒○農業を営む、群馬県会議員、同副議長となる・殖民政策研究のためブラジル、アルゼンチン及び欧米各国を視察す○当選二回(18・19)○昭和24年3月5日死去

畑　隆太郎（はた　りゅうたろう）　秋田県秋田市選出　帝国党

嘉永2年12月生・秋田県出身・秋田藩校に学ぶ○戸長となる、秋田市に講習学舎を創設し、皇漢学を講習す、また士族就産の目的を以て奉天社を創立し幹事、のち社長となり、印刷業を営む傍ら秋田日日新聞を発刊し編集長となる、また秋田中正党を組織し、のち国民協会に加盟、次いで帝国党の創立に参加し常議員となる○当選一回(7)○明治41年5月20日死去

畠山　雄三（はたけやま　ゆうぞう）　秋田県第二区選出　憲政本党

嘉永4年3月生・秋田県出身○農業、牧畜業、木材業を営む、副戸長、戸長、秋田県会議員、同副議長、同常置委員、同議長、山本郡連合町村会議員、郡会議員、県史編纂会長、地方森林会議員、勧業諮問会議員となる、また秋田魁新報社々長となる○当選二回(5・6)○昭和7年1月24日死去

畠山　重勇（はたけやま　じゅうゆう）　秋田県第一区選出　改進党

明治28年11月生・秋田県出身・大正3年県立大館中学校卒○商類商、土木建築請負業、帝国無尽(株)社長となるほか、民主党会計監督となる○当選一回(24)

畠山　鶴吉（はたけやま　つるきち）　静岡県第二区選出　自由民主党

明治28年1月生・東京都出身・明治45年神田工科学校卒○酒類商、土木建築請負業、帝国無尽(株)社長となるほか、民主党会計監督となる○当選一回(24)

秦　豊助（はた　とよすけ）　埼玉県第一区選出　立憲政友会

明治5年8月生・東京都出身・明治29年東京帝国大学政治科卒○内務属、福井、愛媛、千葉、神奈川各県参事官、長崎県事務官、秋田、徳島各県知事を歴任し、逓信次官、航空事業調査委員会委員長、国勢院参与となり、加藤(高明)内閣の海軍政務次官次いで商工政務次官、犬養内閣の拓務大臣となる、また立憲政友会総務、同幹事長、国光生命保険会社取締役となる・ベルギー国万国博覧会に列席す○当選七回(12・13・14・15・16・17・18)○昭和8年2月4日死去

端山忠左衛門（はしやまちゅうざえもん）　愛知県第七区選出　巴倶楽部

弘化2年11月生・愛知県出身○阿久比村戸長、同村会議員、愛知県会議員、同議長、南設楽郡長、愛知地方森林会議員となる、また山林会副会頭、尾三水産会評議員、愛知県沿海漁業組合頭取、知多紡績(株)専務取締役となる○当選一回(1)○大正4年9月21日死去

幡谷　仙次郎（はたや　せんじろう）　茨城県第一区選出　自由党

明治22年8月生・茨城県出身・日本大学法律科に

学ぶ○小川町長となる、また株小川繭糸市場社長、石岡地区通運株監査役、鹿島参宮通運株社長となる○当選一回(24)

八田　謹二郎（はった　きんじろう）　広島県第二区選出　中央交渉部

嘉永6年9月生・広島県出身・漢学を修む○広島県農工銀行監査役、同頭取、八田貯蓄銀行頭取となる㊟「殖林ノ手引」○当選二回(1・2)○昭和3年6月22日死去

八田　貞義（はった　さだよし）　福島県第二区選出　自由民主党

明治42年9月生・福島県出身・昭和8年日本医科大学学部卒、医学博士○東京帝大伝染病研究所技手、外務省嘱託として海外出張、東京市衛生試験所医学部長、厚生省国立衛生試験所細菌部長となり、また日本医科大学教授、明治薬科大学、昭和薬科大学各講師、自由民主党幹事、政調会社会部長、全国組織委員会文化局長、同宗教部長となる㊟「消毒と滅菌」「細菌との戦い」「食物中毒論」○当選二回(27・28)

八田　宗吉（はった　そうきち）　福島県第二区選出　立憲政友会

明治7年10月生・福島県出身・明治27年福島県尋常中学校卒○日露戦役に従軍し、陸軍歩兵大尉となる、日橋村長、河沼郡会議員、同参事会員、県河川道路調査会員、県地方森林会議員、田中内閣の陸軍参与官となる、また日本化学工業㈱取締役、福島県農工銀行、会津電力各㈱監査役、帝国馬匹協会副会頭、帝国農会特別議員、会津育英会理事、立憲政友会総務となる・第十五回万国議院商事会議に参列す○当選八回(13・14・15・16・17・18・19)○昭和18年1月16日死去

八田　裕二郎（はった　ゆうじろう）　福井県福井市選出　憲政会

嘉永2年11月生・東京都出身・藩校明道館に学び海軍兵学寮に入り、のち英国に留学、明治11年グリニッチ海軍大学卒○海軍大尉より海軍大佐に累進す、その間東伏見宮附武官兼英国公使館及び仏国公使館附武官となる、のち育英事業及び船舶事業に従事す○当選二回(11・12)○昭和5年1月23日死去

廿日出　庖（はつかで　ひろし）　静岡県選出　民主党

明治34年4月生・広島県出身・昭和4年東北帝国大学宗教哲学科卒○内務省、鉄道省各嘱託となる、私立遠江商業学校長、静岡県興誠商業学校理事長兼校長、興誠航空工業学校長、興誠学園理事長兼興誠中学校長となる○当選一回(22)○昭和22年10月19日死去

初見　八郎（はつみ　はちろう）　茨城県那部選出　憲政会

文久元年3月生・茨城県出身・漢学及び仏蘭西学を修む○新聞記者となる、また各種会社の重役となる○当選四回(3・6・7・12)○昭和5年5月31日死去

服部　綾雄（はっとり　あやお）　岡山県岡山市選出　立憲国民党

文久2年12月生・静岡県出身・漢学、英学を修め、東京築地大学校卒、のち米国に留学、プリストン大学卒、同大学研究科に倫理、論理、心理学を専攻す○県立富山尋常中学校教諭心得、同校長、県立岡山尋常中学校長となり、のち渡米、シアトル市古屋商店顧問、在留日本人会長となる、帰朝後私立金川中学校長となる○当選一回(10)○大正3年4月1日死去

服部　岩吉（はっとり　いわきち）　滋賀県選出　日本自由党

明治18年11月生・滋賀県出身○農業、酒造業を営む、金勝村助役、同村長、同村会議員、滋賀県会議員となり、第一次吉田内閣の厚生政務次官、滋賀県知事となる、また栗田郡農会長、自治会長、滋賀県町村長会々長、全国町村長会理事、滋賀県畜産組合、同森林組合各連合会長、大津酒造組合理事長、日本畜産協会理事、日本自由党代議士会

副会長となる・派遣軍慰問のため北、中支那に派遣さる○当選四回(18 19 20 22)

服部英明（はっとりえいめい）　愛知県第二区選出　翼賛議員同盟

明治12年3月生・愛知県出身・明治40年東京帝国大学独法科卒○弁護士の業務に従事す、東京第一弁護士会評議員、麻布獣医畜産学校及び麻布獣医専門学校理事、同教授となり、中外製紙、中外製菓各株取締役、大日本生糸興業株監査役、東京瓦斯株外数会社の法律顧問となる・派遣軍慰問のため満州国へ派遣さる○当選四回(15 17 19 20)○昭和27年12月31日死去

服部教一（はっとりきょういち）　奈良県選出　立憲民政党

明治5年7月生・奈良県出身・明治32年東京高等師範学校卒、のち教育行政研究のため欧米各国に留学す○小学校訓導、師範学校教諭、陸軍教授となり、文部属、文部省視学官兼書記官、鹿児島県、高知県、北海道庁各内務部長を歴任す、のち北海道拓殖鉄道株を創立し社長となり、また日本植民学校、北海道高等専修学校、北海道高等予備学校、札幌法律学校を設立し、各校長となる○当選二回(17 19)○昭和31年6月21日死去

服部小十郎（はっとりこじゅうろう）　愛知県名古屋市選出　大同倶楽部

万延元年3月生・愛知県出身・漢学を修む○木材商を営む、愛知県会議員、名古屋市会議員、同議長、所得税調査委員となる、また名古屋商工会議所議員、第四十六国立銀行、愛知実業銀行、愛知セメント、名古屋倉庫、名古屋電気鉄道、日本車輛製造、愛知材木、明治銀行、豊川鉄道各株取締役、愛知県燐寸(株)専務取締役、名古屋生命保険、名古屋株式取引所、大阪材木各株監査役、名古屋商品取引所理事となる○当選三回(7 8 9)○明治44年4月8日死去

服部崎市（はっとりさきいち）　愛知県第一区選出　民主党

明治32年5月生・愛知県出身○米穀商を営む、名古屋市会議員、愛知県会議員、同副議長となる、また愛知水泳協会会長、愛知県体育協会、名古屋体育協会各理事、愛知県青年雄弁総連盟理事長、愛知県米穀商業組合連合会顧問、全国米穀商組合連合会幹事となる・派遣軍慰問のため北支那へ派遣さる○当選三回(19 20 23)○昭和22年6月2日死去

服部安司（はっとりやすし）　奈良県選出　自由民主党

大正4年7月生・奈良県出身・昭和35年中央商科大学卒○上牧村長、奈良県議会議員、同副議長、同議長となる、また日本特殊工業、日本繊維産業、南部繊維産業各株取締役社長、社会福祉法人チルドレンズ・ハウス理事となり、民主党奈良県支部青年部長、民主自由党奈良県支部副幹事長、自由民主党奈良県支部幹事長、同党本部幹事長、全国組織委員会官公労働部長、総務局次長となる・社会福祉事業調査研究のため渡米、また東南アジア各国視察のため派遣さる○当選一回(28)

服部米次郎（はっとりよねじろう）　三重県第二区選出　立憲政友会

明治3年12月生・三重県出身・明治27年陸軍士官学校、同31年陸軍砲工学校普通科及び高等科卒○陸軍砲兵少尉より同少佐に累進、その間日清、日露の戦役に従軍す、のち陸軍憲兵少佐に転じ、同大佐に累進、その間韓国統監府警務部長、朝鮮総督府警務部長を歴任す、退官後農業を営み、高茶屋村長、三重県会議員となる、また高茶屋村農会長、同耕地整理組合長、同産業組合長、帝国在郷軍人会評議員となる○当選一回(19)

鳩山一郎（はとやまいちろう）　東京都第一区選出　自由民主党

明治16年1月生・東京都出身・明治40年東京帝国大学英法科卒○弁護士、東京市会議員、同副議長、同議長、田中内閣の内閣書記官長、大礼使次官、

犬養内閣の文部大臣、次いで斎藤内閣に留任、三度内閣総理大臣となる、また立憲政友会幹事長、総裁代行委員、日本自由党総裁、日本民主党総裁、自由民主党総裁となる・第三十三回列国議会同盟会議(パリ)に参列す、ソ連邦との国交正常化交渉の全権委員として同国に出張す・永年在職議員として院議表彰さる○当選十五回(12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 25 26 27 28)○昭和34年3月7日死去

鳩山和夫（はとやまかずお）　東京府東京市選出　立憲政友会

安政3年4月生・東京都出身・明治8年東京開成学校卒、文部省より法学修業のため米国に留学、コロンビア大学に学び、さらにエール大学に入り法学博士の学位を受け、のち同校より法律大博士の学位を授けらる、法学博士○弁護士の業務に従事す、東京大学講師、外務権大書記官、外務省取調局長、参事院員外議官補、外務省翻訳局長、法科大学教授、同教頭、帝国大学評議官、法典調査会主査委員、鉄道会議議員、衆議院議長となり、外務次官となる、また東京専門学校長、早稲田大学校長となる○当選九回(2 3 4 5 6 7 8 9 10)○明治44年10月4日死去

鳩山秀夫（はとやまひでお）　千葉県第二区選出　立憲政友会

明治17年2月生・東京都出身・明治41年東京帝国大学独法科卒、のち民法研究のため独、仏各国へ留学す、法学博士○東京帝国大学法科大学講師、同助教授、同教授、臨時法制審議会幹事、平和条約実施委員となる、のち弁護士の業務に従事す、東京帝国大学経済学部講師となる・第二回、第三回国際連盟総会(ジュネーブ)に帝国代表者随員として、ゼノア経済財政会議の全権委員随員として、またヘーグ会議の帝国政府専門委員として出席す㊒「日本民法総論」「日本債権法総論・同各論」「民法研究総則・同物権・同債権総論・同債権各論」「民事判例研究」○当選一回(18)○昭和21年1月29日死去

花井卓蔵（はないたくぞう）　広島県郡部選出　正交倶楽部

明治元年6月生・東京都出身・明治21年英吉利法律学校卒、同31年東京法学院高等法学科卒、法学博士○代言人となり、次いで弁護士の業務に従事す、雑誌法理精華及び法学新報主筆、刑事法林主幹、日本弁護士協会理事、編集主事、東京弁護士会常議員、同議長、同会長、中央大学講師となる、また法律取調委員、同主査並びに起草委員、教育調査会員、陸軍省及び海軍省軍法会議法調査委員、衆議院副議長、臨時法制審議会副総裁となる㊒「刑法綜覧」「刑法俗論」「人生ト犯罪」「非常国際法論」「訟庭論草」○当選七回(6 7 9 10 11 12 13)・(貴)勅選○昭和6年12月3日死去

花岡次郎（はなおかじろう）　長野県第三区選出　立憲政友会

明治3年9月生・長野県出身・明治23年東京専門学校政治科卒○上水内郡会議員、同議長、長野県会議員、同参事会員、同議長、長野商業会議所特別議員、千曲川治水会長となる、また信濃毎日新聞社、長野電燈各株社長、東信電気、信濃銀行、大阪陶業、東亜電気黒鉛、北信鉄道、長野瓦斯各(株)取締役となる○当選一回(14)○大正12年9月23日死去

花木甚右衛門（はなきじんえもん）　兵庫県第二区選出　自由党

天保5年6月生・兵庫県出身・漢学を修む○酒造業を営む、戸長、村会議員、学務委員、兵庫県会議員となる○当選一回(4)○明治35年1月28日死去

花城永渡（はなしろえいと）　沖縄県選出　立憲政友会

明治11年9月生・沖縄県出身・明治39年日本大学高等師範科、同40年同大学専門部法律科卒○小学校訓導、小学校長、会計検査院属となり、判検事登用試験に合格し司法官試補となる、のち弁護士の業務に従事し、破産管財人、那覇市会議員、同議長、陪審法施行準備に関する事務嘱託となる、

また那覇弁護士会長、沖縄産業株取締役となる○当選四回(14 16 18 19)○昭和13年2月1日死去

花村覺三郎　岐阜県郡部選出　立憲政友会
慶応3年4月生・岐阜県出身・普通学を修む○農業を営む、岐阜県会議員、相続税審査委員、所得税調査委員となる○当選一回(10)○昭和27年4月8日死去

花村四郎　東京都第四区選出　自由民主党
明治24年8月生・長野県出身・大正6年日本大学法律科卒○弁護士の業務に従事す、東京市会議員、同府会議員、第一次吉田内閣の文部参与官、両院法規委員長、衆議院法務委員長、第一次及び第二次鳩山内閣の法務大臣となる、また日本大学評議員、同理事、東京弁護士会副会長、日本弁護士協会理事、万朝報専務取締役兼主筆、日本商科大学、高千穂商科大学各講師、千葉商科大学講師兼顧問、新東京自動車(株)取締役会長となる、民主自由党総務、自由党議員総会長、日本自由党司法委員長、日本民主党総務、自由民主党相談役となる・欧米各国を視察す(著)「陪審法通義」「伯林に使して」「最近の欧米を巡りて」○当選七回(21 22 23 24 25 26 27)

濱口雄幸(おさち)　高知県第一区選出　立憲民政党
明治3年4月生・高知県出身・明治28年東京帝国大学政治科卒○大蔵属、山形県収税長、司税官、大蔵書記官兼参事官、松山、熊本各税務管理局長、東京税務監督局長、煙草専売局書記官、同部長、専売局長官、逓信次官、大蔵次官、大喪使事務官、大礼使参与官を歴任し、大蔵省参政官、加藤(高明)内閣の大蔵大臣、第一次若槻内閣の大蔵大臣次いで内務大臣となり、内閣総理大臣となる、また憲政会総務、立憲民政党総裁となる○当選六回(12 13補 14 15 16 17)○昭和6年8月26日死去

濱田儀一郎　兵庫県第十区選出　自由党
天保13年2月生・兵庫県出身・漢学、数学及び剣、槍、柔、砲、弓、馬の諸術を修む○公立洲本中学校学務委員、兵庫県会議員、同常置委員、同副議長となる○当選一回(4)○大正3年5月16日死去

濱田國松　三重県第二区選出　立憲政友会
明治元年3月生・三重県出身・明治17年三重県師範学校、同24年東京法学院卒○小学校訓導となる、のち弁護士の業務に従事し、町会議員、郡会議員、宇治山田市会議員、同議長、衆議院副議長、

濱口吉右衛門　和歌山県第一区選出　無所属
文久2年5月生・東京都出身・慶応義塾に学ぶ○醤油醸造業、植林事業を営む、富士瓦斯紡績株式会社取締役会長、豊国銀行頭取、同相談役、朝鮮銀行監事、濱口(名代表社員、九州水力電気、高砂製糖各株社長、猪苗代水力電気(株)取締役、東洋拓殖(株)設立委員、済生会評議員となる○当選三回(4補 5 6)・(貴)多額○大正2年12月11日死去

濱口吉兵衛　千葉県第五区選出　立憲政友会
明治元年7月生・千葉県出身・東京帝国大学法科大学に学ぶ○陸軍歩兵中尉となる、日本橋区会議員、所得税調査委員、銚子町在郷軍人分会長となる、また濱口(名理事、銚子醤油(株)取締役社長、武総銀行取締役、第一生命保険互、豊国銀行、利根織物各株監査役となる○当選二回(14 15)○昭和15年10月4日死去

濱口擔　和歌山県郡部選出　無所属
明治5年6月生・和歌山県出身・明治24年慶応義塾、同27年東京専門学校英語政治科卒、のち英国に留学し、明治35年ケンブリッジ大学卒○豊国銀行文書部長、同取締役、麒麟麦酒会社監査役、武総銀行取締役、猪苗代水力電気(株)営業部長となる○当選一回(9)○昭和14年10月2日死去

濱岡光哲　京都府京都市選出　無所属
嘉永6年5月生・京都府出身・漢学及びドイツ語学を修む○叡麓学舎を設立し育英事業に従事、のち実業界に入り、京都府会議員、同区部会副議長、農商工高等会議員となる、また京都日出新聞、京都電気鉄道、朝鮮無煙炭鉱、京都火災各株社長、京都織物、京都倉庫、関西鉄道、京都陶器、京都商業銀行頭取、京都商業会議所会頭、京都実業協会長、発明協会長、日本商工会議所顧問、日本大博覧会、万国博覧会、第四回勧業博覧会各評議員、戦後発展全国工業博覧会長、日本経済連盟常務理事となる○当選三回(10補 11)○昭和11年12月6日死去

濱田精藏　鹿児島県第七区選出　立憲政友会
明治13年12月生・鹿児島県出身・明治38年慶応義塾大学政治科卒○時事新報記者、同ロンドン特派員、千代田生命保険会社社員となり、福岡市会議員、同議長となる、また博多商業会議所副会頭、諏訪炭礦(株)専務取締役、西部合同瓦斯会社々長、福岡印刷、日本水電各(株)取締役となる(著)支那大観○当選一回(15)○大正15年9月8日死去

濱田幸雄　高知県選出　自由民主党
明治31年8月生・高知県出身・大正11年東京帝国大学政治科卒○専売局副参事、同参事、大蔵事務官、同書記官、広島税務監督局長、専売局塩脳部長、大蔵省営繕管財局長、専売局長官を歴任し、南満州鉄道(株)理事、更生事業推進中央会副会長、日本樟脳協会長、東北興業(株)総裁、樟脳組合中央会長、土佐育英協会常務理事となる、また自由党副幹事長、自由民主党総務、政調会副会長となる○当選三回(25 26 28)

濱田尚友　鹿児島県第二区選出　無所属倶楽部
明治42年6月生・鹿児島県出身・昭和7年早稲田大学政治経済学部政治科卒○東京日日新聞社社会部、政治部記者となり、満州、北支那方面に特派さる、厚生大臣秘書官、文部省委員、国分市議会議員、同議長、同社会教育委員長となる、また興亜武道具製作会社並びに販売会社取締役、エー・エル・シー(株)副社長となる○当選二回(21 21再)

濱田正信　高知県選出　自由民主党
明治36年6月生・高知県出身・昭和6年京都帝国大学法律科卒○京都市役所勤務ののち(株)涌川製鋼所に入社、取締役支配人、専務取締役を経て取締役社長となる、また白洋産業株取締役社長、白洋汽船、南海興業各(株)取締役、高知県造船(株)取締役会長、日本鉄鋼連盟理事、日本経営者団体連盟理事、自由民主党同和対策特別委員会副委員長となる・欧米各国を視察す○当選一回(28)

濱田政壯　宮崎県選出　無所属
元治元年10月生・宮崎県出身・明治17年鹿児島県立医学校、同29年伝染病研究所講習科卒○宮崎町に医師を開業す、宮崎県薬舗試験委員、同県連合

医会議長、地方衛生会委員、宮崎県臨時検疫部検疫官、宮崎町会議員、宮崎県会議員、同議長となる、また日本赤十字社準備医員となり日露戦役に従軍、営口軍政署医官となる、のち宮崎県医学会長、同医師会長、日本赤十字社宮崎支部看護婦養成所教頭となる○当選一回(1)○昭和12年3月2日死去

濱地文平　三重県第二区選出　自由民主党
明治26年2月生・三重県出身・大正3年三重県師範学校卒○吉津村長、大湊町長、三重県会議員、農林省、農商省各委員、第一次鳩山内閣の運輸政務次官、衆議院地方行政委員長となる、また三重県水産業会長、全国水産業会副会長、日本漁船保険組合長、日本鰹鮪漁業組合連合会長、日本鰹鮪漁業者協会長、自由民主党総務、県支部連合会長となる・第四十五回列国議会同盟会議(バンコック)に参列、欧米各国を視察、訪伯豪親善使節議員団員として派遣さる、またMRA大会出席のため渡米す◉歌集「つゆ草」、「欧米をめぐりて日本の姿を探る」○当選六回(20 21 25 26 27 28)

濱名信平　茨城県郡部選出　無所属
安政2年10月生・茨城県出身・漢学を修む○農業を営む、茨城県会議員、同常置委員、同副議長、同議長となる、また日英博覧会評議員となる○当選九回(3 4 5 6 7 8 9 10 11)○大正5年1月29日死去

濱野茂　東京府第十区選出　無所属
嘉永5年4月生・東京都出身○太政官に奉職す、代言人となる、のち投機事業に従事す○当選一回(4)○大正3年9月28日死去

濱野清吾　東京都第五区選出　自由民主党
明治31年4月生・東京都出身・中央大学法学部英法科に学ぶ○北豊島郡岩渕町会議員、同議長、東京府会議員、東京市会議員、第二次岸内閣の行政管理政務次官となる、また日東タイヤ㈱監査役、全国通運業連合会々長、全国通運業連盟副会長、関東通運業連絡会長、東京トラック協会長、王子運送㈱取締役社長、日本民主党総務局次長、自由民主党組織局次長、宣伝局次長、国会対策副委員長、政調会行政調査会副会長となる・中国、米国、東南アジアを視察す○当選三回(21 27 28)

濱野徹太郎　兵庫県第一区選出　日本進歩党
明治18年7月生・兵庫県出身・大正5年中央大学専門部法律科卒○多年小学校訓導となり、のち弁護士試験に合格し、弁護士の業務に従事す、平沼内閣の司法参与官、司法省委員、鈴木内閣の司法政務次官となる、また神戸弁護士会長となる○当選五回(17 18 19 20 21)

濱野昇　千葉県選出　無所属
安政元年10月生・千葉県出身・明治9年東京大学医学科卒○陸軍々医副、近衛歩兵第一聯隊附医官心得、西南の役征討軍団病院附兼務となり、のち鹿児島県医学校長兼附属病院長、地方衛生会委員、大日本私立衛生会地方幹事、千葉県郡部医会々頭、千葉県医会々頭、台湾総督府嘱託、千葉県佐倉町私立済生病院長となる、また千葉県会議員、同常置委員、佐倉町会議員、同議長となる○当選二回(18)○大正9年2月22日死去

濱本義顯　鳥取県鳥取市選出　立憲政友会
安政5年9月生・鳥取県出身・大阪師範学校卒○大蔵属、逓信属、警視庁属、北海道支庁長を歴任す、また東京商業会議所議員、日本耐火煉瓦㈱社長、日清紡績、日本製糖、日本台湾茶、東京宝石、日本煉炭、城戸炭礦、満州製粉各㈱取締役、横浜電気鉄道㈱監査役となる○当選二回(11 12)○大正8年8月29日死去

早川權彌　長野県第五区選出　自由党
文久元年6月生・長野県出身・長野県師範学校に学ぶ○前山村長、長野県会議員、南佐久郡会議員、同議長となる○当選一回(5)○大正11年8月8日死去

早川崇　和歌山県第二区選出　自由民主党
大正5年8月生・和歌山県出身・昭和16年東京帝国大学政治科卒○厚生属、内務事務官となり、のち紀州民報社々長、夕刊みやこ新聞社副社長、七洋水産㈱社長となる、第三次鳩山内閣の自治政務次官、衆議院大蔵委員長となる、また国民民主党副幹事長、改進党政策委員会副委員長、日本民主党総務、自由民主党全国組織委員会副委員長、青年局長、総務、政調会選挙調査会副会長となる○当選六回(22 23 24 25 27 28)

早川鐵治　長崎県対馬選出　立憲同志会
文久3年5月生・東京都出身・明治17年札幌農学校卒、のち米国ハステング法律学校及びベルリン大学に学ぶ○外務省御用掛、外務書記生、交際官試補、農商務大臣秘書官、大臣官房秘書課長、農商務省参事官、同省文書課長、外務書記官、弁理公使、内閣書記官、外務省政務局長を歴任す、のち日本倉庫、日本防腐木材、日本硫安肥料各㈱社長となる、また特許弁理士の業務に従事す○当選一回(11)○昭和16年6月5日死去

早川龍介　愛知県第十区選出　憲政会
嘉永6年8月生・愛知県出身・英、漢学を修む○戸長、村会議員、郡会議員、愛知県会議員、同常置委員、同副議長、同郡部会副議長となる、また愛知農工銀行、北海道拓殖銀行各創立委員、博覧会評議員、信参鉄道会社取締役、尾三農工銀行監査役、多治見鉱泉土地㈱社長となる○当選十回(1 2 4 6 7 8 10 11 12 14)○昭和8年9月22日死去

早川六三郎　岐阜県郡部選出　立憲政友会
明治3年10月生・岐阜県出身○農業を営む、南武芸村会議員、学務委員、武儀郡会議員、同参事会員となる、また美濃銀行、美濃電気軌道㈱各取締役、八幡産業会社重役となる○当選一回(11)○昭和21年4月21日死去

早速整爾　広島県第一区選出　憲政会
明治元年10月生・広島県出身・明治19年東京専門学校政治経済科及び英語科、同37年東京法学院高等法学科卒○埼玉英和学校長代理、博文館編集員となり、のち芸備日日新聞を発刊、傍ら印刷業等を営む、広島市会議員、同議長、広島県会議員、同副議長となり、海軍省参政官、衆議院副議長、鉄道次官、加藤(高明)内閣の大蔵政務次官、農林大臣、第一次若槻内閣の農林大臣、大蔵大臣となる、また広島商業会議所会頭、憲政会総務、芸備日日新聞社、山口瓦斯各㈱社長、広島電気軌道、日清燐寸各㈱取締役となる○当選八回(7 9 10 補 11 12 13 14 15)○大正15年9月14日死去

速水熊太郎　三重県郡部選出　無所属
慶応元年5月生・三重県出身・普通学を修む○林業を営む、戸長、引本浦区会議員、引本町会議員、北牟婁郡参事会員、三重県会議員となる、また紀北商業銀行頭取、三重県農工銀行監査役となる○当選二回(8 9)○明治37年10月20日死去

林毅陸　香川県第三区選出　立憲政友会
明治5年5月生・香川県出身・明治28年慶応義塾大学部文学科卒、のち欧州に留学、主としてフランスにおいて外交史を研究す、法学博士○慶応義塾教員となり大学部政治科主任教授となる、傍ら東京高等商業学校講師及び日本新聞記者となる、のち外務省勅任参事官、慶応義塾長並びに同大学総長、帝国学士院会員となる・第五回万国議院商事会議(ベルギー)及びワシントン軍縮会議に参列

す○当選四回(11 12 13 14)○昭和25年12月17日死去

林　儀作（はやし　ぎさく）　北海道第三区選出　立憲政友会
明治16年2月生・北海道出身○北海新聞、函館新聞各編集長を経て函館日日新聞社理事、同主筆となり、函館市保導委員、北海道会議員、同参事会員、函館市会議員、函館市方面委員となる、また東洋印刷会社々長、財団法人函館共働宿泊所理事長、私立函館東部職業紹介所長となる○当選一回(18)○昭和10年1月20日死去

林　謙三（はやし　けんぞう）　東京府東京市選出　憲政本党
明治2年10月生・東京都出身・明治30年東京帝国大学仏法科卒○判事となる、のち弁護士の業務に従事す、芝区会議員となる○当選一回(9補)

林　元俊（はやし　げんしゅん）　鹿児島県第七区選出　立憲政友会
万延元年2月生・鹿児島県出身・漢学、数学を修む○学事委員、大島郡山村外五村戸長となる、また大阪第七十九国立銀行取締役、同大島支店主任、鹿児島県農工銀行設立委員、大島興業株社長となる○当選一回(6)○明治37年10月31日死去

林　小一郎（はやし　こいちろう）　岐阜県郡部選出　立憲政友会
嘉永6年4月生・岐阜県出身・漢学を修む○農業を営む、岐阜県会議員、同常置委員となる、また地方産業の発達、鉄道の敷設等に尽す○当選二回(19)○大正15年8月10日死去

林　小参（はやし　こさん）　愛知県郡部選出　立憲政友会
文久3年1月生・愛知県出身・皇漢学を修む○農業を営む、学務委員、勧業委員、和爾良村会議員、連合村会議員、愛知県教育会商議員、愛知県育児院幹事、郡徴兵参事員、東春日井郡会議員、同参事会員、愛知県会議員となる、また小牧銀行取締役となる○当選三回(7 8 9)○大正10年11月21日死去

林　好次（はやし　こうじ）　北海道第五区選出　改進党
明治28年10月生・北海道出身○網走町会議員、北海道会議員となる、また網走漁業会長、北海道水産業会理事、林屋商会、北見綜合木材各株取締役、網走水産冷蔵各株取締役社長となる、また網走商工会議所会頭、北海道商工会議所連合会監事、民主党会計監督となる○当選一回(24)○昭和34年12月4日死去

林　興一郎（はやし　こういちろう）　広島県選出　国民協同党
明治32年3月生・広島県出身・大正8年県立忠海中学校卒○広島県会議員、同県議会議員、同議長となる、また広島県水産会長、同漁業組合連合会長、瀬戸内海水産連合会理事長、中央水産業会理事、中国五県水産連合会理事長、倉橋島漁業会長、国民協同党代議士会副会長、亀屋紙工、亀屋各株社長となる○当選一回(22)

林　七六（はやし　しちろく）　長野県第三区選出　立憲政友会
明治8年9月生・長野県出身・明治23年岡谷学校中等科卒○諏訪郡会議員、同参事会員、平野村会議員、長野県会議員、営業所得税調査委員、商事調停委員となる、また醸造業を営み、諏訪郡醤油醸造組合長、信濃海外協会評議員、岡谷連合商業会長、岡谷醸造資代表社員、岡谷倉庫、南信日日新聞社、諏訪郡醸造研究、長野石油販売各(株)社長、伊那電気鉄道(株)監査役、信州電気(株)取締役となる○当選一回(17)・(貴)(多額)○昭和25年2月9日死去

林　譲治（はやし　じょうじ）　高知県選出　自由民主党
明治22年3月生・高知県出身・大正7年京都帝国大学独法科卒○宿毛町長、高知県会議員、文部大臣秘書官、平沼内閣の農林参与官、第一次吉田内閣の内閣書記官長、第二次吉田内閣の厚生大臣(副総理)、第三次吉田内閣の厚生大臣、国務大臣(副総理)、衆議院議長、皇室会議、皇室経済会議各議員となる、また日本自由党総務、民主自由党顧問、自由党幹事長、総務、常任顧問、自由民主党顧問となる・第三十三回列国議会同盟会議(パリ)に参列し、欧米各国を視察す・永年在職議員として院議表彰さる○当選十一回(17 18 19 20 22 23 24 25 26 27 28)○昭和35年4月5日死去

林　仙輔（はやし　せんすけ）　山口県郡部選出　立憲政友会
文久3年8月生・山口県出身・普通学及び漢学を修む○村会議員、学務委員、村長、所得税調査委員、山口県会議員、同参事会員、地方衛生会委員となる、また防長同業組合会議員、防長農工銀行、宇部銀行、福川銀行、宇部電気、宇部鉄道各株取締役となる○当選一回(7)○昭和10年1月30日死去

林　大作（はやし　だいさく）　愛知県第五区選出　日本社会党
明治38年1月生・愛知県出身・昭和3年東京帝国大学政治科卒○三井物産株ボンベイ、ニューヨーク各支店勤務、商工省嘱託、重要物資管理営団企画課長、交易営団上海連絡部次長、同営団総務部次長となる、のち弁護士の業務に従事し、自転車振興会連合会長、後楽園スタヂアム、甲子園土地企業各株取締役、宝サービス株社長となる、また日本社会党渉外部次長となる(著)「印度の土と人」「交易営団への理論と実践」「生活協同組合の活用」○当選一回(23)

林　喬（はやし　たかし）　香川県第二区選出　立憲政友会
元治元年1月生・香川県出身・皇漢学及び数学を修む○学務委員、戸長、志度村会議員、同村長、香川県会議員、同常置委員、寒川郡会議員となり、所得税調査委員、地方衛生会委員、県徴兵参事員となる、また香川県各郡連合漁業組合議長、同遠洋漁業組合議長、大日本水産会員、東讃銀行取締役、志度郵便局長、香川県三等郵便局会長となる○当選三回(3 5 6)○昭和19年2月10日死去

林　唯義（はやし　ただよし）　北海道第二区選出　自由民主党
明治35年3月生・東京都出身・日本大学専門部政治科に学ぶ○東京都嘱託、内閣委員となる、また台湾電力、大阪窯業セメント、原商船各株顧問、大政翼賛会役員及び翼賛政治会理事、自由民主党出版局普及部長、同党幹事となる・中国を視察す○当選二回(27 28)

林　爲艮（はやし　ためよし）　鹿児島県大島選出　立憲政友会
明治17年1月生・鹿児島県出身・明治42年早稲田大学商科卒○農業を営む、所得税調査委員、相続税審査委員となる、また大島郡電気(株)取締役となる○当選一回(13)○昭和8年6月22日死去

林　虎雄（はやし　とらお）　長野県選出　日本社会党
明治35年7月生・長野県出身○上諏訪町会議員、長野県会議員、上諏訪町助役、諏訪市助役、三度長野県知事となる、また旅館業を営み、諏訪旅館施設組合理事長、国立公園協会監事、長野県開拓協会、同緑化連盟、信濃海外協会各会長、日本社会党中央委員、同党長野県支部連合会顧問となる○当選一回(22)

林　永太（はやし　ながた）　山口県郡部選出　立憲政友会
明治6年5月生・山口県出身・明治28年日本法律学校卒○村会議員、郡会議員、山口県会議員、同参事会員、同副議長となる、また周防銀行取締役、周陽銀行頭取、記念肥料株取締役、柳井瓦斯株監査役となる○当選一回(11)○大正7年4月27日死去

林　信雄（はやし　のぶお）　福岡県第四区選出　自由党
明治32年5月生・福岡県出身・大正9年明治大学法律科卒○弁護士の業務に従事す、福岡県会議員、司法省委員、小倉市長となる、また日本弁護士連合会理事となる○当選二回(21 26)

林　彦一（はやし　ひこいち）　福井県第一区選出　立憲政友会
文久3年9月生・福井県出身・漢学を修む、農務

局蚕業試験場において桑蚕の改良について研究習得す○農業を営む、連合村会議員、戸長、県勧業諮問会員、富田村会議員、同村長、大野郡会議員、同参事会員、福井県会議員、同参事会員となる、また開墾奨励のため資本立社を創設、副社長となるほか、県蚕糸業組合議長、同組合取締所頭取兼検査長、県蚕糸会々頭、郡農会長となる○当選二回(56)○大正12年10月22日死去

林 百郎(はやし ひゃくろう) 長野県第三区選出 日本共産党

明治45年6月生・長野県出身・昭和16年中央大学法学部卒○弁護士の業務に従事す、(株)小口工作所監査役、全国借地借家組合副執行委員長となる○当選二回(23 24)

林 博(はやし ひろし) 東京都第六区選出 自由民主党

大正6年7月生・東京都出身・昭和16年東京帝国大学法律科卒○司法官試補、横浜、東京各地方検察庁検事、経済安定本部経済査察官を歴任、のち弁護士の業務に従事す、また日本民主党情宣局次長、政調会防衛副部長、自由民主党幹事、労働組織局中小企業労働部長、出版局普及部長となる○当選一回(27)

林 平四郎(はやし へいしろう) 山口県下関市選出 新政会

安政4年11月生・山口県出身・漢学を修む○奥小路町会議員、下関市会議員、同参事会員、山口県会議員となり、徴兵参事会員、所得税調査委員、破産管財人、田中町郵便局長心得となる、また醤油醸造業等を営み、下関商業会議所議員、同会頭、関西汽船、朝鮮勧農各(株)取締役、長州鉄道、下関米取引、山陽電気軌道、下関倉庫、下関瓦斯各(株)社長となる○当選二回(12 13)・(貴三多額)○昭和16年12月11日死去

林 平馬(はやし へいま) 福島県第二区選出 民主党

明治16年11月生・福島県出身・明治40年日本体育会体操学校卒、のち日本大学法律科に学ぶ○小学校訓導となり、のち京城陶器(株)専務取締役、財団法人協調会参事、同修養団理事となる、平沼内閣の鉄道参与官、片山内閣の国務大臣となる、また国民協同党中央常任委員、民主党顧問となる・第三十三回列国議会同盟会議(パリ)に参列す(著)「大国民読本」「天皇制と輿論」「再軍備は是か非か」○当選八回(16 17 18 19 20 22 23)

林 正男(はやし まさお) 愛知県第一区選出 日本進歩党

明治13年6月生・愛知県出身・明治37年海軍機関学校卒○海軍機関少尉より海軍少将に累進、その間横須賀海軍航空隊教官、同機関長、霞ケ浦海軍航空隊機関長兼教官、海軍航空本部造兵監督官、海軍艦政本部造兵監督官、海軍軍令部出仕を歴補す、のち大同製鋼、岡本工業、高野精密工業各(株)顧問、名古屋螺子製作所、中央発条製作所、柴田鉄工所各顧問、(株)太洋製作所社長となる○当選一回(21)

林 有造(はやし ゆうぞう) 千葉県選出 無所属

天保13年8月生・高知県出身○戊辰の役に従軍すのち渡英政治経済等を視察帰朝後、高知藩参事となり、再度渡欧帰国後外務省出仕となる、のち立志社を設立、自由民権運動に従事、次いで愛国公党の創立に参加す、第一次大隈内閣の逓信大臣、第四次伊藤内閣の農商務大臣となる、また憲政会総務委員、立憲政友会総務委員、予土水産(株)監査役となる○当選八回(12補 3 4 5 7 8 9)○大正10年12月29日死去

林 連(はやし れん) 東京都第六区選出 民主党

明治14年4月生・東京都出身・明治43年明治大学法律科卒○弁護士の業務に従事す、東京府会議員、東京市会議員、同副議長、東京都議会議員、同副議長となり、第一次吉田内閣の内務政務次官となる、また南千住信用組合理事長、日本進歩党副幹事長、代議士会長となる○当選二回(22 23)○昭和25年3月26日死去

林 路一(はやし ろいち) 北海道第二区選出 第一議員倶楽部

明治23年8月生・北海道出身○北海道当麻村長、上川外四郡農会副会長、北海道会議員、同参事会員となり、廣田内閣の拓務参与官となる、また台湾拓殖(株)設立委員、旭川市街軌道(株)監査役となる○当選四回(16 18 19 20)○昭和13年6月27日死去

林 佳介(はやし すけ) 山口県第一区選出 日本進歩党

明治33年7月生・山口県出身・大正13年東京帝国大学英法科卒○陸軍歩兵中尉となり、支那事変に従軍す、山口県菜種油製造工業組合理事長、下関商工会議所副会頭、山口県商工業組合下関支所長となる、日本油料統制(株)参与、山口県醤油統制、下関精密工業各(株)取締役、山陽電気軌道、下関倉庫、下関観光、大津屋、下関瓦斯各(株)社長、百十銀行監査役となる、また鉄道省委員となる○当選一回(21)

林 和一 東京府第十区選出 立憲改進党

天保9年12月生・東京都出身○弁護士となり、法律事務に従事す○当選一回(3)○死去

林田 亀太郎(はやしだ かめたろう) 東京府第二区選出 新正倶楽部

文久3年8月生・熊本県出身・明治20年東京帝国大学政治科卒○枢密院属、法制局属、法制局参事官、臨時帝国議会事務局書記官、衆議院書記官兼農商務省参事官、衆議院書記官長を歴任す、また鮫川電力(株)社長、雑誌社長、東京毎夕新聞主筆となる(著)「日本政党史」「政界側面史」○当選二回(14 15)○昭和2年12月1日死去

林田 哲雄(はやしだ てつお) 愛媛県選出 日本社会党

明治30年10月生・愛媛県出身・大谷大学に学ぶ○製材業を営む、小松町会議員、小松町信用組合監事、愛媛県農地委員、同県失業対策委員となる、また全国農民組合、社会大衆党各中央委員、日本農民組合、日本漁業組合各中央委員、日本社会党中央執行委員、愛媛県連合会長となる○当選一回(22)○昭和33年2月14日死去

林田 勝九郎(はやしだ とうくろう) 滋賀県第二区選出 同盟倶楽部

天保14年9月生・滋賀県出身○甲賀郡第七区長、大原村長、滋賀県会議員、同常置委員となる、また水口米穀取引所を設立す○当選一回(2)○明治32年9月5日死去

林田 正治(はやしだ まさはる) 熊本県選出 民主党

明治25年8月生・熊本県出身・大正6年東京帝国大学政治科卒○福島県属、秋田県警視、滋賀県理事官、鳥取県学務部長、大分、神奈川、京都各府県警察部長、台南州内務部長、澎湖庁長、新竹州知事を歴任し、熊本市助役、同市長となる、また新竹商工会議所会頭、熊本県食糧営団理事長、同顧問、熊本県郷友連合会副会長兼理事長、(株)ラジオ熊本取締役となる・西独政府の招きにより同国青少年運動及び欧州各国を視察す○当選一回(22)・(参)一回(4)

林田 操(はやしだ みさお) 福岡県第四区選出 立憲政友会

明治13年12月生・福岡県出身・明治39年東京帝国大学独法科卒○富士瓦斯紡績(株)に入社、工場長、調査部長を経て中津絹糸紡績(株)専務取締役となり、富士瓦斯紡績(株)に合併後、同社専務取締役となる、のち富士電力(株)取締役、(株)伊勢丹常務取締役となる○当選一回(18補)

原 榮作(はら えいさく) 静岡県第一区選出 無所属倶楽部

明治12年11月生・静岡県出身・明治37年千葉医学専門学校卒○医師を開業す、静岡県会議員、同参事会員となる、また庵原郡学校衛生会長、由比町

森林組合長、同漁業協同組合長、同農業会長、静岡県森林組合連合会長、同医師会長、同学校衛生会副会長、同水産業会顧問、静岡県保健婦学校長となる○当選一回(23)○昭和33年4月4日死去

原　吉郎（はら　きちろう）　新潟県第三区選出　立憲民政党

明治7年9月生・新潟県出身・東京専修学校に学ぶ○日露戦役に従軍し、陸軍歩兵大尉となる、枇杷島村会議員、同村長、刈羽郡会議員、新潟県会議員、同副議長、柏崎町会議員、同町長、柏崎市長、小作調停委員、所得税調査委員となる、また酒造業を営み、郡酒造組合長、県酒造組合連合会長、全国酒造組合中央会評議員、柏崎土地、柏崎興業各株取締役、柏崎瓦斯、柏崎自動車各株監査役となる・派遣軍慰問のため満州、支那に派遣さる○当選二回(17・18)○昭和30年12月17日死去

原　國（はら　くに）　鹿児島県選出　国民協同党

明治34年2月生・鹿児島県出身・大正11年日本歯科医学校、同13年中央大学専門部法律科卒○歯科医師を開業す、東京都大森区会議員となる、鹿児島県日本農本党組織代表となる○当選一回(22)

原　健三郎（はら　けんざぶろう）　兵庫県第二区選出　自由民主党

明治40年2月生・兵庫県出身・昭和6年早稲田大学政治経済学部卒、米国オレゴン大学、コロンビア大学卒、マスター・オブ・アーツの学位を受く○大日本雄弁会講談社に入社、「現代」編集長、参事となる、第一次吉田内閣の外務参与官、第三次吉田内閣の運輸政務次官、衆議院逓信委員長、同運輸委員長、同海外同胞引揚及び遺家族援護に関する調査特別委員長となる、また民主党渉外部長、民主自由党総務、自由党国会対策副委員長、自由民主党国会対策副委員長、相談役、総務、総務会副会長、広報委員長となる○当選七回(22・23・24・25・26・27・28)

原　耕（はら　こう）　鹿児島県第一区選出　立憲政友会

明治9年2月生・鹿児島県出身・明治35年大阪高等医学校卒○神戸市衛生課市医となり、のち在米国領事館に勤務し、帰朝後医師を開業す、村会議員、枕崎町会議員となる、また川辺郡医師会長、鹿児島県医師会、日本医師会各代議員、南薩銀行取締役となる○当選二回(16・18)○昭和8年8月3日死去

原　弘三（はら　こうぞう）　富山県第一区選出　無所属

天保11年12月生・富山県出身・漢籍を修む○茨城県豊田、結城、岡田各郡長、秋田県南秋田郡長兼河辺郡長、仙北郡長、富山県婦負、射水各郡長を歴任す、新保村会議員となる、また内野銀行頭取となる㊒七里香園詩草○当選二回(23)○大正4年7月30日死去

原　孝吉（はら　こうきち）　福島県第一区選出　民主自由党

明治17年10月生・福島県出身○畳製造販売業を営む、郡山市会議員、同議長、福島県会議員となり、金銭債務、借地借家特別調停委員となる、また東北木工(株)社長、福島県土木建築職種別組合協議会長、同畳商工業協同組合理事長、民主党常議員会副会長となる○当選一回(23)

原　敬（はら　たかし）　岩手県第一区選出　立憲政友会

安政3年2月生・東京都出身・司法省法律学校に学ぶ○郵便報知新聞記者、大東日報主筆となり、のち大政官御用掛、外務省御用掛、在天津領事、在仏国大使館書記官、農商務大臣秘書官、外務省通商局長、外務次官、朝鮮駐剳特命全権公使、第四次伊藤内閣の逓信大臣、第一次西園寺内閣の内務大臣兼逓信大臣、第二次西園寺内閣の内務大臣兼鉄道院総裁、第一次山本内閣の内務大臣、大礼使長官、内閣総理大臣となる、また大阪毎日新聞社長、立憲政友会幹事長、総裁となる○当選八回

（7・8・9・10・11・12・13・14）○大正10年11月4日死去

原　茂（はら　しげる）　長野県第三区選出　日本社会党

大正2年1月生・長野県出身・東京外国語学校に学ぶ○原電気(株)取締役社長となる、また長野県総合開発審議会顧問、日中貿易促進議員連盟理事、日朝協会理事、日本縦貫自動車道協会評議員、日本中国友好協会評議員及び長野県支部連合会顧問となる、日本農民組合中央執行委員、長野県連合会顧問、日本社会党中央執行委員、財政副委員長兼事務局長、災害対策副委員長、選挙対策副委員長、長野県連合会顧問となる・国慶節(北京)、アジア社会党会議(ボンベイ)及び国際原子力機関総会(ウイーン)に出席、世界各国を訪問す○当選四回(25・26・27・28)

原　脩次郎（はら　しゅうじろう）　茨城県第三区選出　立憲民政党

明治4年5月生・茨城県出身・中央大学に学ぶ○台湾総督府台南県弁務署長、台湾臨時土地調査局事務官、台湾総督府警視を歴任す、のち実業界に入り塩水港製糖(株)監査役、花蓮港電気(株)社長、朝鮮皮革、花蓮港木材各(株)取締役となる、第二次若槻内閣の拓務大臣次いで鉄道大臣となる、また立憲民政党総務、顧問となる○当選六回(11・12・13・15・16・17)○昭和9年3月6日死去

原　淳一郎（はら　じゅんいちろう）　兵庫県第二区選出　立憲民政党

明治27年10月生・兵庫県出身・大正8年明治大学法律科卒○弁護士の業務に従事す、兵庫県会議員、同参事会員、神戸市会議員、同参事会員、神戸弁護士会副会長となる、また高知電気工業、国策化学工業、神戸機械工作所各(株)取締役、(株)播磨造船所監査役、神陽汽船、大陸鉱業、秋岩鉱業、三陽工業、三陽精機、太平金属各株社長となる・派遣軍慰問のため満州に派遣さる○当選二回(18・19)

原　侑（はら　すすむ）　広島県第三区選出　無所属

明治30年4月生・広島県出身・大正12年日本大学高等師範部卒○日本大学第二中学校長、京浜学園(中学、商業)園長、日本汽船漁業(株)常任監査役、山路壁紙(株)監査役、(資)義合祥顧問、協同土木(株)総監督、国際科学食糧研究所専務理事となる、また日本自由党政調会同胞援護部長、政調会労働委員長、総務となる○当選二回(22・23)○昭和35年1月31日死去

原　捨思（はら　すてし）　鹿児島県第一区選出　自由民主党

明治24年6月生・鹿児島県出身○西南方村会議員、鹿児島県青年師範学校講師、同県企画室参与となるほか、鹿児島県潜水士協会理事長、同水産振興協議会長、同漁港協会長、同鰹鮪漁業協同組合長、同漁業協同組合連合会長、同海難防止会長、漁村文化協会顧問、全国水産業協同組合共済会理事、全国漁港協会副会長、原水産(株)社長となる、また日本民主党情宣局次長、政調会労働副部長、自由民主党政調会水産副部長となる○当選二回(22・27)

原　善三郎（はら　ぜんざぶろう）　埼玉県第五区選出　実業同志倶楽部

文政10年4月生・神奈川県出身○生糸貿易業を営む、貿易商社頭取、第二国立銀行頭取、横浜商法会議所頭取となり、横浜市会議員、同議長、同参事会員、埼玉県児玉郡会議員、農商工高等会議員、鉄道会議臨時議員となる、また横浜蚕糸外四品取引所理事長、横浜商業会議所会頭、横浜生糸検査臨時商議員、東武鉄道、東洋汽船、富士紡績各(株)取締役となる○当選三回(2・3・4)・(貴)多額○明治32年2月6日死去

原　惣兵衛（はら　そうべえ）　兵庫県第四区選出　日本進歩党

明治24年1月生・兵庫県出身・大正7年日本大学専門部法律科卒、のちドイツに留学、ベルリン大学、ミュンヘン大学に学ぶ○日本大学幹事兼学生監となる、留学中に在独日本人会常任理事となる、弁護士の業務に従事す、阿部内閣の鉄道政務次官、司法省委員となる、また東京毎日新聞社副社長、

立憲政友会総務となる・第二十九回列国議会同盟会議（マドリッド）に参列す、また南米視察のため議員団長として派遣さる　○当選六回（15 16 17 18 20 21）○昭和25年1月30日死去

原　彪（はらたけし）　茨城県第三区選出　改進党

明治37年10月生・茨城県出身・昭和5年東京帝国大学商業科卒○三井物産（株）社員を経て朝日組、賀田組各株取締役、（株）霞ヶ浦造船所常務取締役となる、再度土浦市長となり、衆議院文部委員長となる、また土浦市保健組合、同観光協会各理事長、同体育協会長、霞ヶ浦農科大学理事長、民主党政調会運輸部長、副幹事長、国民民主党代議士会長、総務、改進党中央常任委員、政策委員会運輸部長となる○当選三回（23 24 26）○昭和29年1月23日死去

原　玉重（はらたましげ）　東京府第一区選出　日本自由党

明治29年7月生・岐阜県出身・大正9年中央大学法律科卒○弁護士の業務に従事す、牛込区会議員、東京府会議員となる、また報知新聞監査役、東亜鉱産開発（株）代表取締役、日本交通広告社会長、東邦モーターズ（株）常任監査役、江東天然瓦斯工業（株）代表取締役となり、原子燃料公社副理事長となる○当選三回（19 20 21）

原　藤右門（はらとうろうもん）　大阪府第二区選出　日本自由党

明治28年6月生・大阪府出身・大正2年府立農学校卒○春木町長、泉南郡町村長会副会長となる、また泉北郡織物工業組合連合会、大阪府織物工業組合、同織物製造統制組合各理事長、綿スフ統制会理事、府中織物（株）常務取締役、東洋帆布、帝国産業各（株）取締役、日本自由党総務、民情部副部長となる○当選一回（22）○昭和22年4月11日死去

原　彪（はらひょう）　東京都第一区選出　日本社会党

明治27年11月生・旧名（彪之助）・東京都出身・大正10年東京帝国大学政治科卒○文部省嘱託として社会教育調査に当る、吉野作造博士の研究室にて指導を受け、鉄道講習所、明治大学各講師、法政大学教授となる、安部磯雄氏の下に社会運動に入り、日本フェビアン協会、自由学芸連盟、日本独立労働協会等の役員となり、社会民衆党の創立に参加し、常任中央執行委員、教育部長、社会大衆党中央執行委員、東京都連委員長、文化、財務、統制各委員長、顧問となる、また衆議院副議長、皇室会議、皇室経済会議各議員となるほか、日中友好協会顧問、護憲連合代表委員、日朝協会長となる・中国を視察す㊐「天皇制と憲法」「社会民主主義の根本理念」○当選六回（22 23 25 26 27 28）

原　夫次郎（はらふじろう）　島根県選出　民主党

明治8年6月生・島根県出身・明治29年和仏法律学校卒、のち仏国グルノーブル大学に学び、次いでパリ法科大学院卒、仏国法学博士の学位を受く○広島区、地方各裁判所判事、東京区、地方各裁判所検事、司法大臣秘書官、東京控訴院検事、法制局参事官、司法省参事官、内閣総理大臣秘書官を歴任し、岡田内閣の司法政務次官となる、のち島根県知事となる、また弁護士、法政大学、司獄官練習所、警察官練習所各講師、日仏協会評議員、立憲民政党総務、日本進歩党総務委員、顧問となる・永年在職議員として院議表彰さる㊐仏文「日本の新刑事政策」○当選九回（14 15 16 17 18 19 20 21 22）○昭和28年11月26日死去

原　眞澄（はらまつみ）　岐阜県岐阜市選出　立憲政友会

慶応元年3月生・岐阜県出身・和漢学を修む○岐阜日日新聞記者、濃飛日報主筆、岐阜商工新報社長となる、また岐阜商業会議所書記長となる○当選一回（11）○昭和2年6月17日死去

原　亮三郎（はらりょうざぶろう）　岐阜県第三区選出　実業団体

嘉永元年10月生・岐阜県出身○神奈川県史生、権少録、戸長となる、また金港堂書籍（株）取締役、第九十五銀行頭取、富士製紙（株）相談役となる○当選一回（2）○大正8年12月8日死去

原岡　永江（はらおかなが え）　香川県郡部選出　立憲政友会

明治6年2月生・香川県出身○農業を営む、香川県会議員、同参事会員となる、また富熊村農業会長、宇多津東塩田（株）社長となる○当選一回（10）○昭和20年4月11日死去

原口　純允（はらぐちすみちか）　鹿児島県第二区選出　無所属倶楽部

明治31年2月生・鹿児島県出身・大正10年東京帝国大学商業科卒○南満州鉄道（株）社員を経て南満州電気（株）奉天、長春各支店長、満州電業（株）人事課長、興中公司電業部次長、済南電力股份有限公司重役、北支那開発（株）電業部次長、芝罘電業股份有限公司重役となる、また大蔵省委員となる、のち光南産業、鹿児島酸素各（株）社長、南日本観光（株）会長となる○当選二回（21 21再）

原口　初太郎（はらぐちはつたろう）　福岡県第一区選出　同交会

明治9年1月生・東京都出身・明治29年陸軍士官学校、同32年陸軍砲工学校、同35年陸軍野戦砲兵射撃学校、同40年陸軍大学校卒○陸軍砲兵少尉より陸軍中将に累進、その間陸軍士官学校生徒中隊長兼教官、陸軍野戦砲兵射撃学校教官、陸軍大学校兵学教官、駐英国大使館附武官補佐官、青島守備軍参謀、聯隊長、参謀本部課長、駐米国大使館附武官、野戦重砲兵第四旅団長、陸軍野戦砲兵学校長、同砲工学校長、第五師団長を歴補、ワシントン会議全権委員随員、陸軍技術会議員となる、また立憲政友会総務となる○当選三回（18 19 20）○昭和24年4月30日死去

原尻　束（はらじりつかね）　大分県選出　無所属

明治27年1月生・大分県出身・東京物理学校高等師範科に学ぶ○農業を営む、緒方村長、同村銃後々援会々長、大野郡三重区司法保護委員会参事、報徳土建（株）代表取締役社長となる、また協同民主党政策調査会復興部長となる○当選一回（22）

原田　憲（はらだけん）　大阪府第三区選出　自由民主党

大正8年2月生・大阪府出身・明治大学専門部政経科に学ぶ○池田産報協力工業（株）労務課長、（有）原田印刷工業社長、阪農工社勤労人事課長、（株）原田産報協力工業（株）労務課長、（株）神毎朝新聞社長となる、第二次岸内閣の通商産業政務次官となる、また自由党副幹事長、総務、自由民主党大阪府連幹事長、同党国会対策副委員長、政調会副会長となる○当選三回（23 26 28）

原田　赳城（はらだたけき）　島根県隠岐選出　立憲同志会

安政3年7月生・島根県出身・明治7年栃木県師範学校卒○小学少教頭、小学訓導、栃木県属、同県足利—梁田郡書記、島根県属、同県那賀郡長、隠岐島司、島根県書記官、同県参事会員、同県農

原田　佐之治（はらださのじ）　徳島県第一区選出　立憲民政党

明治7年3月生・徳島県出身○国府町会議員、徳島県会議員、同議長となる、また徳島県酒造組合連合会議員、同酒造試験所理事長、阿波藍同業組合議長、徳島日日新聞社取締役、徳島毎日新聞社監査役、阿波農工銀行、美馬水力電気各（株）取締役、徳島倉庫（株）社長となる○当選五回（13 補 14 15 16 17）○昭和11年12月22日死去

原田　十衛（はらだじゅうえ）　熊本県第一区選出　立憲政友会

文久元年12月生・熊本県出身・中江兆民の仏学塾に学ぶ○新聞記者、自由通信社主筆となる、のち文部大臣秘書官、司法大臣秘書官、大蔵大臣秘書官となり、東京市助役となる、また日本博覧会理事、熊本米穀取引所理事長、熊本電気（株）取締役、肥後農工銀行、肥後酒精、小田原急行鉄道各（株）監査役となる○当選七回（10 11 12 13 14 15 16）○昭和16年8月7日死去

工銀行監理官を歴任す、また島根県農会長、同私立教育会長、隠岐農会長、同水産組合長、同畜産組合長、太陽生命保険㈱社長、総武鉄道㈱取締役、栄城銀行専務取締役となる○当選四回(6 8 9 11)○大正14年8月15日死去

原田藤次郎(はらだとうじろう)　青森県第四区選出　立憲政友会

明治7年10月生・青森県出身○農業を営む、青森県農工銀行取締役となる○当選二回(14 15)○昭和23年1月5日死去

原田雪松(はらだゆきまつ)　熊本県第二区選出　自由党

明治21年5月生・熊本県出身・大正2年日本獣医学校本科卒○熊本県衛生技手、御領村会議員、同村長、熊本県会議員となる、また御領村農業会技師、県獣医師会副会長、日本獣医師会理事、天草郡家畜商組合長、同畜産農業協同組合長、全国和牛登録協会副会長、九州和牛協会長、熊本畜産販売農業協同組合会長、熊本獣医協会長、全国畜産販売農業協同組合連合会理事、日本緬羊㈱取締役となる○当選一回(24)

原本大三郎(はらもとだいさぶろう)　島根県郡部選出　公正会

慶応2年9月生・島根県出身・漢学を修む○農業を営む、安来町長、島根県会議員、能義郡会議員、安来町会議員となる、また安来町農会長、能義郡農会長、安来銀行、山陰実業銀行、簸上鉄道㈱各取締役となる○当選一回(12)○大正11年3月16日死去

春島東四郎(はるしまとうしろう)　鹿児島県第一区選出　立憲民政党

明治8年1月生・鹿児島県出身・明治32年日本法律学校卒○著述業並びに出版業を営む、のち司法官試補となり、退官後弁護士の業務に従事し、鹿児島市会議員となる、また旬刊痛快新聞、西南新聞、鹿児島毎朝新聞、鹿児島日日新聞各社長兼主筆、大正貯金㈱社長、薩摩銀行頭取となる㊟「日本警察法述義」「選挙法解義及選挙警察」○当選一回(17)○昭和12年10月7日死去

春田祐清(はるたすけきよ)　愛知県郡部選出　立憲政友会

安政5年1月生・愛知県出身・明治7年愛知県養成学校小学教科卒○小学校訓導、戸長、実田村長、中島郡会議員、同参事会員、愛知県会議員となる、また破産管財人、県教育会、県農会各評議員、日光川倉庫銀行取締役となる○当選二回(10 11)○昭和4年11月21日死去

春名成章(はるなせいしょう)　静岡県第二区選出　翼賛議員同盟

明治16年12月生・静岡県出身・明治39年早稲田大学政治経済科卒○時事新報、東京朝日新聞、東京日日新聞各記者となり、鉄道大臣秘書官、逓信大臣秘書官、第一次近衛内閣の外務参与官となる、また東海オートサーヴィス㈱社長となる○当選三回(18 19 20)○昭和27年9月21日死去

半谷清壽(はんがいせいじゅ)　福島県郡部選出　憲政会

安政5年11月生・福島県出身○絹織物業並びに農業を営む、磐城水電㈱取締役となる○当選三回(11 12 13)○昭和7年2月18日死去

伴直之助(ばんなおのすけ)　東京府第五区選出　実業同志倶楽部

文久2年8月生・東京都出身・明治12年同人社卒○東京経済雑誌社編集、山梨峡中新報社、大阪立憲政党新聞社各主筆となり、東京府会議員、同市会議員、深川区会議員、徴兵参事員となる、また京都商工銀行、両毛鉄道、播但鉄道、京都鉄道各会社等を設立し重役となる○当選一回(4)○昭和12年7月26日死去

坂東幸太郎(ばんどうこうたろう)　北海道第二区選出　民主党

明治14年4月生・北海道出身・明治37年早稲田大学邦語政治科、同44年同大学部政治経済科卒○旭川区会議員、同市会議員、同副議長、同議長となり、阿部内閣の鉄道参与官、土木会議議員、行政調査部顧問、衆議院治安及び地方制度委員長となる、また旭川商工会議所書記長、北海道開発調査会長、旭川中央青年団名誉団長、旭川商工会議所会頭となるほか、立憲民政党遊説副部長、日本自由党総務、民情部長、民主党代議士会長となる、かつて雑誌「旭川評論」を発刊す㊟「旭川回顧録」「議会の内幕」○当選九回(15 16 17 18 19 20 21 22 23)

板東勘五郎(ばんどうかんごろう)　徳島県郡部選出　立憲政友会

文久元年1月生・徳島県出身・明治11年徳島師範学校卒○郡会議員、徳島県会議員、同参事会員、同副議長となる、鉄道会議議員、日本大博覧会評議員となる、また徳島鉄道㈱社長となる○当選十回(4 5 6 7 8 9 10 11 12 13)○大正7年3月23日死去

ひの部

日笠恒太郎(ひかさつねたろう)　岡山県第二区選出　中国進歩党

安政元年4月生・岡山県出身・漢学を修む○農業を営む○当選一回(3)○明治28年8月4日死去

日下田武(ひげたたけし)　栃木県第二区選出　無所属倶楽部

明治33年2月生・栃木県出身・大正13年早稲田大学政治経済学部経済科卒○陸軍主計中尉となり、支那事変に従軍す、益子町長となる、また栃木県森林組合連合会長、栃木県地方木材㈱社長となる○当選一回(21)

日高忠男(ひだかただお)　島根県選出　自由党

明治29年1月生・島根県出身・大正11年京都帝国大学医学部卒、のち同大学院にて研修、医学博士○島根県浜田市興仁会病院、和歌山県新宮市浜病院に勤務、のち松江市に診療所を開設す、また島根県医師会長、松江市医師会長、日本医師会代議員となる○当選一回(25)

日向輝武(ひなたてるたけ)　群馬県郡部選出　無所属

明治3年8月生・群馬県出身・東京専門学校に学

び、のち米国パシフィック大学に修学○在米中研学、実業、新聞、探検等に従事、帰朝後実業界に入り、京浜銀行常務取締役、人民新聞社長、日本広告㈱取締役会長、大陸殖民資社長、茂浦鉄道、日本電報通信各㈱取締役、日本水力電気㈱創立委員となる㊎英文「太平洋趨勢論」、「日本外交史」「殖民論」○当選五回(7 8 9 10 11)○大正7年5月28日死去

日野國明(ひのくにあき)　大阪府大阪市選出　立憲国民党
慶応元年12月生・愛媛県出身・漢学、法律学を修む○弁護士の業務に従事す、大阪市会議員、同参事会員、同議長、大阪府会議員となる、また大阪弁護士会長となる○当選一回(10補)○昭和32年12月8日死去

日野辰次(ひのたつじ)　鹿児島県第七区選出　政友本党
明治元年4月生・鹿児島県出身・明治22年東京専門学校英語本科卒○鹿児島県会議員、同副議長となる、また加治木電気、球磨川電気、大和護謨工業各㈱取締役、鹿児島新聞社理事となる○当選一回(14)○大正15年6月9日死去

日野吉夫(ひのよしお)　宮城県第二区選出　日本社会党
明治34年11月生・宮城県出身・昭和4年日本大学高等師範部卒○小学校訓導、仙台市会議員、宮城県農地委員となる、農民運動に専心し、宮城大衆党、全国農民組合宮城県連合会各常任委員、宮城県靴統制組合専務理事、仙台商工会議所理事、日本農民組合宮城県連副会長、全日本農民組合連合会副会長となる、また日本社会党宮城県連会長、同党農民部長、漁民部長、中央執行委員、国会対策副委員長、国土開発政策委員会副委員長、東北開発特別委員会副委員長、組織局漁民部長となる・中国建国十周年記念国慶節祝賀使節として訪中、また東南アジア視察議員団員として派遣さる○当選五回(23 25 26 27 28)

日比野寛(ひびのひろし)　愛知県郡部選出　憲政会
慶応2年11月生・愛知県出身・明治28年東京帝国大学英法科卒○農商務省属、鉱山監督官、愛知県立第一中学校長となる、また日比野式健康法、日比野式体育法等独自の体育運動法を創案し、実施指導をなす、しばしば欧米各国の体育並びに教育状態を視察、ベルリン、ライプチッヒ各体育大学にて指導講演をなす○当選一回(13)○昭和25年4月2日死去

日比野民平(ひびのみんぺい)　岐阜県選出　民主党
明治25年11月生・岐阜県出身○古井町長、岐阜県会議員、同副議長、同議長となり、所得調査委員、加茂郡町村長会長となり、日本進歩党政調会副会長、庶務部長となる○当選二回(19 22)

比佐昌平(ひさしょうへい)　福島県第三区選出　翼賛議員同盟
明治17年3月生・福島県出身・明治41年早稲田大学政治経済科卒○著述業に従事す、第二次若槻内閣の陸軍参与官、第一次近衛内閣の陸軍参与官となり、救恤審査会審査員となる○当選六回(15 16 17 18 19 20)○昭和16年11月23日死去

比留間邦之助(ひるまくにのすけ)　東京府郡部選出　立憲政友会
万延元年6月生・東京都出身・漢学、兵学等を学ぶ○農業及び牧畜業に従事す、学務委員、三ツ木村会議員、三ツ木村外三ケ村長、神奈川県会議員、東京府会議員、同常置委員、同参事会員となり、所得税調査委員、地方衛生会委員となる、また日本農民会北多摩郡支会長、東京物品火災保険㈱相談役となる○当選一回(7)○大正13年12月25日死去

肥後靜雄(ひごしずお)　鹿児島県郡部選出　立憲政友会
安政5年2月生・鹿児島県出身・鹿児島藩立学校に学ぶ○東志布志村長、鹿児島県会議員となる○当選一回(11)○大正13年8月23日死去

肥後幸盛(ひごゆきもり)　鹿児島県郡部選出　立憲政友会
文久3年3月生・鹿児島県出身・明治14年鹿児島県師範学校卒○鹿児島県会議員となる、また鹿児島県蚕糸組合長、同生糸検査所長、同授産場長、鹿児島県農工銀行監査役、鹿児島郵船、大隅鉄道各㈱社長、鹿児島共同倉庫資代表社員となる○当選一回(10)○大正11年10月11日死去

肥田景之(ひだかげゆき)　宮崎県選出　新政会
嘉永3年2月生・宮崎県出身・鹿児島藩校に学ぶ○戊辰の役、西南の役に従軍す、鹿児島造士館助教授、都城神柱神社祠官、鹿児島県警部、内務省出仕、農商務省出仕となる、のち第五国立銀行取締役支配人、横浜正金銀行、東京湾汽船各㈱監査役、大東鉱業㈱社長、北海道瓦斯㈱監査役となる、また日本体育会長となる○当選五回(2 10 11 12 13)○昭和7年4月3日死去

肥田琢司(ひだたくし)　広島県第二区選出　無所属倶楽部
明治22年2月生・広島県出身○千代田印刷㈱、広島毎夕新聞社、自由評論社各社長、東京商業会議所議員、安芸蚕業購買組合長、逓信省委員となり、のち日本コンクリート工業、名古屋精糖各㈱顧問、トヨタヂーゼル、東急エビス産業各㈱取締役、政友くらぶ会長となる・派遣軍慰問のため北支那に派遣さる○当選四回(16 19 20 21)

樋貝詮三(ひかいせんぞう)　山梨県選出　自由党
明治23年4月生・山梨県出身・大正3年中央大学、同7年京都帝国大学英法科卒、法学博士○逓信局書記、法制局参事官、恩給局書記官、法制局属、恩給局長、保険局長官を歴任し、衆議院議員、行政裁判所評定官、恩給局長官となる・派遣軍慰問のため北支那へ派遣さる○当選二回(20 21)○昭和23年6月24日死去

樋口伊之助(ひぐちいのすけ)　大阪府第一区選出　政友本党
嘉永4年7月生・大阪府出身○大阪市西区会議員、同議長、大阪市会議員、大阪府会議員、同副議長、同議長となる、都市計画大阪地方委員となる○当選一回(14)○大正14年7月28日死去

樋口喜輔(ひぐちきすけ)　青森県青森市選出　立憲政友会
安政3年7月生・青森県出身・皇漢学を修む○青森町会議員、同市会議員、同参事会員、同議長となる、青森小間物商組合頭取、青森銀行、第五十九銀行各監査役、青森電燈㈱取締役、青湾鉄工場㈱常務取締役、青森商業会議所会頭となる○当選一回(11)○昭和8年11月10日死去

樋口善右衛門(ひぐちぜんうえもん)　愛知県第二区選出　日本進歩党
明治9年3月生・愛知県出身○売薬業を営む、守山町会議員、愛知県会議員、守山町長、東春日井郡農会長となる・派遣軍慰問のため北支那へ派遣さる○当選二回(20 21)○昭和23年6月24日死去

樋口典常(ひぐちのりつね)　福岡県第三区選出　昭和会
明治元年1月生・福岡県出身・明治23年東京法学院卒○福岡県会議員、台湾総督府評議会員、岡田内閣の鉄道政務次官となる、また台湾製塩㈱取締役、台湾農林㈱取締役社長となる・支那視察のため派遣さる○当選四回(11 14補 17 18)○昭和21年5月8日死去

樋口秀雄(ひぐちひでお)　長野県第三区選出　第一控室会
明治8年5月生・長野県出身・明治33年東京帝国

大学哲学科卒、同大学院に社会学を専攻す○仏教大学、真宗大学各教授、島津公爵家教育掛、清国公使館監督署顧問、明治大学、法政大学各講師、国学院大学教授となる、また雑誌「新日本」主筆、臨時博覧会事務嘱託、憲政会総務、党務委員長、政務調査会長となる・米国視察のため派遣され、次いで第十九回列国議会同盟会議（ストックホルム）に参列、さらに南洋、豪州視察議員団長として派遣さる、また三国軍縮会議（ジュネーブ）に列席す○当選五回（12 13 14 15 16）○昭和4年6月6日死去

樋渡次右衛門（ひわたしじうえもん）　鹿児島県第三区選出　政友本党

元治元年5月生・鹿児島県出身・攻玉社、三田英学塾に学び、のち米国に遊学す○小学校教員、英語教師となり、頴姓村会議員、同助役、同学務委員、同農会長、鹿児島県会議員、同参事会員となる、また農業を営み、鹿児島県茶業組合連合会会議所会頭、福徳生命保険㈱鹿児島出張所長となる○当選一回（14）○昭和9年10月31日死去

檜山鋌三郎（ひやまてつさぶろう）　東京府第二区選出　無所属

文久2年11月生・東京都出身・攻玉社に学ぶ○小学校訓導、裁判所書記となり、芝区会議員、東京市会議員、区徴兵参事員となる、のち大本営付陸軍省雇員、台湾総督府雇員、台中庁埔里社支庁長心得、台中県支庁書記官、台湾総督府判官、埔里社地方法院長、同無懇署長心得、台中県支庁長を歴任す、また芝銀行を創立し頭取となるほか、仙人鉄山、日立鉱山各製鉱所事務長となる○当選一回（3）○大正11年1月23日死去

東一左右（ひがしいつそう）　鹿児島県郡部選出　立憲政友会

弘化2年1月生・鹿児島県出身・鹿児島藩学寮造士館に学ぶ○戸長、高隈村長、肝属郡会議員、同参事会員、鹿児島県会議員、同参事会員、所得税調査委員となる、また鹿児島県教育会諮問委員、同授産学校常議員、高隈村農会長となる○当選一回（9）○大正3年11月22日死去

東幸治（ひがしこうじ）　鹿児島県第五区選出　政友本党

明治17年11月生・鹿児島県出身・大正6年中央大学法律科卒○新聞記者、内務省、鉄道省各嘱託となる・米国、メキシコ、支那、フィリピン、ボルネオ、ジャワ、マレー半島、シベリア等を歴遊す○当選二回（14補 15）○大正14年6月21日死去

東良三郎（ひがしりょうざぶろう）　岡山県第五区選出　憲政本党

文久3年1月生・岡山県出身・法律学を修む○松江、東京、大阪各裁判所判事を歴任す、のち弁護士の業務に従事す○当選二回（3 6）○大正5年1月24日死去

東尾平太郎（ひがしおへいたろう）　大阪府郡部選出　憲政本党

嘉永4年9月生・大阪府出身・漢学を修む○農業を営む、大阪府会議員、同常置委員、同郡部会議長となる、また大阪府農学校長、大阪府農会々頭、パリ大博覧会評議員、高野鉄道㈱社長となる○当選七回（1 2 3 4 7 8 9）○大正8年10月8日死去

匹田鋭吉（ひきたえきち）　岐阜県第一区選出　翼賛議員同盟

明治元年4月生・岐阜県出身・明治21年東京専門学校政治経済科卒○読売新聞記者、富山日報、九州日報、北陸タイムス各主筆、岐阜日日新聞社長兼主筆となる、また土木会議議員、日本石炭㈱設立委員、立憲政友会総務となる・米国視察のため派遣さる○当選七回（12 13 14 16 18 19 20）○昭和19年11月9日死去

疋田敏男（ひきたとしお）　山口県選出　国民協同党

明治35年5月生・山口県出身・大正14年明治大学専門部法律科卒○防火住宅、親和土木各㈱取締役社長となり、親和興産㈱、観光住宅㈲各社長となる、また山口県方面委員、同少年教護委員、国民協同党中央常任委員となる○当選一回（22）

久恒貞雄（ひさつねさだお）　福岡県第二区選出　立憲政友会

明治3年4月生・大分県出身・漢学を修む○日清、日露戦役に従軍す、多年福岡県下において石炭採掘業を営み、久恒鉱業㈱取締役社長、下尾銀行、大分商業銀行各頭取、筑豊石炭鉱業組合理事、県土木調査委員となる○当選一回（16）・貴二多額○昭和25年5月10日死去

久留義郷（ひさとめよしさと）　鹿児島県第三区選出　立憲民政党

明治11年11月生・東京都出身・明治37年東京帝国大学独法科卒○鉄道書記、同事務官、鉄道庁主事、同参事、鉄道監察官、仙台鉄道局長を歴任す、のち弁護士の業務に従事す㊟「実用購買論」「敗残の国々を辿りて」○当選二回（15補 17）○昭和32年8月18日死去

土方千種（ひじかたちぐさ）　福岡県門司市選出　立憲国民党

安政4年2月生・福岡県出身○判事となり、久留米、福岡、小倉等各地の裁判所を歴任し、のち弁護士の業務に従事す○当選一回（11）○大正10年5月14日死去

一松定吉（ひとつまつさだよし）　大阪府第一区選出　民主党

明治8年3月生・大阪府出身・明治35年明治法律学校卒○小学校訓導、司法官試補、判事、横浜、大阪各地方裁判所検事、大阪控訴院、大審院各検事を歴任、のち弁護士の業務に従事し、大阪市会議員、米内内閣の厚生政務次官、第一次吉田内閣の逓信大臣、国務大臣、片山内閣の厚生大臣、芦田内閣の国務大臣、建設院総裁次いで建設大臣、参議院懲罰委員長、裁判官弾劾裁判所裁判長となる、また日本進歩党総務、幹事長、総務会長、顧問、民主党最高顧問、改進党顧問、中央常任委員会議長、日本民主党、自由民主党各最高顧問となる・第三十三回列国議会同盟会議（パリ）に参列す・永年在職議員として参議院より表彰さる○当選八回（16 17 18 19 20 21 22 23）・（参二回（2 4））

人見米次郎（ひとみよねじろう）　滋賀県郡部選出　立憲国民党

慶応元年9月生・滋賀県出身・明治12年県立彦根中学校卒、のち数学、ドイツ語を学ぶ○第百三十三国立銀行、日本生命保険、神戸井上倉庫各株勤務を経て、運送業、日豪貿易業を営む、欧米各国を巡遊す、また神戸市会議員となる○当選一回（11）○昭和10年1月6日死去

仁杉英（ひとすぎひで）　東京府東京市選出　壬寅会

嘉永6年8月生・東京都出身・漢学を修め、のち洋学第一校に入りドイツ語を学ぶ○代言人となり、次いで弁護士の業務に従事す、東京府会議員、同常置委員、同副議長、同市部会副議長、日本橋区会議員、東京市会議員、同参事会員、日本橋区長、兼浅草区長となるほか、徴兵参事員、破産管財人、東京市区改正委員会幹事となる○当選一回（7）○大正10年11月10日死去

百萬梅治（ひゃくまんうめはる）　石川県第四区選出　自由党

安政5年2月生・石川県出身・明治11年石川県師範学校卒○小学校訓導となり、学校連合村会議員、同議長、郡連合村会議員、町村連合会議員、石川県会議員、同副議長、鳳至郡会議員、町野村長となる、また北陸牛馬改良会社社長となる○当選二回（2 4）○明治29年3月9日死去

兵頭昌隆（ひょうどうまさたか）　愛媛県第五区選出　自由党

嘉永5年2月生・愛媛県出身○川之石浦戸長、川之石村長、川之石郵便局長となる、また宇和紡績会社社長となる○当選一回（4）○明治44年3月13日死去

平井義一（ひらいぎいち）　福岡県第四区選出　自由民主党

大正2年3月生・東京都出身・昭和14年明治大学法学部卒○東京地方専売局に入り、のち計理士の業務に従事す、麴町区会議員、東京市会議長秘書、

第四次吉田内閣の郵政政務次官、衆議院運輸委員長となる、また福岡県治山治水協会長、同漁業保険組合長、民主自由党青年部長、情報部長、自由党福岡県連支部長、同党総務、副幹事長となる・東南アジア諸国を視察す、また沖繩調査議員団員として派遣さる○当選五回(23 24 25 26 28)

平井熊三郎　京都府京都市選出　立憲同志会

明治7年3月生・京都府出身○京都市会議員、同参事会員、同勧業委員となる、また起業銀行取締役、(株)京都米穀取引所理事、京都商業会議所議員、日本製布(株)監査役、伏見瓦斯(株)取締役会長となり、大日本興産、大阪帝国通信社各(株)取締役、中央物産(株)社長となる○当選一回(11)○昭和10年3月21日死去

平井信四郎　岐阜県第三区選出　立憲政友会

明治8年6月生・岐阜県出身○酒造業を営む、上之郷村長、可児郡会議員、所得税調査委員、上之郷村会議員、岐阜県会議員、同参事会員、同副議長、同議長となる、また東美鉄道、東濃石材工業、鬼岩温泉各(株)社長、美濃合同銀行取締役となる○当選三回(16 17 18)○昭和16年12月26日死去

平井光三郎　滋賀県第二区選出　無所属

明治18年7月生・東京都出身・明治33年京都明進館卒、のち東亜同文書院、善隣書院等に支那語を研究す○日露戦役に陸軍軍属として従軍し、以後東亜経済調査会員として支那の経済状況調査に従事す、さらに青島戦役に陸軍通訳として従軍す、また経済雑誌記者となり、経済之日本、近江新報各社長、東京株式取引所員となる○当選一回(15)

平井致道　鳥取県鳥取市選出　無所属

安政3年4月生・鳥取県出身・医術、皇漢学、数学を修む○小学校仮訓導、鳥取伝習所予科教師となる、のち皇漢学研究所を設立す、神道大社教教導職となり、試補より中講義に累進、辞職後同教大輔教、中参教となる、また薬剤師の業務に従事し、鳥取市会議員、同参事会員、鳥取県会議員、同副議長となるほか、鳥取薬業組合頭取、同薬剤師会頭、鳥取市農会長、同商工会頭となる○当選一回(7)○昭和4年3月21日死去

平井万太郎　茨城県郡部選出　壬寅会

文久元年1月生・茨城県出身・漢籍及び簿記を修む○酒造業を営む、根本村会議員、郡徴兵参事員、茨城県会議員、根本村長となる○当選一回(7)○昭和4年8月20日死去

平井由太郎　奈良県郡部選出　立憲政友会

元治元年6月生・奈良県出身・漢籍を修む○農業を営む、白銀村長、奈良県会議員、同常置委員、同参事会員、吉野郡会議員となり、地方衛生会員、勧業諮問会員、地方教育会員、地方森林会議員、土木調査会員となる○当選一回(8)○昭和8年3月27日死去

平井六右衛門　岩手県郡部選出　立憲政友会

慶応元年11月生・岩手県出身・和漢学及び数学を修む○農業及び醸造業を営む、岩手県勧業諮問会員、日詰町学務委員、同農会長、紫波郡参事会員、所得税調査委員、地方森林会議員となる、また紫波牛馬市場(株)社長、巌手銀行、盛岡銀行、花巻銀行、巌手製鉄、白河醸造各(株)取締役、巌手電気工業、盛岡電気、巌手軽便鉄道各(株)監査役となる○当選一回(12)・(貴三多額)○大正10年10月19日死去

平出喜三郎　北海道庁函館区選出　立憲政友会

天保12年9月生・北海道出身○商業を営む、函館区会議員、函館水道商議委員、函館町会所取締、函館区共有財産理事員、徴兵参事員、北海道会議員、同議長となる、また函館商業会議所会頭、北海道拓殖銀行創立委員、函館銀行取締役となる○当選一回(7)○明治41年3月7日死去

平出喜三郎　北海道第三区選出　立憲政友会

明治9年3月生・石川県出身・明治31年慶応義塾高等科卒○水産業等を営む、函館区会議員、同市会議員となる、また函館図書館長、函館新聞社主、函館競馬倶楽部会長、(株)函館塩販売所社長、函館銀行取締役、函館商業会議所会頭、東京屠物市場(株)社長、函館林産(株)取締役となる○当選四回(11 12 14 16)○昭和6年10月13日死去

平岡浩太郎　福岡県福岡市選出　憲政本党

嘉永4年6月生・福岡県出身・藩学校修猷館に学ぶ○戊辰の役に従軍す、また西南の役に西郷軍に呼応し挙兵す、のち玄洋社を興し、社長となる、次いで国会開設期成同盟会を結成し、憲政の樹立を唱導す、憲政党創立委員となる、また鉱業を営む○当選六回(4 5 6 7 8 9)○明治39年10月24日死去

平岡忠次郎　埼玉県第二区選出　日本社会党

明治44年8月生・埼玉県出身・昭和11年東京商科大学卒○所沢市議会議員となる、平岡洋行主、富士汽船、所沢産業各(株)社長となり、世界連邦日本国会委員会事務局長、世界連邦国会議員世界協会(在ロンドン)常任理事となる、また日本社会党埼玉県連合会長、同党政策審議会副会長、財務委員会副委員長、代議士会副会長、国際団体部長、政審会大蔵部長、同税制部長となる・大蔵委員会派遣議員団長として欧米各国視察、また世界連邦コペンハーゲン大会に日本代表として、アジア社会党会議(ネパール)に党代表として出席す㊟「生物年齢と思想年齢」、(訳書)「スェーデン消費組合論」○当選四回(25 26 27 28)

平岡萬次郎　兵庫県郡部選出　憲政本党

万延元年3月生・兵庫県出身・明治16年明治法律学校及び専修学校卒○代言人となり、次いで弁護士の業務に従事し、石川県専門学校講師、破産管財人となる、また「裁判粋誌」の編集に従事す○当選四回(5 6 7 8)○大正12年2月3日死去

平岡艮蔵　埼玉県第二区選出　日本自由党

明治30年1月生・埼玉県出身○埼玉県会議員、同議長、同繊維品価格査定委員会委員長、飯能町長となる、またレース製造業を営み、埼玉県商工経済会理事、同繊維団体協議会長、日本レース工業組合、所沢織物商工協同組合各理事長、東京繊維商品取引所理事、飯能商工会議所会頭となるほか、御嶽登山鉄道、平岡工業所各(株)取締役、飯能繊維工業、飯能商事各(株)社長、日本自由党会計監督となる○当選二回(22 23)

平賀周　大阪府第一区選出　立憲政友会

明治15年7月生・千葉県出身・明治42年東京帝国大学英法科卒○秋田県試補、茨城県事務官、同理事官、視学官、奈良県警察部長、警察講習所教授、兼内務省参事官、宮城県警察部長、山形県、大分県、大阪府各内務部長、内務監察官を歴任す、のち石川県知事となる、また日本大学大阪分校教授兼学監となり、のち弁護士の業務に従事す・中華民国視察のため派遣さる○当選一回(16)○昭和32年9月12日死去

平川篤雄　広島県第三区選出　改進党

明治44年2月生・広島県出身・昭和9年東京帝国大学国文科卒○新潟県、広島県各師範学校教諭、三原女子師範学校附属主事、広島高等師範学校講師、広島県地御前、緑井各国民学校長を歴任し、広島昭和高等女学校教頭となる、また協同民主党事務局長、連絡部長、民情部長、国民協同党庶務部長、事務局長、国民民主党副幹事長、改進党組織委員会出版部長となる○当選四回(22 23補 24 25)

平川松太郎（ひらかわまつたろう）　神奈川県第三区選出　翼賛政治会

明治10年5月生・神奈川県出身・明治34年東京法学院卒○弁護士の業務に従事す、逓信大臣秘書官、第二次若槻内閣の逓信参与官、平沼内閣の逓信政務次官となり、日本発送電、大日本航空、東亜海運各株設立委員となる、また小田原商業学校長、立憲民政党総務、大政翼賛会中央協力会議員となる・樺太視察のため、また台湾、フィリピン、南洋方面視察議員団長として派遣さる○当選七回（15 16 17 18 19 20 21）○昭和18年5月19日死去

平工喜市（ひらくきいち）　岐阜県第一区選出　社会革新党

明治25年2月生・岐阜県出身○農業を営む、北長森村会議員、岐阜市会議員となる、また中部日本農民組合副組合長、全国大衆党中央委員、全国農民組合岐阜県連合会統制委員長、農地制度改革同盟岐阜県支部主幹、日本農民組合岐阜県連合会執行委員長となる○当選一回（23）○昭和34年8月23日死去

平澤長吉（ひらさわちょうきち）　秋田県第一区選出　自由党

明治26年10月生・秋田県出身・大正4年東京帝国大学農学実科卒○秋田県会議員、同議長となり、第三次吉田内閣の厚生政務次官となる、また木材業を営み、出羽林業株専務取締役、秋田県木材業統制組合理事長、同森林組合連合会副会長、同木材業林産組合長、秋田合同運送、三協木材各株社長、東北興業株監事となる、民主自由党総務、自由党総務となる・第四十一回列国議会同盟会議（ベルリン）に参列す○当選三回（23 24 25）

平島敏夫（ひらしまとしお）　宮崎県選出　立憲政友会

明治24年11月生・宮崎県出身・大正7年東京帝国大学英法科卒、のち満鉄より欧米各国に留学○東京府属、長崎県理事官、明治神宮造営局書記官兼内務書記官を歴任し、南満州鉄道株秘書役、参事、台湾総督秘書官、同総督府事務官、弁護士、司法大臣秘書官、満州国協和会総務部長、錦州省次長となり、南満州鉄道株理事、満州電業株理事長を経て満鉄副総裁となる、引揚帰国後、電源開発株理事、満蒙同胞援護会長、大東文化大学長、教授、参議院運輸委員長となる○当選一回（18）・（参）一回（4）

平島松尾（ひらしままつお）　福島県郡部選出　憲政会

安政元年11月生・福島県出身・二本松藩学校に学ぶ○大蔵省出仕、福島県出仕となる、のち自由民権運動に従事、自由党の創立に参加す、福島県会議員、水産調査委員長となる○当選七回（3 4 7 8 9 10 13）○昭和14年8月13日死去

平島良一（ひらしまりょういち）　大阪府第五区選出　自由党

明治24年6月生・大阪府出身・大正4年明治大学法律科卒○大阪木津川セメント（株）社員となり、次いで会計士の業務に従事す、のち鉱業及び農業に転業す、（資）信達繊布工場理事、平島紡織（株）取締役、同会長となる、また日本自由党総務、会計監督、民主自由党党務部長、政調会貿易振興委員長となり、第三次吉田内閣の文部政務次官となる○当選二回（23 24）○昭和31年11月17日死去

平田健太郎（ひらたけんたろう）　群馬県前橋市選出　正交倶楽部

慶応2年3月生・群馬県出身・明治24年慶応義塾卒○前橋市会議員、同参事会員となる、また前橋商業会議所副会頭、前橋商業銀行頭取、産業組合交水社監事、（株）前橋精練所社長となる○当選一回（13）○昭和19年11月2日死去

平田二郎（ひらたじろう）　鹿児島県郡部選出　立憲政友会

安政4年4月生・鹿児島県出身○鹿児島県会議員、同常置委員、同副議長、同議長となる、また鹿児島県農工銀行取締役となる○当選二回（7 8）○明治43年3月31日死去

平田民之助（ひらたたみのすけ）　島根県第四区選出　立憲民政党

明治元年6月生・島根県出身・漢学、法律学を修む○農業を営む、三原村長、邑智郡会議員、同参事会員、島根県会議員、三原村会議員となる、また三原郵便局長、郡蚕業同業組合長、郡農会長、矢上銀行取締役、舶潤銀行取締役、島根県農工銀行監査役、同取締役となる○当選二回（14 15）○昭和13年11月28日死去

平田篤（ひらたただし）　岩手県第五区選出　自由党

安政2年11月生・岩手県出身・漢学及び法律学を修む○代言人となり、次いで弁護士の業務に従事す、村会議員、一関町会議員、岩手県会議員、同副議長、同議長となる、また所得税調査委員、郡徴兵参事員、破産管財人となる○当選二回（3 4）○大正14年8月15日死去

平田禎（ひらたただし）　鹿児島県郡部選出　立憲政友会

明治3年10月生・鹿児島県出身・明治27年慶応義塾卒○農業を営む、肝属郡会議員、同議長、鹿児島県会議員となる、また鹿屋電燈㈱取締役となる○当選二回（11 12）○昭和20年9月30日死去

平田ヒデ（ひらたひで）　福島県第二区選出　日本社会党

明治35年6月生・福島県出身・大正15年奈良女子高等師範学校卒○福島県師範学校訓導、福島県立相馬高等女学校、岩手県立盛岡高等女学校各教諭、台湾高雄州立高雄高等女学校嘱託となり、若松市教育調査委員、福島家庭裁判所参与員、同調停委員、会津児童園理事、婦人問題研究会理事となる、また日本社会党社会保障政策委員長、文教政策委員会主査となる○当選一回（27）

平田力之助（ひらたりきのすけ）　三重県郡部選出　立憲政友会

慶応3年1月生・三重県出身・明治21年慶応義塾卒○農業及び商業を営む、村会議員、学務委員、郡会議員、三重県会議員となる○当選三回（6補 7 8）○昭和7年10月1日死去

平塚常次郎（ひらつかつねじろう）　北海道第三区選出　自由民主党

明治14年11月生・東京都出身・明治34年札幌露清学校卒○露領カムチャッカに渡航、鮭鱒漁業資源を実情踏査し、のち北洋漁業の経営を創始す、日魯漁業、太平洋漁業、東洋製缶、日本栄養素製造各㈱取締役社長、東洋機械、水産化学各㈱取締役となり、日魯漁業、東京鮪缶詰販売、函館定温倉庫各株会長となるほか、大日本水産会長、日中貿易促進議員連盟理事長、日ソ協会副会長、日中友好協会顧問となる、第一次吉田内閣の運輸大臣となる、また日本自由党総務、自由党政務調査会顧問、自由民主党相談役となる・日ソ漁業条約改訂交渉の商議等でしばしば訪ソ、昭和33年日ソ漁業問題交渉における日本政府代表としてソ連邦に出張す、また欧米各国、中国を視察す○当選四回（22 25 27 28）

平沼専蔵（ひらぬませんぞう）　神奈川県横浜市選出　立憲政友会

天保7年1月生・神奈川県出身・普通学を修む○織物貿易及び売込商を営む、神奈川県会議員、横浜市会議員、同参事会員、横浜市水道事務所長となる、また横浜引取所歩合金取締役、第二十七国立銀行、横浜共同電燈会社、東京瓦斯紡績会社、横浜蚕糸銀行、日本絹紡績会社各取締役、横浜株式取引所、横浜銀行、金叶銀行、横浜洋糸織物引取商組合、横浜綿糸織物引取商組合各頭取、横浜商業会議所議員となるほか、平沼小学校を設立す○当選一回（7）・（貴）多額○大正2年4月6日死去

平沼亮三（ひらぬまりょうぞう）　神奈川県第一区選出　立憲民政党

明治12年2月生・神奈川県出身・明治31年慶応義塾大学卒○横浜市会議員、同議長、神奈川県会議

員、同参事会員、横浜市長となる、また横浜電線製造、横浜豆粕製造各㈱監査役、東陽、養老貯蓄各銀行取締役を経て麒麟麦酒、ホテルニューグランド各㈱監査役、同取締役、㈱第一ホテル社長、東京生命保険㈱、駿河銀行各取締役となるほか、横浜商工経済会、同商工会議所各会頭、全日本陸上競技連盟、同体操連盟、同学生氷上競技連盟各会長、日本体育協会会長、同名誉会長となる・第八回、第十回極東選手権大会及び第十回(ロスアンゼルス)、第十一回(ベルリン)国際オリンピック大会日本選手団長として参列す・文化勲章(体育)を授与さる○当選二回(12 15)・(貴)多額○昭和34年2月13日死去

平野市太郎 ひらのいちたろう　香川県選出　日本社会党

明治25年10月生・香川県出身○農業を営む、香川県会議員、高松市会議員となる、また香川県民生保安協議会協議員、陸上小運搬業組合理事長となる、日本農民組合香川県支部連合会長、日本社会党香川県支部長となる○当選一回(22)

平野龜之助 ひらのかめのすけ　兵庫県郡部選出　立憲国民党

明治2年5月生・兵庫県出身・県立姫路中学校に学ぶ○酒造業を営む、飾磨郡会議員、同議長、兵庫県会議員、所得調査委員となる、また飾磨銀行を創立し取締役となり、次いで頭取となる○当選一回(11)○昭和25年5月17日死去

平野桑四郎 ひらのくわしろう　長野県第三区選出　立憲政友会

元治元年5月生・長野県出身○智里村長、伍和村長、下伊那郡会議員、同参事会員、同議長、長野県会議員、同参事会員、同議長となり、帝国農会議員、長野県農会長、同畜産組合連合会長となる、また天竜川電力、矢作水力各㈱監査役、三信鉄道、南信新聞各㈱取締役となる○当選一回(18)○昭和9年7月18日死去

平野三郎 ひらのさぶろう　岐阜県第二区選出　自由民主党

明治45年3月生・岐阜県出身・慶応義塾に学ぶ○林業を営む、大日本林業会参事、八幡町長となり、第五次吉田内閣の農林政務次官、衆議院厚生委員長となる、また農林新聞社長、岐阜県山間部連絡協議会長、エレクトロニックス協議会副会長、全国中小焼酎業者協議会長、自由党総務、政調会副会長、自由民主党国会対策副委員長、総務となる(衆)「鉄砲かついだ兵隊より科学国防へ」「遺書」○当選五回(24 25 26 27 28)

平野友輔 ひらのともすけ　神奈川県郡部選出　無所属

安政4年1月生・神奈川県出身・明治16年東京大学医学部別課卒○医師の業務に従事す、神奈川県青年会を組織し、雑誌を発刊す○当選一回(7)○昭和3年4月3日死去

平野鍋吉 ひらのなべきち　徳島県第二区選出　立憲民政党

明治元年5月生・徳島県出身・県立徳島中学校中退後、私塾に漢学を修む○酒造業を営む、山瀬村会議員、同村長、山瀬町会議員、麻植郡会議員、徳島県会議員、同参事会員となり、麻植阿波酒造組合長、徳島県酒造組合連合会長、阿波藍同業組合会副議長となる、また阿波藍、美馬水力電気各(株)監査役、徳島県遠洋漁業組合、東洋製粉各㈱取締役となる○当選一回(17)○昭和7年12月31日死去

平野八郎 ひらのはちろう　大分県選出　国民協同党

明治22年3月生・大分県出身・明治大学専門部法律科に学ぶ○農業を営む、由布川村長となり、大分郡農会長、同町村長会長、方面委員大分郡支部長、大分県農業会理事、大分郡所得税調査委員となる、また協同民主党政策調査会内政部長、国民協同党政策調査会外務部長となる○当選一回(22)

平野增吉 ひらのますきち　岐阜県選出　民主党

明治11年4月生・岐阜県出身○庄川木材㈱取締役、飛州木材㈱専務取締役、日本農林新聞社々長、岐阜県木材組合連合会長となり、岐阜県木材協同組合理事長、木曽林産開発㈱取締役となる、また日本進歩党常議員、総務委員となる○当選一回(22)○昭和34年11月1日死去

平野光雄 ひらのみつお　静岡県第一区選出　翼賛議員同盟

明治14年1月生・静岡県出身・明治43年慶応義塾大学政治科卒○時事新報記者となり、のち日本茶精㈱取締役、伊勢製茶㈱監査役、東亜防水布製造㈱会長となる、また岡田内閣の逓信参与官、立憲民政党総務となる・第二十三回列国議会同盟会議(ワシントン・オッタワ)に参列す○当選六回(14補 15 17 18 19 20)○昭和33年7月26日死去

平野力三 ひらのりきぞう　山梨県選出　小会派クラブ

明治31年11月生・山梨県出身・大正9年拓殖大学支那語科、同11年早稲田大学専門部政経科卒○農民運動に従事し、日本農民組合関東同盟宣伝部長、日本農民党幹事長、日本大衆党書記長、社会民衆党中央委員、国家社会党農村委員長、日本農民組合会長、農地制度改革同盟主事、支那農村対策研究所長等を経て全国農民組合会長、日本社会党常任中央執行委員、社会民主党中央執行委員長、協同党中央執行委員長、日本社会党顧問となり、農業新聞社長、全日本農民組合連合会顧問となる、また片山内閣の農林大臣、肥料配給公団設立委員長となる(衆)「日本の農業政策と農地問題」○当選七回(19 20 21 22 23 25 26)

平林九兵衛 ひらばやしくへえ　東京府第十二区選出　国民協会

天保8年9月生・東京都出身○大井村戸長、東京府会議員、同常置委員、同郡部会議長、大井村会議員となり、工芸品共進会審査委員、地方衛生会員、郡徴兵参事員、水産伝習所創立委員、同参事員、日本赤十字社東京府委員となる○当選二回(2 5)○明治42年6月14日死去

平山岩彦 ひらやまいわひこ　熊本県第一区選出　立憲民政党

慶応3年8月生・熊本県出身○熊本県会議員、同参事会員となる、また肥後農工銀行監査役、菊池軌道、熊本電気各㈱取締役となる○当選四回(11補 13 16 17)○昭和17年5月11日死去

平山午介 ひらやまうまのすけ　茨城県水戸市選出　憲政会

明治3年4月生・東京都出身・普通学を修む○郵便貯金局事務官、大阪貯金支局長、東京市電気局監理課長となる、のち台湾総督府評議員、逓信協会名誉会員となる、また八千代生命保険㈱取締役、日本ラミー紡織、台湾拓殖製茶各㈱常務取締役、大沼電鉄、帝国精工、共立興業、機械製作資料社各㈱社長となり、銀座昭興、金時商会各(株)監査役、東京板金機械工業製作所、秋津工業、協和精工各㈱相談役となる○当選一回(12)○昭和34年7月11日死去

平山爲之助 ひらやまためのすけ　青森県第五区選出　立憲政友会

明治7年1月生・青森県出身・東奥義塾卒、のち慶応義塾に学ぶ○農業を営む、村会議員、五所川原堰普通水利組合委員長、青森県会議員、北津軽郡会議員、同参事会員、同議長となる、また陸奥鉄道、津軽酒造各㈱取締役社長、五所川原銀行頭取、青森貯蓄銀行、陸奥銀行各取締役、松木屋呉服店、津軽鉄道各㈱社長、鳴海銀行監査役となるほか、報徳自治善隣会理事長、有限責任報徳信用購買組合長となる○当選一回(15)○昭和35年3月18日死去

平山靖彦 ひらやまやすひこ　広島県第一区選出　中央交渉部

弘化元年10月生・広島県出身○広島藩歩行頭次席、同藩町奉行となり、のち広島県権典事、同権参事、大蔵省、内務省各出仕、広島、奈良、兵庫

各県書記官、奈良博物館長、秋田、大分、佐賀各県知事を歴任す、また錦鶏間祇候となる○当選一回(2)・(貴)(勅選)○大正元年12月9日死去

廣岡宇一郎(ひろおかういちろう)　兵庫県第二区選出　立憲政友会

慶応3年7月生・兵庫県出身・明治29年日本法律学校卒○弁護士の業務に従事す、田中内閣の逓信政務次官、道路会議議員、鉄道会議議員、臨時海事法令調査委員となる、また政友本党総務、党務委員長、立憲政友会顧問となる・支那視察議員団長として派遣さる○当選六回(12 13 14 15 16 17)○昭和16年4月8日死去

廣川弘禪(ひろかわこうぜん)　東京都第三区選出　自由民主党

明治35年3月生・福島県出身・曹洞宗大学に学ぶ○東京市会議員、同参事会員、東京府会議員、同参事会員、東京都会議員、第三次吉田内閣の農林大臣となり、北太平洋の公海漁業条約に署名する全権委員、衆議院国土総合開発特別委員長となる、また東京酒類商業協同組合、東京味噌醤油商業協同組合、東京小売酒販組合各理事長、全国小売酒販組合中央会長、青葉学園理事長、気仙沼冷蔵(株)社長、野草飼料研究協会長となるほか、民主自由党幹事長、自由民主党顧問となる○当選六回(20補22再23 24 25 27)

廣澤辨二(ひろさわべんに)　青森県郡部選出　立憲政友会

文久2年5月生・青森県出身・明治18年駒場農学校獣医科卒○牧畜業に従事し、のち農商務技師、馬政官を歴任す、退官後農牧業を営み、傍ら大日本産馬会理事、産馬同好会幹事となり、雑誌「日本之産馬」主幹となる○当選一回(11)○昭和3年8月8日死去

廣住久道(ひろずみきゅうどう)　静岡県第三区選出　憲政本党

嘉永5年10月生・静岡県出身・漢学を修む○農業を営む、六合村会議員、志太郡会議員、静岡県会議員、同常置委員、所得税調査委員、徴兵参事員となる、また日本赤十字社地方委員となる○当選五回(2 3 4 5 6)○明治43年2月5日死去

廣瀬勝邦(ひろせかつくに)　徳島県選出　民主社会党

大正6年5月生・大阪府出身・昭和16年慶応義塾大学経済学部卒○日本社会党徳島県連合会長、同党中央委員、同党徳島県連副会長、同党本部政策審議会参与、塩業対策、四国総合開発各特別委員会事務局長、民主社会主義連盟理事となる○当選一回(28)

廣瀬貞文(ひろせさだふみ)　大分県第四区選出　無所属

嘉永6年9月生・大分県出身・家塾咸宜園に漢学を修む、明治11年慶応義塾卒、のち刑法、治罪法等法律学を研究す○千葉県属、司法属、大審院書記を歴任後、帰郷し、家塾咸宜園を再興育英に従事す、次いで大分県教英中学校長、内務属、埼玉県尋常師範学校漢文科教授嘱託、台湾総督府事務嘱託、日田町長となる、また上海商務印書館に入り法律書等の翻訳に従事す(著)「淡窓詩話」○当選五回(2 3 4 5 6)○大正3年4月15日死去

廣瀬爲久(ひろせためひさ)　岩手県第二区選出　立憲政友会

明治9年2月生・岩手県出身○(株)仙人製鉄所専務取締役となり、のち社長となるほか、桂川電力、東京電燈、渡良瀬水力電気、関東水力電気、東信電気、中央電力各(株)取締役、京浜電力(株)常務取締役、東京発電、笛吹水力電気、吾妻川電力各(株)監査役となる、また仙人山郵便局長、地方森林会議員、鉄道会議議員となる○当選五回(14 15 16 17 18)○昭和16年3月1日死去

廣瀬鎭之(ひろせちんし)　富山県第六区選出　政友本党

元治元年6月生・富山県出身○漁業及び農業を営む、光針製造、日本電気興業、東方公司、樺太炭

礦各(株)取締役となる○当選三回(11 13 14)○昭和5年10月21日死去

廣瀬德藏(ひろせとくぞう)　大阪府第三区選出　立憲民政党

明治11年5月生・大阪府出身・明治34年関西法律学校卒○大阪府属、司法官試補、高知地方裁判所判事を歴任、のち弁護士の業務に従事す、大阪府会議員、同議長、大阪市会議員、同参事会員となる、また宝塚尼ヶ崎電気鉄道(株)取締役、城北土地、東神火災保険、大阪土地建物、境川運河各(株)監査役、立憲民政党総務となる・第二十六回列国議会同盟会議(ロンドン)並びに第十六回万国議院商事会議(ブラッセル)に議員団長として参列す○当選四回(15 16 17 18)○昭和8年5月8日死去

廣瀬久政(ひろせひさまさ)　山梨県郡部選出　立憲政友会

慶応元年2月生・山梨県出身・東京法学校に学ぶ○東山梨郡書記、同郡会議員、同参事会員、山梨県会議員となり、所得税調査委員、相続税審査委員、山梨県地方種蘭審査委員、同農会特別議員、同副会長、山梨県教育会、同慈善保護会各評議員となる、また七里銀行を創立し取締役となるほか、日本勧業銀行山梨県地方顧問、自由党機関紙甲斐新聞主幹となる○当選三回(7 8 9)○昭和14年9月28日死去

廣瀬正雄(ひろせまさお)　大分県第一区選出　自由民主党

明治39年7月生・大分県出身・東京帝国大学法学部病気中退、昭和6年九州帝国大学法律科卒○日田郵便局長、熊本逓信講習所長、日田市長、衆議院海外同胞引揚及び遺家族援護に関する調査特別委員長、第二次岸内閣の郵政政務次官となる、また改進党中央常任委員、政策副委員長、日本民主党政調会電気通信部長、自由民主党全国組織委員会文化局次長、青年局次長、政調会建設部長、総務、広報委員会副委員長、出版局長となる・中共、ソ連、欧米各国を視察す(著)「贈従五位広瀬久兵衛伝」—広瀬淡窓関係小著作数種—「広瀬五譜(十九巻)」「わが市政方策」「ソ・中・欧州を訪ねて」「新しい日本の進路—自由民主党の課題—」○当選四回(25 26 27 28)

廣野規矩太郎(ひろのきくたろう)　滋賀県選出　日本進歩党

明治18年1月生・滋賀県出身・明治45年京都帝国大学政治科卒○横浜正金銀行員となり、のち第百三十三銀行、滋賀貯蓄銀行、近江信託、琵琶湖ホテル各(株)取締役、滋賀銀行取締役、同頭取、同会長となる、また彦根、大津各商工会議所顧問、全国地方銀行協会常任理事となる○当選一回(21)

ふの部

布施甚七　千葉県第五区選出　立憲政友会
文久3年10月生・千葉県出身・普通学を修む○東金町会議員、同町長、山武郡会議員、所得税調査委員、千葉県会議員となる、また東金銀行頭取となる○当選二回(5 6)○大正8年2月10日死去

布施孫一郎　滋賀県郡部選出　立憲政友会
弘化4年12月生・滋賀県出身○庄屋役、唐川村日吉社祠掌、同教導職試補、伊香郡教導職取締役となり、戸長、所得税調査委員、県勧業諮問会員、滋賀県会議員、郡徴兵参事員、七郷村長となる、また滋賀県蚕糸業取締所頭取、同蚕種検査所監督となる○当選一回(7)○明治44年3月10日死去

深井功　長野県第六区選出　立憲民政党
明治7年8月生・長野県出身・東京専門学校に学ぶ○農業を営む、長野県会議員、同参事会員となる、また産業組合中央会理事、産業組合中央金庫評議員、同常任監事、長野県信用組合連合会長となる○当選一回(15)○昭和18年8月17日死去

深尾竜三　大阪府第六区選出　帝国党
安政5年8月生・旧名(龍三)・大阪府出身・漢学を修む○農業を営む、学務委員、勧業委員、組合村会議員、氷室村長、北河内郡会議員となり、茶業組合議員、地方衛生会員、地方教育会々頭となる、また山城起業銀行、河内酒造会社各取締役となる○当選二回(5 6)○明治40年2月24日死去

深澤吉平　北海道第四区選出　日本進歩党
明治18年8月生・北海道出身○農業を営む、音江村長、北村長、北海道会議員、同参事会員となり、小作、債権債務各調停委員となる、また音江信用購買販売組合長、音江村農会長、北海道酪農販売組合連合会、北海道信用購買販売利用組合連合会各理事、(株)北海道興農公社取締役となる・北海道庁嘱託としてデンマークの農業研究のため渡欧、また派遣軍慰問のため北支那、満州へ派遣される○当選三回(19 20 21)○昭和32年12月15日死去

深澤豐太郎　静岡県第一区選出　翼賛政治会
明治28年5月生・静岡県出身・明治大学、ベルリン大学に学ぶ○栃木県会書記長、衆議院嘱託、農林大臣秘書官、東京市会議員となり、拓務省委員、大東亜省委員となる、また明治大学評議員、順天中学理事となる・第三十二回列国議会同盟会議(ブダペスト)に参列す、また満、ソ、蒙国境方面視察のため派遣さる○当選五回(17 18 19 20 21)○昭和19年12月19日死去

深澤義守　山梨県選出　日本共産党
明治38年10月生・山梨県出身・日本大学政治科に学ぶ○山梨県農地委員、同食糧調整委員となり、農地委員会山梨県協議会長、食糧調整委員会山梨県協議会長となる、また日本亜鉛鉱業㈱社員、関電機(有)取締役、日本社会党山梨県連組織部長、日本農民組合山梨県連書記長となる○当選一回(24)

深澤米太郎　静岡県第四区選出　立憲政友会
万延元年9月生・静岡県出身・漢学を修む○農、蚕、牧畜業を営む、戸長、芝富村長、柚野村長、同村会議員、富士郡会議員、同参事会員、同議長、静岡県会議員となり、富士郡蚕糸同業組合長、同農会副会長、同畜産組合長、同茶業組合会長、静岡県畜産組合連合会副組長、同蚕糸同業組合連合会副会長となる、また駿陽生糸、富士蚕業、大宮製材各㈱取締役、大宮銀行、富士軌道各(株)監査役となる○当選一回(14補)○大正11年2月3日死去

深尾竜三　大阪府第六区選出　帝国党
安政5年8月生・旧名(龍三)・大阪府出身・漢学を修む○農業を営む、学務委員、勧業委員、組合村会議員、氷室村長、北河内郡会議員となり、茶業組合議員、地方衛生会員、地方教育会々頭となる、また山城起業銀行、河内酒造会社各取締役となる○当選二回(5 6)○明治40年2月24日死去

深澤吉平　北海道第四区選出　日本進歩党
明治18年8月生・北海道出身○農業を営む、音江村長、北村長、北海道会議員、同参事会員となり、小作、債権債務各調停委員となる、また音江信用購買販売組合長、音江村農会長、北海道酪農販売組合連合会、北海道信用購買販売利用組合連合会各理事、(株)北海道興農公社取締役となる・北海道庁嘱託としてデンマークの農業研究のため渡欧、また派遣軍慰問のため北支那、満州へ派遣される○当選三回(19 20 21)○昭和32年12月15日死去

深澤豐太郎　静岡県第一区選出　翼賛政治会
明治28年5月生・静岡県出身・明治大学、ベルリン大学に学ぶ○栃木県会書記長、衆議院嘱託、農林大臣秘書官、東京市会議員となり、拓務省委員、大東亜省委員となる、また明治大学評議員、順天中学理事となる・第三十二回列国議会同盟会議(ブダペスト)に参列す、また満、ソ、蒙国境方面視察のため派遣さる○当選五回(17 18 19 20 21)○昭和19年12月19日死去

深澤義守　山梨県選出　日本共産党
明治38年10月生・山梨県出身・日本大学政治科に学ぶ○山梨県農地委員、同食糧調整委員となり、農地委員会山梨県協議会長、食糧調整委員会山梨県協議会長となる、また日本亜鉛鉱業㈱社員、関電機(有)取締役、日本社会党山梨県連組織部長、日本農民組合山梨県連書記長となる○当選一回(24)

深澤米太郎　静岡県第四区選出　立憲政友会
万延元年9月生・静岡県出身・漢学を修む○農、蚕、牧畜業を営む、戸長、芝富村長、柚野村長、同村会議員、富士郡会議員、同参事会員、同議長、静岡県会議員となり、富士郡蚕糸同業組合長、同農会副会長、同畜産組合長、同茶業組合会長、静岡県畜産組合連合会副組長、同蚕糸同業組合連合会副会長となる、また駿陽生糸、富士蚕業、大宮製材各㈱取締役、大宮銀行、富士軌道各(株)監査役となる○当選一回(14補)○大正11年2月3日死去

深津玉一郎　愛知県第二区選出　民主自由党
明治35年1月生・愛知県出身・大正14年早稲田大学専門部法律科卒、のち米国コロンビア大学、仏国ソルボンヌ大学に学ぶ○県立半田農学校講師、文部省嘱託として欧米各国の教育制度視察、のち満州国外交部嘱託、満州炭鉱㈱社員、富士産業農場長となり、半田市長となる、また日本自由党総務、渉外部副部長、政調会鉱工業委員長となる○当選二回(22 23)

深見寅之助　愛媛県第三区選出　立憲政友会
明治10年11月生・愛媛県出身○東伯方村長、愛媛県会議員、同議長となる、また伊予綿布同業組合長、日本輸出綿織物同業組合連合会評議員、越智郡農会長、今治瓦斯、愛媛自動車各㈱取締役となる○当選一回(14)○昭和3年3月6日死去

深水清　熊本県第二区選出　国民同盟
明治2年5月生・熊本県出身・明治27年日本法律学校卒○漢城新聞主幹、日韓殖産㈱取締役、京城日報主幹となり、京城民団議員、京城学校組合議員、京城商業会議所副会頭となる、のち熊本米穀取引所理事、九州日日新聞社長となる○当選三回(16 17 18)○昭和17年12月3日死去

深水吉毅　熊本県第二区選出　日本自由党
明治21年2月生・熊本県出身・明治45年明治大学専門部法律科卒○農業を営む、葦北郡農会長、熊本県農会議員、同県会議員、同議長、水俣町長となる、また水俣銀行頭取となる○当選一回(21)○昭和27年10月19日死去

深山聳峠　三重県第六区選出　同志倶楽部
安政5年2月生・三重県出身・漢学を修む○三重県会議員、同常置委員となる○当選三回(3 4 5)○大正元年9月9日死去

福井勇　愛知県第五区選出　自由党
明治36年5月生・愛知県出身・大正15年浜松高等工業学校電気科卒○京都市電気局勤務、京都市嘱託、(株)大隈鉄工所技術員を経て、技術院参技官、兼商工技官を歴任、日本機械学会工作機械部門委員会協会工作機械設置資料調査委員となり、第五次吉田内閣の文部政務次官、科学技術庁参与となる、また自由党科学技術対策特別委員長、情報部、産業部各副部長となる○当選三回(24 25 26)

福井三郎　岡山県第七区選出　政友本党
安政4年5月生・岡山県出身・岡山県師範学校卒○小学校教員となり、のち甲府日日新聞記者、峡中新報主幹となる、次いでハワイに渡航滞遊、帰朝後、農商務省出仕となる、日清戦役に際し渡韓、排日暴徒に対抗し、鶏林奨業団を組織、団長となり対韓事業に従事す、また東京米穀取引所監査役となる○当選六回(8 9 10 11 13 14)○昭和10年12月7日死去

福井三郎　奈良県郡部選出　憲政会
明治2年6月生・奈良県出身・漢学を修む、のち東京法学院に学ぶ○新庄村会議員、高田町会議員、奈良県会議員、同参事会員となる、また高田製糸(株)取締役、高田米穀取引所理事長となる○当選一回(12)○大正13年4月19日死去

福井順一　千葉県第三区選出　自由民主党
明治42年1月生・千葉県出身・早稲田大学に学ぶ○第一次岸内閣の北海道開発政務次官、衆議院国土総合開発特別委員長となる、また泰西映画(株)社長、世界連邦建設同盟顧問、自由党政調会財政金融副部長、自由民主党出版局次長、政調会商工部長、広報委員会副委員長となる・世界連邦会議

（スイス）に日本代表として出席、またソ連邦の招請により訪ソ国会議員団員として同国を視察す○当選三回（25 27 28）

福井準造　神奈川県郡部選出　立憲政友会

明治4年9月生・神奈川県出身・明治24年慶応義塾卒○農業を営む、農商務省嘱託、神奈川県農会副会長となり、司法大臣秘書官となる、また小林毛皮貿易㈱取締役、㈱東京米穀商品取引所常務理事、日本倉庫㈱監査役となる○当選二回（10 11）○昭和12年12月10日死去

福井甚三　奈良県選出　翼賛政治会

明治7年12月生・奈良県出身○生駒土地、大阪商品市場、大和日報各㈱社長、城南土地、日本家禽土地、大阪郊外住宅、大阪現㈱取引、有明炭礦各㈱取締役、炭礦商船、大阪石炭コークス、北鮮産業各㈱監査役となる、また阿部内閣の内務参与官となるほか、奈良県農会長、同出荷連盟会長、小作調停委員、土木会議議員、立憲政友会総務となる・第二十八回列国議会同盟会議（ジュネーブ）に議員団長として参列す○当選七回（14補 15 16 18 19 20 21）○昭和20年1月18日死去

福井直吉　神奈川県第五区選出　自由党

嘉永元年1月生・神奈川県出身・漢、数学を修む○神奈川県会議員、同常置委員、同議長となる、また神奈川県農工銀行頭取、江ノ島電気鉄道㈱取締役、東亜火災保険㈱監査役となる○当選二回（2 3）○大正6年11月13日死去

福井盛太　群馬県第二区選出　自由民主党

明治18年7月生・群馬県出身・大正2年東京帝国大学独法科卒○弁護士の業務に従事す、検事総長、公共企業体等仲裁委員、裁判官訴追委員長となる、またプロ野球コミッショナー、第一東京弁護士会長、日本弁護士連合会長、共立薬科大学理事長となるほか、自由党総務、憲法調査会副会長、自由民主党政調会法務部長、両院議員総会副会長、憲法調査会長となる・各国最高裁判所機構調査のため派遣さる○当選三回（25 27 28）

福江角太郎　福岡県第七区選出　自由党

弘化2年11月生・福岡県出身○農業を営む、福岡県会議員、同常置委員、同副議長、同議長、郡連合会議員、所得税調査委員、企救郡会議員、同参事会員、同議長、郡農会長となる○当選二回（21 28）

福澤桃介　千葉県選出　無所属

明治元年6月生・東京都出身・慶応義塾卒、のち

福岡精一　愛知県郡部選出　立憲政友会

安政2年4月生・愛知県出身・法律学を修む○弁護士の業務に従事す、愛知県会議員となる○当選五回（7 8 9 10 11）○昭和17年4月9日死去

福岡世徳　島根県松江市選出　立憲政友会

嘉永元年10月生・島根県出身・漢学を修め、のち島根県教員伝習校に学ぶ○弁護士の業務に従事す、松江市長となる○当選一回（11）○昭和2年1月30日死去

福家俊一　香川県第一区選出　自由民主党

明治45年3月生・香川県出身・大阪府立生野中学校に学ぶ○大陸新報社長、新申報社長、斯民社長、満州国国務院総務庁、支那派遣軍司令部、興亜院各嘱託、内閣委員となる、また北海水産京阪神魚類荷受㈱社長、京都魚類荷受機関連合会長となる、自由民主党副幹事長、国会対策副委員長となる・第四十八回列国議会同盟会議（ワルソー）に出席す、欧米、ソ連、東南アジア各国を視察す○当選二回（21 28）

福島一造　栃木県第四区選出　憲政本党

安政5年1月生・栃木県出身・漢学を修む○那須郡書記、小川村外九ケ村戸長、那珂村長、栃木県会議員となる○当選一回（6補）○大正7年6月9日死去

福島勝太郎　静岡県郡部選出　立憲政友会

慶応元年5月生・静岡県出身・明治18年東京府中学校、同26年米国エール大学法学部卒○農業を営む、静岡実業銀行取締役となり、次いで扶桑銀行を創立す、また静岡農工銀行監査役、同取締役となる○当選四回（5 7 8 9）○大正10年10月6日死去

福島宜三　福井県郡部選出　大同倶楽部

文久元年3月生・福井県出身・英吉利法律学校に学ぶ○小学校訓導、大津日報主幹、大津商法会議所理事長となり、農商務省御用掛、同属となる、農商務省より商工業視察の嘱託をうけ渡欧す、のち東洋捕鯨㈱監査役、大韓勧農、帝国電燈、東洋電気工業各㈱取締役、東洋生命保険、東京運河土地各㈱社長、金沢電気軌道、城東電気軌道各㈱監査役となる○当選三回（7 8 9）○昭和2年3月22日死去

福島美之助　鹿児島県郡部選出　立憲政友会

安政6年1月生・鹿児島県出身○鹿児島県農工銀行監査役となる○当選一回（9）○大正9年11月23日死去

福田五郎　佐賀県第一区選出　立憲民政党

明治10年9月生・佐賀県出身・明治38年京都帝国大学法科大学卒○司法官試補、福岡地方裁判所、小倉区裁判所各判事、熊本、福島各区裁判所兼地方裁判所、仙台区裁判所、神戸区裁判所兼同地方裁判所各検事を歴任す、のち海運業を営む、濱口内閣の逓信参与官となる○当選三回（15 16 17）○昭和6年6月23日死去

福田重清　茨城県第二区選出　日本進歩党

明治22年4月生・富山県出身・明治42年中央大学法律科卒○日本鉱業㈱に入り、日立鉱山事務所副所長となり、国光製作所、富栄商事各㈱社長、日本炭礦㈱監査役、日本鉱業㈱顧問となる、また日立市長、水戸保護観察所保護司、司法省委員、大政翼賛会茨城県協力会議長、同中央協力会議員となる○当選一回（21）

福田繁芳　香川県第二区選出　日本民主党

明治38年3月生・香川県出身・昭和2年関西大学法律学科卒○大阪商業実修女学校々長事務取扱を経て実業界に入り、㈱日本遠心機製作所代表取締役、報国工業㈱代表取締役、協和化学工業、嘉宝物産、電光社各㈱取締役社長、上越銅山社長、豊山学園理事長、流山鉄道、東海企業、日本土地建物各㈱取締役会長となる、また衆議院文化委員長となる、民主党副幹事長、総務、両院議員総会長、総務委員、国民民主党総務委員、資金局長、改進党中央常任委員となる・東南アジアを視察す○当選四回（22 23 24 26）

福田闘次郎　京都府第一区選出　同交会

明治15年3月生・山口県出身・明治37年関西法律

学校卒○朝鮮馬山浦統営小学校長、京都市会議員、同参事会員、京都府会議員、同産業調査会副委員長となる、また京都製薬所長、内外特殊染工(株)監査役、七寿肥料(株)社長、西部天然資源調査所長、京都外国語大学、同外国語短期大学、同西高等学校各理事となる・南洋方面視察のため、また派遣軍慰問のため議員団長として満州に派遣さる㊎「新日本南進論」「議会制度の革新と指導原理」「敗戦の根源と新日本建設」○当選三回(18 19 20)

福田善三郎(ふくだぜんざぶろう)　岩手県郡部選出　立憲同志会

慶応元年11月生・岩手県出身・明治23年明治法律学校卒○農蚕業を営む、岩手県会議員、長岡村会議員となる、また村農会長、県農会議員、大成信用組合長となる○当選一回(11)○大正13年10月26日死去

福田耕(ふくだたがやす)　福井県選出　第二控室

明治21年12月生・福井県出身・大正10年東京帝国大学政治科卒○東京市主事となり、電気局、道路局勤務を経て、日本無線電信(株)に入社、対欧建設事務所副長、建設、工務各課長となる、また内閣総理大臣秘書官となり、のち華中電気通信、日本タイプライター、大和紙業各株社長、国際電信電話(株)専務取締役、畑中繊維工業(株)会長、福井放送(株)取締役となる○当選一回(19)

福田赳夫(ふくだたけお)　群馬県第三区選出　自由民主党

明治38年1月生・群馬県出身・昭和4年東京帝国大学法科卒○大蔵省に入り、海外駐在財務官附として英仏に駐在し、バーゼル会議、ローザンヌ会議、国際経済会議における帝国代表委員附となる、主計局調査課長、大臣官房秘書課長、官房長、銀行局長、主計局長を歴任、第二次岸内閣の農林大臣となる、また金融財政事情研究会理事長、福田経済研究会長、日本民主党政調会副会長、自由民主党政調会副会長、副幹事長、政務調査会長、幹事長となる・岸総理の訪米に同行、また日ソ漁業交渉に政府首席代表としてモスクワに派遣さる○当選四回(25 26 27 28)

福田辰五郎(ふくだたつごろう)　埼玉県選出　新政会

明治2年10月生・埼玉県出身・明治23年高等商業学校並びに東京法学院卒、のち米国に留学し、エール大学に学び、次いで同33年コロンビア大学卒、ドクトル・オブ・シビルローの学位を受く○検事となる、のち弁護士の業務に従事す○当選一回(18)

福田篤泰(ふくだとくやす)　東京都第七区選出　自由民主党

明治39年10月生・東京都出身・昭和5年東京帝国大学経済科卒○外務事務官、情報局総裁秘書官、内閣総理大臣秘書官、終戦連絡官、総領事を歴任、第三次吉田内閣の経済安定政務次官、経済審議政務次官、衆議院商工委員長、第二次岸内閣の経理府総務長官、日米安全保障条約調印全権委員随員となる、また自由党政調会外交部長、国会対策副委員長、副幹事長、自由民主党総務、副幹事長、外交調査会副会長、広報委員長となるほか、日本消防協会顧問、東京都蹴球協会長、東京オリンピック組織委員会参与となる・MRA世界大会(スイス)に出席し、欧米各国を視察、またマラヤ連邦独立式典に政府副使として参列す○当選四回(24 26 27 28)

福田虎亀(ふくだとらき)　山梨県選出　国民同盟

明治17年7月生・熊本県出身・明治45年東京帝国大学独法科卒○熊本県属、同警部、同葦北、阿蘇、鎮託各郡長、愛知県理事官、福島県、岡山県各警察部長、警察講習所教授兼内務事務官、富山県内務部長を歴任後、福岡県若松市長となり、のち京都府内務部長、山梨県知事を歴任す○当選一回(18)

福田一(ふくだはじめ)　福井県選出　自由民主党

明治35年4月生・福井県出身・昭和2年東京帝国大学仏法科卒○同盟通信社に入り、同社政治部長、シンガポール支局長となる、のち日東製紙(株)監査役となる、第四次吉田内閣の労働政務次官、衆議院内閣委員長となる、また自由党政調会産業部長、情宣局長、副幹事長、中小企業金融対策特別委員長、自由民主党副幹事長、外交調査会副会長となる○当選四回(24 25 26 28)

福田久松(ふくだひさまつ)　埼玉県第二区選出　憲政本党

嘉永元年12月生・埼玉県出身・埼玉県師範学校卒○豊田学校長、入間郡中学連合会議員、同議長、埼玉県会議員、同常置委員、同副議長となる、また学務委員、教育会委員、地方衛生会委員、埼玉県茶業組合連合会議長となる㊎「経済要論」「大日本文明略史」「東洋の立憲政治」○当選四回(2 3 4 6)○大正11年12月1日死去

福田昌子(ふくだまさこ)　福岡県第一区選出　日本社会党

明治45年7月生・福岡県出身・昭和9年東京女子医学専門学校卒、のち九州帝国大学医学部専攻科に学ぶ、医学博士○九大医学部附属医院、済生会福岡病院、至誠会関西支部病院各勤務を経て大阪府衛生課、東京都公衆衛生課等に勤務す、のち婦人問題研究所長兼附属福田診療所長となる、また衆議院図書館運営委員長となるほか、日本社会党中央執行委員、教育宣伝局教育文化部長となる・社会主義インターナショナル大会(ミラノ)に出席す㊎「優生保護法の解説」「未亡人」○当選五回(23 24 25 26 27)

福田又一(ふくだまたいち)　埼玉県選出　憲政会

元治元年8月生・埼玉県出身・東京高等師範学校に学び、明治21年英吉利法律学校卒○弁護士の業務に従事す、神田区会議員、同副議長、東京市会議員、同副議長となる、また破産管財人、大日本博覧会評議員となる○当選三回(10 11 12)○昭和14年1月25日死去

福田民平(ふくだみんぺい)　山口県郡部選出　憲政会

明治10年3月生・山口県出身○農業を営む、都濃郡会議員、同参事会員、山口県会議員、所得調査委員、相続税審査委員となる、また福川銀行頭取となる○当選一回(12)○昭和9年3月31日死去

福田悌夫(ふくだやすお)　山口県第二区選出　翼賛議員同盟

明治28年12月生・山口県出身・大正9年東京帝国大学政治科卒○農業を営む、傍ら著述業に従事す、雑誌「新思潮」を経営す、のち徳山実業実践学校講師、徳山商業学校教諭となり、福川町長となる、また町教育会長、同農会長、都濃郡農会長、同教育会長、山口県農会議員、塩業組合中央会副会長、柏工業㈱社長となる㊎「公民講義」○当選一回(20)

福田喜東(ふくだよしはる)　大分県第二区選出　自由党

明治38年5月生・福岡県出身・昭和3年東京帝国大学独法科卒○千葉県属、社会局属、国際労働機関(ジュネーブ)在勤、社会局事務官、企画院調査官、東亜研究所参与、企画院書記官、商工省、農商務省各課長、商工組合中央金庫監理官、熊本営林局総務部長、千葉県教育民生部長、神奈川県労働部長、神奈川労働基準局長を歴任、のち弁護士の業務に従事す、また大分県森林組合連合会、同林道協会各会長、全国森林組合連合会副会長、全国林道協会監事、民主自由党文化副部長、自由党政調会農林副部長となる○当選二回(24 26)

福地源一郎(ふくちげんいちろう)　東京府東京市選出　無所属

天保12年3月生・長崎県出身・蘭学、英学を学ぶ○幕府外国方に入り、通弁翻訳等に従事、外国奉行支配調役並格、通弁御用頭となる、幕府使節に随行し再度渡欧す、帰朝後私塾開設、また木版刷「江湖新聞」を刊行、のち静岡藩学校御用掛となり、

辞してのち共慣義塾を開き英仏語を教授す、明治以降伊藤博文の渡米に随行、次いで岩倉特命全権大使の外遊に一等書記官として随行、帰朝後東京日日新聞を創刊し、社長となり、東京商法会議所副会頭、東京府会議員、同議長、東京株式取引所理事長となる、のち文学、演劇等に従事、歌舞伎座を創立し座主となる㊎「幕府衰亡論」「幕末政治」（小説「水野閑老」「成吉思汗」）○当選一回（9）○明治39年1月4日死去

福地錢吉（ふくち・せんきち）　三重県第十区選出　立憲国民党

明治元年10月生・三重県出身・第三高等学校に学ぶ○農業を営む、東柘植村長、阿山郡会議員、三重県会議員となる、また伊賀莚叺同業組合長、郡連合産業組合理事、村産業組合長、第八十三銀行取締役となる○当選一回（14）○大正10年4月4日死去

福留清四郎（ふくとめ・せいしろう）　鳥取県郡部選出　中央倶楽部

安政2年11月生・鳥取県出身○農業を営む、鳥取県会議員、同参事会員となる○当選二回（9 10）○大正10年2月8日死去

福永一臣（ふくなが・かずおみ）　熊本県第二区選出　自由民主党

明治40年5月生・熊本県出身・昭和8年東京外国語学校卒○衆議院水産委員長、石橋内閣、第一次岸内閣の運輸政務次官となる、また民主自由党幹事、自由党貿易対策委員長、政調会外交部副部長、総務、自由民主党組織委員会副委員長兼組織総局長、国会対策副委員長、政調会副会長、副幹事長となる・経済親善使節として再度東南アジア諸国を視察、通商及び漁業問題交渉のためソ連邦に派遣さる、また訪伯豪親善議員団として派遣さる○当選五回（23 24 25 27 28）

福永健司（ふくなが・けんじ）　埼玉県第一区選出　自由民主党

明治43年8月生・滋賀県出身・昭和8年東京帝国大学法律科卒○埼玉県地方労働委員、同県副知事、第四次及び第五次吉田内閣の内閣官房長官、国務大臣、中央青少年問題協議会長、再度衆議院議院運営委員長、同内閣委員長、第四十九回列国議会同盟会議日本議員団代表、同接伴委員長、列国議会同盟執行委員、議会制度七十年史編纂委員会委員長となる、また片倉工業㈱取締役、同顧問、県体育協会長、県共済会長となる、自由民主党全国組織委員長、国会対策委員長、総務となる・サンフランシスコ平和会議出席、議会制度調査視察、カナダ国視察のため、また各国政情視察議員団長として派遣さる○当選五回（24 25 26 27 28）

福永伊右衛門（ふくなが・いうえもん）　長野県第一区選出　無所属倶楽部

明治23年2月生・長野県出身・明治45年大阪高等工業学校醸造科卒○長野市長、長野保護観察審

福本清之輔（ふくもと・せいのすけ）　神奈川県第四区選出　憲政会

万延元年6月生・神奈川県出身・漢籍を修む○戸長、村会議員、衣笠村長、三浦郡会議員、同議長、神奈川県会議員となる、また横須賀公正新聞社長となる○当選一回（14）○大正11年8月18日死去

福本寅松（ふくもと・とらまつ）　奈良県郡部選出　立憲政友会

慶応3年4月生・奈良県出身・中等教育を受く○山林業を営む、川上村会議員、同村助役、同村長、奈良県会議員、同参事会員、同議長となる、また県農会議員、吉野材木同業組合連合会議員、同議長、大和電気㈱監査役となる○当選一回（13補）○大正8年12月28日死去

福本誠（ふくもと・まこと）　福岡県郡部選出　立憲国民党

安政4年5月生・東京都出身・司法省法学校に学ぶ○著述業に従事す、また日本新聞記者、九州日報社長兼主筆となる、東邦協会、東亜会の創立に参加す○当選一回（10）○大正10年9月2日死去

藤井伊右衛門（ふじい・いうえもん）　長野県第一区選出　無所属倶楽部

明治23年2月生・長野県出身・明治45年大阪高等工業学校醸造科卒○長野市長、長野保護観察審

会副会長、長野県公安委員、長野市名誉市民、長野県社会福祉協議会長となる、また醸造業を営み、北信酒造組合長、県酒造組合連合会評議員、㈱よしのや社長となる○当選一回（21）

藤井啓一（ふじい・けいいち）　山口県第一区選出　立憲民政党

慶応3年12月生・山口県出身・明治23年東京法学院卒○弁護士の業務に従事す、山口県会議員となり、破産管財人、小作、債務、人事、借地借家各調停委員となる、また下関市商業会議所特別議員、同顧問、山口弁護士会長、朝鮮勧業、長州鉄道各㈱取締役となる○当選三回（14 16 18）○昭和28年6月18日死去

藤井敬愼（ふじい・けいしん）　熊本県第五区選出　立憲民政党

元治元年11月生・熊本県出身・明治15年熊本県師範学校卒、のち英語を修む○小学校訓導、同校長、益城郡視学を歴任し、熊本県会議員、同副議長、同議長となる、また私立済々黌外塾教員兼寮監となる○当選一回（15）○昭和7年8月12日死去

藤井浩然（ふじい・こうねん）　新潟県第三区選出　立憲政友会

明治18年8月生・新潟県出身・明治41年早稲田大学哲学科卒○私立高田英語学校を創立し校長となる、また高田日報主筆、新潟毎日新聞編集局長、越佐新聞社長兼主筆となる㊎「得信ノ要」「孝養集」○当選一回（20）○昭和13年10月23日死去

藤井善助（ふじい・ぜんすけ）　滋賀県郡部選出　立憲国民党

明治6年3月生・滋賀県出身・京都市立商業学校卒、のち上海日清貿易研究所に学ぶ○北五箇荘村長、滋賀県農会長となる、また農業、貿易商、織物商等を営み、天満織物、日本共立生命、関西倉庫、湖南鉄道、近江倉庫、大津電車軌道、日新電機、日本メリヤス、琵琶湖ホテル各㈱取締役社長、その他多数会社の重役となるほか、育英、社会、司法保護事業に従事す、私立天体観測所、東洋美術館を創設す・第十七回列国議会同盟会議（ローマ）に派遣さる○当選三回（10 12 13）○昭和18年1月14日死去

藤井達二（ふじい・たつじ）　青森県第一区選出　立憲政友会

明治24年10月生・東京都出身・明治43年滝水産学校卒○米国における海産市場調査並びに経済界視察のため渡航し、帰朝後横田千之助事務所に勤め、ワシントン会議に際し全権委員随員に随行し再度渡米す、のち藤井事務所を開設す、また身延木材㈱取締役、那須土地㈱取締役、大和木材、青森県農林商事各㈱社長、日本海外興業㈱会長となる○当選一回（19）

藤井達也（ふじい・たつや）　青森県第一区選出　立憲政友会

明治21年7月生・青森県出身・東京帝国大学独法科に学び、のち米国に留学、大正9年シカゴ市ノースウエスタン大学法科卒、ドクトル・オブ・ユーリスの学位を受く○犬養内閣の内務参与官となる、また中央衛生会臨時委員、保健衛生調査会委員、都市計画中央委員会委員となる○当選三回（16 17 18）○昭和9年12月16日死去

藤井忠兵衛（ふじい・ちゅうべえ）　兵庫県第九区選出　立憲政友会

明治3年12月生・兵庫県出身・中等教育を修む○酒造業を営む、中村会議員、同村長、多可郡会議員、兵庫県会議員、同参事会員、同副議長となり、所得税調査委員、同審査委員、地方森林会議員となる、また多可銀行取締役頭取、播丹鉄道㈱取締役となる○当選一回（15）○昭和20年8月27日死去

藤井平治（ふじい・へいじ）　奈良県選出　自由党

明治19年2月生・奈良県出身○奈良県会議員、初瀬町長、奈良県監査委員、奈良県農地委員会協議会長となる、また関鉄工業㈱社長、奈良県森林組合連合会参与、民主自由党幹事となる○当選一回（24）

藤井牧太　熊本県郡部選出　大同倶楽部
万延元年10月生・熊本県出身・漢学を修む、○農業を営む、滑石村長、玉名郡会議員、同参事会員となる○当選一回(9)○昭和16年12月13日死去

藤井正男　広島県選出　国民協同党
明治39年3月生・広島県出身・昭和6年明治大学法学部卒○岡山市会議員、同参事会員、福山市長となる、また大阪橋本組本社理事、興亜パルプ製作所代表社員、岡山重工業㈱取締役社長、藤井産業㈱社長、同会長、藤井商事㈱社長となるほか、岡山機械加工修理工業組合専務理事、同鉄工機械器具統制工業組合監事、国民協同党遊説部長となる○当選一回(22)

藤枝泉介　群馬県第一区選出　自由民主党
明治40年12月生・栃木県出身・昭和5年東京帝国大学法律科卒○秋田県、兵庫県各課長、愛媛、埼玉各県経済部長、群馬県内務部長を歴任し、群馬県副知事となり、第二次鳩山内閣の大蔵政務次官、第一次池田内閣の総理府総務長官となる、また自由民主党国会対策副委員長、副幹事長となり、群馬県治山治水協会長、日本治山治水協会副会長となる・カメルーン国独立式典に特派大使として参列す○当選四回(24 26 27 28)

藤生安太郎　佐賀県第二区選出　日本自由党
明治28年8月生・佐賀県出身・大正7年東京外国語学校支那語科卒、講道館柔道七段○新潟県立村上中学校、陸軍士官学校、東京高等学校、拓殖大学各嘱託教師及び柔道師範を歴任、衆議院議長秘書、米内内閣の逓信参与官、逓信省委員となる、また大日本清風会専務理事、武道公論社長、国政審議調査会理事長、日本地熱調査会常務理事、国際発明㈱社長となるほか、月刊雑誌「道義」を主宰○当選四回(18 19 20 21)

藤岡常彦　熊本県第四区選出　国民協会
嘉永3年8月生・熊本県出身○農業を営む、庄屋代役、庄屋、里正試補、戸長、熊本県会議員、上下益城郡書記、鹿本郡長となる○当選二回(4補 5)○大正8年8月18日死去

藤掛文平　岐阜県郡部選出　立憲政友会
安政3年8月生・岐阜県出身・東京薬学校卒○薬剤師として薬種問屋及び各種薬品の製造販売業を営む、区長、戸長、岐阜県会議員となる○当選一回(7)○大正9年1月30日死去

藤川清助　岩手県第二区選出　立憲政友会
明治元年7月生・岩手県出身○農業を営む、紫波郡会議員、岩手県会議員、見前村長、同村会議員となる、また村農会長、郡農会長、県農会代表者、宅地賃貸価格調査委員、県農会議員となる○当選一回(15)○昭和17年7月11日死去

藤崎朋之　高知県郡部選出　立憲国民党
万延元年5月生・高知県出身○代言人となり、次いで弁護士の業務に従事す、村会議員、村長、村助役、郡会議員、同参事会員、高知県会議員、同副議長、同議長、高知市長となる○当選二回(9 10補)○大正11年4月21日死去

藤崎可賛　長崎県第六区選出　国民協会
安政元年9月生・長崎県出身・対馬藩校に学ぶ○小学校教員となり、のち鶏知村長、厳原町長となる、また士族授産所長となる○当選一回(3)○明治39年12月1日死去

藤澤幾之輔　宮城県第一区選出　無所属
安政6年2月生・宮城県出身・宮城英語学校に学び、のち法律学を修む○代言人となり、次いで弁護士の業務に従事す、仙台市会議員、同参事会員、

同議長、宮城県会議員、同常置委員、同議長となり、法律取調委員、逓信省参政官、内務省参政官、第一次若槻内閣の商工大臣、衆議院議長、枢密顧問官となる、また仙台瓦斯㈱常務取締役、立憲同志会幹事長、憲政会総務、立憲民政党総務、顧問となる○当選十三回(25 6 7 8 9 10 11 12 13 15 16 17)・(貴勅選)○昭和15年4月3日死去

藤澤元造　大阪府郡部選出　又新会
明治7年1月生・大阪府出身・漢学を修む、また共立学校に学ぶ、のち清国を歴遊、時文及び清語を研究す○漢学塾を開設す、また大阪府立高等医学校嘱託教授となる○当選一回(10)○大正13年9月20日死去

藤澤萬九郎　滋賀県第六区選出　立憲政友会
慶応元年11月生・滋賀県出身・明治14年長浜講習学校卒、のち漢学を修む○東浅井郡会議員、同議長、滋賀県会議員、同参事会員、同議長となる、また農業及び売薬商を営み、近江米取引所理事、所得税調査委員、東浅井郡農会副会長、滋賀県山林会評議員となる○当選一回(15)○大正15年3月29日死去

藤代市之輔　千葉県選出　立憲国民党
慶応元年1月生・千葉県出身・法律学を修む○弁護士の業務に従事す、検見川町長となる○当選一回(10)○大正6年3月1日死去

藤田一郎　広島県第一区選出　社会革新党
大正3年1月生・旧名栞・広島県出身・昭和11年東京帝国大学法律科卒○鉄道属、鉄道官を歴任す、のち㈱藤田組副社長、広島バス㈱会長、藤栄工業、藤栄林業各㈱社長となる○当選二回(22 23)

藤田包助　山口県第五区選出　立憲政友会
明治2年4月生・山口県出身・明治33年明治法律学校卒○警視庁属兼警部となる、のち北日本興業㈱専務取締役となる、また逓信大臣秘書官となる○当選一回(15)○昭和20年1月22日死去

藤田高之　広島県第一区選出　立憲改進党
弘化4年7月生・広島県出身・藩校に学ぶ○芸藩学問所句読師、神機隊長、軍監、軍事局書記方となり、監察として奥羽征討に従軍す、次いで同藩裁判用達助、公用人輔となり、広島県大属、同県庁出仕、司法省出仕、同省検務課長、司法丞、元老院権少書記官、東京上等裁判所、横浜始審裁判所各検事を歴任す、のち壬午銀行頭取、播但鉄道㈱取締役社長、東京馬車鉄道㈱監査役となる○当選二回(2補 3)○大正10年5月28日死去

藤田達芳　愛媛県第四区選出　同志会
安政5年6月生・愛媛県出身・明治22年早稲田大学政治科卒○塩製造業を営む、三喜浜食塩骸炭製造名業務執行社員となる○当選一回(4)○大正12年6月21日死去

藤田孫平　福井県第四区選出　同志倶楽部
弘化元年10月生・福井県出身○農業を営む、戸長、国富村会議員、遠敷郡会議員、福井県会議員、同常置委員、同副議長となり、三方郡長、遠敷郡長、京都府新舞鶴町長となる、また三方銀行重役となる○当選二回(1 2)○大正9年2月6日死去

藤田松太郎　兵庫県神戸市選出　立憲政友会
安政6年8月生・兵庫県出身・漢学を修め、のち建築学を学ぶ○土木建築業及び雑貨貿易業を営む、神戸市会議員、兵庫県会議員となる、また阪神電気鉄道㈱取締役、神戸瓦斯、岡山電気軌道、岡山電燈各㈱専務取締役、神戸商業会議所議員となる、この間呉鎮守府、江田島兵学校、神戸デ

パートメントストア等の大建築の請負工事をなすほか、私立神戸盲唖学校を創立経営す○当選一回(7)○昭和13年8月14日死去

藤田胸太郎　山梨県第五区選出　立憲政友会

慶応3年2月生・山梨県出身○山梨県会議員、同参事会員、同議長、上野原町長となる、また北都留郡甲斐絹同業組合長、都留電燈株取締役、同社長、上野原町耕地整理組合長、南北都留甲斐絹同業組合連合会組合長となる○当選一回(15)○昭和2年2月21日死去

藤田茂吉　東京府第四区選出　議員集会所

嘉永5年6月生・東京都出身・明治7年慶応義塾卒○郵便報知新聞主幹となり、自由民権説を唱導す、また日本橋区会議員、同議長、同衛生会長、東京府会議員、同区部会議長となる㊟「文明東漸史」「国会論」、政治小説「済民偉業録」、西洋紀行記「観風叢話」、「春宵閑話」○当選二回(12)○明治25年8月19日死去

藤田吉亨　栃木県第四区選出　進歩党

天保10年6月生・栃木県出身・大田原藩儒に学ぶ○大田原藩少参事、戸長兼学校掛、栃木県出仕、警部、局、那須郡長となり、栃木県会議員、徴兵参事員、大田原町長となる○当選一回(4補)○大正12年9月27日死去

藤田義光　熊本県第一区選出　日本民主党

明治44年11月生・熊本県出身・昭和12年中央大学法学部卒○朝日新聞社に入社、のち大日本兵器(株)調査課長、科学文化新聞社総務部長、出版会社(株)一洋社社長となる、また改進党中央常任委員、政策委員会地方行政部長となる・日本新聞販売協会顧問として欧米各国を視察す○当選二回(24・26)

藤田若水　広島県第一区選出　翼賛議員同盟

明治9年12月生・愛媛県出身・明治31年東京専門学校行政科卒○弁護士の業務に従事す、広島市会議員、広島県会議員、同市部会議長、同参事会員、同副議長となり、第一次近衛内閣の司法参与官、広島市長となる、また広島弁護士会常議員会議長、同副会長、同会長となる・派遣軍慰問のため満州及び北支那へ派遣さる○当選五回(15補・16・17・18・20)○昭和26年12月29日死去

藤沼庄平　栃木県第二区選出　立憲政友会

明治16年2月生・栃木県出身・明治42年東京帝国大学政治科卒○北海道庁属、同事務官補、岡山県都窪郡長、奈良県、鹿児島県、京都府、大阪府各警察部長、茨城県知事、内務省警保局長、社会局参与、新潟県知事を歴任す、のち東京府知事、警視総監、廣田内閣の内閣書記官長、東京都長官兼警視総監となり、枢密顧問官となる・中華民国視察のため派遣さる○当選一回(16)・貴(勅選)○昭和37年1月2日死去

藤野辰次郎　滋賀県第三区選出　三四倶楽部

安政4年12月生・滋賀県出身・普通学を修む○戸長、大阪府会議員、滋賀県会議員となり、破産管財人、所得税調査委員となる、また北海道において、鮭、鱒の缶詰製造業を経営す○当選一回(6)○明治42年7月29日死去

藤野正年　愛媛県郡部選出　立憲政友会

明治4年1月生・大阪府出身・東京法学校において法律を専修す○大阪米穀取引所理事、日本冷蔵舎密、浪花火災保険各株監査役、鬼怒川水力電気、日本染色各株取締役となる○当選一回(13)○昭和18年12月13日死去

藤野政高　愛媛県第一区選出　自由党

安政2年5月生・愛媛県出身・松山藩校明教館に学び、のち法律学を修む○代言人となり、松山代言人組合会長、愛媛県会議員、同常置委員、同議

長、松山市会議員、同参事会員、同徴兵参事会員となる、また日本赤十字社会計監事、評議員、松山実業女学校委員長、伊予教育義会会長並びに理事、海南新聞社長となる○当選三回(123)○大正4年6月30日死去

藤原繁太郎　長崎県第二区選出　日本社会党

明治30年1月生・東京都出身・大正12年早稲田大学商学部卒○日本電報通信社通信記者となる、のち興亜精機、興亜産業各株顧問を経て同社取締役社長となる、また日本漁民組合組合長、日本社会党長崎県支部連合会副会長となる○当選一回(23)

藤原道子　静岡県第二区選出　日本社会党

明治33年5月生・旧姓(山崎)・静岡県出身・大正5年看護婦学校卒○全国農民組合静岡県婦人部長、無産者婦人同盟静岡県組織部長となり、沼津市民館を開設し、諸種の社会事業経営に従事、県方面委員、家事審判制度調査委員、中央社会事業委員、参議院労働、法務各委員長となる、また日本社会党宣伝部次長、婦人部長、中央執行委員、婦人対策委員長、城北文化学院長、城北幼稚園長、くらしの会々長となる・社会主義インターナショナル評議会(ロンドン)に出席、また日本婦人代表として中国を訪問す㊟「婦人代議士の手記」○当選二回(22・23)・(参二回(24)

藤原元太郎　岡山県郡部選出　立憲国民党

慶応2年1月生・岡山県出身・岡山中学校に学ぶ○八浜村長、児島郡会議員、同議長、岡山県会議員、同参事会員、同議長、八浜町長となり、所得税調査委員長、地方森林会議員、郡農会副会長、県農会評議員、八浜水産販売組合長、甲南信用組合長、県信用組合連合会長となる、また児島興業(株)社長、東光銀行専務取締役、三幡軽便鉄道(株)取締役となる○当選一回(12)○大正8年3月6日死去

藤原米造　兵庫県第一区選出　第一控室会

明治23年3月生・兵庫県出身・明治45年神戸高等商業学校卒○東京海上火災保険会社大阪支店に入社、次いで神戸久原商事船舶部に入り、のち海運業を営む○当選一回(16)○昭和5年1月9日死去

藤本捨助　香川県第一区選出　自由民主党

明治27年12月生・香川県出身・大正11年東京高等師範学校、昭和3年東北帝国大学法律科卒、文部省在外研究員として法律学研究のため、米、英、独に留学す○東京高等師範学校助教授、高松高等商業学校教授、大阪商科大学講師、鈴木内閣の農商参与官、衆議院社会労働委員長、社会保障制度審議会総合委員長となる、また香川県総合開発専門委員、日本林業会顧問、日本治山治水協会理事、県治山治水協会長、大日本政治会政調会企画部長、日本進歩党政調会副会長、日本民主党政調会顧問、自由民主党政調会社会部長、総務となる・満州、中国を再度視察す㊟「日本民法総論」○当選四回(20・21・27・28)

藤本虎喜　熊本県選出　国民協同党

明治25年2月生・熊本県出身・大正5年鹿児島高等農林学校農学科卒○熊本県農事試験場技手、地方農林技師、熊本県経済部農務課長、県立農事試験場長を歴任す、のち農業を営み、熊本県農業会常務理事、指導部長となる、また協同民主党政策調査会農林部長、国民協同党中央常任委員となる○当選一回(22)

藤山愛一郎　神奈川県第一区選出　自由民主党

明治30年5月生・東京都出身・慶応義塾大学政治科中退○内閣、通商産業省各顧問、日比賠償交渉全権委員、観光事業審議会長、アジア・アフリカ会議(バンドン)日本政府代表顧問、保健体育審議会長、中近東アフリカ在外公館通商査察使、第一次及び

第二次岸内閣の外務大臣、日米安全保障条約調印全権委員となる、また大日本製糖、日東化学工業各株社長、東京商工会議所、日本商工会議所各会頭、日本ユネスコ協会連盟会長、オリンピック後援会長、自由民主党総務となる・国際連合第十二回総会、同緊急総会、第十三、第十四回総会に日本政府代表として出席す㊎「社長ぐらし三十年」「私の自叙伝」「社長室にて」○当選一回(28)

二神 駿吉 (ふたがみ しゅんきち)
愛媛県第三区選出　立憲政友会
明治元年6月生・愛媛県出身・明治24年東京法学院卒○東京モスリン紡織㈱支配人となり、のち三井物産に入社、名古屋、門司各支店長を経て、大日本人造肥料、合同油脂各㈱専務取締役、台湾肥料、日本油脂、樺太開発各㈱社長となるほか、朝鮮油脂、満州油脂、日本硫黄、日産火災海上保険、大日本特許肥料、宇部窒素工業、宇部興産各㈱取締役、日本グリセリン同業会長、中央大学監事、同理事となる○当選一回(16)○昭和36年10月1日死去

二木 洵 (ふたつぎ じゅん)
長野県第七区選出　立憲政友会
明治7年11月生・長野県出身○村会議員、東筑摩郡会議員、同参事会員、長野県会議員、同参事会員、所得調査委員となる、また組合製糸筑摩社長、東筑摩蚕種同業組合長、蚕糸中央会議員、県農会議員となる○当選一回(15)○昭和11年1月29日死去

二田 是儀 (ふただ これのり)
秋田県第一区選出　議員倶楽部
嘉永3年11月生・秋田県出身・漢学を修む○南秋田郡典農村の内荒蕪の草野六百余町歩を開拓し、二田村を創設す、また秋田鉄道の敷設に尽す○当選二回(1・2)○明治43年1月23日死去

二田 是儀 (ふただ これのり)
秋田県第一区選出　日本自由党
明治28年7月生・秋田県出身・大正10年東京帝国大学印度哲学科卒○多年天王村長となり、秋田県会議員となる、また南秋田郡農会長、同郡町村長会長、秋田医療購買利用組合連合会長、農林省委員、大政翼賛会南秋田郡支部長となる○当選一回(21)

二見 甚郷 (ふたみ じんごう)
宮崎県選出　立憲政友会
明治21年10月生・宮崎県出身・大正4年東京帝国大学政治科卒○領事官補、外交官補、講和全権委員随員、公使館三等書記官(オーストリア国在勤)、同二等書記官(オーストリア国在勤)を歴任す、のちタイ国駐剳特命全権公使となり、宮島市長、宮崎県知事となる○当選一回(16)・㊍一回(5)

渕 通義 (ふち みちよし)
宮崎県第一区選出　自由党
明治43年11月生・宮崎県出身・昭和6年宮崎高等農林学校林学科卒、農学博士○東京帝国大学農学部嘱託、全国木材組合連合会常務理事、日本林業技術協会理事となり、日本農業経済研究所長となる㊎「北支蒙彊の経済と林業」○当選一回(24)

渕田 長一郎 (ふちた ちょういちろう)
熊本県選出　日本自由党
明治21年8月生・熊本県出身・大正6年早稲田大学専門部政治経済科卒○酒造業を営む、熊本県会議員、同参事会員、人吉市会議員、同議長となり、人吉市長となる、また熊本県酒造組合連合会副会長、日本茶業㈱取締役となる○当選一回(22)

渕上 房太郎 (ふちがみ ふさたろう)
福岡県第二区選出　自由民主党
明治26年6月生・福岡県出身・大正7年東京帝国大学政治科卒○専売局書記、同副参事、兵庫県明石、川辺各郡長、長崎県地方課長、石川県商工水産課長、宮崎県地方課長、三重県学務部長、青森県警察部長、岩手、大分、広島各県総務部長、沖縄県知事を歴任す、のち日本医療団理事、日本油機製造㈱監査役、日本木材㈱常任監事、福岡燃料㈱社長、南方同胞援護会副会長となる、また日本自由党総務、衆議院運輸委員長となる・全琉球

戦没者追悼式に参列のため派遣さる㊎歌集「ひうが」、「現代産業と生産方式」○当選三回(23・24・27)

舟崎 由之 (ふなざき よしゆき)
新潟県第一区選出　民主党
明治27年3月生・東京都出身・大正6年早稲田大学理工学部機械科卒○東京鋼材㈱社員、東京鋼帯工業、三国鋼帯製造所、松本茂八商店各㈱取締役となり、日本特殊鋼材工業、日本航空機工業各㈱取締役社長を経て、日本金属産業㈱取締役社長、同相談役、(資)三舟商会代表社員、佐渡新報、日本ペニシリン製薬、日本帯鉄各㈱社長となる、また日本進歩党総務委員、民主党政調会副会長、早稲田大学商議員となる○当選二回(22・23補)

船越 弘 (ふなこし ひろむ)
広島県第三区選出　自由党
明治40年5月生・広島県出身・昭和7年京都帝国大学独法科卒○三次町会議員、同議長、双三郡町村会議長会長、三次市長となる、また広島県薪炭生産組合理事長、広島燃料興業、船越林産各㈱取締役、米田物産㈱副社長となるほか、自由党人事副部長、政調会林業副部長となる○当選二回(24・26)

船坂 與兵衛 (ふなさか よへえ)
岐阜県第七区選出　同盟倶楽部
安政4年3月生・岐阜県出身・漢学を修む○農業を営む、学校世話役、国府村副戸長、小学校訓導、荒城神社祠官、学務委員、岐阜県会議員、吉城郡会議員となる、国益社を創設し養蚕、植樹に努む○当選一回(2)○大正3年10月13日死去

船田 享二 (ふなだ きょうじ)
栃木県第一区選出　改進党
明治31年1月生・東京都出身・大正10年東京帝国大学英法科卒、ローマ法研究のため伊、仏、英、独に留学す、法学博士、昭和20年度学士院恩賜賞を授与さる○京城法学専門学校講師、京城帝国大学助教授、教授、附属図書館長を歴任す、のち作新学館女学校長、作新学院長となる、また芦田内閣の国務大臣、行政調査部総裁、賠償庁長官、行政管理庁長官、中央行政監察委員会委員長となるほか、協同民主党、国民協同党各政務調査会長、国民民主党最高顧問となる㊎「羅馬元首政の起源と本質」「羅馬和法提要」「法律思想史」「羅馬法」(訳書)「カイウス著、法学提要」○当選三回(22・23・24)

船田 中 (ふなだ なか)
栃木県第一区選出　自由民主党
明治28年4月生・栃木県出身・大正7年東京帝国大学英法科卒○内閣書記官、東京市助役並びに市長代理、内閣総理大臣秘書官、第一次近衛内閣の外務参与官、次いで法制局長官、衆議院内閣委員長、第三次鳩山内閣の国務大臣、防衛庁長官、日米安全保障条約調印全権委員顧問を歴任、また日本商工会議所、東京商工会議所各理事長、作新学院理事長、㈱ニッポン放送相談役、日東金属鉱山、小田急電鉄各㈱監査役、日韓親和会長となる、自由党総務、憲法調査会長、自由民主党総務、外交調査会長、政務調査会長となる・第二十八回(ジュネーブ)、第三十五回(オスロ)の列国議会同盟会議に参列、また議会制度調査視察、次いで各国視察のため議員団長として派遣さる㊎「自衛軍備」「世界は斯く動く」○当選九回(17・18・19・20・21・25・26・27・28)

船渡 佐輔 (ふなと さすけ)
岐阜県第一区選出　日本進歩党
明治21年7月生・岐阜県出身・明治43年早稲田大学商科卒○農業及び山林業を営む、洞戸村長、洞戸郵便局長、関町会議員、岐阜県会議員となる、また岐阜県水産会長、岐阜県貨物自動車運送事業組合理事長となる○当選一回(21)○昭和24年6月30日死去

麓 純義 (ふもと じゅんぎ)
沖縄県第四区選出　立憲民政党
元治元年8月生・鹿児島県出身・明治23年東京法学院卒○代言人となり、次いで弁護士の業務に従事す、那覇市長となる、また政友本党政務調査会長となる○当選四回(5・11・14・15)○昭和10年2月8

日死去

降旗徳弥（ふるはた とくや）　長野県第四区選出　自由党

明治31年9月生・長野県出身・大正12年早稲田大学商学部卒○長野県会議員、国務大臣秘書官、第二次吉田内閣の遞信大臣となり、のち松本市長となる、また信濃日報副社長、長野県地方木材会社理事、海外移住中央協会理事長、早稲田大学商議員、民主党総務委員、民主自由党副幹事長、自由党総務となる・サンパウロ州四百年祭に慶祝使節議員団長として派遣さる㊐「県電問題の真相」○当選四回(22 23 24 26)

降旗元太郎（ふるはた もとたろう）　長野県第四区選出　立憲民政党

元治元年5月生・長野県出身・明治18年東京専門学校卒○農蚕業を営む、本郷蚕種業組合長、郡蚕種業連合会長、長野県会議員、同参事会員、鉄道会議議員、加藤(高明)内閣の陸軍政務次官、のち鉄道政務次官となり第一次若槻内閣に留任、次いで海軍政務次官となる、また貧民救療院、出獄人保護院、松本商業協会、東筑農事改良会、信濃蚕業伝習所等を設立、商業電報、内外新報、扶桑新報、信陽日報、鎮西日報等の新聞社を各地に創立するほか、信陽日報社長、民政社長、大連株式商品取引所(株)監査役、憲政会総務、立憲民政党総務となる○当選十一回(5 6 7 8 9 12 13 14 15 16 17)○昭和6年9月15日死去

古井由之（ふるい よしゆき）　岐阜県郡部選出　立憲政友会

慶応元年2月生・岐阜県出身・漢学を修む○郡書記、垂井町長、同町会議員、岐阜県会議員、同参事会員、不破郡会議員、同参事会員となり、所得税調査委員、郡教育会長、地方森林会員となる、また農業、羽二重織物工業を営み、県農会理事、郡蚕糸業組合長、美濃実業銀行監査役、高須貯蓄銀行、大垣貯蓄銀行、大垣共立銀行各取締役、(株)丸三商店社長となる○当選四回(7 8 9 10)○昭和12年8月23日死去

古井喜實（ふるい よしみ）　鳥取県選出　自由民主党

明治36年1月生・鳥取県出身・大正14年東京帝国大学英法科卒○内務書記官、内務大臣秘書官、内務省地方局長、茨城県知事、内務省警保局長、愛知県知事、内務次官を歴任し、のち弁護士となり、地方自治協会名誉会長、井之頭学園理事となる、また改進党政策副委員長、日本民主党政調会副会長、総務、党基本問題調査会副会長、治安対策特別委員長となる・チェッコスロヴァキア親善訪問のため派遣さる、また欧米、中共各国を視察す㊐「逐条地方自治法提義」「選挙制度」「欧米一見随感」「日本はどこへ行く」○当選四回(25 26 27 28)

古川清（ふるかわ きよし）　島根県第六区選出　立憲政友会

明治8年1月生・島根県出身・漢、数学を修め、のち北京において漢文を研究す○三等郵便局長となる、しばしば支那、印度、南洋群島、西比利亜を視察す○当選二回(13 15)○昭和8年6月13日死去

古川黄一（ふるかわ きいち）　長崎県郡部選出　憲政本党

弘化4年7月生・長崎県出身・漢学を修む○平戸藩校維新館学員、近侍職となる、のち平戸士族授産生産社副社長、同社長となる、また第九十九銀行取締役、同頭取となる○当選二回(7 8)○大正3年11月3日死去

古川丈吉（ふるかわ じょうきち）　大阪府第四区選出　自由民主党

明治37年7月生・大阪府出身・昭和5年東京帝国大学政治科卒○東京市書記、主事、杉並区会議員となる、また京浜魚類配給統制協会計画課長、東京水産物統制(株)参事、東京魚類、旭冷蔵工業各(株)取締役となるほか、自由党政調会財政金融副部長、自由民主党政調会商工、社会各副部長、国会対策副委員長、全国組織副委員長、広報副委員長、同和対策、オリンピック準備各特別委員会副委員長となる○当選二回(27 28)

古河和一郎（ふるかわ わいちろう）　兵庫県第四区選出　大日本政治会

明治20年6月生・兵庫県出身・関西大学専門部法律科に学ぶ○税務署属となり、のち一ノ宮商業銀行大阪支店長を経て、大阪市北浜に株式仲買店を経営、次いで計理士を開業す、大阪市、大阪府各計理士会長、日本連管工業社理事長となる○当選二回(19 21)○昭和20年7月9日死去

古島義英（ふるしま よしひで）　埼玉県第四区選出　自由民主党

明治18年6月生・埼玉県出身・明治39年日本大学法律科卒○司法官試補となり、のち弁護士の業務に従事す、第一次吉田内閣の司法政務次官、裁判官弾劾裁判所裁判長、臨時法制調査会委員長、裁判官訴追委員長となる、また民主自由党相談役、常任総務、自由党総務、自由民主党相談役となる・タイ国視察のため派遣さる○当選七回(17 20 22 23 24 25 27)○昭和37年8月31日死去

古荘嘉門（ふるしょう かもん）　熊本県第三区選出　国民協会

天保7年12月生・熊本県出身・和漢学を修む○司法省出仕、大阪上等裁判所判事、内務省御用掛、青森県大書記官、大分県書記官、第一高等中学校長となる、のち台湾総督府民政局事務官、群馬、三重各県知事を歴任す、また熊本国権党総理となる○当選五回(1 2 3 4 6)・(貴・勅選)○大正4年5月11日死去

古田喜三太（ふるた きさんだ）　広島県第一区選出　大日本政治会

明治21年2月生・広島県出身○広島県会議員、同参事会員、広島市農会議員、商工省委員となる、また祇園高等女学校理事長、県拓務協会理事、同移住組合理事、広島特殊木工品工業組合理事長、三篠信用組合専務理事、大政翼賛会広島市顧問となる・派遣軍慰問のため北支那へ派遣さる○当選三回(19 20 21)○昭和20年8月6日死去

古野孫太郎（ふるの まごたろう）　福岡県郡部選出　立憲政友会

文久2年1月生・福岡県出身・明治15年福岡師範学校卒○農業を営む、宗像中学校助教諭となる、のち河東村長、福岡県会議員、同参事会員となる○当選一回(10)○昭和6年1月29日死去

古谷新作（ふるや しんさく）　山口県第一区選出　立憲政友会

天保14年9月生・山口県出身・漢籍を修む、また砲術及び西洋兵学を学ぶ○花陽丸艦砲司令、山口藩砲兵塾舎長、同藩兵学寮助教、山口県一番砲隊少尉となり、陸軍省出仕、陸軍上等監護となる、のち農業を営み、村会議員、同議長、山口県会議員、同常置委員、同副議長、同議長、佐波郡会議員、同参事会員となり、徴兵参事員、地方衛生会員、協同会社取締役となる○当選三回(2 5 6)○大正10年5月1日死去

古谷久綱（ふるや ひさつな）　愛媛県郡部選出　立憲政友会

明治7年6月生・愛媛県出身・京都同志社卒、のちベルギーに留学、ブラッセル大学政治科卒○東京高等商業学校教授、帝室制度調査局秘書、内閣総理大臣秘書官、韓国統監秘書官、枢密院議長秘書官、式部官、李王職御用掛を歴任す○当選二回(12 13)○大正8年2月11日死去

古屋菊男（ふるや きくお）　山梨県選出　日本民主党

明治21年10月生・山梨県出身・大正元年金沢医学専門学校卒、のち京都医科大学大学院に学ぶ○山梨県会議員、同副議長、県公安委員となる、また神戸日本海員掖済会病院副院長を経て医師を開業、のち浅間村国民健康保険診療所長、結核予防会県支部長、山梨療養所長となるほか、改進党中央常任委員、社会保障制度調査特別委員長となる○当選一回(26)

古屋貞雄　山梨県選出　日本社会党

明治22年12月生・山梨県出身・大正8年明治大学法律科卒○弁護士の業務に従事す、山梨県監査委員となる、また社会運動に従事、日本農民組合中央執行委員、山梨県連執行委員長、全国引揚者団体連合会事務局長、同副委員長となり、日本社会党中央執行委員、代議士会副会長、会計監査、同党県連会長となる○当選三回(25 26 27)

古屋専蔵　山梨県第三区選出　巴倶楽部

安政元年3月生・山梨県出身○御代咲村戸長、同村会議員、東八代郡会議員、山梨県会議員、県臨時道路河川調査委員、県地方森林会議員となる、また大日本坑油㈱、東京実業銀行、秋田銀山、富士身延鉄道、早川電力各㈱重役となる㊒政党の解剖」「農業協同組合の理論と実践」○当選一回(1)○大正13年7月25日死去

古屋善造　岐阜県郡部選出　中正倶楽部

嘉永2年6月生・岐阜県出身・尾張明倫堂に学ぶ○農業を営む、学区取締、恵那郡書記、岐阜県会議員、大井村長、大井町長となる○当選一回(8)○明治43年1月5日死去

古屋慶隆　岐阜県第三区選出　翼賛政治会

明治12年12月生・岐阜県出身・明治36年明治大学法律科卒○弁護士の業務に従事す、山梨県監査委員となり、また社会運動に従事、日本農民組合中央執行委員、山梨県連執行委員長、全国引揚者団体連合会事務局長、同副委員長となり、日本社会党中央執行委員、代議士会副会長、会計監査、同党県連会長となる○当選三回(25 26 27)

古屋専蔵　山梨県第三区選出　巴倶楽部

安政元年3月生・山梨県出身○御代咲村戸長、同村会議員、東八代郡会議員、山梨県会議員、県臨時道路河川調査委員、県地方森林会議員となる、また大日本坑油㈱、東京実業銀行、秋田銀山、富士身延鉄道、早川電力各㈱重役となる㊒政党の解剖」「農業協同組合の理論と実践」○当選一回(1)○大正13年7月25日死去

古屋善造　岐阜県郡部選出　中正倶楽部

嘉永2年6月生・岐阜県出身・尾張明倫堂に学ぶ○農業を営む、学区取締、恵那郡書記、岐阜県会議員、大井村長、大井町長となる○当選一回(8)○明治43年1月5日死去

古屋慶隆　岐阜県第三区選出　翼賛政治会

明治12年12月生・岐阜県出身・明治36年明治大学法律科卒○農業を営む、町会議員、所得税調査委員となり、また社会運動に従事、日本農民組合中央執行委員、山梨県連執行委員長、全国引揚者団体連合会事務局長、同副委員長となり、日本社会党中央執行委員、代議士会副会長、会計監査、同党県連会長となる○当選三回(25 26 27)

への部

別所喜一郎　滋賀県選出　日本進歩党

明治23年3月生・滋賀県出身・明治41年県立八幡商業学校卒○醤油醸造業を営む、甲賀郡会議員、同町長、滋賀県会議員、同議長、水口町会議員、滋賀県町村長会長、滋賀司法保護委員会委員長となる、滋賀県選挙管理委員会委員長となる、また甲賀酒造㈱を創立し取締役社長となり、滋賀相互銀行監査役、県公明選挙推進協議会長となる・派遣軍慰問のため満州へ派遣さる○当選一回(21)

ほの部

帆足計　東京都第四区選出　日本社会党

明治38年9月生・大分県出身・昭和6年東京帝国大学経済科卒○日本経済連盟調査課長、重要産業協議会事務局長、経済同友会幹事、住文化協会理事長、商工省、経済安定本部各参与、日本産業協議会常務理事、経済復興会議幹事長等となり、自由人権協会、日中友好協会各理事、日ソ協会常任理事、日本チェコ協会理事長、新世界レコード㈱社長となる、また経済評論家として立ち、傍ら著述業に従事す・平和と通商貿易のため、しばしばモスクワ、北京を訪問、日中貿易協定を結ぶ、また欧州、東南アジア各国を視察す㊒「ソ連・中国紀行」「見てきた中国」「日本経済復興への道」○当選四回(25 26 27 28)・㊒一回(1)

帆足隼太郎　長崎県郡部選出　立憲政友会

嘉永3年10月生・長崎県出身・普通学を修む○長崎県会議員、同常置委員、同参事会員、同議長となる、また長崎県農工銀行頭取となる○当選二回(8 11)○大正12年8月16日死去

保科善四郎　宮城県第一区選出　自由民主党

明治24年3月生・宮城県出身・大正14年海軍大学校卒、昭和6年米国エール大学卒○海軍中将となる、その間米国大使館附武官、海軍大学校教官、海軍省軍務局第一課長、妙高、鳥海、陸奥各艦長、軍務局次長、海軍化兵戦部長、軍務局長等を歴任、在任中世界各国を視察す、戦後仙台育英会、東京青葉会各理事長、東北共同化学工業㈱会長、経団連防衛生産委員会審議室委員となる、また日本民主党幹事、自由民主党政調会国防部長、治安対策、対外経済協力各特別委員会副委員長となる・戦後の軍事情勢視察のため東南アジア、中近東、欧米各国を視察す、また岸首相に随行日米会談に参加す○当選二回(27 28)

保科陽治　島根県郡部選出　憲政会

明治9年10月生・島根県出身・明治30年東京専門学校邦語政治科卒○農業を営む、出西村会議員、学務委員、同村長、島根県会議員、同参事会員、簸川郡会議員となり、所得税調査委員、村農会長、県農会幹事となる○当選一回(12)○昭和20年2月7日死去

保科善四郎　宮城県第一区選出　自由民主党

明治24年3月生・宮城県出身・大正14年海軍大学校卒、昭和6年米国エール大学卒○海軍中将となる、その間米国大使館附武官、海軍大学校教官、海軍省軍務局第一課長、妙高、鳥海、陸奥各艦長、軍務局次長、海軍化兵戦部長、軍務局長等を歴任、在任中世界各国を視察す、戦後仙台育英会、東京青葉会各理事長、東北共同化学工業㈱会長、経団連防衛生産委員会審議室委員となる、また日本民主党幹事、自由民主党政調会国防部長、治安対策、対外経済協力各特別委員会副委員長となる・戦後の軍事情勢視察のため東南アジア、中近東、欧米各国を視察す、また岸首相に随行日米会談に参加す○当選二回(27 28)

保科陽治　島根県郡部選出　憲政会

明治9年10月生・島根県出身・明治30年東京専門学校邦語政治科卒○農業を営む、出西村会議員、学務委員、同村長、島根県会議員、同参事会員、簸川郡会議員となり、所得税調査委員、村農会長、県農会幹事となる○当選一回(12)○昭和20年2月7日死去

保良浅之助　山口県第一区選出　立憲政友会

明治16年4月生・山口県出身○下関市会議員、同副議長となる、また下関市商工会議所副会頭、下関救難会長、下関朝鮮少年教養会長、下関衛生組合連合会顧問、籠寅製函、籠寅組、昭和冷凍製氷各㈱社長となるほか、籠寅演芸部を起し、全国各地に劇場を経営す○当選二回(17 18)

保利茂　佐賀県選出　自由民主党

明治34年12月生・佐賀県出身・大正13年中央大学経済科卒○毎日新聞政治部記者を経て、農林大臣秘書官、第一次吉田内閣の商工政務次官、第三次吉田内閣の労働大臣、厚生大臣臨時代理、内閣官房長官、第五次吉田内閣の農林大臣、衆議院議院運営委員長、鉄道建設審議会長を歴任、また民主党幹事長、自由党総務、自由民主党相談役、総務、党基本問題調査会副会長、医療対策特別委員長、総務会長となる・議員団長として欧米各国視察へ、またブラジル、オーストラリヤ訪問親善使節議員団長として派遣さる○当選七回(21補 22 24 25 26 27 28)

穂積七郎　愛知県第五区選出　日本社会党

明治37年9月生・東京都出身・昭和5年東京帝国

大学経済科卒○商工省勤務、三年にして退官、日本労働総同盟に加盟、同時に日本労働学校主事及び雑誌「労働日本」主幹となる、また文筆業のかたわら民間青年運動に携わり、昭和研究会委員、日本評論家協会理事、産業報国会参事、言論報国会理事、雑誌「中央公論」編集顧問となる、国民党組織部長、国民協同党中央常任委員となり、のち日本社会党（左派）に入党、日本社会党外交部長、護憲委員長となる・さきに中国、ソ連邦、東欧諸国を訪問す㊟「労働新体制研究」○当選四回（22 26 27 28）

法貴 發（ほうき はつ） 兵庫県第三区選出　弥生倶楽部

弘化3年8月生・兵庫県出身・漢学を修む○大蔵省租税寮出仕、静岡県権中属、中属、福岡県中属、権大属、兼任判事補、一等属を歴任す、のち自由民権論を唱導し、自由党の結成に参加す、兵庫県会議員、同常置委員となる㊟「官令類編」「英国上院下院沿革評論」「国安論」「日本外史辨妄」「政論提要」○当選一回（1）○明治23年12月23日死去

法橋 善作（ほっきょう ぜんさく） 鳥取県郡部選出　立憲政友会

弘化4年9月生・大阪府出身・漢学を修む○大阪市会議員、大阪商業会議所議員、同副会頭となる、また鉱山業、海産貿易商等を営み、大阪貿易取締会所監事、帝国工業株理事、日本海上保険会社支配人、中国鉄道、日東漁業各（株）取締役となるほか、大阪築港研究会を創立、また北米セントルイス大博覧会日本通運館総務委員として渡米す○当選一回（11）○大正12年2月19日死去

坊 秀男（ぼう ひでお） 和歌山県第一区選出　自由民主党

明治37年6月生・和歌山県出身・昭和5年東京帝国大学法律科卒○都新聞、東京日日新聞各政治部に勤務し、のち財政経済弘報社取締役社長を経て、財経詳報社取締役社長となる、第一次鳩山内閣の首都建設政務次官、第一次岸内閣の大蔵政務次官、自由党政調会財政金融副部長、日本民主党情報局次長、経理局長、政調会大蔵副部長、自由民主党国会対策副委員長、政調会副会長、四国地方開発特別委員会副委員長、政調会税制調査会副会長、災害対策本部副部長となる○当選四回（25 26 27 28）

傍士 定治（ぼうじ ていじ） 高知県第三区選出　立憲政友会

明治8年4月生・高知県出身・東京帝国大学法科大学に学ぶ○高知県会議員となり、のち大阪市主事、同東区長となる、また鶏林鉱業、日本ゼラチン各（株）取締役、東大阪土地建物、ライト商会各（株）監査役となる○当選一回（15）○大正13年8月30日死去

北條 秀一（ほうじょう ひでいち） 東京都第七区選出　民主社会党

明治37年5月生・兵庫県出身・昭和5年東京商科大学卒○南満州鉄道（株）拓殖、養成、庶務各課長、参与を経て社員会事務局長となる、帰国後引揚同胞対策審議会委員、在外財産問題審議会委員となり、社団法人引揚者団体全国連合会顧問、全国陸運貨物協会々長、更生事業協力会理事長、憲法擁護新国民会議事務局長となる、また日本社会党東京都支部連合会顧問、長期政策副委員長、民主社会党東京都連合会委員長となる㊟「道は六百八十里（満州から日本へ）」「正義を求めて（在外財産補償問題）」○当選一回（28）・（参）一回（1）

朴 春琴（ぼく しゅんきん） 東京府第四区選出　翼賛議員同盟

明治24年4月生・朝鮮慶尚南道出身・密陽漢文書塾及び日語学校卒○相救会及び相愛会総本部を設立し副会長となり、同会大阪本部、愛知県本部各会長を兼ねるほか、相愛会館常務理事となる、また鉱山業を営み、日鮮起業株常務取締役、片倉生命保険（株）顧問、やまと新聞社顧問となる○当選二回（18 20）

星 亨（ほし とおる） 栃木県第一区選出　立憲政友会

嘉永3年4月生・東京都出身・開成所に学ぶ、のち英国ミドル・テンプル法学院に学び、バリスターの称号を受く○紀州藩洋学助教、同和歌山兵学寮英語教師を経て、大阪府立洋学校訓導、大阪開成所小助教、神奈川県二等訳官、兼県立英語学校長、租税寮御雇、同出仕、租税権助、横浜税関長、大蔵省理事官、英国出張、帰朝後司法省附属代言人となり、次いで弁護士の業務に従事す、衆議院議長、駐米特命全権公使、第四次伊藤内閣の逓信大臣となる、また東京市会議員、同参事会員、同議長となる○当選四回（2 3 4 6）○明治34年6月21日死去

星 一（ほし はじめ） 福島県選出　民主党

明治6年12月生・福島県出身・明治27年東京商業学校、同34年コロンビア大学卒○ニューヨークにて新聞「日米週報」、英文「ジャパン・エンド・アメリカ」を発刊す、帰朝後、小名木川製薬所を創立し製薬事業に従事、次いで星製薬、戦友共済生命保険、低温工業各（株）社長となる、また星製薬商業学校長、星薬学専門学校理事長、日本進歩党会計監督、同顧問となる・万国新聞記者大会（パリ）に出席す㊟「英文・日本商工便覧」「官吏学」「選挙大学」「英文・支那の歴史概略」「デモクラシーの作法」○当選四回（10 20 21 22）・（参）一回（1）○昭和26年1月19日米国にて死去

星 松三郎（ほし まつさぶろう） 宮城県郡部選出　憲政本党

安政2年5月生・東京都出身・漢学及び英学を修む○勧業世話役、学校世話役、芝区会議員、同議長代理者、同学務委員長、東京市会議員、徴兵参事員となる、また帝国水産、日本織物、品川電燈各株専務取締役、日本木材、宮城商業銀行、十二商品取引所各株監査役となる○当選三回（5 6 9補）○明治39年4月18日死去

星 廉平（ほし れんぺい） 宮城県第二区選出　立憲政友会

明治19年1月生・宮城県出身・宮城県立第二中学校卒○宮城県会議員、同県治水会委員となる、また東北電燈、黒沢尻電力各株重役となる・満州、朝鮮、蒙古方面及び台湾方面視察のため派遣さるる○当選三回（15 17 18）

星島 二郎（ほしじま じろう） 岡山県第二区選出　自由民主党

明治20年11月生・東京都出身・大正6年東京帝国大学独法科卒○広田内閣の鉄道参与官、米内内閣の司法政務次官、第一次吉田内閣の商工大臣、国務大臣、講和会議全権委員、衆議院人事委員長、裁判官弾劾裁判所裁判長、衆議院議長、皇室会議議員、皇室経済会議議員となる、また自由党総務会長、日本民主党最高委員、自由民主党顧問、党基本問題調査会長となるほか、日本信用販売（株）相談役、日本繊維新聞社会長、海運造船振興協議会長、全国河川総合開発協議会長、日本女子大学、共立女子大学各理事となる・第三十一回（ブラッセル）、第四十二回（ワシントン）列国議会同盟会議に議員団長として参列、またアルゼンチン独立百五十年記念式典に特派大使として参列す・永年在職議員として院議表彰さる㊟「憲法論争」「最近の欧米を見る」○当選十五回（14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28）

星野甚右衛門（ほしのじんえもん） 島根県第一区選出　憲政本党

慶応元年12月生・島根県出身・明治23年東京専門学校政治科卒○鵜鷺村会議員、町村組合会議員、簸川郡会議員、島根県会議員、徴兵参事員となる、また星野名代表社員、山陰生命保険、簸川銀行、松江汽船各（株）取締役、出雲商業銀行頭取、松江米穀取引所理事長となる○当選一回（6）○大正8年2月12日死去

星野助左衛門（ほしのすけざえもん） 千葉県第七区選出　帝国党

安政2年11月生・千葉県出身○怒田村筆生、村衛

生委員、望陀郡各村戸長、学務委員、松丘村長、同村会議員、郡徴兵参事員、郡勧業委員となる○当選一回(6)○大正8年8月2日死去

星野錫　東京府東京市選出　無所属

安政元年12月生・東京都出身・姫路藩学校に学ぶ、のち米国に渡航し、印刷技術を学修す○東京印刷㈱を創立し専務取締役となり、社長となる、また日本橋区会議員、東京商業会議所副会頭、同特別議員、東京実業組合連合会長、東京印刷同業組合組長、日本工業協会理事、外国博覧会東京出品協会長、満蒙貿易協会長となるほか、大日本製糖、韓海漁業、日本陶料、東亜石油各株取締役、東京築地活版製造所、帝国瓦斯電力各㈱監査役となる○当選一回(11)○昭和13年11月10日死去

星野仙蔵　埼玉県選出　憲政本党

明治4年1月生・埼玉県出身・漢籍を修む、剣道八段○入間郡会議員、埼玉県会議員、県立川越中学校、日本体育会、川越警察署の各嘱託剣道教師となる、また肥料商及び農業を営み、川越米穀取引所監査役、川越商業銀行取締役、黒須銀行監査役となる○当選一回(9)○大正6年8月26日死去

星野長太郎　群馬県郡部選出　大同倶楽部

弘化2年2月生・群馬県出身・漢籍を修む○農業を営む、岩鼻県公用掛、水沼生糸改良所頭取、群馬県会議員、同副議長となり、のち上毛繭糸改良会社頭取、第二回及び第三回内国勧業博覧会審査官、農商務省製糸諮問会員、日本蚕糸協会幹事、県蚕糸業組合取締所頭取、高山社蚕業学校創立委員となる・生糸消費地実況視察のため米、伊、仏各国に渡航、また清国の蚕業を視察す○当選一回(9)○明治41年11月27日死去

星野鐵太郎　静岡県静岡市選出　中正倶楽部

天保8年12月生・静岡県出身○静岡県出仕、史生、権少属、少属となり、五等属、富士、有渡、安倍、榛原各郡長を歴任し、三度静岡市長となる、また私立静岡高等女学校長、私立静岡漆工学校長、私立静岡高等女学校長となる○当選二回(7 8)○明治42年4月10日死去

星野靖之助　北海道第四区選出　無所属倶楽部

明治32年1月生・北海道出身・大正14年慶応義塾大学経済学部卒○三井鉱山㈱、三井名各社員となり、司法省刑事局、内務省警保局各嘱託、内閣大臣秘書官、行政査察使随員、幣原内閣の海軍参与官、次いで第二復員参与官となる、また三井建設、ラジオ大分各㈱社長となる○当選一回(21)

細井金四郎　岐阜県第二区選出　国民協会

天保9年7月生・岐阜県出身○酒造業を営む、庄屋、垂井村長、同町長、郡会議員、岐阜県会議員となる○当選一回(4)○明治42年11月4日死去

細梅三郎　山形県第六区選出　立憲政友会

明治7年8月生・山形県出身・明治36年早稲田大学政治経済科卒○農業を営む、北村山郡会議員、同議長、楯岡町長、山形県会議員となる、昭和9年ブラジル国サンパウロ州に移住し綿作を主とする農業を経営す○当選三回(11 12 15)○昭和26年7月31日死去

細川隆元　熊本県第二区選出　日本社会党

明治33年1月生・熊本県出身・大正12年東京帝国大学政治科卒○東京朝日新聞社政治部記者、同政治部長、同ニューヨーク支局長、同連絡本部長、同報道局長、同編集局長、同社参与となり、日本国際新聞協会副会長、日本社会党渉外部長を経て政治評論家となる、また憲法調査会、選挙制度審議会、中央教育審議会各委員となる㊟「昭和人物史」「大狸小狸」○当選一回(23)

細川八十八　大阪府第二区選出　民主党

明治35年5月生・石川県出身○大阪市都島区高島町会連合会長、司法省司法保護委員、大阪市都島区地区方面委員長となる、また丸十花緒工業有代表取締役となる、日本進歩党青年部長、民主党幹事長補佐となる○当選二回(22 23)

細川義昌　高知県郡部選出　立憲政友会

嘉永2年11月生・高知県出身・漢学、武術を修む○藩立致道館居合術取立役となる、のち高知県会議員、同常置委員、同参事会員、同副議長、吾川郡会議員となる、また県農工銀行創立委員、高知県水産組合頭取、高知県水産組合組長、土佐遠洋漁業㈱取締役社長となる○当選一回(10)○大正12年2月24日死去

細迫兼光　山口県第一区選出　日本社会党

明治29年11月生・山口県出身・大正11年東京帝国大学英法科卒○弁護士の業務に従事す、厚狭町会議員、小野田市長、山口県弁護士会副会長となる、また労働農民党書記長、労農党書記長、日本社会党中央執行委員、法規対策委員長、国会対策委員長、山口県連合会長となる○当選三回(22 26 27)

細田榮藏　埼玉県第二区選出　自由党

明治26年1月生・埼玉県出身・県立川越中学校に学ぶ○飯能町会議員、同町長、埼玉県会議員、所得税調査委員となる、また、埼玉染絨㈱取締役、埼玉県農業会理事、工業所各有㈲代表取締役、武蔵織物工業所、武蔵織物常務理事、関東羊毛工業協同組合理事長、飯能商工会議所会頭、武蔵織物、西武編織各㈱社長、所沢毛織㈱会長となる○当選一回(24)

細田義安　東京都第七区選出　自由民主党

明治36年3月生・東京都出身・昭和9年中央大学法律科卒○弁護士開業、二十五年間東京都庁に在職、その間主税局長、総務局長、財務局長を歴任また東京都仏貨公債処理のため渡仏す、中央大学監事、都立商科短期大学講師、東京都農業会議顧問、法務省人権擁護委員、三多摩都立高校ＰＴＡ連合会長、自由民主党幹事、全国組織委員会社会保障部長となる㊟「欧米各国における租税制度」「財政学」「事業税要論」○当選一回(28)○29・昭和37年9月28日死去

細田忠治郎　兵庫県第三区選出　民主党

明治14年7月生・兵庫県出身・明治40年早稲田大学商科卒○松井庄村会議員、多可郡会議員、同参事会員、兵庫県会議員、同参事会員、同議長となる、また農業を営み、松井庄商事㈱専務理事、多可郡工業会長、兵庫県播州織工業組合、工業組合中央会、商工組合中央会各理事、兵庫県織物工業組合連合会、同県織物統制組合各理事長、日本自由党内政部長となる○当選二回(22 23)

細田綱吉　茨城県第三区選出　日本社会党

明治33年7月生・長野県出身・大正14年日本大学専門部法律科卒○弁護士の業務に従事す、東京市会議員となる、また日本労農党、社会大衆党各中央執行委員、日本社会党中央執行委員、財務委員会事業部長、組織局農民部副部長となる○当選二回(22 27)○昭和34年4月5日死去

細野次郎　群馬県郡部選出　亦楽会

文久2年8月生・群馬県出身・東京帝国大学法科大学選科に学ぶ○鉱山業を営む、群馬県会議員、臨時治水調査会委員となる、また群馬商工銀行、百工商会各㈱監査役となる○当選三回(7 10 11)○大正5年6月15日死去

細野三千雄　秋田県第一区選出　日本社会党

明治30年3月生・愛知県出身・大正9年東京帝国

大学独法科卒○弁護士の業務に従事す、大原社会問題研究所嘱託、立教大学教授、法政大学講師となり、芦田内閣の文部政務次官となる、また社会大衆党中央執行委員、日本社会党中央執行委員、法制委員長、代議士会長となる㊟翻訳「ゾンバルト・労働組合運動の理論と歴史」○当選五回(22 23 25 26 27)○昭和30年6月25日死去

堀　喜幸（ほり　きこう）　石川県第二区選出　立憲政友会

明治元年6月生・石川県出身・漢学を修む○石川郡会議員、石川県会議員、鶴来町会議員、所得税調査委員、地方森林会議員、また鶴来銀行取締役頭取、石川鉄道、能美電気鉄道、石川貯蓄銀行各株取締役となる○当選一回(15)○昭和6年12月27日死去

堀　三太郎（ほり　さんたろう）　福岡県郡部選出　立憲政友会

慶応2年8月生・福岡県出身・漢籍、数学を学ぶ○鉱業を営む、相続税審査委員、福岡地方森林会議員となる、また堀鉱業株代表取締役、帝国製鉄株取締役となる○当選一回(12)○昭和33年7月19日死去

堀　善證（ほり　ぜんしょう）　兵庫県第二区選出　無所属

安政元年3月生・兵庫県出身・福沢諭吉に師事し語学、数学を修む、また真宗学を研究す○本願寺派僧侶となり、北海道の開教事務に専念す、のち本願寺仏教慈善団創立事業に従事す○当選一回(1)○明治43年1月9日死去

堀　豊彦（ほり　とよひこ）　兵庫県郡部選出　立憲政友会

文久2年10月生・兵庫県出身・漢学を修む○兵庫県会議員となる、また新宮軽便鉄道、竜野電気鉄道各株社長となる○当選二回(6 12)○昭和7年7月10日死去

堀　昌雄（ほり　まさお）　兵庫県第二区選出　日本社会党

大正5年12月生・兵庫県出身・昭和16年大阪帝国大学医学部卒○大阪帝国大学医学部副手となり、海軍二年現役軍医退役後診療所開設、日本医師会代議員、厚生省中央社会保険医療協議会専門委員、尼崎市社会保障審議会委員、兵庫県医師会顧問となる、また日本社会党尼崎支部書記長となる○当選一回(28)

堀　昌造（ほり　しょうぞう）　島根県第五区選出　公同会

安政2年10月生・島根県出身・漢学及び英学を修む○畑迫村長となる、また銅山業に従事す○当選一回(4)○大正7年6月3日死去

堀内　一雄（ほりうち　かずお）　山梨県選出　自由民主党

明治26年9月生・山梨県出身・大正14年陸軍大学校卒○陸軍少佐、満州国陸軍少将となり第一軍管区参謀長、のち満州国総務庁弘報処長、安東省次長兼大東港建設局長となり、内閣、商工省、大東亜省各委員、第一次岸内閣の建設政務次官となる、また富士急行㈱社長、山梨県富士五湖観光協会長、富士吉田市商工会議所会頭、神奈川中央交通㈱監査役、国立公園協会理事、全国遺族等援護協議会理事長となる、自由民主党宣伝局長、代議士会副会長、観光事業特別委員会副委員長、総務、政調会オリンピック準備特別委員会副委員長となる○当選三回(21 27 28)

堀内　賢郎（ほりうち　かしろう）　長野県第三区選出　自由党

安政5年10月生・長野県出身・漢学を修め、英、独、仏の哲学、経済学、政治学を研究す○農業を営む、従来の寺小屋を廃し、清漣学校を設立す、のち長野県会議員となる、また北海道庁事務官となる○当選二回(14)○大正8年8月25日死去

堀内　啓治（ほりうち　けいじ）　山梨県郡部選出　立憲政友会

明治8年5月生・山梨県出身・東京英語学校、慶応義塾に学ぶ○福地村会議員、同村長、山梨県会

議員、同参事会員、所得税調査委員、地方森林会議員となる、また農業、醤油醸造業を営み、饒益銀行取締役、吉田銀行取締役頭取、宮川電燈㈱社長となる○当選一回(11)○昭和20年10月24日死去

堀内　忠司（ほりうち　ちゅうじ）　奈良県第二区選出　弥生倶楽部

嘉永2年4月生・奈良県出身○副戸長、戸長、郡書記、忍海村会議員、同村長、南葛城郡会議員、大阪府会議員、奈良県会議員、同常置委員、同副議長、同議長となり、所得調査委員、郡農会長となる○当選一回(1)○大正9年12月5日死去

堀内　良平（ほりうち　りょうへい）　山梨県選出　翼賛議員同盟

明治3年11月生・山梨県出身・東京法学院に学ぶ○東八代郡会議員、同議長、山梨県会議員、同参事会員となる、また報知新聞経済記者、甲州葡萄酒、富士山麓土地、富士山麓電気鉄道各株社長、富士身延鉄道、国際観光興業、日本観光各㈱取締役、鉄道同志会常務理事、日本乗合自動車協会長、東京自動車業組合長、日本自動車業組合連合会長となる㊟「日蓮主義努力ノ勝利」「勤王ノ聖者日蓮」○当選三回(17 19 20)○昭和19年7月4日死去

堀江　覺治（ほりえ　かくじ）　福島県郡部選出　中央倶楽部

明治3年2月生・福島県出身・明治23年慶応義塾大学部文科卒○福島県石川義塾講師、岐阜日日新聞主筆、梁川第百一銀行監査役となる、また第四軍司令部附陸軍通訳となり、日露戦役に従軍す、のち満州において堀江組を創立し、移民その他の事業を営む○当選二回(8 10)○昭和5年4月23日死去

堀江　實蔵（ほりえ　じつぞう）　鳥取県選出　労働者農民党

明治36年4月生・鳥取県出身○農業を営む、八橋町会議員、同町農地委員会長、鳥取県議会議員となるほか、八橋町農業会理事、鳥取県果実協会副会長、また日本農民組合東伯郡協議会長、日本労働党各鳥取県支部常任執行委員、日本農民組合県支部連合会副会長、鳥取県農民総同盟常任執行委員中部協議会長となる○当選一回(23)

堀江　正三郎（ほりえ　しょうさぶろう）　茨城県第三区選出　立憲政友会

明治2年1月生・東京都出身・明治22年東京高等工業学校卒○京橋区会議員、東京府会議員、同市部会議長となる、また千代田護謨、東京製靴、東京商船各株専務取締役、原安商会、秋葉商店各株取締役社長となり、帝国塗料、気仙水力電気、多摩川水力電気、東京乗合自動車各㈱取締役、茨城鉄道、大谷石材鉄道、栗山電燈、稲敷電気各㈱取締役社長となる○当選一回(18)○昭和9年10月9日死去

堀江　芳介（ほりえ　よしすけ）　山口県第四区選出　無所属

天保14年3月生・山口県出身○陸軍少尉より陸軍少将に累進、その間近衛師団参謀長、陸軍戸山学校長、近衛歩兵旅団長、歩兵第六旅団長に歴補さる、また元老院議官、錦鶏間祇候、阿月村長となる○当選一回(1)○明治35年3月27日死去

堀尾　茂助（ほりお　もすけ）　愛知県郡部選出　正交倶楽部

文久元年9月生・愛知県出身・漢籍、書法及び剣法を学ぶ○東春日井郡書記、小木田村会議員、愛知県会議員、同常置委員、同参事会員、東春日井郡会議員、同参事会員となる、また愛知県農会長、尾三信用組合連合会長、愛知県山林会副会長、日本家禽協会長、愛知県穀物改良協会長、農林共進会長となり、新愛知新聞社副社長となる○当選三回(5 6 13)○昭和15年12月28日死去

堀川　恭平（ほりかわ　きょうへい）　兵庫県第四区選出　自由民主党

明治27年5月生・兵庫県出身・大正6年早稲田大

学政治経済科卒○姫路市会議員、兵庫県会議員、法務大臣秘書官、衆議院商業委員長、同厚生委員長、第三次鳩山内閣の建設政務次官、衆議院建設委員長となる、また姫路市警防団長、播州交通、兵庫県飼料統制各(株)社長、日本飼料畜産(株)会長、(株)堀川商店社長、鹿島建設(株)顧問、全国戦災都市連盟常任幹事となる、自由民主党全国組織副委員長、国会対策副委員長、総務となる・米国を視察す○当選六回(22 23 24 26 27 28)

堀川美哉(ほりかわよしや)　三重県第一区選出　立憲政友会

明治16年5月生・三重県出身・明治41年早稲田大学政治経済科卒、米、英各国に留学、コロンビア大学及びロンドン大学に学ぶ○陸軍三等主計となる、東京日日新聞、中外商業新報各記者となり、津市名誉市民に推さる・浦塩派遣軍慰問のため派遣さる㊟「社会保険論」「英国之経済的勢力」、翻訳「経済原論」○当選二回(13 18)

堀切善兵衛(ほりきりぜんべえ)　福島県第一区選出　立憲政友会

明治15年5月生・福島県出身・明治36年慶応義塾大学卒、のち米、英、独各国に留学○慶応義塾大学教授、時事新報記者となり、大蔵大臣秘書官、大蔵省参事官、内閣総理大臣秘書官、加藤(高明)内閣の農商務、商工各参与官、衆議院議長、犬養内閣及び齋藤内閣の大蔵政務次官となり、のち伊国駐箚特命全権大使となる、また立憲政友会総務、政務調査会長となる・第十八回列国議会同盟会議(ヘーグ)に参列し、戦後の欧州を視察す○当選十回(11 12 13 14 15 16 17 18 19 20)・(貴二勅選)○昭和21年11月25日死去

堀家虎造(ほりけとらぞう)　香川県郡部選出　無所属

元治元年11月生・香川県出身・英、漢、数語学を修む○農業を営む、榎井村長、香川県会議員、同常置委員、所得税調査委員となる、また琴平銀行取締役後、朝鮮興業株重役となる○当選三回(5 6 8)○昭和14年5月13日死去

堀田義次郎(ほりたぎじろう)　三重県第一区選出　立憲民政党

明治7年4月生・福岡県出身・明治35年東京帝国大学政治科卒○内務属、愛媛県事務官、島根県第四部長、長野県警察部長、三重、滋賀、愛知各県内務部長、滋賀県知事を歴任す、のち大津市長となる○当選一回(15)○昭和17年11月19日死去

堀田康人(ほったやすんど)　京都府第一区選出　自由党

安政2年3月生・京都府出身・漢学を修め、のち法律、政治学を学ぶ○代言人となり、次いで弁護士の業務に従事す、京都代言人組合会長、京都弁護士会長となる、京都府会議員、同参事会員、同議長、京都市会議員、同議長となる○当選一回(4)○大正10年1月21日死去

堀田連太郎(ほりたれんたろう)　東京府郡部選出　憲政本党

安政4年4月生・東京都出身・明治14年東京大学採鉱冶金科卒○三菱へ入社し、鉱山長及び支配人として鉱務に従事、欧米各国の鉱業を視察し、帰朝後、農商務省鉱山技監、鉱山局長心得、製鉄所長官心得となり、のち日本鉱業会社理事、次いで副会長となる○当選五回(5 6 7 8 9)○大正4年12月20日死去

堀谷左治郎(ほりたにさじろう)　神奈川県横浜市選出　無所属

文久3年10月生・神奈川県出身・明治12年同人社卒○神奈川県会議員、同参事会員となる、日本絹綿紡績会社長、実行銀行、同貯蓄銀行各重役となる○当選二回(9 10)○大正14年8月30日死去

堀部勝四郎(ほりべかつしろう)　愛知県第一区選出　独立倶楽部

文政10年12月生・愛知県出身・漢学を修む○商業を営む、名古屋区会議員、同議長、愛知県会議員、同区及び市部会議長、同常置委員、同副議長、同議長となり、名古屋市会議員、同議長、商業会議所会頭となる、また名古屋海産商組合長、第四十六国立銀行、愛知実業銀行各取締役、日本共立汽船(株)社長、名古屋電気鉄道、尾張紡績、名古屋倉庫各(株)取締役、愛知育児院、大日本施薬院各副院長となる○当選一回(1)○明治29年6月25日死去

堀部久太郎(ほりべきゅうたろう)　滋賀県選出　第一控室

明治15年7月生・東京都出身・明治41年早稲田大学政治経済科卒○陸軍三等主計となる、また彦根町長となる○当選一回(17)○昭和16年2月5日死去

堀部彦次郎(ほりべひこじろう)　愛媛県第六区選出　弥生倶楽部

万延元年3月生・愛媛県出身・中津私学(慶応義塾分校)に学ぶ○愛媛県会議員、同常置委員となる、また宇和島運輸(株)取締役、同頭取、宇和島銀行頭取、宇和島鉄道(株)社長、宇和島土地(株)専務取締役、堀部彦次郎商店、宇和島自動車各(株)取締役社長、宇和島商工会長となる○当選一回(2)○昭和5年8月30日死去

堀越寛介(ほりこしかんすけ)　埼玉県選出　憲政本党

安政6年7月生・埼玉県出身・明治22年東京専門学校邦語政治科卒○農業を営む、川俣村戸長、同村会議員、埼玉県会議員、連合町村会議長となる、また羽生倉庫会社、大日本生命保険(株)各社長、東武鉄道(株)監査役、自由新聞社長となる、法学雑誌を発行す㊟「国会議員撰定鏡」「国務大臣責任概論」「立憲国民心得」○当選四回(14 16 補16 17)○昭和9年2月4日死去

本城安次郎(ほんじょうやすじろう)　兵庫県第一区選出　立憲民政党

万延元年2月生・兵庫県出身・工部大学に学ぶ○神戸市会議員、兵庫県会議員となる、また神戸商業会議所議員、赤十字社名誉会員となる○当選二回(5 6)○明治34年11月5日死去

本田英作(ほんだえいさく)　長崎県第一区選出　新自由党準備会

明治18年4月生・長崎県出身・明治42年東京帝国大学英法科卒○司法官試補となる、のち弁護士の業務に従事し、長崎市会議員、長崎県会議員となり、第一次吉田内閣の外務政務次官となる、また日本自由党代議士会副会長となる○当選五回(16 再17 18 20)○昭和23年10月4日死去

本田親清(ほんだちかきよ)　鳥取県郡部選出　公正会

明治10年12月生・鹿児島県出身○鉱山業及び貿易商を営む○当選一回(12)○大正11年5月18日死去

本田恒之(ほんだつねゆき)　長崎県第二区選出　立憲民政党

文久2年4月生・長崎県出身・明治17年専修学校法律科卒○代言人となり、次いで弁護士の業務に従事す、長崎市会議員、長崎県会議員となり、加藤(高明)内閣次いで第一次若槻内閣の司法政務次官となるほか、民事訴訟法改正委員、家事裁判に関する法律調査委員、長崎弁護士会長となる○当選七回(11 12 13 14 15 補16 17)○昭和9年2月4日死去

本田彌市郎(ほんだやいちろう)　大阪府第四区選出　同交会

明治元年1月生・三重県出身・司法省法律学校に学ぶ○豊崎町会議員、大阪市会議員となる、また日本産業銀行支配人、才賀電気商会副支配人、船場銀行支配人、松阪軽便鉄道(株)監査役、松阪電気鉄道(株)取締役となるほか、大阪厚生信用組合専務理事、大阪府信用組合連合会監事となる○当選四回(16 再17 18 20)○昭和19年12月29日死去

本田義成(ほんだよしなり)　東京府第一区選出　翼賛議員同盟

明治4年9月生・東京都出身○四谷区会議員、同議長、東京府会議員、同参事会員、東京市会議員、同参事会員、東京府警務委員長、特別都市計画委員会委員となる、また大木戸住宅(株)監査役、朝

鮮営林洋行代表社員となる・第二十七回列国議会同盟会議（ブカレスト）に参列す○当選四回（15 17 18 20）○昭和27年4月12日死去

本多市郎（ほんだいちろう）　長崎県第一区選出　自由党

明治28年11月生・長崎県出身・大正14年中央大学法学部卒○東京市会議員、同参事会員、同府会議員、内閣委員、引揚援護院参与となり、衆議院商工委員長、第三次吉田内閣の国務大臣、行政管理庁長官、地方自治庁長官、第四次吉田内閣の国務大臣、行政管理庁長官、自治庁長官、参議院地方行政委員長となる、また日本自由党総務、民主自由党総務、自由党総務、代議士会長、統制委員長、東京神田青果㈱社長となる㊟「最近の世界を巡りて」○当選六回（21 22 23 24 25 26）・（参一回（4））○昭和34年4月5日死去

本多鋼治（ほんだこうじ）　愛知県第四区選出　日本進歩党

明治26年12月生・愛知県出身・明治45年京北中学校卒○愛知県会議員となる、また西加茂郡農会長、愛知県農会副会長、同養蚕業組合評議員となり、商工省委員となる○当選一回（21）

本多貞次郎（ほんだていじろう）　千葉県第一区選出　立憲政友会

安政5年1月生・千葉県出身・漢学を修む○千葉県会議員、同参事会員、同議長となる、また神田簿記学校を設立経営し、のち尾張炭礦、日本鋳鉄、中央炭礦各㈱を創立、次いで京成電気軌道㈱を創立、専務取締役を経て社長となるほか、大同電気、渡良瀬水電、葛飾瓦斯、三共電機工業各㈱取締役となり、鉄道会議議員、鉄道同志会、帝国鉄道協会各理事、電気協会、日本経済連盟各評議員、東京商工会議所常議員、国府台学院総裁となる○当選五回（14 15 16 18 19）○昭和12年2月26日死去

本多花子（ほんだはなこ）　大阪府第二区選出　日本自由党

明治42年1月生・兵庫県出身・大正12年神戸市立水木尋常高等小学校卒○日本自由党幹事となる○当選一回（22）

本多眞喜雄（ほんだまきお）　愛媛県第三区選出　立憲民政党

明治11年3月生・愛媛県出身・明治38年東京帝国大学独法科卒、同大学院にて商法を専攻す○農業を営む、愛媛県会議員、相続税調査委員、小作争議調停委員となる、また東宇和農業学校教授嘱託、伊予醸造試験所、愛媛材木各㈱社長、宇和肥料、卯之町繭売買所各㈱取締役、摂津製糸、愛媛製糸各㈱監査役、卯之町銀行、宇和商業銀行各頭取、愛媛県山林会副会頭、東宇和乾繭組合長となる○当選二回（17 19）○昭和26年12月18日死去

本出保太郎（ほんでやすたろう）　大阪府郡部選出　維新会

慶応3年9月生・大阪府出身○郡会議員となる、阪北土地、東洋生命保険各㈱取締役、大阪堂島米穀取引所理事となる、農業を営む○当選五回（7 9 10 11 13）○大正6年7月6日死去

本藤恒松（ほんどうつねまつ）　長野県第一区選出　社会革新党

明治28年2月生・長野県出身○酒造業を営む、長野県会議員となる、高畑殖産㈱社長となる、また社会民衆党、社会大衆党各中央委員、日本社会党長野県支部連合会常任執行委員となる○当選一回（23）

本名武（ほんなたけし）　北海道第五区選出　自由民主党

明治44年10月生・北海道出身・昭和7年武蔵工業専門学校建築科卒○帯広市会議員、農林大臣秘書官となり、第一次岸内閣の農林政務次官、衆議院外務委員長となる、また北海道製材協会副会長、北海道地方木材㈱理事、本名木材㈱取締役社長、帝国木材工業、十勝貨物自動車各㈱取締役、帯広土建工業㈱取締役社長、北海道開拓㈱取締役、北海物産㈱取締役会長、北海道林道協会長となる、改進党政策委員会大蔵部長、組織委員会副委員長、日本民主党文化局次長、政調会副会長、自由民主党政調会農林部長、国会対策副委員長、政調会副会長となる・欧州各国を視察す○当選四回（22 26 27 28）

本間源三郎（ほんまげんざぶろう）　山口県第一区選出　国民協会

弘化3年1月生・山口県出身○戸長、山口県会議員、嘉川村長、吉敷郡会議員、同参事会員、同議長となり、また山口県農会名誉会員、同幹事、同代表者となる○当選一回（5）○明治41年7月9日死去

本間耕曹　山形県第三区選出　議員倶楽部

天保13年6月生・山形県出身・和漢学、英語を学ぶ、ベルリンに留学す○警視庁一等中警部、二等中警部、権大警部、警察副使、警視兼二等警察使となる○当選一回（2）○明治42年12月18日死去

本間三郎（ほんまさぶろう）　群馬県第五区選出　憲政会

安政6年3月生・群馬県出身・念流剣術を修む○赤堀村会議員、佐波郡会議員、同参事会員となる、また大日本武徳会剣道教士、群馬県伊勢崎警察署、群馬県工業学校各剣道教授嘱託、上毛貯蓄銀行監査役となる○当選三回（12 13 14）○昭和3年12月26日死去

本間俊一（ほんましゅんいち）　宮城県第一区選出　自由民主党

大正元年11月生・宮城県出身・昭和10年早稲田大学政治経済学部政治科卒○中外商業新報社、読売新聞社記者となる、のち中新田町長となり、第一次吉田内閣の農林参与官、衆議院水害地対策特別委員長、同決算委員長、第三次吉田内閣の通商産業政務次官となる、また民主自由党総務、自由党副幹事長、代議士会副会長となる㊟「戦後の教育改造」○当選六回（22 23 24 25 26 28）○昭和33年8月20日死去

本間直（ほんまちょく）　奈良県第二区選出　立憲政友会

嘉永5年11月生・奈良県出身・仏門に入り宗学を修行し漢籍、国学を修む○権訓導、訓導、少講義となる、のち初瀬町会議員、同町長となる、また日本製糸会社を創立し、社長となり、大和興業銀行頭取となる○当選三回（1 5 6）○大正8年12月12日死去

本間光義（ほんまみつよし）　山形県第三区選出　進歩党

文久元年7月生・山形県出身○山形県会議員、鉋海郡会議員、同参事会員となる、また光ケ丘園芸組合長、酒田町農会副会長となる○当選一回（5）○大正14年3月24日死去

本領信治郎（ほんりょうしんじろう）　東京府第五区選出　無所属倶楽部

明治36年10月生・東京都出身・昭和3年早稲田大学政治経済学部経済科卒、同大学院に学ぶ、経済学研究のため欧州各国に留学す○早稲田大学附属第二早稲田高等学院講師、同教授、同大学専門部政治経済科講師となる、また外務省委員、大政翼賛会総務局宣伝部副部長、京都市顧問、全国市長会嘱託となる㊟「青年の信条」「日本ラグビー物語」○当選一回（21）

まの部

眞崎勝次　佐賀県選出　自由民主党

明治17年12月生・佐賀県出身・明治45年外国語学校露語科、大正2年海軍大学校卒○海軍少尉より海軍少将に累進、その間、日独戦役に従軍、シベリヤ駐在、海軍軍令部参謀、在ソ連邦大使館附武官、大湊要港部参謀長、山城艦長、横須賀海軍人事部長兼同鎮守府人事長、同警備戦隊司令官、大湊要港部司令官、軍令部出仕を歴補す、のち外務省委員、大東亜省行政委員となり、また翼賛政治会総務、日本民主党政調会内閣副部長、自由民主党総務となる○当選二回(21・27)

眞下珂十郎　群馬県五区選出　自由党

天保14年9月生・群馬県出身・漢学を修む○副区長、戸長、中学区取締、医務取締、検疫委員となり、郡書記、勧業委員、群馬県会議員、原市町長、学事会長、徴兵参事員となる、また碓氷社、原市銀行各頭取となるほか、繭競優会を起し主宰す○当選一回(4)○明治32年10月1日死去

眞館貞造　石川県郡部選出　立憲同志会

安政元年3月生・石川県出身○石川県会議員、同常置委員、同副議長となる、また農蚕業及び機業を営み、七尾鉄道㈱取締役となる○当選三回(3・4・11)○昭和6年11月9日死去

眞中忠直　埼玉県第三区選出　独立倶楽部

天保9年6月生・埼玉県出身○通信管理局長となる、内国通運㈱、日本製鉄会社各顧問となる○当選一回(1)○死去

眞鍋勝　徳島県選出　自由党

明治14年12月生・徳島県出身・大正4年東京帝国大学英文科卒、同11年京都帝国大学法科卒○弁護士の業務に従事す、阿部内閣の司法参与官、衆議院懲罰委員長となる、また錦桜学園理事長兼校長、民主自由党代議士会長となる・第二十九回列国議会同盟会議(マドリッド)に参列す、また南洋、台湾方面視察のため派遣さる○当選五回(16・18・19・20・24)

眞鍋儀十　東京都第六区選出　無所属

明治24年9月生・長崎県出身・大正3年長崎県師範学校卒、のち明治大学法律科に学ぶ○逓信省嘱託、阿部内閣の海軍参与官、鈴木内閣の運輸通信政務次官及び運輸政務次官、逓信省、運輸通信省各委員となる、また東京電工㈱取締役、東京機器製作所、太陽商事、両国通運各㈱社長、日本再建連盟理事、真鍋幼稚園長となる、また日本民主党総務、自由民主党相談役となる・派遣軍慰問のため北満州及びフィリピンへ派遣され、また第四十五回列国議会同盟会議(バンコック)に参列し、欧米各国を視察す(著)「新選挙法解釈」「府県制通」○当選六回(17・18・19・20・21・27)

馬越恭平　岡山県第五区選出　山下倶楽部

弘化元年10月生・東京都出身・岡山県興譲館に学ぶ○先収会社に入り、次いで三井物産会社売買方となり、横浜支店長、専務委員、三井物産(名)常務理事、三井地所部理事を経て、大日本麦酒㈱社長となるほか、帝国商業銀行、東京帽子、中国鉄道、豊川鉄道、東邦火災保険、電気化学工業、明治製菓、朝鮮紡織、三井信託各㈱等の重役となる、また南満州鉄道㈱監事、東京商工会議所顧問、帝国経済会議、鉄道会議各議員、日本結核予防協会副会頭、日本工業倶楽部会長となる○当選一回(5)・(貴)勅選○昭和8年4月20日死去

間中進之　埼玉県第三区選出　弥生倶楽部

嘉永元年3月生・埼玉県出身・漢学を修む○学区取締、埼玉県会議員となり、のち南埼玉郡長となる○当選一回(1)○明治23年9月5日死去

間宮成吉　岐阜県第三区選出　翼賛政治会

明治31年2月生・岐阜県出身・大正9年上田蚕糸専門学校養蚕科卒○陸軍砲兵少尉、田原村長、岐阜県会議員、同参事会員となる、また農業を営み、全国組合製糸組合評議員、岐阜県繭価協定、同農地各委員、岐阜県信用購買組合連合会理事、組合製糸長良社専務理事、大政翼賛会岐阜県支部庶務部長となる・派遣軍慰問のため北支那へ派遣さる、また大東亜戦争に際し議員在職中召集を受け中支、南支に従軍す○当選一回(21)

舞田壽三郎　愛知県第十二区選出　立憲政友会

明治15年5月生・愛知県出身○愛知県会議員、蒲郡町長となる、また織物業を営み、愛知県実業組合連合会長、三河織物同業組合長、日本織物中央会頭、日本輸出綿織物工業組合連合会副理事長、三河織物工業協同組合理事長、日本織物機業会理事となり、西宝商工会議所会頭、丸東繊維㈱取締事、山田産業㈱監査役となる○当選一回(14)

前尾繁三郎　京都府第二区選出　自由民主党

明治38年12月生・京都府出身・昭和4年東京帝国大学法律科卒○和歌山税務署長、名古屋税務監督局間税部長、名古屋、大阪、東京各税務監督局直税部長、海軍司政官、大蔵省主税局国税第二課長、主税局長、造幣局長を歴任、衆議院地方行政、同外務各委員長、第一次岸内閣の通商産業大臣となる、また自由党政調会副会長、自由民主党相談役、中小企業対策特別委員長、会計監督、四国地方開発特別委員長、党基本問題調査会副会長、対外経済協力特別副委員長、経理局長となる・欧米各国を視察す○当選五回(24・25・26・27・28)

前川正一　香川県第一区選出　日本社会党

明治31年2月生・香川県出身・同志社大学に学ぶ○小学校代用教員となる、のち農民組合運動に携わり全国農民組合組織部長となる、また香川県農地委員、小作調停委員となる・派遣軍慰問のため満州へ派遣さる(著)「農民組合の話」「百姓貧乏物語」○当選二回(20・21)○昭和24年7月11日死去

前川虎造　和歌山県第三区選出　革新倶楽部

元治元年3月生・和歌山県出身・中等学校卒○新聞記者となる、また立憲国民党総務、政務調査会長となる○当選二回(9・13・14)○大正15年6月15日死去

前川槇造　大阪府第三区選出　無所属

万延元年2月生・大阪府出身・明治20年東京専門学校卒○大阪府会議員、同常置委員、同副議長、徴兵参事員、地方衛生会委員となる、また日本舎密製造㈱取締役、㈱朝日商社社長、中央セメント㈱監査役となる○当選四回(3・4・5・6)○明治35年7月12日死去

前島丈之助　岐阜県第六区選出　憲政党

嘉永3年8月生・岐阜県出身・漢学を修む○下麻生村会議員、下麻生村外一ヵ村戸長、麻川村会議員、同村長、加茂郡所得税調査委員となり、下麻生町会議員、岐阜県会議員、加茂郡会議員となる○当選二回(5・6)○明治36年12月20日死去

前島元助　長野県長野市選出　立憲政友会

嘉永2年12月生・長野県出身○長野市会議員、同議長、所得税調査委員となり、また長野貯蔵銀行頭取、信濃銀行、長野倉庫㈱、長野電燈㈱、信濃新聞社各取締役となる○当選一回(9)○大正15年5月26日死去

前田郁　鹿児島県第三区選出　自由民主党

明治22年2月生・鹿児島県出身・大正4年明治大学政治経済学部卒○東京時計製造㈱専務取締役、新日本観光自動車㈱取締役社長、東京ミシン製造、東京観光自動車各㈱社長、国際観光文化協会々長、日本有線放送連合会会長となる、また衆議院運輸委員長、第二次岸内閣の運輸政務次官、日本自由党常任総務、組織部副部長、代議士会副会長となる○当選三回(23 24 28)

前田卯之助　北海道第三区選出　立憲民政党

明治10年11月生・北海道出身・明治36年明治法律学校卒○北海道会議員、同参事会員、函館市会議員、同参事会員となる、また函館商船、函館時事新聞社各㈱社長となる○当選二回(13補17)○昭和12年7月13日死去

前田榮之助　広島県第二区選出　日本社会党

明治24年6月生・広島県出身○呉市会議員、広島県会議員となり、呉砂糖小売商業組合、呉冷凍菓工業組合、広島県軽便副食物工業組合、呉食料品配給統制組合各理事長、広島県食糧品組合連合会副理事長、広島青果統制㈱監事となる、衆議院電気委員長、同貿易振興に関する調査特別委員長となる、また日本社会党中央執行委員、広島県支部連合会長、両院議員総会長、代議士会長、文教政策委員長となる・第四十三回列国議会同盟会議(ウィーンに参列し、欧米各国を視察、第四次日中貿易協定使節として北京を訪問す○当選六回(22 24 25 26 27)

前田案山子　熊本県第一区選出　無所属

文政11年4月生・熊本県出身・槍術を修む○私立学校蒙正館を興し子弟を教導し、傍ら殖産興業に尽力す、熊本県会議員、同県第七大区々長となる○当選一回(1)○明治37年7月21日死去

前田莞爾　広島県第七区選出　弥生倶楽部

弘化2年7月生・広島県出身・漢学を学ぶ○庄屋郡吏、県属となり、広島県会議員、同参事会員となる、漢学塾自由舎を設立し、地方青年の教育に努む○当選一回(2補)○昭和3年9月15日死去

前田兼寶　鹿児島県第三区選出　立憲民政党

明治9年4月生・鹿児島県出身・明治39年東京帝国大学英法科卒○警視庁属兼警部、警視となり、京橋、本郷本富士各警察署長となる、のち宮崎県警察部長、同内務部長を歴任す○当選一回(15)○昭和12年5月9日死去

前田幸作　福岡県第一区選出　第二控室

明治28年4月生・福岡県出身○福岡県会議員、同市会議員となる、また京都市寺田キネマ㈱支配人、東亜キネマ㈱九州支配人となり、のち福岡市において活動写真館を経営す、公衆浴場組合全国副会長となる○当選一回(19)

前田善治　北海道第二区選出　日本進歩党

明治26年5月生・北海道出身・慶応義塾大学理財科に学ぶ○農業を営む、旭川市会議員、同議長、北海道会議員、同参事会員となり、人事調停委員、大蔵省委員となる、また旭川信用組合監事、北日本無尽㈱監査役、下村育英財団理事となり、前田和一商店、旭川小型モータース各㈱常任監査役となる○当選一回(21)

前田種男　大阪府第二区選出　日本社会党

明治35年12月生・佐賀県出身○大阪市会議員、大阪地方労働委員となる、また出入橋診療所常務理事、発動機製造㈱社員となり、労働組合総同盟中央委員、同大阪金属産業労働組合長、日本労働総同盟中央執行委員、同副会長、同全国金属産業労

働組合同盟会長、日本社会党中央執行委員、政策審議会労働部長、国会共闘委員長となる・英国選挙制度及び選挙施行状況調査のため派遣さる○当選三回(23 24 25)○昭和31年10月31日死去

前田篤之助　広島県第三区選出　井上組

弘化元年7月生・広島県出身○広島県会議員、同副議長、同議長となる○当選一回(2)○大正3年10月5日死去

前田兵郎　福島県第二区選出　憲政会

明治元年7月生・福島県出身・明治23年和仏法律学校邦語法律科卒○弁護士の業務に従事す、若松市会議員、同参事会員、同学務委員長、同議長、福島県会議員、同参事会員、同副議長、同議長となる、また県教育会若松市部副会長、会津連合教育会長、会津電力㈱取締役となる○当選一回(14)○大正9年7月8日死去

前田房之助　兵庫県第二区選出　自由民主党

明治17年9月生・兵庫県出身・明治40年神戸高等商業学校卒○武庫郡会議員、同郡大社村長、第二次若槻内閣の大蔵参与官、廣田内閣の逓信政務次官、内閣、大東亜省各委員、小磯内閣の運輸通信政務次官となる、また西宮土地、尼崎宝塚電気鉄道各㈱社長、正盛館坩堝㈱会長となる、立憲民政党総務、政務調査会長、顧問、翼賛政治会総務、日本民主党全国委員長、自由民主党総務、顧問となる・第二十三回列国議会同盟会議(ワシントン・オッタワ)に参列し、欧米各国を視察す・永年在職議員として院議表彰さる○当選八回(15 16 17 18 19 20 21 27)

前田正男　奈良県選出　自由民主党

大正2年7月生・奈良県出身・昭和11年山梨高等工業学校機械科卒○三井精機工業㈱各㈱勤務、のち奈良県工業協会連合会常任理事、同県森林組合連合会理事、全国森林組合連合会副会長および顧問となる、衆議院経済安定委員長、第五次吉田内閣の保安政務次官、防衛政務次官となる、また民主自由党幹事、総務、自由党政調会統制整理委員長、中小企業振興対策委員長、治安部長、自由民主党科学技術特別委員会副委員長、国防副部長、総務、政調会副会長となる・原子力平和利用会議(ジュネーブ)に出席す、欧米、アジア各国を視察す○当選六回(23 24 25 26 27 28)

前田政八　北海道第五区選出　立憲政友会

明治7年3月生・佐賀県出身・明治31年東京工手学校土木科卒○北海道庁属となる、のち木材業を営み、釧路木材商組合長となり、北海道会議員、釧路区会議員、同市会議員、同議長、釧路商業会議所議員となる、また満州国哈爾賓市にて賓江木材倉庫㈱社長となる、のち佐賀県塩田町長となり、県治山治水協会長、同林業会理事長、日本治山治水協会理事となる○当選一回(16)

前田米蔵　東京都第五区選出　自由党

明治15年2月生・和歌山県出身・明治35年東京法学院卒○司法官試補となり、のち弁護士の業務に従事す、田中内閣の法制局長官、犬養内閣の商工大臣、廣田内閣の鉄道大臣、第一次近衛内閣の内閣参議、平沼内閣の鉄道大臣、小磯内閣の運輸通信大臣となるほか、大礼使参与官、経済審議会幹事長、資源審議会副総裁となる、また立憲政友会総務、幹事長、総裁代行委員、大政翼賛会常任総務、翼賛政治会総務会長となる・永年在職議員として院議表彰さる○当選十回(13 14 15 16 17 18 19 20 21 25)○昭和29年3月18日死去

前野芳造　大阪府第一区選出　実業同志会

慶応3年5月生・兵庫県出身・東京英語学校に学び、傍ら法律、経済学を学ぶ○さきに翻訳著述業に従事し、のち輸出入貿易業、次いで運送業を営む、大阪市会議員、大阪府会議員となる、また高

知鉄道㈱社長、南海土地建物㈱監査役となる○当選一回(15)○大正15年10月1日死去

牧 朴眞(まき なおまさ) 長崎県第三区選出 議員倶楽部

安政元年3月生・長崎県出身・漢学を修む○長崎県出仕、福岡県出仕、史生、権少属、警部心得、少属、元老院書記生、議官補兼書記官、法制局参事官、枢密院書記官を歴任し、実業界に入り総武鉄道会社創立委員長、同社長となる、のち陸軍省嘱託、台湾総督府内務部長心得、台中県知事、青森、愛媛各県知事、内務省警保局長、農商務省水産局長、塩業調査所長、水産講習所長、農務局長を歴任す、また大日本水産会副総裁となる○当選二回(12)○昭和9年4月29日死去

牧口 義方(まきぐち よしかた) 新潟県第六区選出 憲政本党

嘉永5年12月生・新潟県出身・漢学を修む○荒浜村戸長、所得税調査委員、新潟県会議員、同常置委員となる、また海運業を営み、柏崎銀行頭取、直江津取引所理事長、新潟商業銀行取締役、新潟銀行監査役となる○当選二回(56)○明治32年12月20日死去

牧口 義矩(まきぐち よしのり) 新潟県第九区選出 憲政会

明治9年12月生・新潟県出身・慶応義塾に学ぶ○刈羽郡会議員、同参事会員、同議長、同教育会長となり、荒浜村長となる、また直江津米穀取引所理事長、柏崎銀行取締役となる○当選二回(13 14)○昭和32年4月1日死去

牧野 逸馬(まきの いつま) 福井県福井市選出 立憲政友会

嘉永元年1月生・福井県出身○代言人となり、次いで弁護士の業務に従事す、のち公証人となる、福井市会議員、同参事会員となる○当選三回(7 8 9)○大正8年5月26日死去

牧野 寛索(まきの かんさく) 山形県第一区選出 自由党

明治35年1月生・山形県出身・昭和6年中央大学法学部卒○弁護士の業務に従事す、中央大学講師、再度吉田内閣総理大臣秘書官、第三次吉田内閣の法務政務次官、衆議院両院法規委員長、裁判官訴追委員長となる、また日新貿易㈱重役、西浦電線㈱顧問、日本自由党幹事、政調会復員副部長、民主自由党組織部長となる○当選三回(22 24 26)

牧野 賤男(まきの いやお) 東京府第五区選出 翼賛政治会

明治8年2月生・新潟県出身・明治30年明治法律学校卒、のち東京法学院高等研究科卒○司法官試補となり、のち弁護士の業務に従事す、下谷区会議員、東京市会議員、同府会議員、同参事会員、同議長、犬養内閣の拓務参与官となる、また帝国弁護士会理事、東京弁護士会副会長となる○当選六回(16 17 18 19 20 21)○昭和18年12月30日死去

牧野 純蔵(まきの じゅんぞう) 愛媛県第五区選出 弥生倶楽部

天保7年1月生・愛媛県出身・広瀬淡窓の塾に学ぶ○里正、岩木村戸長、東宇和郡書記となる、のち愛媛県会議員となる○当選二回(12)○明治36年5月29日死去

牧野 鐵九郎(まきの てつくろう) 岐阜県郡部選出 立憲国民党

文久2年1月生・岐阜県出身・漢学を修む○岐阜県会議員、仁木村長、安八郡会議員、同議長となる○当選一回(13)○昭和6年7月14日死去

牧野 元(まきの はじめ) 長野県郡部選出 立憲政友会

文久元年3月生・長野県出身・漢学を修む○郡連合会議員、長野県会議員、同副議長、目折村長、長野市長となる、また蚕糸業組合取締所会議員、全国蚕糸業組合中央部会議員、県勧業諮問会員、長野地方森林会議員、長野商業会議所特別議員となる○当選三回(789)○大正10年1月25日死去

牧野 彦太郎(まきの ひこたろう) 岐阜県郡部選出 中正会

慶応2年6月生・岐阜県出身・明治23年慶応義塾卒○農業を営む、また東京木管製造所を経営す○当選一回(11)○昭和15年7月9日死去

牧野 平五郎(まきの へいごろう) 富山県富山市選出 中央倶楽部

元治元年8月生・富山県出身・漢学、数学を修む○富山市会議員、同議長、富山県会議員、同議長、三度富山市長となる、また呉服商を営み、富山商業会議所副会頭、十二銀行、北陸商業銀行、第四十七銀行、中越鉄道、北陸生命保険、富山電燈、富山鉄道各㈱取締役、富山米穀肥料取引所監査役となるほか、富山実業新聞を創刊す○当選二回(8 10)○昭和3年5月10日死去

牧野 良三(まきの りょうぞう) 岐阜県第二区選出 自由民主党

明治18年5月生・岐阜県出身・明治43年東京帝国大学独法科卒、法学博士○逓信管理局書記、通信副事務官となり、大阪商船㈱勤務後、弁護士の業務に従事す、文部大臣秘書官、兼文部省参事官、田中内閣の商工参与官、斎藤内閣の逓信政務次官となり、全国選挙管理委員長、選挙制度調査会長、衆議院予算委員長、第三次鳩山内閣の法務大臣となる、また立憲政友会総務、日本自由党常任総務、自由党、日本民主党、自由民主党各顧問となる・第三十四回列国議会同盟会議(ヘーグ)及び第二十三回万国議院商事会議(ワルソー)に議員団長として参列す・永年在職議員として院議表彰さる㊎「投票用紙事件の表裏」「満鉄事件」「競争入札と談合」○当選十回(14 15 16 17 18 19 20 21 25 27)○昭和36年6月1日死去

牧原 源一郎(まきはら げんいちろう) 福島県第二区選出 日本進歩党

明治30年4月生・福島県出身・大正6年県立会津中学校卒○農業を営む、会津銀行、東邦銀行各監査役、保証責任福島県信用販売購買利用組合連合会監事となり、福島県農地委員会委員、司法保護委員、福島県地代家賃審査委員となる○当選一回(21)

牧山 耕藏(まきやま こうぞう) 長崎県第二区選出 同交会

明治15年1月生・東京都出身・明治39年早稲田大学政治経済学部卒○京城居留民団議員、京城学校組合会議員、第二次若槻内閣の海軍政務次官となる、また朝鮮新聞社、長崎日日新聞社、佐世保新聞社、朝鮮鉱山各㈱取締役社長、金剛山電気鉄道、九州日報社各㈱取締役となり、国際観光興業、大日本興業、関東建設工芸各㈱社長となるほか、政友本党代議士会長、立憲民政党総務となる・第三十二回列国議会同盟会議(ブダペスト)に議員団長として参列す○当選八回(13 14 15 16 17 18 19 20)○昭和36年6月5日死去

正木 清(まさき きよし) 北海道第一区選出 日本社会党

明治33年5月生・北海道出身・大正10年大原簿記学校卒○鉱山労働者となり、のち運送業に従事す、札幌市会議員、北海道会議員となり、商工省委員、衆議院運輸及び交通委員長、芦田内閣の商工政務次官、衆議院副議長、皇室会議、皇室経済会議各議員となる、また北海道運搬商業協同組合連合会理事長、北海道交通協会副会長、日本社会党中央執行委員、国会対策委員長、代議士会長、北海道開発特別委員長となる・議会制度調査視察のため欧米各国へ派遣さる○当選七回(21 22 23 25 26 27 28)○昭和36年4月12日死去

正木 照藏(まさき てるぞう) 兵庫県第十四区選出 憲政会

文久2年7月生・兵庫県出身・漢学を修め、大阪英語学校に学ぶ○兵庫県庁、神戸商業会議所等に勤務後、報知新聞記者となり、次いで日本郵船㈱に入り、外航課長、参事、業務調査主査となり、欧米、支那各国を巡遊す、また兵庫県会議員となる・第二十回列国議会同盟会議(ウィーン)に参列す㊎「漫遊雑録」、(訳書)「ジョンブルと其郷土」「泰

西文芸奇談」「平和と幸福」○当選二回(13・14)○大正13年5月17日死去

正木安左衛門　京都府第三区選出　弥生倶楽部

天保11年9月生・京都府出身・漢学及び法学を修む○農業を営む、乙訓郡第三区長、学区取締、戸長、郡書記となり、京都府会議員、乙訓村会議員となる、また乙訓郡農会長、同農談会長となる○当選一回(2)○大正2年6月18日死去

政尾藤吉　愛媛県郡部選出　立憲政友会

明治3年11月生・愛媛県出身・明治22年東京専門学校普通英語科卒、のち米国に留学し、西パージニア大学法学部、エール大学等に学ぶ、法学博士○外務省よりシャム国に特派され、のち同国政府顧問となり、同国侯爵、准皇族待遇徽章等を授けらる、帰朝後弁護士の業務に従事し、次いでシャム国駐剳特命全権公使となる・米国及び南洋視察のため各議員団長として派遣さる○当選二回(12・13)○大正10年8月11日死去

升田憲元　島根県第二区選出　立憲民政党

明治10年8月生・東京都出身・明治33年陸軍士官学校、同45年京都帝国大学政治科、大正2年同大学法律科卒○陸軍歩兵少尉より同大尉に累進す、日露戦役に従軍す、陸軍省参事官、岐阜県不破、本巣各郡長、国勢院総裁秘書官を歴任、同書記官、大蔵事務官、国勢院事務官、同書記官を歴任、またカーネギー万国平和財団日本経済調査員となる、のち弁護士の業務に従事し、帝国在郷軍人会本部法律顧問、陸軍軍法会議指定弁護士となる㊟「護国の栞」、「兵役税論」、「ミリタリー・インダストリー」○当選一回(19)○昭和24年5月10日死去

枡谷音三　山口県第一区選出　立憲政友会

明治5年8月生・山口県出身・明治23年赤間関商業学校卒○下関市会議員、同参事会員、山口県会議員となる、また下関商業会議所会頭、下関、山口各商工連合会長、関門製氷、枡谷商会、下関倉庫、桜山土地建物各株社長、門司瓦斯、長州鉄道、扶桑運輸、東洋製氷、山陽電気軌道、長府土地各(株)取締役、下関水産、馬関電灯、中国製氷、九州製氷、小野田セメント各株監査役となる○当選一回(16)○昭和10年11月24日死去

枡谷寅吉　大阪府第一区選出　立憲民政党

明治11年11月生・大阪府出身・漢学を修む○多年土木建築請負業に従事し、のち会社顧問となり、大阪市会議員、港区九条通連合青年団長となる、また南海興業(株)取締役のほか数会社の重役となる○当選四回(16・17・18・19)○昭和28年12月15日死去

益田陽一　熊本県郡部選出　帝国党

嘉永3年11月生・熊本県出身・漢学を修む○熊本県会議員となる、また天草銀行取締役となる○当選一回(8)○大正7年11月6日死去

益谷秀次　石川県第二区選出　自由民主党

明治21年1月生・石川県出身・大正3年京都帝国大学法律科卒○司法官試補、判事となり、のち弁護士となる、国勢院総裁秘書官、第一次吉田内閣の外務政務次官、第二次及び第三次吉田内閣の建設大臣次いで国務大臣、衆議院議長、皇室会議議員、皇室経済会議議員、第二次岸内閣の国務大臣(副総理)、行政管理庁長官となる、また自由党総務会長、自由民主党顧問、総務会長、幹事長となる・派遣軍慰問のため中国へ、またカナダ国議会及び同政府の招請により議会制度視察のため同国へ派遣さる○当選十回(14・18・19・22・23・24・25・26・27・28)

増井慶太郎　静岡県選出　国民協同党

明治16年12月生・静岡県出身○静岡市会議員、同議長となる、また鎌倉合同乗合自動車、日本玩具、トモエ商会、不二工機、葵酒造、静岡米穀各株社長、富士製粉、清水銀行各(株)取締役、静岡県商工経済会評議員、静岡信用、静岡市購買利用組合、経済団体連合会各理事、日本商工会議所常議員、静岡商工会議所、静岡県商工会議所連合会各会頭となるほか、国民協同党会計監督、代議士会副会長となる○当選一回(22)

増田甲子七　長野県第四区選出　自由民主党

明治31年10月生・長野県出身・大正11年京都帝国大学英法科卒○内務属、内務事務官、内務書記官、内務大臣官房文書課長を経て福島県知事、北海道長官、第一次吉田内閣の運輸大臣、第二次吉田内閣の労働大臣、第三次吉田内閣の国務大臣兼内閣官房長官次いで建設大臣を歴任、また日本自由党政務調査会長、民主自由党顧問、講和前後二期に亘り自由党幹事長となり、自由党総務、自由民主党総務、国会対策委員長、相談役、政調会運輸交通、東北開発各特別委員長となる・内務省より社会事業及び労働問題研究調査のため欧米各国に出張す○当選五回(23・24・25・26・28)

増田義一　新潟県第四区選出　日本進歩党

明治2年10月生・新潟県出身・明治26年東京専門学校政治科卒、同校研究科に財政学を専攻す○読売新聞記者となる、のち実業之日本社を創立し社長となり「実業之日本」ほか数種の雑誌及び図書を出版す、また同社のほか多数会社の重役を兼ね、東京市政調査会監事、衆議院副議長、鉄道会議議員、内閣情報部参与、絹製品価格形成専門委員会委員長、早稲田大学理事、日本印刷文化協会長となる、また立憲民政党総務、政務調査会長となる㊟「茶前茶後」「青年と修養」「婦人と修養」「群を抜く道」○当選八回(11・15・16・17・18・19・20・21)○昭和24年4月27日死去

増田金作　群馬県第一区選出　立憲政友会

明治10年2月生・群馬県出身・県立前橋中学校に学ぶ○白沢村収入役、利根郡会議員、白沢村長、沼田町長、群馬県会議員、同参事会員となり、県農会代議員となる○当選一回(18)○昭和22年5月20日死去

増田次郎　静岡県郡部選出　公正会

明治元年2月生・静岡県出身○台湾総督府属、南満州鉄道㈱総裁秘書、鉄道院書記、鉄道院総裁秘書、同副参事を歴任、のち大同電力、昭和電力、大阪電力、木曽発電、立山水力電気各(株)社長、矢作水力、関西共同火力発電各(株)取締役等を経て日本発送電㈱総裁となり、台湾電力㈱社長となる○当選一回(12)○昭和26年1月14日死去

増田繁幸　宮城県第一区選出　大成会

文政8年6月生・宮城県出身・仙台藩校養賢堂に学ぶ○仙台藩参政、二本松対官軍使節となる、のち仙台藩権参事、大参事、一ノ関県参事、磐井県権令兼五等判事を歴任、宮城県会議員、同常置委員会長、同議長となる○当選一回(1)・(貴三勅選)○明治29年3月14日死去

増田連也　群馬県第二区選出　改進党

明治25年12月生・群馬県出身・第四高等学校に学ぶ○群馬県会議員、同副議長、同議長となる、また群馬県監査委員、同共同募金委員長、同人権擁護委員、民主党代議士会副会長となる○当選一回(24)

増田穆三　香川県郡部選出　憲政会

安政5年8月生・香川県出身・和漢学を修む○農業を営む、仲七箇村長、香川県会議員、同参事会員、同副議長、同議長となる、また関西教育大会評議員、地方森林会議員となる、のち華道如松流立華家元となる○当選二回(11・12)○昭和14年2月22日死去

増永元也（ますながげんや） 福岡県第三区選出 翼賛議員同盟

明治14年10月生・福岡県出身・明治39年東京帝国大学電気工学科卒、のち鉄道院より鉄道に関する電気事業研究のため欧米各国に留学す○逓信省鉄道作業局雇、鉄道庁技師、鉄道院技師、新橋電力事務所長、鉄道局技師、鉄道技師、鉄道省電気局通信課長、電気局長を歴任し、九州送電株顧問、九州共同火力発電株取締役、大同信号株顧問となる○当選一回(20)○昭和31年7月5日死去

俣野景孝（またのかげたか） 大阪府第六区選出 大阪派

嘉永6年10月生・大阪府出身・庄内藩校致道館に学ぶ○内務省属、沖縄県属、大阪府警部、茨田、交野、讃良各郡長を歴任す、また浪花紡績、摂河鉄道各会社々長となる○当選二回(12)○明治44年9月21日死去

町田三郎（まちださぶろう） 群馬県選出 日本社会党

明治27年9月生・群馬県出身・大正3年慶応義塾商工部卒○渋川町長、同市長となる、また生糸製造業に従事、のち上毛精機、渋川製作所各株を創立し社長となり、次いで太平工業、吉野組製糸所、町田織物、東京建鉄各株社長となるほか、群馬商工経済会理事となる○当選一回(22)

町田猛郎（まちだたけしろう） 兵庫県姫路市選出 帝国党

安政3年2月生・兵庫県出身・明治10年大阪師範学校卒○小学校訓導、城西小学校長となる、のち姫路市会議員、同参事会員、同学務委員、破産管財人となる、また質屋業を営む○当選一回(8)○大正5年6月8日死去

町田旦龍（まちだたんりょう） 高知県郡部選出 立憲政友会

安政5年12月生・高知県出身・医学を修む○高知県会議員、高知市会議員、同参事会員となる、また高知病院々主、博済病院長となり、のち眼科専門町田病院を設立す○当選一回(10)○昭和12年1月22日死去

町田忠治（まちだちゅうじ） 秋田県第一区選出 日本進歩党

文久3年3月生・秋田県出身・明治20年東京帝国大学法科撰科卒○法制局属となる、のち朝野新聞、郵便報知新聞記者となり、外遊、帰朝後、東洋経済新報社を創立し社長となる、日本銀行取調役、山口銀行総理事、大阪銀行集会所委員長、報知新聞社長となる、また農商務省参政官、第一次若槻、濱口、第二次若槻各内閣の農林大臣、岡田内閣の商工大臣、兼大蔵大臣、第一次近衛、平沼、第二次近衛各内閣の内閣参議、小磯内閣の国務大臣を歴任、臨時産業審議会副会長、資源審議会副総裁となるほか、憲政会総務、立憲民政党総務会長、同党総裁、日本進歩党総裁となる・永年在職議員として院議表彰さる(賞)「財政学」「憲法評論」○当選十回(11 12 13 15 16 17 18 19 20 21)○昭和21年11月12日死去

町野武馬（まちのたけま） 福島県第二区選出 無所属

明治8年11月生・福島県出身・明治31年陸軍士官学校卒○陸軍歩兵少尉より同大佐に累進す、その間日露戦役に従軍す、また清国政府応聘武官（北京）、参謀本部附、再び支那政府応聘武官（奉天）となり、東三省保安総司令、奉天省長、吉林督軍、黒竜江督軍各顧問となる、のち大日本武徳会長となる○当選一回(15)

町村金五（まちむらきんご） 北海道第一区選出 自由民主党

明治33年8月生・北海道出身・大正13年東京帝国大学政治科卒○地方警視、宮内事務官、宮内大臣秘書官兼宮内書記官、岐阜、三重各県書記官、内務書記官兼内務大臣秘書官、富山県知事、内務省警保局長、新潟県知事、警視総監、東京都次長を歴任、衆議院法務委員長となり、のち北海道知事となる、また鉄道弘済会、日本消防協会各顧問、改進党副幹事長、政策委員会決算、文部各部長、

自由党副幹事長、自由民主党全国組織委員会副委員長兼組織局長、党紀委員会副委員長、北海道開発特別委員会委員長となる○当選四回(25 26 27 28)

松井郡治（まついぐんじ） 新潟県第一区選出 翼賛議員同盟

明治4年1月生・新潟県出身・明治27年東京専門学校法律科卒○司法官試補、検事代理、新潟、旭川、長岡各区裁判所及び新潟地方裁判所判事を歴任、のち弁護士の業務に従事し、新潟市会議員、同県会議員となる、また新潟弁護士会長、新潟新聞社監査役となる・第二十七回列国議会同盟会議（ブカレスト）に議員団長として参列す○当選四回(15 17 19 20)○昭和18年10月21日死去

松井源内（まついげんない） 北海道庁函館外三支庁管内選出 猶興会

安政5年7月生・新潟県出身○寿都町会議員、同町長、所得税調査委員となる、また呉服商、海陸物産商、回漕業、醸造業等を営み、寿都外三郡酒造組合長、後志興農、寿都銀行各(株)取締役、寿都倉庫、寿都汽船各株社長となる○当選一回(9)○大正2年3月9日死去

松井将壮（まついしょうそう） 広島県郡部選出 同志研究会

安政6年6月生・広島県出身・豊田中学校、教員養成所、大阪英和学舎卒○農業を営む、戸長、郡書記、小学校教員となり、西大田村長、広島県会議員、同常置委員、同議長となる、また世羅郡教育会長となる○当選三回(5 7 8)○大正7年6月9日死去

松井鐵夫（まついてつお） 群馬県第二区選出 憲政会

明治9年9月生・東京都出身・京都帝国大学法律科に学ぶ○台湾日日新聞社員、次いで台湾旧慣調査会の事務に従事す、のち関東州民政署商工事務嘱託、南満州鉄道(株)社員を経て、大豆撒粕工場及び満州耐火煉瓦工場を創立経営す、また中華電気工業、旅順銀行、東亜証券商品信託各(株)重役、大阪帝国通信社、大日本興農各(株)取締役となる○当選一回(14)○昭和16年10月16日死去

松井豊吉（まついとよきち） 群馬県第二区選出 自由党

明治28年2月生・群馬県出身○桐生市会議員、衆議院災害地対策特別委員長、第五次吉田内閣の郵政政務次官となる、また土木建築請負業を営み、桐生市商工会議所議員、桐生林業組合常任理事、東光製作所、桐生織物工業、新田蚕糸工業、広桐鉱業各(株)社長となるほか、民主自由党相談役、総務、自由党総務となる○当選三回(23 24 26)○昭和34年1月23日死去

松井文太郎（まついぶんたろう） 福井県選出 立憲民政党

明治元年8月生・福井県出身・明治19年福井県師範学校卒○福井県会議員、同副議長、福井市会議員となる、また生糸羽二重製造業を営み、福井商業会議所副会頭、同会頭、県絹織物同業組合長、日本輸出絹、同綿織物各同業組合連合会副組長、野沢屋輸出店、福井染色、福井織物各株取締役社長、白山水力、福井殖産、福井紡績各株取締役等となる・パリ万国博覧会に県出品人総代として渡仏、また国際労働会議（ワシントン）に資本家代表顧問として出席す○当選三回(13 16 17)○昭和8年9月2日死去

松井政吉（まつまさきち） 福島県第三区選出 日本社会党

明治39年3月生・新潟県出身・専修大学経済科に学ぶ○日本鉱夫組合組合長、日本運輸労働組合組合長等を経て、電気通信労働組合顧問となる、また衆議院逓信委員長、日本社会党中央執行委員、総務局長、議会制度審議会委員長、労働部長、農民部長、組織部長となる・第四十二回列国議会同盟会議（ワシントン）に出席のため派遣され、欧米各国を視察す(賞)「働く者が何故貧乏するか」「政党と労働組合」○当選四回(24 25 26 27)

松浦伊平　香川県第二区選出　無所属倶楽部

明治23年1月生・香川県出身○松山村会議員、同村長、香川県会議員、同参事会員、同副議長となり、拓務省委員、大東亜省委員となる、また農業を営み、綾歌郡農会長、同畜産組合連合会長、香川県農会長、同養鶏組合、同農業保険組合各連合会長、永富池、北条池耕地整理組合連合会長、坂出瓦斯㈱専務取締役、大籔製塩、讃岐化学、讃岐藻工業各㈱取締役社長、金山新塩田㈱取締役、松浦工業㈱社長となる○当選二回(20 21)

松浦薫　香川県選出　日本自由党

明治37年4月生・香川県出身・昭和4年東京帝国大学土木科卒○松浦組支配人、満州松浦組、松浦工業各㈱専務取締役、四国瓦斯㈱取締役、日本自由党幹事となる、また高松市助役となる○当選一回(22)

松浦五兵衛　静岡県第一区選出　立憲政友会

明治3年9月生・静岡県出身・明治25年東京法学院卒○静岡県会議員、同参事会員となり、衆議院副議長となる、また農業を営み、静岡県農会長、小笠郡茶業、蚕糸業各組合長、掛川商業銀行、堀之内銀行各頭取、日米共同製茶㈱取締役、富士鉱業㈱社長、東北鉄道工業㈱常務取締役、東亜拓殖㈱取締役となるほか、政友本党幹事長、総務、立憲政友会総務となる・欧米各国を歴遊す、また支那、朝鮮、樺太方面視察のため派遣さる○当選十回(7 8 9 10 11 12 13 14 15 16)○昭和6年3月12日死去

松浦榮　北海道第四区選出　民主自由党

明治33年7月生・北海道出身・大正13年京都帝国大学英法科卒○北海道庁通訳兼警部、警察練習所長、警視、外事、監査、保安各課長、静岡県教育兼社会課長、地方兼人事課長、沖縄、長崎各県警察部長、宮城県学務部長、茨城県内政部長、長野県内務部長を歴任す、のち茨城新聞社理事となる、また北海道選挙管理委員長、北海学園大学、北海道自動車短期大学各講師となる㊒「法学概論」「日本国憲法概説」○当選一回(23)

松浦定義　北海道第五区選出　日本社会党

明治37年8月生・北海道出身・大正13年岐阜県横蔵村農業補習学校卒○北海道に移住農牧業に従事す、川西村農業調整委員会委員長、十勝農村建設連盟を創設、同理事長、十勝地区農民同盟執行委員長、北海道農民同盟副委員長、全国農民連盟副委員長、北海道民同盟副委員長となる、また日本社会党北海道支部連合会執行委員長、政審会農林水産副部長、北海道開発特別委員会副委員長となる○当選一回(28)・㊐一回(2)

松浦周太郎　北海道第二区選出　自由民主党

明治29年5月生・北海道出身○美深町会議員、北海道会議員、逓信大臣秘書官、幣原内閣の外務参与官、石橋内閣、第一次岸内閣の労働大臣、衆議院通商産業、同農林水産各委員長となる、また天塩川木材工業、日本木材工業、北海道輸出木材各㈱社長、全国木材組合連合会長、日本合板工業組合理事長となる、改進党副幹事長、日本民主党政調会副会長、自由民主党相談役となる・アメリカ産業視察団長として渡米、また世界平和大集会(ストックホルム)及びILO総会に出席、中国、ソ連、欧州、中南米各国を視察す㊒「マレンコフ氏の苦笑」「私の労働政策」「欧米の農政をたずねて」『農民の幸せを求めて』○当選七回(20 20補 21 25 26 27 28)

松浦唯次郎　広島県第六区選出　井上組

天保5年5月生・広島県出身・漢籍を修む○松江村、下北方村各庄屋、豊田郡戸長、第九大区々長、豊田郡長、学区取締、郡徴兵事務官、検疫委員となる、また日本赤十字社豊田郡委員長となる○当選一回(5)○明治42年3月1日死去

松尾寛三　佐賀県第二区選出　山下倶楽部

安政6年9月生・佐賀県出身○小樽漁港、帝国瓦斯電燈、松尾工場、南洋製糖各㈱取締役、日本勧業銀行、東洋捕鯨、浦賀船渠、東京醤油、亜鉛工業、深川造船所、佐賀紡績、日本銑鉄、東洋油脂各㈱監査役、天草電燈㈱社長となる○当選二回(4 5)○大正11年6月15日死去

松尾三藏　福岡県第二区選出　日本進歩党

明治21年1月生・福岡県出身○多年三菱合資会社に勤務、のち金丸鉱業㈱取締役となり、香月町会議員となる、また福岡県消防協会評議員及び理事、遠賀郡畜産組合長、香月町商工会長となるほか、久恒鉱業、田籠鉱業、藤井鉱業、三崎鉱業、三菱鉱業㈱顧問となる○当選二回(20 21)○昭和23年5月14日死去

松尾四郎　奈良県選出　翼賛議員同盟

明治16年5月生・奈良県出身・明治36年大阪府立北野中学校卒○松山町会議員、同町長、奈良県農会議員、宇陀郡農会長、同教育会長となる、また大和銀行監査役、大和電気、大正水力電気、宇治川電気、信貴生駒電気鉄道、奈良県農工銀行、南都銀行、大和貯蓄銀行各㈱取締役、吉野銀行、奈良信託各㈱監査役となり、新日本工業㈱取締役となる・派遣軍慰問のため議員団長として満州へ派遣さる○当選五回(16 17 18 19 20)○昭和33年7月17日死去

松尾孝之　北海道第四区選出　同交会

明治23年8月生・北海道出身・大正6年日本大学法律科卒○内務属、北海道庁理事官、同警視、夕張警察署長となる、のち夕張町長となり、夕張信用組合理事となる・派遣軍慰問のため支那へ派遣さる○当選二回(18 20)○昭和21年5月25日死去

松尾トシ子　神奈川県第一区選出　民主社会党

明治40年7月生・旧名(トシ)・神奈川県出身・昭和24年日本大学法文学部政治経済科卒○横浜英文速記者協会理事、横浜YMCA英語学校主任教師、日本女子英学院校長となり、横浜市民信用組合理事長、神奈川県信用保険協会、同県経済委員会各理事、同県主婦連盟会長、松尾興産㈱社長となる、また日本社会党会計監査、中央執行委員、運輸部長、代議士会副会長となる・商工委員会より欧米各国の経済界を視察す㊒「英文速記術入門」、(随筆集「女のひがごと」○当選六回(22 23 選一回(2)○明治34年5月4日死去

松浦東介　山形県第一区選出　自由民主党

明治40年4月生・山形県出身・大正15年県立寒河江中学校卒○山形県会議員、同参事会員となり、衆議院決算委員長、同農林委員長、第四次吉田内閣の農林政務次官、積雪寒冷単作地帯振興対策審議会長となる、また東村山郡畜産組合長、山形県馬匹組合連合会副会長、同畜産会長、同家畜商商業組合連合会長、同果樹振興協議会長、全国土地改良協会副会長、農業共済基金理事長となる、日本自由党、民主自由党、自由党、日本民主党、自由民主党において党総務、政務調査会副会長、農林部長等となる○当選五回(22 23 24 25 27)

松浦與三郎　宮崎県選出　正交倶楽部

元治元年9月生・宮崎県出身・明治13年鹿児島師範学校速習科卒○シャム国の森林視察のため渡航、また支那各地を歴遊す、のち営口及び大連市外に煉瓦製造工場を設立経営す○当選一回(13)○昭和23年3月13日死去

松枝顯勝　熊本県第一区選出　国民協会

天保13年3月生・熊本県出身○農業を営む、村会議員、宇土郡会議員、同議長、熊本県会議員、同副議長となる○当選一回(5)○明治42年3月1日死去

松尾寛三　佐賀県第二区選出　山下倶楽部

安政6年9月生・佐賀県出身○小樽漁港、帝国瓦斯電燈、松尾工場、南洋製糖各㈱取締役、日本勧業銀行、東洋捕鯨、浦賀船渠、東京醤油、亜鉛工業、深川造船所、佐賀紡績、日本銑鉄、東洋油脂各㈱監査役、天草電燈㈱社長となる○当選二回(4 5)○大正11年6月15日死去

松尾三藏　福岡県第二区選出　日本進歩党

明治21年1月生・福岡県出身○多年三菱合資会社に勤務、のち金丸鉱業㈱取締役となり、香月町会議員となる、また福岡県消防協会評議員及び理事、遠賀郡畜産組合長、香月町商工会長となるほか、久恒鉱業、田籠鉱業、藤井鉱業、三崎鉱業、三菱鉱業㈱顧問となる○当選二回(20 21)○昭和23年5月14日死去

松尾四郎　奈良県選出　翼賛議員同盟

明治16年5月生・奈良県出身・明治36年大阪府立北野中学校卒○松山町会議員、同町長、奈良県農会議員、宇陀郡農会長、同教育会長となる、また大和銀行監査役、大和電気、大正水力電気、宇治

24 25 27 28）

松尾徳三郎　奈良県第二区選出　実業同志倶楽部

弘化2年11月生・奈良県出身○学区取締、奈良県会議員、大阪府会議員、同常置委員、町村会議員、連合町村会議員となる、また奈良県農工銀行取締役、大和銀行頭取となる○当選一回（4）○大正4年5月31日死去

松尾寅三　山口県下関市選出　無所属

嘉永3年7月生・山口県出身・普通学を修む○戸長、山口県会議員、赤間関区会議員、同議長、赤間関市会議員、同参事会員、同議長となり、市徴兵参事員、所得税調査委員、破産管財人、県勧業諮問会員となる、また紙商を営み、赤間関商業会議所副会頭、同会頭、下ノ関開港期成同盟幹事長、馬関商業銀行頭取、馬関電燈（株）社長、馬関烟草（株）取締役、下関米穀取引所監査役となる○当選二回（7/10）○大正3年3月3日死去

松尾又雄　熊本県第二区選出　無所属

嘉永4年11月生・熊本県出身○警部となる、のち熊本県会議員となる、また玉名銀行頭取、肥後農工銀行取締役となる○当選一回（6）○明治34年8月7日死去

松尾巳代治　長崎県第一区選出　立憲政友会

弘化4年11月生・長崎県出身○長崎市会議員、同参事会員、長崎県会議員となる、また貿易商を営み、長崎商業会議所副会頭、フィラデルフィア万国博覧会特別会員、長崎港荷受問屋総代となる○当選一回（6補）○明治37年7月13日死去

松岡嘉兵衛　静岡県第一区選出　自由民主党

明治36年6月生・静岡県出身・大正11年県立中泉農学校卒○上川根村長、上川根農業協同組合長、本川根町長、本川根町森林組合長、静岡県森林組合連合会理事、川根茶業組合長となる、また大井川鉄道、板倉貿易倉庫各株取締役、千頭木材、静岡木材防腐、桜屋物産各株取締役社長となる、自由民主党幹事、全国組織委員会婦人局次長、同婦人組織部長となる○当選一回（28）

松岡勝太郎　岐阜県郡部選出　憲政会

明治2年11月生・岐阜県出身・明治20年同人社、同23年東京専門学校行政科卒○農業を営む、岐阜県会議員、同議長となり、所得税調査委員、宅地価修正委員となる、また会社重役となる○当選一回（13）○昭和7年9月10日死去

松岡駒吉　東京都第二区選出　日本社会党

明治21年4月生・鳥取県出身○舞鶴海軍工廠、室蘭製鋼所等の工員となり爾来労働運動に従事、友愛会主事、日本労働総同盟会長、日本労働組合会議議長、日本労働組合総同盟会長、同顧問、日本労働会館、労働科学研究所各理事となり、また社会民衆党中央執行委員、社会大衆党顧問、日本社会党両院議員総会長、党顧問となるほか、厚生省、内閣行政調査部各顧問、裁判官任命諮問委員会委員長、日本銀行参与、衆議院議長、皇室会議、皇室経済会議各議員となる・第八回、第九回国際労働総会（ジュネーブ）に労働代表委員顧問、第十二回同総会に労働代表委員として出席、太平洋会議（インド）及びアジア社会党会議（ビルマ）に各日本代表団長として出席、また第十一回国連総会に政府代表顧問として出席す○当選六回（22 23 24 25 27 28）○昭和33年8月14日死去

松岡俊三　山形県第二区選出　自由党

明治13年7月生・東京都出身・明治32年浄土宗大学卒、のち日本法律学校に学ぶ○日露戦役に従軍す、都新聞記者、同社副社長、監査役となる、のち雪害救済運動を提唱し、雪の日本社を創立、機関誌「雪の日本」を発刊す、北朝鮮古乾原に植林事業を起し松岡林業所を経営、終戦後県内大高根に松岡開拓団を組織し、雪の観音郷開拓農業協同組合理事長となる、また米内内閣の拓務政務次官となる・立憲政友会より特派されワシントン軍縮会議に参列す㊟「雪国の悲惨を語る」○当選九回（14 15 16 18 19 20 21 25 26）○昭和30年2月16日死去

松岡長康　熊本県第五区選出　立憲政友会

安政3年8月生・熊本県出身・漢学、英学を修む○学区取締、熊本県会議員となる、のち熊本県御用掛、同収税属、台湾総督府雲林支庁長、台湾総督府法院雲林支部審判官、台中県支庁書記官を歴任す、また農業を営み、温泉改良、肥南杭木各（株）社長となる○当選二回（5 6）○明治41年4月26日死去

松岡運　福岡県第二区選出　民主党

明治28年5月生・福岡県出身・大正2年県立福岡農学校卒○農業を営む、熊田村会議員、福岡県会議員、同参事会員、同副議長、山田町長となる、また山田農会長、同農業会長、嘉穂郡南部食糧品統制組合理事長、日本進歩党代議士会副会長となる○当選一回（22）

松岡秀夫　埼玉県第三区選出　翼賛政治会

明治31年3月生・埼玉県出身・大正9年東京帝国大学農学実科卒○陸軍歩兵中尉となる、支那事変に従軍す、星河村会議員、同村長、忍町会議員、同議長、埼玉県会議員となる、また忍貯金銀行、忍商業銀行各取締役頭取、帝国在郷軍人会北埼玉郡連合分会長となる・大東亜戦争に際し議員在職中召集を受け従軍、ビルマにて戦死す○当選一回（21）○昭和19年9月4日死去

松岡平市　佐賀県第二区選出　無所属

明治34年5月生・佐賀県出身・大正14年東京帝国大学英法科卒○東京市吏員、警視庁属、警部、警視、地方事務官を歴任、満州国民生部司法科長、北支派遣軍嘱託となり、世田谷町高等女学校理事長及び校長、大日本製紙原料商業組合専務理事、和紙原料統制連合会長、大日本紙料運輸（株）社長となる、また参議院両院法規委員長、同地方行政委員長、第三次鳩山内閣の北海道開発政務次官、自由党国会対策副委員長となる○当選一回（21）・（参一回（3））

松岡平　富山県第一区選出　自由民主党

明治37年12月生・富山県出身・中央大学法律科に学ぶ○弁護士の業務に従事す、東亜特殊製鋼（株）社長、東和産業（株）会長となる、また日本民主党国会対策副委員長、自由民主党国会対策副委員長、宣伝局長となる○当選二回（25 27）

松岡洋右　山口県第二区選出　立憲政友会

明治13年3月生・山口県出身・明治33年米国オレゴン州立法科大学卒、バチェラー・オブ・ローズの学位を受く○領事官補、外務書記官、公使館三等書記官より大使館一等書記官となり、外務事務官、兼外務大臣秘書官、兼内閣総理大臣秘書官、講和全権委員随員、在間島総領事を歴任、南満州鉄道株理事、同副社長、同副総裁、同総裁となる、また第一次近衛内閣の内閣参議、第二次近衛内閣の外務大臣、兼拓務大臣となる・国際聯盟総会臨時会議（ジュネーブ）に帝国代表として出席、また三国条約成立に関し独、伊両国を訪問後、モスクワにおいて帝国代表として日ソ中立条約を締結す○当選二回（17 18）○昭和21年6月27日死去

松家徳二　香川県郡部選出　立憲同志会

明治4年3月生・香川県出身○農業を営む、香川県会議員となる○当選五回（7 8 9 10 11）○昭和4年11月14日死去

松方幸次郎（まつかたこうじろう）　鹿児島県第一区選出　日本進歩党

慶応元年12月生・兵庫県出身・明治23年米国エール大学卒、ドクトル・オブ・シビルローの学位を受く、のち欧州に遊学、オックスフォード大学、パリ大学に学ぶ○内閣総理大臣秘書官となる、日本火災保険㈱取締役、川崎造船所専務取締役社長、同顧問、九州電気軌道、神戸桟橋、神戸瓦斯、川崎汽船、国際汽船、九州土地、旭石油各㈱取締役社長となり、神戸商業会議所会頭となる、またソ連邦の招請に応じ訪ソ、揮発油輸入契約を締結、松方日ソ石油販売事務所を創設す、のち日ソ石油㈱取締役会長となる・日本実業団代表として米国、清国に渡航す○当選四回（11 19 20 21）○昭和25年6月24日死去

松川昌蔵（まつかわしょうぞう）　岩手県選出　日本自由党

明治25年2月生・岩手県出身・大正7年京都帝国大学独法科卒○司法官試補、検事代理、予備検事、岐阜、水戸各地方裁判所検事、若松区兼福島地方裁判所若松支部判事を歴任、のち弁護士の業務に従事す、一関町会議員、岩手県会議員、同参事会員、一関町長となり、西磐井郡町村長会長、岩手県町村長会長となる、また東北砂利採取㈱代表取締役社長、日本自由党政調会行政機構改革部長となる○当選三回（19 20 22）

松木弘（まつきひろし）　新潟県第一区選出　自由党

明治12年4月生・新潟県出身・明治29年東京法学院卒○司法官試補となり、のち弁護士の業務に従事す、新潟市会議員、新潟県会議員、同議長となり、米内内閣の農林参与官、衆議院懲罰委員長となる、また新潟県弁護士会長、同商工会議所顧問、新潟電力㈱取締役、同監査役、東北配電、新潟港湾倉庫、北越製氷各㈱監査役、日本海倉庫㈱取締役、日本弁護士連合会監事、民主自由党相談役となる○当選五回（18 19 20 23 補 24）

松崎朝治（まつざきあさじ）　埼玉県第三区選出　自由党

明治36年9月生・埼玉県出身・大正14年早稲田大学政治経済科卒○熊谷市会議員、同議長となる、また松崎製糸、埼玉繊維工業各㈱社長、丸佐生糸㈱取締役、日本輸出生糸保管㈱監査役、日本蚕糸振興会、中央蚕糸協会監事、日本蚕糸業倶楽部・アソシエーション各理事、製糸協会、ジャパン・シルク・アソシエーション各理事、日本自由党幹事、民主自由党中小企業対策部長となる・世界絹業大会（ニューヨーク）に出席す○当選二回（23 26）

松澤兼人（まつざわけんじん）　兵庫県第一区選出　日本社会党

明治31年1月生・新潟県出身・大正10年東京帝国大学政治科卒○大阪市社会部、大阪労働学校主事兼講師、関西学院教授となり、神戸市会議員、兵庫県会議員、衆議院両院法規委員長、参議院商工委員長となる、また神戸港厚生会事務局長、新潟短期大学長、日本労農党、社会大衆党各役員、日本社会党中央執行委員、政策審議会副会長となる・社会主義インターナショナル大会（ロンドン）及びアジア社会党会議（ラングーン）、第二回同会議（ボンベイ）に出席す㊟「労働組合の基礎知識」「経済学十講」「近代資本主義発展史論共訳」「労農連邦研究（共著）」「マルクス、エンゲルス全集共訳」○当選三回（22 23 24）・㊥二回（35）

松澤光憲（まつざわこうけん）　山形県第四区選出　議員倶楽部

天保9年2月生・山形県出身・昌平黌に学業を修む○新庄藩明倫堂の講師となる、戊辰の役に従軍す、のち大学少舎長、新庄県公用方、山形県権少属、栃木県師範学校助教論、同県警部、同警部長、警視兼警察使、警視庁久松警察署長、青森県、岩手県、鹿児島県各書記官を歴任す㊟「麻渓遺稿」○当選一回（2）○大正2年12月17日死去

松澤一（まつざわはじめ）　山梨県選出　社会革新党

明治29年2月生・山梨県出身○農業を営む、春日居村会議員、山梨県会議員、同参事会員、小作、金銭債務、人事、戦時特別各調停委員、県農地委員、山梨地方森林会議員となる、また日本農民組合関東同盟教育部長、同県連合会主事、同中央執行委員、農地改革同盟山梨県連合会主事、日本社会党中央執行委員となる○当選二回（22 23）○昭和36年9月4日死去

松澤雄藏（まつざわゆうぞう）　山形県第二区選出　自由民主党

明治43年12月生・山形県出身・昭和6年県立新庄中学校卒、同9年満蒙学校本科卒後渡満○昭和通商支那代表部々員、真室川町長、列国議会同盟日本議員団評議員、第一次池田内閣の行政管理政務次官となる、また山形県事業協議会、同土地改良協会各会長、全国土地改良協会常任理事、自由民主党幹事、労働局中小企業労働部長、政調会建設部長、国会対策副委員長となる・東南アジア、南洋群島を旅行、議会制度調査視察のため欧米各国へ派遣さる○当選二回（27 28）

松下軍治（まつしたぐんじ）　東京府東京市選出　立憲同志会

慶応3年5月生・東京都出身・漢学を修む○時論日報を創刊す、のちやまと新聞社長となる、また鉱山業を営む○当選二回（10 11）○大正4年10月23日死去

松下禎二（まつしたていじ）　鹿児島県第五区選出　庚申倶楽部

明治8年6月生・京都府出身・明治27年第五高等学校医学部卒、ドイツに留学、フライブルグ、ギーセン、ハレ、ブレスラフの各大学において衛生学及び細菌学を専攻、傍ら理学、哲学等を修め、ドクトル・メヂチーネ及びドクトル・フィロソフイの学位を受く、医学博士、理学博士○京都帝国大学教授となる・第十四回万国衛生及びデモグラフイ会議（ベルリン）に出席す㊟「寄生物性病論」「免疫学及び伝染病論」「結核病論」「学校衛生学」、独文「細菌診断学」「微生物学講義」「免疫学講義」○当選一回（14）○昭和7年6月23日死去

松下牧男（まつしたまきお）　静岡県郡部選出　立憲政友会

慶応元年5月生・静岡県出身・漢学を学ぶ○煙草製造業に従事す、ツルチュック醸造㈱監査役となる○当選一回（7）○大正15年5月15日死去

松島肇（まつしまはじめ）　徳島県第四区選出　無所属

明治14年5月生・徳島県出身・明治37年明治大学法律科卒、また早稲田大学政治科に学ぶ○昌栄貯蓄銀行頭取、第一倉庫、安全印刷、徳島日日新聞社、重和機械、平和土地各㈱社長となる、のち神奈川県逗子にて旅館養神亭を経営す○当選二回（13 14）

松島廉作（まつしまれんさく）　静岡県郡部選出　無所属

安政3年8月生・静岡県出身・東京専門学校において法律学、経済学を修む○農業を営む、また静岡民友新聞社を創立し社長となる○当選六回（2 3 4 5 6 8）○昭和14年4月22日死去

松城兵作（まつしろひょうさく）　静岡県郡部選出　立憲政友会

明治7年4月生・静岡県出身○農業を営む、静岡県会議員、地方森林会議員、静岡県山林会常議員、同水産会、同漁業連合会各顧問となる、また松崎水力電気㈱取締役、㈱沼津回漕店取締役社長となる○当選一回（11）○昭和17年2月8日死去

松田學（まつだまなぶ）　北海道庁札幌区選出　立憲同志会

安政3年8月生・北海道出身○札幌調帯㈱取締役社長、札幌木材㈱取締役、札幌商業会議所会頭となり、札幌市会議員、同参事会員、同議長となる○当選一回（11 補）○昭和13年1月10日死去

松田喜三郎（まつだきさぶろう）　愛媛県第一区選出　翼賛議員同盟

明治13年3月生・愛媛県出身○日露戦役に従軍

す、栗井村会議員、愛媛県会議員、同参事会員、同副議長、同議長、北条町長、栗井村長となる、また土木会議員、県及び郡農会議員、北条町農会長となる、また郡自治会、同兵事会、県連合薬業会各会長、日本織物、海南新聞社、鹿島酒造各(株)取締役、松田博愛堂(株)社長、新田中学校理事となる・派遣軍慰問のため北支那へ派遣さる○当選三回(17 19 20)○昭和21年2月15日死去

松田吉三郎(まつだきちさぶろう)　石川県郡部選出　立憲政友会

安政5年10月生・石川県出身・漢学、数学、法律、経済学を修む○農業を営む、石川県会議員となる、また北陸自由新聞を主管す、のち加能合同銀行取締役となる○当選九回(1 3 4 5 7 8 9 10 11)○昭和18年6月30日死去

松田源五郎(まつだげんごろう)　長崎県第一区選出　実業団体

天保11年4月生・長崎県出身・私塾に学ぶ○長崎県会議員、長崎区連合町会議員、同議長、長崎市会議員、同議長となる、また小野組長崎支店支配人、東京築地活版製造所取締役、長崎商法会議所会頭、九州鉄道、長崎電燈、長崎製氷、九州倉庫、香港ローラ麦粉各(株)取締役、十八銀行、長崎貯蓄銀行各頭取、石川島造船所監査役、東洋瀧漠(株)社長となる、長崎新聞を創刊す○当選一回(2)○明治34年3月1日死去

松田源治(まつだげんじ)　大分県第一区選出　立憲民政党

明治8年10月生・大分県出身・明治29年日本法律学校卒○司法官試補、検事代理となり、のち弁護士の業務に従事す、法律取調委員、臨時法制審議会委員、内務参事官、衆議院副議長、濱口内閣の拓務大臣、岡田内閣の文部大臣となる、また政友本党総務、立憲民政党総務、同幹事長となる○当選九回(10 11 12 13 14 15 16 17 18)○昭和11年2月1日死去

松田竹千代(まつだたけちよ)　大阪府第五区選出　自由民主党

明治21年2月生・東京都出身・ニューヨーク大学にて経済学、社会学を研究す○ニューヨーク市に日本人職業紹介所を創設し経営、また我国初の隣保事業たる柏木有隣園理事となる、平沼内閣の海軍政務次官、第二次鳩山内閣の郵政大臣、第二次岸内閣の文部大臣となり、コロンボ計画協議委員会第七次会議(シンガポール)政府代表、ドミニカ国と貿易及び移住問題交渉の政府代表となる、また自由党総務、日本民主党顧問、自由民主党総務、顧問となる・第八回及び第九回国際労働会議(ジュネーブ)、第二十九回列国議会同盟会議(マドリッド)に出席、また派遣軍慰問のため満州、支那、東南アジアへ派遣さる○当選九回(16 18 19 20 21 25 26 27 28)

松田鐵藏(まつだてつぞう)　北海道第五区選出　自由民主党

明治33年12月生・北海道出身○紋別町会議員となる、第二次鳩山内閣の北海道開発政務次官となる、丸北運輸倉庫、松田漁業、紋別港湾荷役各(株)代表取締役、土崎冷蔵(株)社長、太成漁業(株)取締役会長、松田水産(株)取締役社長、紋別港湾期成会長となる、また民主自由党幹事、同党北海道紋別地方支部長、自由党総務、顧問、日本民主党総務、自由民主党国会対策副委員長、水俣病対策特別委員長となる・東南アジア視察のため派遣され、また欧州及び南北米各国を視察す○当選五回(24 25 26 27 28)

松田秀雄(まつだひでお)　東京府第七区選出　立憲政友会

嘉永4年8月生・東京都出身・明治7年順天求合社学校卒○代言人となる、神田区会議員、東京府会議員、同常置委員、同副議長、同市部会議長、東京市会議員、同参事会員、同学務委員、地方衛生会員、東京市長となる、また万世銀行監査役、東京府農工銀行頭取となる○当選三回(4補 5 6)○明治39年1月24日死去

松田正一(まつだまさかず)　三重県第一区選出　民主自由党

明治17年12月生・三重県出身・明治39年京都法政大学法律科卒○古河鉱業会社、大阪市役所等に勤務す、のち津市会議員、同副議長、三重県会議員、同参事会員となり、米内内閣の大蔵参与官、大蔵省委員、第一次吉田内閣の運輸政務次官、衆議院図書館運営委員長となる、また共融無尽(株)取締役会長、第三相互銀行取締役会長となる、日本進歩党常議員会長、代議士会長、民主党総務委員となる○当選七回(17 18 19 20 21 22 23)

松田正久(まつだまさひさ)　佐賀県郡部選出　立憲政友会

弘化2年4月生・佐賀県出身・藩校に学ぶ、のち陸軍省よりフランスに留学、法律、政治、経済学等を修む○陸軍省出仕、裁判所出仕、検事、鹿児島高等中学造士館教諭兼教頭、文部省参事官となり、長崎県会議員、同議長、同常置委員、第一次大隈内閣の大蔵大臣、第四次伊藤内閣の文部大臣、衆議院議長、第一次西園寺内閣の司法大臣兼大蔵大臣、のち大蔵大臣、第二次西園寺内閣次いで第一次山本内閣の司法大臣となる、男爵を授けらる○当選七回(1 6 7 8 9 10 11)○大正3年3月5日死去

松田三徳(まつだみのり)　香川県第二区選出　立憲政友会

明治19年6月生・香川県出身・明治42年慶応義塾大学法律科卒○農業及び塩業を営む、香川県会議員、所得税調査委員、相続税調査委員となり、台湾総督秘書官、同官房秘書課長となる、また讃岐米肥(株)社長、日本マグネシューム(株)取締役となる(著)「世界大戦後ノ我ガ国民思想」○当選四回(13 14 15 16)

松平忠久(まつだいらただひさ)　長野県第二区選出　日本社会党

明治37年2月生・神奈川県出身・大正14年東京外国語学校卒、のち中国嶺南大学、北京大学、米国ミシガン大学に学ぶ○外交官補(米国)、領事、大使館書記官、外務省各課長、長野県副知事となる、芙蓉製紙工業、信陽山林、信濃園芸種苗、長野畜産振興、東京靴下各(株)の重役または顧問となる、また日中友好協会理事、日本社会党国際団体部長、中小企業部長、日中国交回復特別委員長、中小企業国会議員協議会副会長となる・党代表として中共を視察す○当選三回(26 27 28)

松谷天光光(まつたにてんこうこう)　東京都第七区選出　改進党

大正8年1月生・神奈川県出身・昭和15年東京女子大学英語専攻部、同17年早稲田大学法学部卒○海軍省嘱託、餓死防衛同盟中央委員長となる○当選三回(22 23 24)

松谷與二郎(まつたによじろう)　東京府第六区選出　無所属室

明治13年6月生・東京都出身・明治36年明治法律学校卒○弁護士の業務に従事す、全国大衆党顧問、同党東京府連合会長、勤労日本党々首となる、また弁護士法改正調査委員となる・満鮮及び台湾方面視察のため派遣さる○当選二回(17 18)○昭和12年3月17日死去

松永東(まつながとう)　埼玉県第一区選出　自由民主党

明治20年10月生・長崎県出身・早稲田大学商科に学び、明治43年日本大学法律科卒○弁護士の業務に従事す、東京市会議員、同副議長、同議長となり、衆議院議長、皇室会議議員、皇室経済会議議員、第一次岸内閣の文部大臣となる、また東京都会議員待遇者会長、日本自由党中央常任委員会議長、日本民主党最高委員、自由民主党顧問となる・東南アジア、中近東、ヨーロッパ各国を視察す○当選八回(18 19 20 21 25 26 27 28)

松永壽雄(まつながひさお)　高知県第一区選出　無所属倶楽部

明治21年1月生・東京都出身・明治42年海軍兵学校、大正10年海軍大学校卒○海軍少尉より同少将

に累進、その間日独戦役に従軍、第二水雷戦隊司令部附、第二艦隊参謀、横須賀航空隊、霞ケ浦航空隊、海軍大学校各教官、霞ケ浦航空隊副長兼教頭、竜驤艦装員長、竜驤艦長、館山航空隊司令、赤城艦長、軍司令部出仕となる、のち愛知時計電気㈱顧問、大日本航空㈱顧問、理事、海洋部長となる、また大蔵省委員となる○当選一回(21)○昭和30年12月21日死去

松永佛骨(まつながぶつこつ)　大阪府第四区選出　自由党

明治31年3月生・滋賀県出身・滋賀県師範学校に学ぶ○大阪府会議員となり、衆議院厚生委員長となる、また、真宗仏光寺派宗会議員、同派宗務総長、同派最高顧問、同派徳林寺住職となるほか、日本理化学工業、日本硬質硝子工業、大阪国策硝子、八紘製薬各㈱取締役社長、日本自由党法制審議会副会長、自由党総務、代議士会副会長となる○当選三回(22 24 26)○昭和31年5月5日死去

松永安左エ門(まつながやすざえもん)　福岡県福岡市選出　新政会

明治8年12月生・長崎県出身・明治31年慶応義塾卒○西部合同瓦斯、日本油脂工業、九州耐火煉瓦各㈱取締役社長、福松商会主、九州電燈鉄道㈱)常務取締役となり、日本瓦斯、筑紫電気鉄道、大正電球各㈱取締役、東邦電力、東邦瓦斯、東邦鋼業、東洋電化各㈱社長となる、また博多商業会議所会頭、九州電気協会頭、電気事業再編成審議会委員長、公益事業委員長代理となるほか、アジア協会、南洋協会各名誉会長、電力中央研究所理事長、日本インドネシア協会、日本原子力産業会議、日本電気協会各顧問となる㊟「折にふれて」「吾茶日夕」「桑楡録」「淡々録」○当選一回(13)

松永義雄(まつながよしお)　埼玉県選出　日本社会党

明治24年7月生・愛知県出身・大正6年東京帝国大学独法科卒○弁護士の業務に従事す、東京市会議員、同参事会員となり、衆議院司法委員長、芦田内閣の法務政務次官となる、また社会大衆党常任中央執行委員、日本農民組合総同盟主事、日本社会党中央執行委員、同党統制委員長となる㊟「労働組合とは何ぞや」「英国労働組合法論」「労働組合論」「地方財政論」「地方財政論」○当選三回(2)○昭和30年4月14日死去

松南宏雅(まつなみひろまさ)　鳥取県第三区選出　大成会

嘉永5年5月生・東京都出身・法律学、仏学を修む○東京米商会所支配人となり、本郷区会議員、同参事会員、東京府会議員となる、また朝鮮紡織、満州製麻、鯛生金山、日本電報通信各㈱取締役、菊池電気軌道㈱社長となり、熊本電気鉄道、熊本製粉、熊本倉庫、東洋鐵脳各㈱社長となる・欧米各国の議院運営等視察のため派遣さる・永年在職議員として参議院より表彰さる○当選七回(14 16 17 18 19 20 21)・(参三回(1補 3 5)○昭和37年10月18日死去

松野頼三(まつのらいぞう)　熊本県第一区選出　自由民主党

大正6年2月生・熊本県出身・昭和15年慶応義塾大学法学部政治学科卒○海軍主計少佐、内閣総理大臣秘書官、第三次吉田内閣の厚生政務次官、第二次岸内閣の総理府総務長官、中央青少年問題協議会長となり、次いで同内閣の労働大臣を歴任、全国土地改良協会理事、国会タバコの会理事、城北醸造㈱取締役社長、再製樟脳㈱取締役、熊本製粉㈱監査役、熊本電気鉄道㈱取締役、(株)泗水社社長となる、また自由党総務、副幹事長、自由民主党政調会副会長、九州総合開発特別委員会副委員長となる・米国農業立法調査のため派遣さる、また東南アジアを視察す○当選六回(23 24 25 26 27 28)

松延玹(まつのべげん)　茨城県第一区選出　無所属

弘化2年1月生・茨城県出身・水戸藩黌に学ぶ、のち藩命により北京に留学す○在清国公使館附二等書記生見習生徒監督、外務書記生、芝罘領事館在勤副領事となる、辞任後日本製鉄㈱を創立す、また清国雲南省干崖宣撫使衙門顧問として招聘さる○当選一回(1)○大正10年9月20日死去

松延彌三郎(まつのべやさぶろう)　福岡県第三区選出　日本進歩党

明治26年3月生・福岡県出身・大正7年東京帝国大学政治科卒○三井物産㈱社員、東京市主事となり、福岡県会議員、同参事会員となる、また松延製粉㈱取締役、福岡バス㈱代表取締役、福島町外十二町村土木組合長、福岡県藁工品卸商業組合理事長、八女郡翼賛壮年団長となる○当選一回(21)○昭和31年11月6日死去

業務に従事す、岐阜県会議員、同副議長、同議長となる○当選一回(10)○大正3年11月22日死去

松野鶴平(まつのつるへい)　熊本県第一区選出　日本自由党

明治16年12月生・熊本県出身○犬養内閣の内務政務次官、米内内閣の鉄道大臣となり、三度参議院議長となるほか、立憲政友会幹事長、総務、翼賛政治会総務、自由党総務、自由民主党総裁代行委員、参議院議員会長、党顧問となる、また朝鮮紡織、満州製麻、鯛生金山、日本電報通信各㈱取締役、菊池電気軌道㈱社長となり、熊本電気鉄道、熊本製粉、熊本倉庫、東洋鐵脳各㈱社長となる・欧米各国の議院運営等視察のため派遣さる・永年在職議員として参議院より表彰さる○当選七回(14 16 17 18 19 20 21)・(参三回(1補 3 5)○昭和37年10月18日死去

松野頼三(まつのらいぞう)　熊本県第一区選出　自由民主党

大正6年2月生・熊本県出身・昭和15年慶応義塾大学法学部政治学科卒○海軍主計少佐、内閣総理大臣秘書官、第三次吉田内閣の厚生政務次官、第二次岸内閣の総理府総務長官、中央青少年問題協議会長となり、次いで同内閣の労働大臣を歴任、全国土地改良協会理事、国会タバコの会理事、城北醸造㈱取締役社長、再製樟脳㈱取締役、熊本

(名松南商会代表社員となる○当選一回(1)○大正9年8月27日死去

松野孝一(まつのこういち)　秋田県第一区選出　改進党

明治38年3月生・秋田県出身・昭和3年東京帝国大学法律科卒○台湾総督府属、台北州海山郡守、台中州勧業課長、台湾総督府米穀、水産、農務、特産各課長、食糧部長、交通局理事、逓信部長、農林省開拓局第一部長、東京、仙台各農地事務局長を歴任し、のち弁護士の業務に従事す、秋田県農業会議副会長となる○当選一回(25)・(参二回(3補 5)

松野新九郎(まつのしんくろう)　京都府第三区選出　大成会

嘉永2年8月生・京都府出身・漢籍を修む○農業を営む、区長、郡社倉副取締、郡総代となり、京都府会議員、同副議長、同議長、同郡部会議長、同常置委員、地方衛生会副会長となる、のち愛宕郡長兼葛野—乙訓郡長、相楽郡長兼綴喜郡長となる、また京都公民会幹事兼常議員となる○当選一回(1)○明治30年1月13日死去

松野祐次郎(まつのゆうじろう)　岐阜県郡部選出　立憲国民党

万延元年12月生・岐阜県出身・明治11年岐阜県立師範学校卒、のち明治法律学校に学ぶ○弁護士の

松原五百蔵(まつばらいおぞう)　滋賀県選出　無所属倶楽部

明治12年10月生・滋賀県出身○蒲生郡書記、滋賀県属、金田村長、内務属、滋賀県勧業課長、伊香、甲賀、滋賀各郡長を歴任す、また小作調停委員、郡教育会長、同自治協会長、県養鶏、同畜産各組合連合会副会長、県農機具物価専門委員会委員長、県農会長、県養蚕業組合連合会長、県物価統制協力会議副会長となるほか、帝国農会評議員、帝国畜産会理事、大政翼賛会県支部、滋賀県翼賛壮年団各顧問となる○当選一回(21)○昭和34年6月29日死去

松原一彦(まつばらかずひこ)　大分県第二区選出　国民協同党

明治14年4月生・大分県出身・明治35年大分県師範学校卒○小学校訓導となり、大分県及び関東州旅順市にて小学校長となる、のち東京府荏原郡視学、同社会教育主事となり、帝国教育会評議員、大日本連合青年団主事、大分県勤労訓練所長となる、衆議院決算委員長、参議院懲罰委員長、第三次鳩山内閣の法務政務次官となる、また国民協同党代議士会長、自由民主党総務となる・欧米各国の議院運営等視察のため派遣さる○当選二回(22 23)・(参一回(2)

松原喜之次　大阪府第三区選出　日本社会党
明治28年2月生・大阪府出身・大正11年京都帝国大学経済科卒○大阪府黒山高等実践女学校教諭兼黒山農学校教諭となる、のち大阪神国海上火災保険㈱社員、大阪タクシー自動車㈱取締役支配人、大阪交通㈱取締役、大阪メーター㈱専務取締役、衆議院大蔵委員長となる、また日本社会党組織局中小企業部長、政策審議会事務局長、中央執行委員、会計部長、政策審議会副会長となる・視察議員団員として東南アジアへ派遣さる○当選四回(23 25 26 27)

松原九郎　岐阜県郡部選出　憲政本党
慶応元年5月生・岐阜県出身・明治23年東京専門学校英語法律科卒、のち国民英学会に学ぶ○農業を営む、岐阜県会議員、本郷村会議員となる、また郡農会、岐阜県会議員、本郷村会議員となる、また郡農会、岐阜県昆虫学会各名誉会員、大垣共立銀行、大垣貯蓄銀行各取締役となる○当選三回(7 8 9)○大正9年11月14日死去

松原芳太郎　岐阜県第四区選出　無所属
文久元年12月生・岐阜県出身○萩原村戸長、同村長、同村会議員、岐阜県会議員、所得調査委員会長となる、また大野―池田郡農会副会頭、大垣銀行、大垣共立銀行各取締役、濃飛農工銀行監査役、同取締役、岐阜県農事協会長となる○当選一回(3)・(貴)多額○昭和3年11月4日死去

松前重義　熊本県第一区選出　日本社会党
明治34年10月生・東京都出身・大正14年東北帝国大学電気工学科卒、工学博士○逓信技師、逓信省工務局長、技術院参技官、逓信院総裁を歴任し、電気通信技術者資格検定委員長、電波物理研究所参与、東京日日新聞社編集局顧問、科学動員協会長となる、また日本社会党中央執行委員、衆議院逓信委員、同党アジア問題調査会長となる・首相特使としてアジア各国歴訪、また中華人民共和国を訪問す・永年在職議員として院議表彰さる○当選十回(16 17 18 19 20 21 25 26 27 28)

松村光三　栃木県第二区選出　自由党
明治15年12月生・栃木県出身・明治42年東京高等商業学校専攻科卒、のちベルリン大学、ベルリン高等商業学校に学ぶ○齋藤内閣の商工参与官、平沼内閣の大蔵政務次官、小磯内閣の軍需政務次官となるほか、立憲政友会総務、協調会社会政策学院、明治大学各講師、日本学術振興会、日本経営学会各会員となる、また古河(名)参与、大日本人造肥料、旭電化工業、八戸水力電気各㈱監査役、日光登山鉄道㈱取締役等を経て㈱河端製作所社長を経営す○当選五回(14 15 16 17 18)○昭和28年5月2日死去

松村謙三　富山県第二区選出　自由民主党
明治16年1月生・富山県出身・明治39年早稲田大学政治経済科卒○報知新聞記者、農林大臣秘書官、齋藤内閣の農林参与官、平沼内閣の農林政務次官、東久邇宮内閣の厚生大臣兼文部大臣、幣原内閣の農林大臣、第二次鳩山内閣の文部大臣を歴任、また改進党幹事長、日本民主党政務調査会長、自由民主党顧問、同党アジア問題調査会長となる・首相特使としてアジア各国歴訪、また中華人民共和国を訪問す・永年在職議員として院議表彰さる○当選十回(16 17 18 19 20 21 25 26 27 28)

松村雄之進　福岡県久留米市選出　無所属
嘉永5年2月生・福岡県出身・漢学、剣術を修む○旧藩士を集め福島県下に移住開拓に従事、久留米開墾社副社長、同社長となる、のち大阪府警部補、同検疫委員、中央茶業組合議員、次いで陸軍省雇員となり、大本営附を経て澎湖島行政庁書記となる、のち台湾総督府官有物取調委員長、台中県支庁長、台湾国語伝習所長、北海道庁宗谷支庁長、北海道衛生会委員、宗谷検疫事務所長、上川支庁長を歴任す○当選一回(7)○大正10年2月22日死去

松村文次郎　新潟県第六区選出　弥生倶楽部
天保10年3月生・新潟県出身○新潟県会議員、同議長となる○当選二回(12)○大正2年9月23日死去

松村時次　熊本県郡部選出　立憲同志会
安政2年2月生・熊本県出身・漢学を修む○熊本県会議員、町村連合会議員、玉名郡会議員、同参事会員、同議長、熊本県農会玉名郡代表者となる、また玉名銀行頭取、日韓殖産㈱取締役、玉名製糸㈱社長、肥後農工銀行、肥後蚕糸信託各㈱監査役となる○当選二回(8 11)・(貴)多額○大正6年7月9日死去

松村文次郎　新潟県第六区選出　弥生倶楽部
天保10年3月生・新潟県出身○新潟県会議員、同議長となる○当選二回(12)○大正2年9月23日死去

松村雄之進　福岡県久留米市選出　無所属
嘉永5年2月生・福岡県出身・漢学、剣術を修む○旧藩士を集め福島県下に移住開拓に従事、久留米開墾社副社長、同社長となる、のち大阪府警部補、同検疫委員、中央茶業組合議員、次いで陸軍省雇員となり、大本営附を経て澎湖島行政庁書記となる、のち台湾総督府官有物取調委員長、台中県支庁長、台湾国語伝習所長、北海道庁宗谷支庁長、北海道衛生会委員、宗谷検疫事務所長、上川支庁長を歴任す○当選一回(7)○大正10年2月22日死去

松本一郎　三重県第一区選出　自由党
明治33年3月生・三重県出身・明治大学専門部法科に学ぶ○大井村長、三重県会議員、三重県耕地協会長、三重県農業共済組合連合会長、同県畜産会長等となる、また衆議院建設委員長、民主党会計監督、民主自由党相談役、民情部長となる・農業生産性向上会議よりアメリカ視察に派遣さる○当選三回(23 24 25)

松本鼎　和歌山県第三区選出　無所属
天保10年4月生・大阪府出身・吉田松陰の松下村塾に学ぶ○禁門の変、境の役、奥羽征討等に従軍、函館府監軍となる、のち大阪府大属、同権典事、同権参事、大阪府、熊本県、和歌山県各大書記官、和歌山県令、同知事、元老院議官を歴任し、男爵を授けらる○当選一回(1)・(貴)勅選○明治40年10月22日死去

松本金太郎　埼玉県第六区選出　立憲民政党
文久元年10月生・埼玉県出身・漢学を修む○影森村会議員、同村助役及び収入役、同村長、秩父郡会議員、同参事会員、同議長、埼玉県会議員、同参事会員、小作調停委員となる、また郡木炭同業組合組長、郡及び村農会評議員、埼玉木炭同業組合組長、郡及び村教育会評議員、秩父銀行監査役となる○当選一回(15)○昭和13年12月11日死去

松本君平　静岡県第一区選出　立憲政友会
明治3年4月生・静岡県出身・米国に留学、フィラデルフィア大学にて経済財政学を修め、さらにプラウン大学大学院に学び、文学博士の学位を受く○ニューヨーク・トリビューン新聞記者、東京日日新聞記者、自由新聞主筆となる、政治雑誌「大日本」を発刊す、伊藤侯随員として欧州歴遊帰朝後、東京政治学校を創立し校長となり、次いで青年教団を起し団長となる、のち支那に滞遊し、天津にて英文紙チャイナ・タイムス、週刊チャイナ・トリ

松本強二　奈良県郡部選出　立憲国民党
慶応元年1月(戸籍―慶応3年11月)生・岡山県出

ビューンを、北京にて日刊「新支那」を発刊のほか支那信托公司を創立す、また広東軍政府顧問となる、田中内閣の海軍参与官となる・清国視察のため派遣さる㊎「海外製茶貿易意見」「金貨本位論」「銀行大意」「公債学」「新聞学」「春風秋雨録」「欧風米雲録」○当選五回(9 10 14 15 16)○昭和19年7月28日死去

松本 剛吉 (まつもと ごうきち)　神奈川県郡部選出　新政会

文久2年8月生・旧姓松元・兵庫県出身・中村敬宇の塾に学ぶ○神奈川県、埼玉県各警部、逓信属逓信監察官補、逓信大臣秘書官、農商務大臣秘書官、第五回内国博覧会事務官、再度逓信大臣秘書官となり、台湾総督秘書官となる、また徴兵保険、東京鉄道各(株)取締役となる○当選四回(9 10 11 13)・(貴)勅選○昭和4年3月5日死去

松本 治一郎 (まつもと じいちろう)　福岡県第一区選出　日本社会党

明治20年6月生・旧名(次一郎)・福岡県出身・中学校に学び、のち中国にて語学を修む○土木建築請負業を営み、部落民解放運動に従事、全国水平社執行委員長、同中央委員会議長となり、日本社会党顧問、参議院副議長となるほか、自由人権協会副会長、同顧問、日本中国友好協会長、アジア連帯委員会代表委員、アジア太平洋地域平和連絡委員会副主席、部落解放全国同盟中央委員長、アジア民族親善協会長等となる・アジア太平洋地域平和会議北京、世界平和評議会総会(ストックホルム)、アジア諸国会議(ニューデリー)に各日本代表団長として出席、また中華人民共和国の国慶節及びソ連邦の革命記念式典に招請され参列す○当選三回(19 20 21)・(参三回(1 3 5)

松本 七郎 (まつもと しちろう)　福岡県第二区選出　日本社会党

明治44年11月生・福岡県出身・昭和12年慶応義塾大学法学部政治科卒○慶大高等部講師となり、のち日本炉機、鶴見窯業を経て黒崎窯業株取締役、西戸崎炭礦(株)社長、慶応義塾大学講師、日ソ協会理事長となる、また日本社会党文化部長、青年部学生対策部長、国際局長、中央執行委員、政審会外交防衛委員長、ヴエトナム賠償問題特別委員長、安保改訂対策特別委員会事務局長、国際局外交部長となる・社会主義インター会議、社会主義青年同盟大会並びに教育者大会、ヘルシンキ平和大会に出席、また党訪ソ使節団事務局長としてソ連邦、中国、東欧諸国歴訪、日ソ協会訪ソ、中、朝使節団長として派遣さる○当選六回(22 23 24 25 27 28)

松本 重太郎 (まつもと じゅうたろう)　大阪府第二区選出　実業同志倶楽部

弘化元年10月生・大阪府出身・経書を学ぶ○日本銀行創立事務御用掛、町会議員、府学事委員、大阪商業会議所特別議員、帝国鉄道協会評議員、大阪銀行集会所、大阪手形交換所各委員長となる、また百三十国立銀行を創立し取締役兼支配人となり、大阪紡績、阪堺軽便鉄道、太湖汽船、大阪麦酒、山陽鉄道各(株)等を設立し重役となるほか、明治生命保険、大阪共立銀行、日本貯金銀行、大阪運河各(株)取締役、大阪毎日新聞社相談役、大阪興業銀行、明治銀行各頭取、毛斯綸紡績、日本精糖、日本紡績、南海鉄道各(株)取締役社長等となる○当選一回(4)○大正2年6月20日死去

松本 俊一 (まつもと しゅんいち)　広島県第二区選出　自由民主党

明治30年6月生・広島県出身・大正10年東京帝国大学仏法科卒○大蔵属、外務事務官、外交官補(白耳義国、大使館二等書記官(仏国、外務省条約局課長、大臣官房人事課長、大使館参事官(中国、外務省条約局長、文化事業部長、再度外務次官、再度特命全権大使仏印、英国、再度外務省顧問を歴任し、第二次岸内閣の内閣官房副長官、国防会議幹事となり、その間パリ平和条約実施委員、韓国との修好及び懸案処理に関する会議、ソ連邦との国交正常化交渉の全権委員、日米安全保障条約調印全権委員随員となる、また松本建設(株)取締役社長、自由民主党外交調査会副会長となる・岸総理に随行し欧州、中南米、カナダを歴訪す○当選二回(27 28)

松本 淳造 (まつもと じゅんぞう)　島根県選出　日本社会党

明治27年1月生・島根県出身・慶応義塾大学理財科に学ぶ○東京府会議員、同参事会員となり、衆議院文教委員長となる、また日本プロレタリア文芸連盟中央執行委員長、日本労農党中央執行委員長、日本労農党教育部長、社会大衆党中央執行委員、同宣伝部長、同政治学校講師、日本社会党中央執行委員、同文化部長となる㊎詩集「二足獏の歌へる」「社会政治辞典」○当選二回(22 23)○昭和25年10月9日死去

松本 眞一 (まつもと しんいち)　和歌山県第二区選出　社会革新党

明治25年11月生・和歌山県出身・大正9年東京帝国大学政治科卒○和歌山県会議員、同参事会員、同県公安委員長となる、また紀伊水産工業、日本建業各(株)代表取締役社長となる㊎「血笑記」「第一線にたてる人々」○当選一回(23)

松本 眞平 (まつもと しんぺい)　埼玉県第三区選出　立憲政友会

明治11年5月生・埼玉県出身・明治33年東京高等商業学校卒○大倉商業学校教諭、陸軍二等主計となる、また所得税調査委員、営業税、相続税各審査委員、埼玉県商工連合会長、松本米穀精麦、日東製粉、日満製粉、台湾興業各株社長となり、東京商工会議所議員、熊谷銀行頭取、全日本肥料商団体連合会長、秩父鉄道、埼玉銀行、帝国車輛工業各(株)取締役となる・第二十四回列国議会同盟会議(パリ)に参列す○当選一回(15)・(貴(多額)

松本 誠之 (まつもと せいし)　兵庫県郡部選出　新政会

文久3年9月生・兵庫県出身・経済、歴史、政治学を修む○小学校長となる、また中等教育に従事す、のち大阪朝日新聞、神戸又新日報、京華日報各記者となり、次いで雑誌「東京正論」「金甌」を発刊し、国体擁護を鼓吹す、のち哈爾賓において哈爾賓新聞を発刊す○当選一回(13)○昭和18年3月25日死去

松本 善壽 (まつもと よしひさ)　福島県第一区選出　自由党

大正3年3月生・福島県出身・昭和16年明治大学専門部商科卒○仲原、染井各郵便局、不動貯金銀行等に勤務、のち計理士の業務に従事す、また(株)鹿島組、福島県農業会、福島県購連各職員、福島県購買農業協同組合連合会嘱託、福島県果物販売協同組合顧問、日本計理士会東北支部長となる○当選一回(24)

松本 宗吾 (まつもと そうご)　三重県郡部選出　立憲政友会

明治10年8月生・愛知県出身・同志社、慶応義塾に学び、のち米国に留学、イーストマンカレッジ、エール大学卒、マスター・オブ・アーツの学位を受く○貿易業を営み、ニューヨークに松本商会を、東京に松本貿易(資)を創立、また松本印刷工場を経営のほか、メキシコに渡航マグダレナ湾頭に石油発掘権を獲得す、次いでニューヨーク市にニフアー・イースタン・カルチューアセンターを開設日米親善を計る・第十九回列国議会同盟会議(ストックホルム)に参列す○当選一回(11)○昭和20年8月5日死去

松本 瀧藏 (まつもと たきぞう)　広島県第一区選出　自由民主党

明治34年3月生・広島県出身・昭和5年明治大学商学部、同13年ハーバート大学院経営科卒○明治大学、日本女子大学各教授、比島国立大学交換教授となる、片山内閣、第一次岸内閣の外務政務次官、第一次、第二次、第三次鳩山内閣の内閣官房副長官となり、フィリピン国との賠償全権委員、

ソ連邦との国交正常化全権委員顧問となる、またパシフィック・サービス・センター局長、国際文化振興会、日本体育協会各理事、アメリカンフットボール協会長、協同民主党渉外部長、国民協同党政務調査会長、国際部長、国民民主党総務委員、国際局長、改進党宣伝情報副委員長となる・欧米各国の議会制度調査視察、次いでサンフランシスコ講和会議に派遣さる、また第十五回国際オリンピック大会(ヘルシンキ)、第二回アジアオリンピック大会(マニラ)に本部役員として参加す○当選五回(22 23 24 25 27)○昭和33年11月2日死去

松本大吉　広島県郡部選出　大同倶楽部

安政5年10月生・広島県出身○忠海町会議員、豊田郡会議員、広島県会議員、同参事会員となり、徴兵参事員、所得調査委員、地方衛生会委員、地方森林会議員となる○当選一回(9)○大正4年3月11日死去

松本忠雄　長野県第一区選出　無所属倶楽部

明治20年7月生・長野県出身・明治42年東亜同文書院卒○やまと新聞記者となり、加藤憲政会総裁秘書役、内閣総理大臣秘書官となる、次いで東京市助役となり、齋藤内閣及び岡田内閣の外務参与官、第一次近衛内閣の外務政務次官となる・第二十五回列国議会同盟会議(ベルリン)、第十四回万国議院商事会議(パリ)に参列す○当選七回(15 16 17 18 19 20 21)○昭和22年7月4日死去

松本長平　奈良県郡部選出　憲政本党

安政元年11月生・奈良県出身・和漢学を修む○酒造業を営む、新町村会議員、同議長、村連合会議員、同議長となり、吉野郡書記、五条町会議員、同町長となるほか、郡徴兵参事員、所得税調査委員、宇智郡組合会議員、五条町学務委員となる○当選三回(3 8 9)○昭和14年7月8日死去

松本恒之助　三重県津市選出　憲政会

慶応3年2月生・三重県出身・京都同志社に学び明治21年東京専門学校英語本科卒○津市会議員、津商業会議所特別議員となる、また伊勢銀行、津電燈、大日本軌道各(株)取締役、伊勢鉄道、伊勢新聞各(株)社長、北海道拓殖銀行、三重県農工銀行各監査役となる○当選四回(9 10 11 12)○大正15年6月1日死去

松本正友　島根県第五区選出　立憲政友会

嘉永2年5月生・島根県出身・漢学を修む○農業を営む、庄屋、戸長、虫追村会議員、島根県会議員、同副議長、美濃郡連合村会議員、同連合村衛生会委員、所得税調査委員、徴兵参事員、中西村会議員、同助役、同農会長となる○当選一回(6)○大正5年8月10日死去

松本孫右衛門　福島県第三区選出　立憲政友会

明治6年1月生・福島県出身・東京物理学校卒○東京株式取引所理事、横浜取引所、台湾拓殖各(株)監査役、東京信用銀行頭取、都新聞社、大日本炭礦、札幌木材、東京信用商事、熱海埋立各(株)取締役となる、また、立憲政友会総務、顧問、常議員となり、鉄道会議議員、簡易生命保険積立金運用委員会委員となる○当選四回(9 11 14 16)○昭和23年9月6日死去

松本八十八　新潟県第九区選出　立憲改進党

天保9年4月生・新潟県出身・漢学を修む○相川県教導事務掛、戸長、浦役人、学務委員、恋ケ浦村長、新潟県会議員、真野村会議員となる○当選一回(3)○大正4年2月21日死去

松本與右衛門　岩手県郡部選出　立憲政友会

明治元年3月生・岩手県出身・明治法律学校に学ぶ○酒造業を営む、贈沢郡会議員、水沢町会議員、岩手県会議員となる、また岩手自由青年会幹事、県農工銀行監査役となる○当選二回(7 8)○大正9年8月10日死去

松本六太郎　北海道第二区選出　農民協同党

明治22年2月生・北海道出身・高岡漢学塾に学ぶ○農業を営む、北海道会議員、同参事会員、サンフランシスコ講和会議全権委員代理となる、また和寒村農会長、同酪農組合長、有限責任和寒産業組合長、日本果糖(株)顧問、北海道化製工業(株)社長、上川畜産組合長、北海道農業会理事、協同民主党常任中央委員、国民協同党中央常任委員、農民協同党国会対策委員長となる○当選二回(22 24)○昭和27年2月8日死去

松山兼三郎　愛知県第四区選出　新正倶楽部

明治7年11月生・愛知県出身・明治26年愛知県尋常中学校卒○陸軍歩兵中尉となる、日清、日露戦役に従軍す、農業を営む、萩野村長、西春日井郡会議員、愛知県会議員となる、また興農(株)支配人、(株)名古屋証券交換所取締役、帝国在郷軍人会西春日井郡連合分会長、愛知県農会幹事となる○当選一回(15)○昭和17年3月9日死去

松山常次郎　和歌山県第一区選出　日本自由党

明治17年3月生・和歌山県出身・明治41年東京帝国大学土木科卒、のち米国において橋梁学を研究す○陸軍工兵少尉となる、東京府土木課に勤務、のち朝鮮において水田開墾及び土地改良、水利事業等に従事し、川佐農場、大正水利組合各技師長となり、次いで黄海社、鮮満開拓、南海拓殖各(株)社長、延海、富平、咸安各水利組合長となるほか、日高見農場を創設経営す、廣田内閣の外務参与官、米内内閣の海軍政務次官、立憲政友会総務となる、また中興電気(株)会長、アジア技術協会長となる○当選七回(14 15 17 18 19 20 21)○昭和36年6月15日死去

松山守善　熊本県第六区選出　弥生倶楽部

嘉永2年10月生・熊本県出身・漢学、皇典を修め、のち水戸に遊歴し水戸学を学ぶ○司法省出仕となり、のち代言人となる、次いで弁護士の業務に従事し、多年熊本弁護士会長となり、熊本市参事会員、同市会議員となる㊟「河上彦齋伝」○当選一回(1)○昭和20年7月22日死去

松山義雄　埼玉県第二区選出　自由民主党

明治36年3月生・埼玉県出身・大正12年中央大学法学部卒○弁護士の業務に従事す、埼玉県副知事、衆議院運輸委員長となる、また日本弁護士協会理事、中央大学評議員、埼玉県土地改良協会長、自由党政調会治安部長、政調会相談役、自由民主党霜雪害対策特別副委員長となる○当選四回(25 26 27 28)○昭和33年10月25日死去

松山義根　愛知県第四区選出　無所属

天保12年5月生・愛知県出身・明治7年名古屋養成学校卒○養成学校教員、小区長、訓導、副区長兼学区取締となる、臨時巡査となり西南の役に従軍、少警部心得となる、のち葉栗郡書記、同郡長、楽田村長となる、また三余義校を開設し子弟教育に尽すほか、蒸気発動機製糸場を設立す○当選一回(1補)○明治29年1月23日死去

的野半介　福岡県郡部選出　憲政会

安政5年5月生・福岡県出身・漢学を学ぶ○若松取引所理事、筑豊坑業組合幹事、九州日報、関門新報各社長、遼東新報顧問となる○当選三回(10 11 12)○大正6年11月29日死去

的場金右衛門　鹿児島県第三区選出　国民協同党

明治25年9月生・鹿児島県出身・明治44年県立鹿屋農学校卒○小学校訓導、実業補習学校訓導、実業学校助教諭、県立農民道場講師となり、東市来村農会技手、贈吶郡農会技手、同技師、鹿児島県農会技師、同県農業会農産課長兼茶業課長となる、農業を営む、また国民協同党常任中央委員と

なる○当選二回(22 23)

丸尾光春(まるおこうしゅん)　兵庫県郡部選出　無所属

慶応元年1月生・兵庫県出身・明治20年県立神戸医学校卒、のち伝染病研究所に入り講習修業○医師となる、徴兵検査医員、生野町会議員、学務委員、朝来郡会議員、同議長、兵庫県会議員、同郡部会副議長、同副議長となる、また郡教育衛生会長、町農会長、郡農会、県畜産会各評議員となる○当選一回(11)○大正12年4月2日死去

丸尾文六(まるおぶんろく)　静岡県第四区選出　進歩党

天保3年8月生・静岡県出身○静岡県牧野原の開拓に従事す、区長、静岡県会議員、同副議長、同議長となる、また静岡県茶業取締所総括、茶業中央本部幹事、静岡県茶業連合会議所事務長となる○当選三回(2 3 4)○明治29年5月1日死去

丸山五郎(まるやまごろう)　埼玉県第四区選出　立憲民政党

明治5年5月生・埼玉県出身・明治26年東京慈恵院医学校卒○医師となる、南埼玉郡会議員、同参事会員、同議長となる、また南埼玉郡医師会長、埼玉県医師会議員、同会理事、日本医師会議員、埼玉県医師会長、岩槻自動車(株)取締役となる○当選一回(15)

丸山浪彌(まるやまなみや)　北海道第一区選出　立憲政友会

明治4年3月生・長野県出身・明治23年明治法律学校卒○札幌市会議員、北海道会議員、同参事会員、同副議長、同議長となる、また北海道国防義会長、胆振鉄道会社重役となる・派遣軍慰問のため満州へ派遣さる○当選二回(15 18)○昭和19年11月21日死去

丸山名政　東京府東京市選出　同志研究会

安政4年9月生・東京都出身・明治法律学校に学ぶ○内務省出仕となり、辞任後下野新聞主筆となる、のち代言人となり、次いで弁護士の業務に従事し、東京市会議員、同参事会員、東京府会議員となる、また日本証券、松本瓦斯各株社長、東京土地、東洋文芸各株監査役となる○当選二回(2 8)○大正11年11月21日死去

丸山辨三郎(まるやまべんざぶろう)　長野県第一区選出　同交会

明治12年2月生・長野県出身・明治36年東京高等商業学校附設商業教員養成所卒○長野市立甲種商業学校教諭、市立長野商業学校長兼教諭となり、のち三度長野市長となる、また多年善光寺平耕地整理組合長となる○当選一回(20)○昭和32年7月3日死去

丸山孝一郎(まるやまこういちろう)　山形県米沢市選出　中央倶楽部

嘉永2年11月生・山形県出身・藩校興譲館に英、漢学を修む○海軍裁判所出仕、海軍少尉、東京軍法会議判士となる、のち米沢市会議員、同議長となる、また興亜学校長、米沢製糸(株)社長、横浜同伸(資)業務担当社員となる、山形県よりシカゴ世界博覧会実況調査嘱託を受け渡米す○当選一回(10)○明治45年5月12日死去

丸山嵯峨一郎(まるやまさがいちろう)　新潟県第七区選出　政友本党

明治元年1月生・新潟県出身・明治27年東京帝国大学独法科卒○弁護士の業務に従事す、新潟県弁護士会長、同県競馬倶楽部会長となる○当選五回(5 6 9 13 14)

丸山修一郎(まるやましゅういちろう)　秋田県選出　民主党

明治23年3月生・秋田県出身・明治44年秋田県師範学校本科卒○秋田県公立小学校訓導、小学校長、同県視学、社会教育主事補、同県公立青年学校長、北京日本東城第一高等小学校長、同日本青年学校長となる、また秋田県青年教育者同志会、同教育同行会、秋田県体育協会各会長、秋田県体育協会理事、秋田文化新報社長、国民党婦人部長、国民協同党中央常任委員となる○当選一回(22)

丸山督(まるやまただし)　山形県第四区選出　弥生倶楽部

安政6年5月生・山形県出身○代言人となり、次いで弁護士の業務に従事す、山形市参事会員、山形県会議員、同議長となる○当選一回(1)○大正13年3月7日死去

丸山豊治郎(まるやまとよじろう)　新潟県郡部選出　立憲政友会

明治元年1月生・新潟県出身・明治18年慶応義塾卒○菅原村長、中頸城郡会議員、同参事会員、新潟県会議員、同参事会員となる、また高田日報社々長となる○当選三回(11 12 13)○昭和8年7月18日死去

丸山直友(まるやまなおとも)　新潟県第三区選出　自由党

明治21年5月生・新潟県出身・明治42年金沢医学専門学校医科卒○金沢医学専門学校嘱託、東京南胃腸病院副院長となり、のち医師を開業す、長岡市医師会長、新潟県医師会副会長、日本医師会代議員、常任理事、副会長、社会保険診療報酬請求書審査委員長、関東北医師連盟副委員長、長岡市医師会顧問となる、また民主自由党政調会厚生部長、自由党総務となる○当選一回(24)

丸山芳介(まるやまよしすけ)　兵庫県姫路市選出　公正会

安政2年4月生・兵庫県出身・会津藩校に学ぶ○土木建築請負業兼運送業を営む、姫路市会議員、兵庫県会議員、同郡部会副議長、同郡部会議長となる、また姫路製革所を創立、ついで山陽皮革(株)を設立し、常務取締役となるほか、姫路商業会長、(株)姫路海産物青物定市場社長、播磨水力電気、姫路倉庫、姫路米穀取引所各(株)監査役となる○当選一回(12)○大正11年10月11日死去

萬田五郎(まんだごろう)　茨城県第二区選出　日本社会党

明治38年2月生・秋田県出身・昭和4年東京帝国大学英法科卒○(株)日立製作所日立工場に入社、労務、庶務各課長、総務部長となり、日立市会議員、臨時特別、人事、金銭債務臨時各調停委員となる、また茨城県商工経済会理事長、日立木工、日立土地各(株)社長、日立電鉄(株)会長、茨城交通、茨城石炭販売各(株)取締役となる○当選一回(23)

萬代嘉平治(まんだいかへいじ)　岡山県郡部選出　立憲国民党

明治5年5月生・岡山県出身・京都同志社卒○赤磐郡会議員、同議長、岡山県会議員、同参事会員となる、また果樹園芸業を営み、山陽青果(株)取締役社長、県果物同業組合組長、郡産業組合長となり、岡山県より利源調査員として満韓方面へ、生果販路調査員として露領アジアへ、また果樹園芸視察員として清国に派遣さる○当選一回(12)○大正6年3月9日死去

みの部

三井忠蔵　山口県下関市選出　大同倶楽部
安政4年1月生・山口県出身・漢学、法律、経済学を学ぶ○山口県属、赤間関区会議員、山口県会議員、下関市会議員、同参事会員、同議長となる、また下関商業会議所議員、彦島電灯、直方電灯各株社長、西部合同瓦斯株取締役となる○当選二回(8 9)○大正15年5月15日死去

三井徳寶　北海道第五区選出　立憲政友会
明治8年10月生・北海道出身・漢学を学ぶ○山梨県より北海道に移住、野付牛町を開拓、農業、鉱山業等に従事す、帯広町会議員、相続税審査員、所得調査委員、北海道会議員、同副議長となる、また北海林産、北海農産工業、北海道造営各株取締役、北海道拓殖(株)監査役となるほか、栃木県新那須野を開拓、温泉を経営す○当選四回(16 17 18 19)○昭和27年4月5日死去

三池信　佐賀県選出　自由民主党
明治34年1月生・佐賀県出身・大正15年九州帝国大学電気科卒○第四次吉田内閣の建設政務次官となる、京浜電力(株)奈川渡発電所長、海外土木興業株支配人、理研特鉄(株)常務取締役兼工場長、共栄工事、富士鋼板各株代表取締役となる、また自由党総務、自由民主党総務局長、全国組織委員会労働局次長、同委員会副委員長となる・各国議会制度視察、ユーゴースラヴィア訪問親善使節議員団員として派遣さる○当選四回(24 25 26 28)

三浦逸平　愛知県郡部選出　立憲同志会
明治3年1月生・愛知県出身・明治24年東京法学院卒○三河鉄道株取締役となる○当選二回(10補 11)○昭和11年11月12日死去

三浦覺一　大分県選出　立憲政友会
明治3年5月生・大分県出身・明治27年水産伝習所卒○大分県技手、同県水産試験場技師、大分県技師を歴任、のち朝鮮近海において漁業を経営す、また中外証券信託、東北水産、日本耐酸塗料各株取締役となる○当選二回(10 11)○昭和5年1月31日死去

三浦數平　大分県第一区選出　立憲政友会
安政2年6月生・秋田県出身○能代港町会議員、山本郡会議員、同参事会員、同議長、秋田県会議員、同参事会員、同議長となる、船舶運送業を営む○当選一回(14)○昭和10年8月8日死去

房、東京朝日新聞各記者、明治法律学校編集局員となり、のち司法官試補を経て弁護士の業務に従事す、法律新聞主筆、大分町会議員、同市会議員、同議長、大分県会議員となり、三度大分市長となる㊒「公民必携選挙法規と判決例」○当選二回(15補 16)○昭和4年9月7日死去

三浦一雄　青森県第一区選出　自由民主党
明治28年4月生・青森県出身・大正9年東京帝国大学独法科卒○農商務属、農林省畜産局畜政課長、経済更生部総務課長、企画院調査官、企画院部長、農林次官を歴任し、小磯内閣の法制局長官兼内閣書記官長、衆議院予算委員長、第二次岸内閣の農林大臣となる、また南部鉄道株取締役社長、極洋捕鯨株監査役となる、改進党政策委員長、日本民主党総務、自由民主党総務、全国組織委員長、経理局長となる・欧米各国及び満州、支那を視察す○当選五回(21 25 26 27 28)○29・昭和38年1月30日死去

三浦權兵衛　秋田県第三区選出　政友本党
明治4年1月生・大分県出身・明治28年明治法律学校卒、寺尾亨法学博士の指導で国際公法及び私法を専攻す○千葉県農工銀行書記、日刊新聞新総

三浦信六　福島県第四区選出　大成会
嘉永3年7月生・福島県出身○福島県会議員、同常置委員となる○当選一回(1)○明治30年9月19日死去

三浦盛徳　秋田県郡部選出　立憲政友会
万延元年2月生・秋田県出身・同人社及び慶応義塾に学ぶ○小学校教員、山本郡会議員、秋田県会議員となる○当選四回(8 9 10 11)○大正5年9月17日死去

三浦得一郎　宮崎県第三区選出　憲政会
安政3年3月生・宮崎県出身・延岡藩校医学館、及び鹿児島、長崎各医学校に学び、のち陸軍軍医学校の学生医官となり研究す○陸軍出仕、同軍医試補より同軍医監に累進、その間日清、日露戦役に従軍、陸軍病院船神祐丸病院長、福岡、丸亀各衛戍病院長、医務局衛生課長、陸軍衛生会議員、関東都督府陸軍軍医部長、第三師団軍医部長を歴補、のち陸軍省副参政官となる、また育英事業に従事し、宮崎県延岡郷友会長、同会寄宿舎理事長となる○当選二回(12 14)○昭和9年3月14日死去

三浦虎雄　宮崎県選出　無所属倶楽部
明治16年5月生・宮崎県出身・明治42年京都帝国大学政治科卒○海軍中主計中佐に累進、その間日独戦役、尼港事変に従軍す、横浜市隣保館長、内務省社会事業調査会委員となり、阿部内閣の厚生政務次官、延岡市長となる、また森鉄工建設(株)会長、地塩舎株取締役となる・第二十六回列国議会同盟会議(ロンドン)、第十六回万国議院商事会議(ブラッセル)に参列す、また派遣軍慰問のため北支那へ派遣さる○当選五回(16 17 19 20 21)○昭和32年1月14日死去

三浦寅之助　神奈川県第一区選出　自由党
明治32年6月生・宮城県出身・大正10年日本大学専門部法律科卒○弁護士の業務に従事す、横浜市会議員、同副議長、神奈川県会議員となり、裁判官訴追委員会委員長、第五次吉田内閣の法務政務次官となる、また横浜弁護士会長、日本自由党幹事、民主自由党総務、政調会失業対策委員長、自由党総務となる㊒「苦闘の半生を語る」○当選四回(22 23 24 26)

三浦碧水　愛知県第十一区選出　立憲改進党
天保14年11月生・愛知県出身・藩校時習館に学び、のち兵学、砲術を研究す○吉田藩兵学砲術教授方、歩兵指揮役、軍事局調役、民政局権大録事となり、のち豊橋県少属、額田県出仕、渥美郡連合村会議長、愛知県会議員、豊橋町長となる、また郡衛生会頭、豊橋商業会議所会頭、第八国立銀行頭取、豊橋製糸、豊橋電気、豊橋土地建物各(株)社長、三遠銀行取締役、豊橋米麦取引所理事長となる㊒「晴耕余論」○当選一回(3)○大正4年2月27日死去

三浦義建　広島県第九区選出　無所属
天保11年7月生・広島県出身・福山藩誠之館に学ぶ○長州征討に従軍、福山藩大参事となる、のち広島県会議員、神石郡長、芦品—神石—甲奴郡長となる○当選一回(1)○明治23年10月2日死去

三浦倫吉　島根県郡部選出　立憲同志会
明治6年2月生・島根県出身・明治34年東京帝国大学英法科卒○岡山区裁判所判事、京都区裁判所兼京都地方裁判所判事を歴任、のち弁護士及び特許弁理士の業務に従事す、また破産管財人となる○当選一回(12)○大正5年8月7日死去

三尾邦三　和歌山県第二区選出　立憲政友会
明治24年9月生・和歌山県出身○(株)春海商店を

設立し専務取締役となり、近古美術調査視察のため欧米各国を歴遊、また海外経済調査委員随員として渡米す、のち日本美術株社長となる、美術新聞「美術の国」を発刊す㊎「私ノ見タル欧米ノ美術」○当選三回(17 18 19)

三上英雄(みかみひでお) 東京府第五区選出 立憲政友会
明治26年3月生・広島県出身・大正2年日本大学法律科卒○杉並町会議員、同議長、杉並区会議員、東京府会議員、東京市会議員となる、また弁護士の業務に従事し、東京弁護士会副会長、同会長、日本弁護士協会理事、同名誉理事、日本大学本部及び校友会顧問、助葬会、駿台学園各理事となる㊎「借地借家法解説」「政党論」○当選一回(18)

三木キヨ子(みきこ) 大阪府第一区選出 日本自由党
大正8年4月生・現姓(佐藤)・大阪府出身・昭和11年市立堀江高等家政女学校卒○大阪協同劇団に参加し、純喫茶店、アパート等を経営す、(株)股份有限華南貿易公司設立発起人となる○当選一回(22)

三木武夫(みきたけお) 徳島県選出 自由民主党
明治40年3月生・徳島県出身・昭和2年明治大学商科、同12年同大学法学部卒、のち米国アメリカン大学卒○商工省参与、鈴木内閣の軍需参与官、片山内閣の逓信大臣、第一次、第二次鳩山内閣の運輸大臣、第二次岸内閣の国務大臣、経済企画庁長官、科学技術庁長官兼原子力委員会委員長となる、また国民協同党書記長、中央委員長、国民民主党最高委員、幹事長、改進党幹事長、日本民主党幹事長、政務調査会長、党顧問、自由民主党幹事長、党顧問となる・欧米各国、ソ連並びにアフリカ、東南アジア諸国を視察す○当選九回(20 21 22 23 24 25 26 27 28)

三木武吉(みきぶきち) 香川県第一区選出 自由民主党
明治17年8月生・香川県出身・明治37年早稲田大学法律科卒○司法官試補を経て弁護士となり、牛込区会議員、東京市会議員、第一次若槻内閣の大蔵参与官となる、また報知新聞社長、日本新聞会常任評議員、大日本興亜同盟顧問、南方調査会長、スマトラ協会長、玄々社長、士道館長、東邦モーターズ(株)取締役会長、江東天然ガス工業(株)社長となるほか、憲政会幹事長、自由党総務会長、自由党(分)幹事長、日本自由党最高顧問、自由民主党総裁代行委員となる・第二十一回列国議会同盟会議(コペンハーゲン)に参列、第二十四回同会議(パリ)に議員団長として参列す○当選十一回(13 14 15 16 17 18 21 22 25 26 27)○昭和31年7月4日死去

三木与吉郎(みきよきちろう) 徳島県郡部選出 公正会
明治8年11月生・徳島県出身・京都商業学校に学ぶ○松茂村会議員、徳島県会議員、所得税調査委員、宅地賃貸価格調査委員となる、また農業、酒造業及び藍並びに染料販売業を営み、板野郡農会長、大同藍(株)専務取締役、(株)三木商店社長、阿波製糸(株)取締役となる○当選一回(12)・貴(多額)○昭和13年6月23日死去

三木与吉郎(みきよきちろう) 徳島県第二区選出 日本進歩党
明治35年12月生・徳島県出身・大正15年慶応義塾高等部卒○松茂村会議員、徳島県農業会長、参議院通信、運輸各委員長となる、また三木商店、維新化学工業、日本合成染料販売、石産精工各(株)取締役を経て三木産業、徳島バス、阿波製紙、吉野川電線各(株)取締役社長、南海ゴム(株)取締役となるほか、自由民主党会計監督、同党徳島県支部連合会長となる○当選一回(21)・(参二回(3 5)

三鬼鑑太郎(みきかんたろう) 岩手県第二区選出 昭和会
慶応2年4月生・福島県出身・明治21年明治法律専門学校卒○岩手県課長、下閉伊郡長、和賀郡長を歴任、のち岩手軽便鉄道(株)専務取締役を経て同社社長となるほか、岩手中央薪炭業組合長、同

木材業組合長、県木炭移出同業組合副組長、全国地方鉄道同志会監事、(株)花巻温泉取締役、花巻温泉電気鉄道(株)相談役となる○当選一回(19)○昭和18年4月21日死去

三崎亀之助(みさきかめのすけ) 香川県第四区選出 自由党
安政5年1月生・香川県出身・明治15年東京大学法学部卒○外務省御用掛、外務書記生、交際官試補、在米国公使館書記官、外務省参事官を歴任す、のち内務省県治局長となる、また明治日報記者、京都中外新聞社長、横浜正金銀行支配人、同副総裁となる○当選四回(1 2 3 4)・(貴二勅選○明治39年3月16日死去

三隅哲雄(みすみてつお) 山口県郡部選出 憲政会
明治11年11月生・山口県出身○山口県会議員、同参事会員となる、また長門銀行頭取、宇部軽便鉄道、船木軽便鉄道各(株)取締役、美弥軽便鉄道(株)監査役、山口県農会副会長、郡農会長、防長米同業組合副組長となる○当選二回(12 13)○昭和24年2月12日死去

三田村甚三郎(みたむらじんざぶろう) 福井県選出 立憲民政党
慶応3年10月生・福井県出身・明治23年東京専門学校政治科卒○福井県会議員、武生町長、所得税調査会長となり、福井県自治協会副会長、同町村会長、全国町村長会常任幹事及び相談役となる、また金物卸商を営み、越前打刃物同業組合長、南条郡教育会長、福井新聞社長、第五十七銀行、武岡軽便鉄道、大同肥料各(株)取締役、産業組合武生金庫組合長となる○当選二回(6 17)○昭和9年2月13日死去

三田村武夫(みたむらたけお) 岐阜県第一区選出 自由民主党
明治32年6月生・岐阜県出身・昭和2年内務省警察講習所卒○岐阜県警部補、内務属、拓務属を歴任、のち著述業に従事し、政治科学研究所長、衆議院法務委員長となる、また東方会組織部長、党務部長、日本民主党組織局長、自由民主党組織局長、自由民主党組織総局長、総務、選挙調査会副会長となる・満州、支那、南洋方面を視察す㊎「警察強制の研究」「社会主義批判」「改正選挙法提要」「時局国民読本」「昭和政治秘録〃戦争と共産主義〃」○当選四回(20 21 27 28)

三谷軌秀(みたにのりひで) 大阪府大阪市選出 立憲政友会
安政5年1月生・大阪府出身・明治19年東京法学校卒○公証人となる、大阪府会議員、同議長、大阪市会議員となる、また大阪商業会議所特別議員、大阪合同紡績、大阪電気軌道各(株)監査役、関西競馬倶楽部副会頭、岩内水力電気、今里土地各(株)社長、大阪電気製造、電気信託、大和鉄道、参宮急行電鉄各(株)取締役等となる㊎「市町村制義解」「対比市町村制」○当選二回(10補11)○昭和9年3月8日死去

三ツ林弥太郎(みつばやしこうたろう) 埼玉県選出 日本自由党
明治26年9月生・埼玉県出身・明治44年県立粕壁中学校に学ぶ○行幸村会議員、埼玉県会議員、同議長、行幸村長、幸手町長となる、また農業を営み、行幸村農会長、埼玉県農業会長、同県町村会長、同県農業会議長となる○当選一回(22)

三津家傳之(みつかでんし) 熊本県郡部選出 憲政会
明治3年9月生・熊本県出身・熊本文学館及び明治法律学校に学ぶ○横嶋村会議員、玉名郡会議員、熊本県会議員、同参事会員、同副議長、所得税調査委員、地方森林会議員となる、また村農会長、県水産組合連合会副長、肥後米券倉庫組合長、県農会特別議員、県産牛馬組合連合会組長、玉名銀行、肥後米券倉庫会社各取締役、肥後農工銀行、九州蚕糸信託会社各監査役となる○当選一回(12)○昭和22年6月20日死去

三土忠造　香川県第二区選出　立憲政友会
明治4年6月生・香川県出身・明治30年東京高等師範学校卒、のち英、独に留学、教育学、史学を研究す○東京高等師範学校助教諭、同教諭、同教授を歴任、在官のまま韓国学政参与官に招聘され、のち教科書調査会副会長、大蔵省参事官、高橋内閣の内閣書記官長、農商務次官、加藤(高明)内閣の農商務政務次官、次いで農林政務次官、田中内閣の文部大臣、次いで大蔵大臣、犬養内閣の逓信大臣、斎藤内閣の鉄道大臣、枢密顧問官、幣原内閣の内務大臣兼運輸大臣となる、また東京日日新聞編集長及び営業部長、立憲政友会総務、政務調査会長となる・永年在職議員として院議表彰さる○当選十一回(10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20)・(貴)勅選○昭和23年4月1日死去

三鍋義三　富山県第一区選出　日本社会党
明治31年1月生・富山県出身・大正8年京都武道専門学校卒○富山県滑川薬業学校、和合中学校、呉羽中学校各校長となる、また富山県教職員組合執行委員長、富山県勤労者福祉協会長となり、日本社会党政策審議会建設副部長、北陸地方開発特別委員長となる○当選三回(26 27 28)○(29・昭和36年8月14日死去)

三橋四郎次　静岡県第四区選出　憲政本党
天保13年4月生・静岡県出身・和漢学を修む○静岡県会議員、同議長となるほか、茶業組合中央会議員、同副議長となり、同会議所より米国派遣員として渡米す、また三十五銀行、静岡農工銀行各取締役、堀之内銀行、仁王辻銀行各専務取締役、静岡貯蓄銀行監査役となる○当選二回(5 6)○大正12年12月25日死去

三橋四郎次　静岡県第七区選出　立憲民政党
明治12年8月生・静岡県出身・明治34年東京専門学校英語政治科卒○日露戦役に従軍、陸軍歩兵中尉となり、静岡県会議員、同参事会員となる、また静岡県茶業連合会議所嘱託として販路拡張のため渡米、のち同会議所理事、特別議員、茶業中央会議所評議員、専務理事となるほか、遠江銀行監査役、日本紅茶、東亜製茶、日本紅茶販売各(株)専務取締役、在漢口武漢製茶公司監査役、日本茶輸出組合理事長、日本茶業会々頭となる○当選一回(15)・(貴)多額○昭和30年3月22日死去

三宅磐　神奈川県第一区選出　立憲民政党
明治9年6月生・兵庫県出身・明治32年東京専門学校政治科卒○大阪朝日新聞、東京日日新聞各記者、横浜貿易新報社長となり、横浜市会議員、同参事会員、神奈川県会議員となるほか、横浜地方裁判所借地借家調停委員、土木会議議員となる(補)「都市の研究」○当選四回(15 補 16 17 18)○昭和10年5月23日死去

三宅正一　新潟県第三区選出　日本社会党
明治33年11月生・新潟県出身・大正12年早稲田大学政治経済科卒○長岡市会議員、日本医療団理事、戦災復興本部常務理事、保険院専門委員、厚生省委員となる、また日本農民組合全国会長、日本社会党中央執行委員、政治局長、国会対策委員長、組織局長、日本社会党統一委員長、総務局長、教育宣伝局長となる・サンフランシスコ平和会議に派遣さる(着)「青年運動論」「戦争と農業」「農民辞典」「中国の農村」○当選九回(19 20 21 24 24 再 25 26 27 28)

三宅正意　宮崎県第三区選出　弥生倶楽部
弘化2年4月生・宮崎県出身・私塾に学ぶ○東臼杵郡書記、宮崎県属となる、のち日州銀行頭取、日州貯蓄銀行、宮崎農工銀行各取締役、延岡銀行取締役頭取となる○当選一回(1)○大正10年3月29日死去

三宅則義　愛知県第四区選出　自由党
明治32年6月生・愛知県出身・大正12年日本大学商学部卒○計理士、税理士及び司法書士の業務に従事す、全日本計理士協会理事、日本大学々士会理事長、都立第五実業学校高等科講師、日本大学講師、日本監査協会理事長、東京税理士会副会長、日本税理士会常務理事、全国計理士会議長となる、また多数会社、法人等の計理並びに監査顧問となる(着)「三宅会計学講義」「会社の設立と税金の関係」「公認会計士特別試験講習要録」○当選一回(24)

三宅利平　兵庫県第三区選出　第一控室会
明治4年11月生・兵庫県出身・明治26年京都同志社卒○加古郡会議員、同議長、加古川町長、兵庫県会議員、同参事会員、同副議長、同議長となる、また酒造業を営み、加古川実業協会長、加古郡教育会長、京都同志社理事、全国酒造組合連合会評議員、兵庫県酒造組合連合会副会長、姫路米穀取引所理事、加古川銀行、日本綿布各株取締役、新宮軽便鉄道株社長、竜野電気軌道株専務取締役となる○当選一回(16)○昭和7年3月30日死去

三好竹勇　北海道第四区選出　民主党
明治35年4月生・北海道出身・昭和2年金沢医科大学附属薬学専門部卒○薬局、整骨院を開業す、白老村会議員、所得税調査員、白老商業協同組合理事長、苫小牧工業学校嘱託教師、白老漁業会、胆振漁業会各会長となる○当選一回(23)

三好徳松　福岡県第十区選出　立憲政友会
明治3年5月生・福岡県出身○鉱業を営む、折尾村会議員、折尾町会議員、遠賀郡会議員、同議長となる、また若松瓦斯(株)取締役となる ○当選一回(14)○昭和6年8月13日死去

三好英之　鳥取県選出　日本進歩党
明治18年8月生・旧名(栄次郎)・鳥取県出身・明治39年早稲田大学政治経済科卒○米内内閣の陸軍政務次官、鉄道会議議員、商工省委員、第一次鳩山内閣の国務大臣、北海道開発庁長官となる、また山陰日日新聞社を創立し、社長となり、のち日本海新聞社を創立し、相談役となるほか、山陰実業銀行頭取、内国通運、山陰水力電気各(株)取締役、大政翼賛会 中央協力会 議員、翼賛政治会総務、同衆議院部長、大日本政治会総務、日本再建連盟理事長となる・満ソ国境方面視察のため派遣さる○当選六回(15 16 17 19 20 21、・(参)一回(3)○昭和31年2月14日死去

三善清之　香川県第二区選出　立憲政友会
安政6年12月生・香川県出身・明治11年大阪府師範学校、同17年陸軍士官学校卒○大阪府訓導、工兵中尉となり退官後、大倉組社員となり、東京湾及び紀淡砲台等の軍用工事に従事す、のち岡山県技師、土木課長となり、児島湾開墾及宇野築港を主裁す、日露戦役に際し満州の軍用鉄道に貢献す、また丸亀市長に当選後辞退す○当選四回(9 補 14 15 15 補)○昭和17年11月19日死去

三善信房　熊本県第二区選出　日本進歩党
明治15年5月生・熊本県出身・明治36年県立熊本中学校卒○熊本県会議員、同参事会員となり、馬政局参与、鈴木内閣の厚生政務次官となる、また熊本県畜産組合連合会、九州畜産会各会長、帝国馬匹協会、中央畜産会各理事、中央食糧営団評議員、軍用保護馬鍛錬中央会、日本馬事会各理事となり、大平殖産無尽(株)顧問、九州興発(株)社長となる○当選四回(18 19 20 21)

三和精一　青森県第二区選出　自由民主党
明治35年8月生・青森県出身・中央大学に学ぶ○

東京民友、やまと各新聞社に勤務、日刊北辰日報を発行、社長兼主筆となる、のち津軽酒造㈱常務取締役、同取締役社長、五所川原製氷㈱社長となる、青森県議会議員、第一次池田内閣の建設政務次官となる、また自由党幹事、国会対策副委員長、党基本問題調査会副会長、自由民主党国会対策副委員長となる・各国議会制度調査視察、ユーゴースラヴィア訪問親善使節議員団員として派遣さる○当選三回(25 26 28)

三輪 市太郎 愛知県第三区選出 立憲政友会

慶応3年4月生・愛知県出身○八開村会議員、水利組合会議員、海西郡会議員、同議長、愛知県会議員、同副議長、同議長となり、郡農会、県農会、帝国農会各議員及び評議員となる、また中央土木、愛知鉄道、愛知開墾各㈱社長、海島銀行、東海道電気鉄道各㈱取締役、日光川倉庫銀行監査役、政友本党政務調査会長、立憲政友会政務調査会長となる○当選六回(11 12 13 14 15 16)○昭和5年2月8日死去

三輪 壽壯 東京都第三区選出 日本社会党

明治27年12月生・東京都出身・大正9年東京帝国大学独法科卒○弁護士の業務に従事し、傍ら社会運動に携り、労働農民党、日本労農党、全国大衆党各書記長、日本大衆党、全国労農大衆党、社会大衆党各常任中央執行委員となり、日本社会党中央執行委員、選挙対策委員長、憲法擁護、綱紀粛正特別委員長となる、また労働局参与、大政翼賛会連絡部長、企画院委員、公共企業体仲裁委員、第二東京弁護士会長、日本弁護士連合会副会長となる㊒翻訳「カール・カウツキイ、独逸社会民主党綱領」○当選四回(20 25 26 27)○昭和31年11月14日死去

三輪 潤太郎 新潟県第五区選出 三四倶楽部

慶応元年5月生・新潟県出身・京都同志社、東京商業学校に学ぶ○与板町長、三島郡会議員、新潟県会議員、同常置委員となる、また与板銀行専務取締役、長岡銀行監査役、新潟積善組合監事、三島郡有志教育会長となる、のち日華学会の事業に従事、次いで東京保善商業学校嘱託となる○当選二回(5 6)○昭和15年1月9日死去

三輪 信次郎 東京府東京市選出 中正会

安政元年4月生・東京都出身・慶応義塾に学ぶ○大蔵属となる、また第十五国立銀行役員となる○当選四回(8 9 10 11)○昭和18年10月19日死去

三輪 傳七 山口県郡部選出 立憲政友会

万延元年3月生・山口県出身・漢籍を修め、のち同人社、慶応義塾に学ぶ○酒造業を営む、小周防村会議員、同議長、連合村会議長、周防村会議員、周防村長、熊毛郡会議員、山口県会議員、同議長となり、郡衛生会長、郡農工商会長、徴兵参事員、所得税調査委員、地方森林会議員、郡農会副会長となる○当選四回(3 5 6 9)○大正3年11月12日死去

三輪 猶作 三重県四日市市選出 大同倶楽部

嘉永3年6月生・三重県出身・漢籍を修む○副戸長、村会議員、同議長、町会議員、四日市市会議員、同参事会員、同議長、三重県会議員、徴兵参事員、所得税調査委員となる、また酒造業及び肥料商を営み、四日市銀行頭取、関西鉄道㈱監査役となる○当選三回(7 8 9)○大正6年9月17日死去

美禰 龍彦 山口県郡部選出 新政会

安政3年12月生・山口県出身・藩校明倫館文学寮に学ぶ○山口協同会社赤間関支店長となる、のち下宇野令村会議員、同村長、山口県会議員、同副議長、吉敷郡会議員、同参事会員となり、勧業諮問会員、徴兵参事員、所得税調査委員、地方森林会議員、郡農会副会長となる○当選三回(25 26 28)

美濃部 貞亮 愛知県第十一区選出 弥生倶楽部

嘉永6年5月生・愛知県出身・明治法律学校卒○代言人となり、次いで弁護士の業務に従事す、愛知県会議員となる○当選一回(1)○明治37年8月19日死去

薬袋 義一 山梨県郡部選出 立憲政友会

安政元年12月生・山梨県出身・漢学を修む○区長兼学区取締、山梨県会議員、同常置委員となる、のち北都留郡長、南都留郡長を歴任す、また峡中新報社総理、東京商品取引所理事となるほか、山梨同進会、国民協会、帝国党、立憲政友会等の創立に参加し幹事となる○当選三回(2 5 7)○明治36年2月10日死去

箕浦 勝人 大分県第五区選出 憲政会

安政元年2月生・大分県出身・明治7年慶応義塾卒○報知新聞社に入り、のち社長となる、宮城県師範学校長、神戸商業学校長、農商務省商務局長、通信次官、衆議院副議長、第二次大隈内閣の逓信大臣となり、臨時博覧会評議員、鉄道会議議員、日本大博覧会評議員、東洋拓殖㈱設立委員となる、また憲政本党政務委員、立憲同志会総務、幹事長、憲政会総務となる○当選十五回(1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15)○昭和4年8月30日死去

箕輪 鼎 長野県第五区選出 大成会

天保10年1月生・長野県出身○酒造業を営む、戸長、副区長、学区取締、南佐久郡書記となり、長野県会議員、同常置委員となる、のち下高井郡長となる○当選一回(1)○明治27年1月2日死去

右田 古文 島根県郡部選出 憲政本党

安政元年7月生・島根県出身・漢学を修む○副戸長、田野原村会議員、町村浦連合会議員、杵束村会議員、町村組合会議員、田野原区会議員、島根県会議員、同議長、那賀郡会議員となり、県勧業諮問会員、郡徴兵参事員、所得税調査委員となる、また産紙会社、山陰貯蓄銀行、県農工銀行、矢上銀行各取締役、浜田銀行、山陰生命保険会社、境通商銀行各監査役となる○当選三回(5 7 8)○昭和8年12月12日死去

水落 簡 山口県第五区選出 議員倶楽部

嘉永元年3月生・山口県出身・漢学を修む○岩国藩権大属、山口県権大属、大蔵省権中属、同属となる、のち横浜正金銀行員を経て旧藩主吉川家家扶、岩国義済堂長となり、岩国製糸会社々長、兵庫百三銀行、日本商業銀行各頭取となる○当選一回(2)○明治30年2月10日死去

水上 齋之助 岩手県第二区選出 立憲民政党

明治2年10月生・岩手県出身○多年水産業に従事す○当選一回(17)○昭和19年10月25日死去

水久保 甚作 宮崎県選出 立憲政友会

明治17年6月生・宮崎県出身・明治大学校外生として法学を学ぶ○裁判所書記、税務署属、岩川、都城各税務署庶務課長となる、のち日本共立火災保険㈱社員、都城新聞社副社長、加奈陀サン生命保険会社員となる、また参議院郵政委員長、都城市議会議員、同議長となる○当選二回(16 18)・(参)一回(1)

水口 周平 岐阜県選出 日本自由党

明治12年3月生・岐阜県出身・明治36年医学専門学校済生学舎卒、のち東京帝国大学医科に学び産

婦人科専科修○日露戦役に従軍す、二等軍医となる、大野郡会議員、清見村長、岐阜県会議員、同議長となる、また村森林組合長、村農業会長、県農業会理事、日本警防協会特別会員、清見村国民健康保険診療所医師となる○当選一回(22)○昭和32年2月27日死去

水品平右衛門(みずしなへいえもん)　長野県長野市選出　立憲政友会

文久元年9月生・長野県出身・明治法律学校に学ぶ○長野市会議員、同参事会員、同議長、長野県会議員、長野商業会議所会頭となり、破産管財人となる、また長野倉庫㈱社長、長野電灯㈱、長野貯蔵銀行、信濃林業商会各取締役、信濃新聞社副社長、日本建築用製紙㈱社長となる○当選二回(7 10)○大正7年8月11日死去

水島彦一郎(みずしまひこいちろう)　京都府第三区選出　立憲政友会

明治15年11月生・京都府出身・明治39年早稲田大学政治経済科卒○東京日日新聞、東京毎日新聞各記者、富士製紙㈱社員となり、村会議員、郡会議員、同参事会員、京都府会議員、同参事会員、同郡部会議長、同議長、舞鶴町長、同市長となる、また京都府町村長会長、全国町村長会副会長、加佐郡蚕業会長、同農会長、同蚕糸同業組合長、同畜産組合長、京都府教育会加佐郡部会長となる・南洋方面視察のため派遣さる㊒「有色民族の更生」「海と魚」○当選三回(16 17 18)○昭和28年2月13日死去

水島保太郎(みずしまやすたろう)　神奈川県第五区選出　公同会

弘化3年11月生・神奈川県出身・漢学、英学、独逸学、数学を修む○農業を営む、村会議員、郡連合会議員、町村連合会会長、徴兵参事員となる、また鉄道その他会社創立に従事す○当選一回(4)○明治33年4月24日死去

水田三喜男(みずたみきお)　千葉県第三区選出　自由民主党

明治38年4月生・千葉県出身・昭和6年京都帝国大学法律科卒○第一次吉田内閣の内務参与官、第三次吉田内閣の大蔵政務次官、衆議院経済安定委員長、同公職選挙法改正に関する調査特別委員長、第四次吉田内閣の国務大臣、経済審議庁長官、日本とフィリピン共和国との賠償条約調印全権、石橋内閣及び第一次岸内閣の通商産業大臣、第一次池田内閣の大蔵大臣となる、また専修大学講師(経済学担当)、館山木工㈱社長、東京鋼板工業(株取締役会長となる、自由党総務、政務調査会長、自由党政務調査会長、総務、臨時財政経済対策特別委員長、経済調査会副会長となる・英国選挙制度及び選挙法施行状況調査のため、また東南アジア視察のため各議員団長として派遣さる○当選七回(22 23 24 25 26 27 28)

水谷長三郎(みずたにちょうざぶろう)　京都府第一区選出　民主社会党

明治30年11月生・京都府出身・大正10年京都帝国大学法律科卒○弁護士の業務に従事す、京都市会議員、金融制度調査会長となり、片山内閣、次いで芦田内閣の商工大臣となる、また全国労農大衆党中央執行委員、日本社会党中央執行委員、顧問、政策審議会長、産業委員会委員長、中小企業政策特別委員長、民主社会党国会議員団長となる・第三十三回列国議会同盟会議(パリ)に参列し、欧米各国を視察す・永年在職議員として院議表彰さる㊒「法廷における小作争議」「国民生活と社会主義」、訳書「ツガン・バラーフスキー、唯物史観批判」「ボルハルト、史的唯物論略解」「マルクス、ゴーター綱領批判」○当選十一回(16 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28)○29・昭和35年12月17日死去)

水谷昇(みずたにのぼる)　三重県第一区選出　自由党

明治29年5月生・三重県出身・大正5年三重師範学校卒○小学校訓導、桑名高等女学校教諭となる、のち三重県会議員、桑名町会議員、同議長、木曽岬村長、桑名市会議員、同議長、所得調査委員、司法保護委員となり、衆議院図書館運営委員

長、第三次吉田内閣の文部政務次官、桑名市長となる、また三重鋳物工業組合理事長、三重軽金属工業㈱社長、日本書道連盟副会長、全国書道教育協会長、民主自由党代議士会副会長、教育振興委員長、総務、自由党代議士会副会長となる○当選四回(22 23 24 25)

水登勇太郎(みずとゆうたろう)　石川県金沢市選出　中正倶楽部

嘉永5年7月生・石川県出身○陸軍軍曹、小学校訓導、連合町会議員、同議長、金沢商業会議所会頭、石川県会議員、勧業諮問会員となる、また機業及び水車業を営み、金沢産牛馬組合長、県産牛馬組合連合会議長、東亜貿易同盟会幹事、金沢市水車業組合長、金沢要用会社、金沢銀行各幹事、北陸運輸会社、養鮮社各社長、金沢牛乳資、金沢組(名)各業務担当社員、明治商業銀行、金城貯蓄銀行、才明銀行各監査役となる○当選一回(8)○大正6年10月20日死去

水之江文二郎(みずのえぶんじろう)　大分県選出　立憲政友会

万延元年10月生・大分県出身・漢学、詩学、歌道を修め、のち独逸学校及び東京大学医学部に学ぶ○封戸村長、町村組合会議員、郡会議員、同議長、大分県会議員、同議長となる、また大分県農工銀行、両豊貯蓄銀行、大分電気工業、九州調革各(株)取締役となる○当選二回(7 8)○昭和4年2月11日死去

水野吉太郎(みずのきちたろう)　高知県第一区選出　政友本党

明治7年12月生・高知県出身・明治32年和仏法律学校卒○弁護士の業務に従事し、高知弁護士会長となる○当選一回(14)○昭和22年2月14日死去

水野實郎(みずのじつろう)　愛知県第二区選出　社会革新党

明治31年1月生・東京都出身・早稲田大学専門部政経科に学ぶ○有価証券売買業を営み、のち東洋発動機工業(株)取締役社長となる、また社会大衆党愛知県連合会長、同中央執行委員、日本社会党愛知県連合会書記長となる○当選一回(23)

水野彦治郎(みずのひこじろう)　静岡県第一区選出　改進党

明治27年1月生・静岡県出身・大正2年県立中泉農学校卒○農業を営む、佐倉村会議員、同村長、司法保護委員、静岡県物価対策、食糧調整各委員長、同農業共済保険組合理事、同柑橘販売農業協同組合連合会長、同農業共済保険組合連合会長となる・第四十一回列国議会同盟会議(ベルン)に参列す○当選一回(24)

水野正巳(みずのまさみ)　兵庫県第三区選出　立憲民政党

明治2年7月生・兵庫県出身・東京専門学校に学ぶ○農業を営む、神戸市会議員、神戸商業会議所議員となる○当選三回(10 11 17)○昭和11年9月29日死去

水間此農夫(みずましのぶ)　宮崎県選出　無所属

慶応元年5月生・宮崎県出身・政治経済学を学ぶ○肥料及び米穀商等を営む、宮崎県会議員、所得税調査委員、破産管財人となる、また宮崎新報社、宮崎林業各㈱社長、日州銀行取締役、日向水力電気会社監査役、宮崎不動産、宮崎製氷各㈱取締役、日州貯蓄銀行監査役、宮崎林産物販売組合長となる○当選二回(10 11)○大正11年3月18日死去

溝淵松太郎(みぞぶちまつたろう)　香川県第一区選出　日本社会党

明治19年1月生・香川県出身○農業を営む、香川県会議員となる、また平井町農業会長、香川県農業会理事となる○当選一回(23)○昭和29年8月28日死去

光森徳治(みつもりとくじ)　高知県高知市選出　立憲政友会

安政3年8月生・高知県出身・講法学舎及び司法

省法律学校に学ぶ○代言人となり、次いで弁護士の業務に従事す、高知市会議員、同副議長、高知県会議員、同副議長となる○当選一回(11)○昭和8年3月19日死去

満井佐吉　福岡県第二区選出　無所属倶楽部

明治26年5月生・福岡県出身・大正3年陸軍士官学校、同13年陸軍大学校卒○陸軍歩兵少尉より同中佐に累進、その間ドイツ駐在、陸軍大学校兵学教官となる、のち著述業に従事し、傍ら天関打開期成会を結成、昭和維新貫行を期し、国民思想運動に専念す、また内閣委員となる○当選一回(21)

満尾君亮　鹿児島県第一区選出　自由党

明治34年9月生・鹿児島県出身・大正14年東京帝国大学政治科卒、のち鉄道省在外研究員として英、米に留学○鉄道局書記、台湾総督府交通局理事、広島鉄道局長、運輸省自動車局長、陸運監理局長を歴任す、のち全国自家用自動車組合連合会長を経て日本道路公団理事となり、名神高速道路愛知建設所長、東京支社長となる○当選一回(24)

翠川鐵三　長野県郡部選出　立憲政友会

万延元年1月生・長野県出身○代言人となり、次いで弁護士の業務に従事す、弁護士組合副会長、同会長となる、また倉庫銀行取締役となる○当選三回(10 11 12)○大正5年3月26日死去

皆川四郎　長野県第七区選出　山下倶楽部

嘉永5年5月生・長野県出身・漢学、法律学を修む○代言人となり訴訟事務に従事し、次いで長野県警部長となる、のち第一銀行頭取秘書役となり、石巻支店支配人を経て、九州鉄道会社顧問、東京電燈㈱取締役となる、のち皆川商会を設立経営す○当選一回(5)○明治44年8月8日死去

湊季松　福島県第二区選出　立憲民政党

明治9年6月生・福島県出身○田村郡書記、北会津郡書記となり、三春町長、福島県会議員、同参事会員となる、また農業を営み、県自作農創設維持資金貸付審査委員、県農山漁村経済更生委員、田村郡農会長、三春煙草耕作組合会長、同煙草耕作購買販売組合長、田村郡養蚕組合長、同統計協会長、三春町青年団総理となる○当選二回(19 20)○昭和13年9月3日死去

南磯一郎　富山県第三区選出　無所属

嘉永6年12月生・富山県出身・明治7年新川県講習所卒○小学校教員、義倉金処分会議員、富山県会議員、同常置委員となる、北立自由党を組織す

また北陸公論社を起し社長となる○当選一回(1)○明治28年10月30日死去

南鼎三　大阪府第六区選出　議員倶楽部

明治14年5月生・大阪府出身・明治40年関西商工学校土木科卒○大阪府土木工手、土木技手、東京市土木技手、京都市土木技手となり、のち南工務所を開設、土木請負業に従事す、大阪府会議員、同参事会員、借地借家、金銭債務臨時各調停委員となる○当選二回(14 20)○昭和18年9月2日死去

南鐵太郎　兵庫県第二区選出　翼賛政治会

明治20年3月生・兵庫県出身・明治45年東京帝国大学独法科卒、同大学院に学び、大正2年海軍経理学校修了○海軍中主計より海軍主計少佐に累進、その間第十二駆逐隊主計長、南洋群島防備隊附、海軍経理学校教官、同監事を歴任し、退官後弁護士の業務に従事す、司法省委員となる○当選一回(21)○昭和19年9月8日死去

南好雄　石川県第二区選出　自由民主党

明治37年1月生・石川県出身・昭和3年東京帝国大学法律科卒○商工省、八幡製鉄所、特許局、機械局各課長を経て陸軍司政官、大臣官房会計課長、

東京地方燃料局長、関東信越地方商工局商工部長、東京地方物価事務局長を歴任す、第五次吉田内閣の建設政務次官、衆議院公職選挙法改正に関する調査特別委員長、第一次池田内閣の運輸大臣となる、また自由党政調会通産部長、総務、中小企業対策、科学技術振興対策各特別委員会副委員長、自由民主党全国組織委員会副委員長、総務となる・満州、中国、東南アジア各国を視察、また訪伯豪親善使節議員団員として派遣さる○当選五回(24 25 26 27 28)

南澤宇忠治　長野県郡部選出　立憲政友会

明治7年3月生・長野県出身・明治34年東京帝国大学電気工学科卒○八重洲商会を起し、電気機械商を経営す、また、明治水力電気㈱を創立す○当選一回(13)○昭和7年4月6日死去

南嶋間作　富山県第三区選出　無所属

文久3年9月生・富山県出身○回漕業を営む、奨学委員、町会議員、区会議員となる、また新湊水産資代表社員、新湊汽船㈱取締役、伏木米穀外三品取引所理事、開槳委托㈱監査役、日本海上保険㈱取締役となる○当選一回(4)○明治32年2月13日死去

源晟　青森県第一区選出　進歩党

嘉永3年8月生・青森県出身・八戸藩校に学び、のち露国主教ニコライに耶蘇正教々理を学ぶ○八戸藩学寮長、久慈郷校訓導となる、のち宣教師となり伝道に従事す、町村連合会議員、青森県会議員、同常置委員、同議長となり、地方衛生会員、徴兵参事員となる、また八戸漁業会長、八戸町立工業徒弟学校長、同町立図書館長となる○当選二回(3 4)○大正7年9月29日死去

嶺山時善　鹿児島県大島選出　大同倶楽部

文久3年9月生・鹿児島県出身・鹿児島師範学校卒○当選二回(8 9)○昭和5年10月28日死去

宮井茂九郎　香川県郡部選出　立憲政友会

嘉永6年9月生・香川県出身・漢籍、数学を学ぶ○庄屋、大庄屋となる、高松県会議員、村長、所得税調査委員、徴兵参事員となる、また農業及び果樹園を経営し、製糖会社、高松砂糖会社、宇足津塩田会社、讃岐紡績会社等を創立し取締役となるほか、讃岐鉄道会社監査役、県農工銀行取締役となる○当選五回(5 6 7 8 9)○明治39年11月17日死去

宮内翁助　埼玉県選出　立憲政友会

嘉永6年2月生・埼玉県出身・漢学を修む○農業を営む、戸長、副区長、学務委員、埼玉県会議員、同参事会員、所得税調査委員となる、また明倫館々長、久喜銀行専務取締役、埼玉織布㈱取締役となる○当選三回(7 8 10)○大正元年12月6日死去

宮内治三郎　愛媛県第一区選出　自由党

安政4年10月生・愛媛県出身○酒造業を営む、愛媛県会議員、同副議長となる、また郡中銀行頭取、南予鉄道会社々長となる○当選一回(4)○明治39年2月13日死去

宮川一貫　福岡県第一区選出　立憲政友会

明治18年1月生・福岡県出身・明治44年早稲田大学政治経済科卒、講道館柔道七段○早稲田大学講師、独逸協会、拓殖大学、陸軍幼年学校の各柔道教師、講道館最高幹部となる、また日東協会を組織し、その会長となる・第二十六回列国議会同盟会議(ロンドン)並びに第十六回万国議院商事会議(ベルギー)に参列す○当選三回(16 17 18)○昭和19年3月25日死去

宮城浩蔵　山形県第一区選出　有楽組

嘉永5年4月生・山形県出身・明治9年司法省法学校卒、のち仏国に留学、パリ大学及びリヨン大学卒○検事、判事、司法書記官、同参事官を歴任、法律取調委員となる、のち代言人となり、東京代言人組合長となるほか、法治協会を組織し法律思想の普及に努め、また明治法律学校の創立に参画し、同校教頭となり刑法学を教授す、山形日報を発刊す(著)「刑法講義」○当選二回(1 2)○明治26年2月14日死去

宮口二郎　群馬県第五区選出　弥生倶楽部

嘉永5年4月生・群馬県出身・漢学を修む○碓氷郡書記となり、群馬県会議員、同常置委員、同副議長、同議長となる、また碓氷社副社長、同社長、清国広東省潮汕鉄道建設事務長、帝国蚕糸(株)評議員、大日本蚕糸会群馬支部商議員、産業組合中央会群馬支部副会長、有限責任大日本生糸販売組合連合会顧問となる○当選一回(2補)○昭和5年9月9日死去

宮古啓三郎　茨城県第一区選出　立憲政友会

慶応2年4月生・茨城県出身・明治25年東京帝国大学法科卒○弁護士の業務に従事す、日本法律学校講師、法制審議会臨時委員、土木会議議員となる、また立憲政友会総務となる・第十七回列国議会同盟会議(ローマ)に派遣されたが同会議延期となり、パリにおける同盟評議員会に出席す(著)(翻訳)「一読奮起立志美談」「ル・ロア・ポーリュ1、経済学」、「民法講義」○当選九回(7 8 9 10 11 14 16 18 19)○昭和15年4月9日死去

宮腰喜助　秋田県第一区選出　改進党

明治38年12月生・秋田県出身・昭和7年日本大学経済学部卒○計理士、税務代理士の業務に従事す、東洋産業株社長、貿易振興議員連盟理事長、日中貿易議員連盟常任理事、協商社、中央観光開発各株社長、日中貿易促進会議幹事長となる、また日本協同党中央委員、民主党副幹事長、国民民主党中小企業部長、改進党政策委員会金融及び税制部長となる○当選一回(24)

宮崎榮治　長崎県郡部選出　立憲政友会

安政2年5月生・長崎県出身・長崎外国語学校に学ぶ○第二回水産博覧会評議員となる、農業に従事す○当選八回(1 3 4 5 6 7 8 9)○大正4年1月25日死去

宮崎三之助　東京府第六区選出　立憲政友会

明治5年9月生・富山県出身・明治25年明治法律学校卒○判事となり、のち弁護士の業務に従事す、本所区会議員、同議長、東京市会議員、同参事会員となる、また東京府農工銀行、東洋捕鯨、富山県織物模範工場各株取締役となる○当選二回(14 15)○昭和16年9月1日死去

宮崎高四　熊本県第二区選出　立憲民政党

明治25年4月生・大阪府出身・大正6年東京帝国大学経済科卒○阪堺電鉄(株)取締役、木津川土地運河、門司築港各株監査役、大阪土地建物、高松百貨店各(株)取締役となる○当選一回(17)○昭和7年5月18日死去

宮崎友太郎　静岡県第三区選出　立憲政友会

明治元年8月生・静岡県出身・専修学校に学ぶ○大里村会議員、所得税調査委員、安倍川水害予防組合議員となる、また駿河銀行取締役、静岡瓦斯、静岡漁業各株監査役、静岡米穀取引所理事、東洋醸造、静岡貯蓄銀行、富士電気工業、吉野水電興業、此花商事各株取締役、静岡実業銀行常務取締役となる○当選二回(14 15)○昭和4年12月18日死去

宮崎一　埼玉県第一区選出　日本進歩党

明治19年11月生・埼玉県出身・明治45年東京帝国大学英法科卒○弁護士の業務に従事す、浦和町会議員、埼玉県会議員、同議長となり、米内内閣の陸軍参与官、司法省委員、幣原内閣の陸軍政務次官、次いで第一復員政務次官となる、また浦和弁護士会長となる・派遣軍慰問のため北支那へ派遣さる○当選四回(18 19 20 21)○昭和26年10月10日死去

宮崎松次郎　福岡県第十六区選出　立憲民政党

明治8年12月生・福岡県出身・県立豊津中学校に学ぶ○醤油醸造業を営む、日露戦役に従軍す、添田町会議員、田川郡会議員、同参事会員、福岡県会議員、同参事会員、添田町長となり、所得調査委員、営業税調査委員、土地収用審査員、地方森林会議員となる、また添田銀行取締役等となる○当選一回(15)○昭和11年2月12日死去

宮崎鏻三郎　埼玉県選出　同志研究会

安政3年10月生・埼玉県出身・法律学を修む○代言人となり、次いで弁護士の業務に従事す○当選二回(7 8)○明治39年10月22日死去

宮澤才吉　長野県選出　民主党

明治25年5月生・長野県出身○長野県会議員、同参事会員、祢津村長となる、また農業を営み、村農会長、村農業会長、長野県農業会理事、小県郡町村長会副会長、同森林組合長、また司法大臣官房臨時企画部稲田大学講師、スタンダード靴、明治製革各(株)社長、日本靴連盟会長となる・第二十三回万国議院商事会議(ワルソー)及び第三十四回(ヘーグ、第四十四回(ヘルシンキ)列国議会同盟会議に参列す○当選五回(17 19 20 25 27)

宮澤清作　宮城県第一区選出　立憲政友会

明治11年4月生・宮城県出身・明治36年日本大学卒○裁判所書記、司法官試補、宇都宮地方、栃木区、仙台区、仙台地方各裁判所判事を歴任す、のち弁護士の業務に従事し、仙台弁護士会副会長、宮城県会議員、同参事会員となる○当選五回(17 補18 19 20 再)○昭和14年3月14日死去

宮澤長治　長野県第三区選出　立憲政友会

明治2年8月生・長野県出身・明治26年明治法律学校卒○弁護士の業務に従事す、上水内郡会議員、同参事会員、長野県会議員、同議長となる○当選一回(14 補)○昭和7年2月16日死去

宮澤胤勇　長野県第三区選出　自由民主党

明治20年12月生・長野県出身・明治44年早稲田大学政治経済学部卒○阿部内閣の陸軍政務次官、木材価格形成専門委員長、内閣綜合計画局参与、衆議院内閣委員長、石橋内閣及び第一次岸内閣の運輸大臣となる、また改進党、日本民主党各顧問、自由民主党相談役、桜組工業(株)常務取締役、早稲田大学講師、スタンダード靴、明治製革各(株)社長、日本靴連盟会長となる・第二十三回万国議院商事会議(ワルソー)及び第三十四回(ヘーグ、第四十四回(ヘルシンキ)列国議会同盟会議に参列す○当選五回(17 19 20 25 27)

宮澤裕　広島県第三区選出　日本進歩党

明治17年1月生・広島県出身・大正3年東京帝国大学政治科卒○長野県属、逓信大臣秘書官、内務大臣秘書官、米内内閣の鉄道政務次官、鉄道会議議員、内閣調査局参与、文部省委員、商工省参与となる、また東洋鉄鋼、日本セメント、瀬戸内海運送、日東運輸商事、国民新聞各株取締役、国策パルプ工業、樺原汽船、日本鉄鋼各株顧問となるほか、大日本興亜同盟理事、大政翼賛会参与、大東文化協会専務理事となる・第二十七回列国議会同盟会議(ブカレスト)に参列、また派遣軍慰問のため中支那へ派遣さる(著)「平易なる思想論」「貿被られた欧米」「帝国憲法と機関論」「日本政治学原

論」○当選六回(16 17 18 19 20 21)

宮下一清(みやした いっせい)　長野県郡部選出　立憲政友会

文久3年10月生・長野県出身・漢学を修む、明治17年明治法律学校卒○弁護士の業務に従事す、更級郡会議員、同参事会員、長野県会議員、同参事会員、同議長、地方森林会議員、衛生会議員となる、また長野商業会議所常議員、長野新聞(株)社長、長野電灯(株)監査役となる○当選一回(7)○昭和20年2月18日死去

宮島幹之助(みやじま みきのすけ)　山形県第二区選出　立憲民政党

明治5年8月生・山形県出身・明治31年東京帝国大学動物学科卒、のち京都帝国大学大学院に学ぶ、医学博士○京都帝国大学医科大学、京都高等工芸学校各講師、痘苗製造所技師、伝染病研究所技師を歴任、のち北里研究所創立とともに寄生虫部長、兼理事となり、次いで副所長となる、また帝都復興院評議員、保健衛生調査会委員、慶応義塾大学医学部教授、済生会参事となる・国際聯盟保健機関常設委員会帝国代表委員、国際阿片会議帝国代表専門委員としてジュネーブに出張す(昭)「動物と人生」「北里柴三郎伝」○当選一回(15)○昭和19年12月11日死去

宮田慎一郎(みやた しんいちろう)　愛知県第四区選出　大成会

安政元年3月生・愛知県出身○農業を営む、学区取締、戸長、丹羽—葉栗郡書記、愛知県会議員、同常置委員、同副議長、同郡部会議長、同参事会員、佐千原村会議員、葉栗郡会議員、同参事会員、同議長となり、地方衛生会員、所得税調査委員、徴兵参事員、勧業諮問会員となる、また郡教育会副会長、宮田用水普通水利組合議長、学校組合議員、郡農会副会長、県農工銀行取締役、名古屋土地(株)監査役となる○当選一回(1)○昭和6年3月24日死去

宮田光雄(みやた みつお)　三重県第四区選出　庚申倶楽部

明治9年11月生・三重県出身・明治38年東京帝国大学独法科卒○貴族院試補、貴族院書記官兼大蔵省臨時建築部事務官、大礼使典儀官、臨時議院建築局理事、同経理部長、福島県知事を歴任し、加藤(友三郎)内閣の内閣書記官長、国勢院参与、警視総監、内閣大礼使参与官、議院建築準備委員会幹事、鉄道会議議員となる、また立憲政友会総務、大日本興亜同盟理事長、大政翼賛会興亜総本部長兼事務総長となる○当選一回(14)・(貴)(勅選)○昭和31年3月8日死去

宮幡靖(みやはた やすし)　静岡県第二区選出　自由党

明治33年8月生・静岡県出身・大正12年明治大学商学部卒○計理士及び税務代理士の業務に従事す、鷹岡町会議員、同町長、家屋賃貸価格調査委員、名古屋地方株式等評価委員となり、第三次吉田内閣の通商産業政務次官となる、また静岡県計理士会長、名古屋地方税務代理士会長、日本電化工業、日下部パルプ各(株)監査役、富士特殊工業(株)社長、民主自由党総務、政調会大蔵部長、自由党産業復興計画委員長、総務となる○当選三回(23 24 25)○昭和34年5月13日死去

宮原幸三郎(みやはら こうざぶろう)　広島県第二区選出　立憲民政党

文久2年12月生・広島県出身○呉郵便局長となる、広島県会議員、同参事会員、同議長、同郡部会議長、安芸郡会議員、呉市会議員、同参事会員、同議長となり、所得調査委員、土地賃貸価格調査委員、宅地価修正委員となる、また呉貯蓄銀行取締役、呉馬車鉄道、呉起業銀行、中国電気、呉瓦斯各(株)専務取締役、博愛汽船(株)社長となる○当選三回(6 12 16)○昭和9年8月31日死去

宮原幸三郎(みやはら こうざぶろう)　広島県第二区選出　自由党

明治23年1月生・広島県出身・大正5年東京帝国大学政治科卒○長野県属、長野県下高井郡長、和歌山県伊都郡長、熊本県理事官、帝都復興院事務官兼書記官、内務省復興局書記官、兵庫県理事官を歴任し、呉市助役、同市会議員となり、北支那開発(株)監査役、中興炭礦鉱業所理事、山東鉱業(株)監査役となる、のち洋服布地輸入販売オーパー・シーズ・ストアを共同経営す、また衆議院両院法規委員長、自由党総務、原子燃料公社監事となる○当選二回(24 26)

宮原庄助(みやはら しょうすけ)　茨城県選出　民主党

明治17年5月生・茨城県出身○那珂湊町会議員、茨城県会議員、同議長、那珂湊市長となる、また湊漁業組合長、湊水難救済会長、那珂郡水産会長、茨城県漁業組合連合会長、同漁船保険組合長、同水産業会長、同信用漁業協同組合連合会長となるほか、茨城製鋼(株)常務取締役、水戸魚市場取締役、日本油肥販売(株)監査役、宮庄漁業(株)社長となる、日本進歩党常議員会副会長となる○当選一回(22)

宮部襄(みやべ じょう)　群馬県高崎市選出　立憲政友会

弘化4年4月生・群馬県出身・漢学、英学を修む○高崎藩中小姓、貢士、西京公用人となり、同藩大属兼文武学校総裁、度会県史生、白川県出仕、同県大属、熊本県警部、群馬県出仕、同県立師範学校長を歴任す、のち自由新聞を発刊、自由党の創立に参加し、幹事となる、また広徳館を創設し、館長となる○当選一回(9)○大正12年9月9日死去

宮前進(みやまえ すすむ)　埼玉県選出　民主党

明治26年6月生・埼玉県出身・大正4年東京高等商業学校卒○秩父町会議員、所得税調査委員、金銭債務調停委員、商工経済会評議員となる、また書籍雑貨商を営み、県文具卸施設組合、秩父生活必需品小売業統制組合各理事長、秩父商工会議所副会頭、県信用金庫理事、県商店会、秩父市商店連盟各連合会長、全日本商店会連合会理事、秩父合同運送、宮前商店、養成社、秩父乳業各(株)取締役社長、秩父鉄道、東亜酒造各(株)監査役となる○当選一回(22)

宮村三多(みやむら みつた)　大分県選出　帝国党

安政3年12月生・大分県出身・漢学、英学、歴史及び経済学を修む○千葉県中学校助教諭、同県成田英漢義塾長となる、のち大分県下毛郡視学、大分県会議員、同参事会員となる、また中津米穀取引所理事長、中津紡績会社取締役、大分県鉄道期成会幹事となる○当選二回(7 8)○明治41年2月2日死去

宮村又八(みやむら またはち)　熊本県第一区選出　社会革新党

明治21年11月生・熊本県出身○熊本市会議員となる、また借家人組合長、農民組合長、社会大衆党熊本県支部長、日本農民組合熊本県連合会長、熊本県建築労働組合長、魚介行商組合長、日本社会党中央執行委員、同熊本県支部連合会長となる○当選二回(22 23)○昭和36年2月12日死去

宮本逸三(みやもと いつぞう)　茨城県第三区選出　立憲政友会

安政6年10月生・茨城県出身・漢学を修む○農業及び醸造業を営む、茨城県会議員、同常置委員、勧業委員、芳野村会議員、同村長となる、また太田鉄道(株)監査役、水浜電車、日本耐火工業各(株)取締役となる○当選二回(13 15)○昭和5年4月15日死去

宮本嘉樂(みやもと からく)　埼玉県選出　立憲政友会

明治元年11月生・埼玉県出身・漢籍を修む○長井村収入役、同村長、大里郡会議員、埼玉県会議員、所得税調査委員となる、また埼玉実業銀行頭取、深谷商業銀行取締役となる○当選一回(9)○昭和31年10月29日死去

宮本雄一郎　静岡県第一区選出　翼賛議員同盟

明治10年9月生・静岡県出身○農業を営む、朝比奈村助役、同村長、同村会議員、小笠郡会議員、静岡県会議員、同議長となる、また静岡県茶業組合連合会会議所理事、小笠郡農会長となる・第二十九回列国議会同盟会議（マドリッド）に参列す○当選三回（18 19 20）○昭和20年5月7日死去

宮脇長吉　香川県第一区選出　同交会

明治13年2月生・香川県出身・明治36年陸軍士官学校、同41年同砲工学校、大正2年同戸山学校卒○陸軍工兵少尉より陸軍航空兵大佐に累進、その間日露戦役に従軍、陸軍士官学校教官、所沢気球隊長となる、のち満州セメント㈱重役、扶桑石油㈱会長、朝日鋼材工業、日本鉱業開発㈱取締役、琴平電鉄㈱監査役となる、また立憲政友会総務となる・第三十三回列国議会同盟会議（パリ）に参列す○当選五回（16 17 18 19 20）○昭和28年2月16日死去

明禮輝三郎　愛媛県第三区選出　自由党

明治28年1月生・愛媛県出身・大正10年日本大学法律科卒○弁護士の業務に従事す、日本弁護士協会、日満法曹協会、大東亜法曹協会各理事、東京弁護士会副会長となり、衆議院懲罰委員長、同考査特別委員会顧問、同委員会事務局長となる、また銀座土地㈱監査役となる○当選二回（23 25）○昭和29年12月16日死去

む の 部

武者傳二郎　宮城県第二区選出　公同会

安政元年1月生・宮城県出身・剣術、漢学を修む○宮城県会議員、同常置委員となる、のち伊具―亘理郡長、志田―玉造郡長を歴任す○当選四回（1 2 3 4）○明治34年9月3日死去

武藤一忠　熊本県第三区選出　国民協会

天保7年12月生・熊本県出身・漢籍及び剣、槍、柔、砲術を修む○菊池郷文芸指南方となり、のち木下梅里の私塾古耕舎をつぎ舎主となり、子弟を教授す、また里正、戸長、郡書記、熊本県会議員、同常置委員、同副議長、地方森林会議員、学務委員となる、郡立中学校を創立す㊟「環山草堂詩文集」「男虎太編」○当選二回（4補5）○明治41年5月19日死去

武藤運十郎　群馬県第三区選出　日本社会党

明治35年1月生・群馬県出身・昭和2年早稲田大学専門部法律科卒、法学博士○弁護士の業務に従事す、東京弁護士会常議員、全日本借家人組合中央執行委員長、衆議院不当財産取引調査特別委員長となる、また日本社会党統制委員会長、中央執行委員、資金局長、法制調査委員長、青年婦人局長、代議士会長、両院議員総会長となる㊟「親族相続法読本」「日本不動産利用権史論」○当選六回（22 23 24 25 26 27）

武藤嘉一　岐阜県第一区選出　自由党

明治30年2月生・岐阜県出身・大正9年慶応義塾大学理財科卒、米国スタンフォード、プリンストン、コーネル各大学院及び仏国グルノーブル大学に学ぶ○三菱海上火災保険㈱社員、慶応義塾大学高等部教授となり、武藤醸造、武藤商店各資代表社員、菊川酒造㈱社長を経て武藤本店、旭紡績各㈱会長、東海ラジオ放送㈱副社長となる、また岐阜市立薬学専門学校、岐阜農林専門学校各講師、富田高等女学校長、第三次吉田内閣の逓信政務次官、民主党渉外部長、民主自由党総務となる○当選三回（22 23 24）

武藤嘉門　岐阜県第一区選出　立憲民政党

明治3年10月生・岐阜県出身・東京法学院英法科に学ぶ○酒造業を営む、岐阜県会議員、岐阜県知事となる、また日本絹紬㈱常務取締役、日本電力、揖斐川電気各㈱監査役となり、岐阜合同運送、岐阜日日新聞、岐阜合同新聞各㈱社長、参宮急行電鉄、武前醸造各㈱取締役、岐阜商工会議所会頭、県食糧営団、県酒造組合連合会各理事長となる○当選三回（13 15 17）

武藤金吉　群馬県第一区選出　立憲政友会

慶応2年5月生・群馬県出身・英吉利法律学校に学ぶ○新聞記者となり、のち実業新聞を発刊し社長となるほか、帝国蚕糸㈱専務取締役、上野新聞社長、群馬県農工銀行、利根水力電気各㈱取締役、山保毛織㈱取締役社長、蚕糸同業組合中央会特別議員、大日本蚕糸会評議員、田中内閣の内務政務次官となる、また立憲政友会総務、党務委員長、顧問、代議士会長となる・第十六回列国議会同盟会議（ブラッセル）に参列、また支那視察のため派遣さる○当選八回（9 10 11 12 13 14 15 16）○昭和3年4月23日死去

武藤瓦三　岐阜県第五区選出　国民協会

慶応2年1月生・岐阜県出身・明治19年岐阜県師範学校、同23年東京専門学校法律科卒○生糸製造業を営む、八幡町長、蚕糸業諮問会、中央種繭審査会各委員となる、また第百二十八銀行頭取、八幡町仏教慈善会長、県製糸同業組合長、製糸講習所長、大日本蚕糸会、帝国蚕糸会社各評議員、濃飛農工銀行取締役となるほか、大谷派本山講頭格に列せられ、同派本願寺会計評議員となる○当選一回（5）○昭和12年1月20日死去

武藤山治　大阪府第二区選出　第一控室

慶応3年3月生・岐阜県出身・明治17年慶応義塾卒、のち米国に遊学○ジャパンガゼット新聞社員、チイリス商会員、三井銀行神戸支店副支配人を経て、鐘淵紡績㈱兵庫支店支配人、同本社支配人、同専務取締役、同社長、同相談役となる、また神戸商業会議所特別議員、実業同志会々長、時事新報社長となる・第一回国際労働会議（ワシントン）に資本家代表者として出席す○当選三回（15 16 17）○昭和9年3月10日死去

武藤七郎　群馬県第一区選出　立憲政友会

明治16年8月生・群馬県出身・明治42年東京帝国大学政治科卒○東京日々新聞記者、日本大学講師となり、呉市助役、東京市社会局総務課長、財団法人協調会情報課長、農村課長となる、のち著述業に従事す、また民主化促進同盟理事長となる・第一回国際労働会議（ワシントン）及び第四回同会議（ジュネーブ）に労働代表顧問として出席す○当選一回（16）

武藤 武雄 福島県第三区選出 民主社会党
大正5年3月生・茨城県出身・昭和5年茨城県小貫農業公民学校卒○常磐炭礦労働組合長、日本炭礦労働組合中央執行委員長、日本労働組合総評議会議長となる、福島県地方労働委員、湯本町会議員、第四十九回列国議会同盟会議日本議員団代表となる、また福島県暮しの研究会理事長、社会クラブ国会対策副委員長、民主社会党国会対策副委員長となる・ILO石炭委員会に出席、また米国の労働施設を視察す㊒「或る坑夫の一生」○当選一回(28)

武藤 常介 茨城県選出 民主党
明治23年3月生・茨城県出身・大正2年茨城県師範学校卒○小学校訓導、太田町会議員、同町長、茨城県町村長会長となり、第三次鳩山内閣の労働政務次官となる、また全国木材組合連合会副会長、茨城県林業協会長、同建設業協会顧問、同木材協同組合連合会長、武藤建設㈱社長となる、日本進歩党民情部副部長、改進党副幹事長、自由民主党総務、副幹事長、国会対策副委員長、両院議員総会副会長となる・欧米各国の議院運営の実情視察のため派遣さる㊒「労働問題と労働行政」「欧米旅日記」○当選一回(22)・(参二回(35)

陸奥 宗光 和歌山県第一区選出 無所属
弘化元年7月生・和歌山県出身・安井息軒、水本成美及び勝鱗太郎の塾に学ぶ○徴士外国事務局権判事、大阪府権判事、摂津、豊崎、兵庫各県知事を歴任、のち和歌山藩戍兵都督となる、次いで神奈川県知事、租税頭、地租改正局長、大蔵少輔心得、元老院議官、同院幹事、特命全権公使(米国)、第一次山縣内閣の農商務大臣、次いで第一次松方内閣に留任、枢密顧問官、第二次伊藤内閣の外務大臣となり、日清戦役後下関講和会議に全権副使となる、子爵、次いで伯爵を授けらる○当選一回(1)○明治30年8月24日死去

向井 倭雄 長崎県第一区選出 立憲政友会
明治5年6月生・大分県出身○兵庫県属、鳥取、愛媛各県警部、愛媛県周桑郡長、警視庁警視、長崎県対馬島司、京都市助役を歴任す、田中内閣の逓信参与官となる○当選五回(14 15 16 17 18)○昭和21年8月12日死去

麥田 宰三郎 広島県郡部選出 立憲政友会
嘉永6年2月生・広島県出身・漢学、国学及び法律学を修む○広島県会議員、同常置委員、同副議長となる、また農業を営み、傍ら海外移民事業に従事し、海外渡航㈱取締役となる○当選五回(5 7 8 9 10)○大正6年8月28日死去

宗像 政 熊本県郡部選出 立憲政友会
安政元年1月生・旧姓(田村)・熊本県出身・開拓使札幌学校、東京芝学校に学ぶ○西南の役に西郷軍の中隊長として従軍す、のち自由民権運動に従事、自由党の結成に参加す、埼玉、青森、福井、宮城、高知、熊本、各県知事、東京府知事を歴任す、また済生会評議員となる○当選二回(4 12)・(貴(勅選)○大正7年2月7日死去

村井 善四郎 奈良県郡部選出 無所属
明治4年3月生・奈良県出身○村長、北葛城郡会議員、同参事会員、奈良県会議員、同参事会員となる、また大和鉄道、国東鉄道各㈱専務取締役、南和電気鉄道、大阪タクシー自動車各㈱取締役、豊国自動車、大阪鉄道各㈱監査役となる○当選二回(10 11)○昭和16年5月27日死去

村井 八郎 福島県選出 民主党
明治19年12月生・福島県出身・明治45年東京帝国大学政治科卒○福島県属兼警部、新潟県属、同東蒲原、三島各郡長、同理事官、長野県、大分県、熊本県、大阪府各警察部長、山形県内務部長、北海道庁土木部長、福島県知事を歴任す、のち郡山、川崎、会津若松各市長となる、また日本自由党政調会副会長、東京トヨタ自動車販売㈱監査役、福島トヨペット㈱取締役会長、川崎市商業活動調整協議会長となる○当選一回(22)

村尾 薩男 鹿児島県第一区選出 日本社会党
明治35年8月生・鹿児島県出身・東京帝国大学社会学科に学ぶ○大衆新聞を編集す、㈱枕崎造船所顧問、鹿屋軽工業㈱を創立しその社長となる、また日本社会党鹿児島県支部連合会書記長となる㊒「経済科学概論」外○当選一回(23)

村岡 吾一 山口県第一区選出 立憲民政党
明治18年8月生・山口県出身・明治40年日本大学法律科、同42年同大学高等専攻科卒○通信手、裁判所書記となる、のち弁護士の業務に従事す、下関市会議員、同議長、山口県会議員となる、また山口弁護士会長、日本建材工業㈱取締役となる○当選二回(17 19)○昭和27年1月2日死去

村上 勇 大分県第一区選出 自由民主党
明治35年4月生・大分県出身・大正7年早稲田大学附属早稲田工手学校修○土木建築業に従事し、㈱飛島組監査役、㈱村上組取締役社長、大和土建㈱会長となる、第二次吉田内閣の商工政務次官、衆議院人事委員長、同水害地緊急対策特別委員長、第三次鳩山内閣の郵政大臣、第二次岸内閣の建設大臣、首都圏整備委員会委員長、北海道開発庁長官となる、また日本自由党会計監督、自由党総務、国会対策委員長となる・郵政業務についてタイ国へ出張す○当選七回(22 23 24 25 26 27 28)

村上 一郎 熊本県第二区選出 国民協会
弘化2年9月生・熊本県出身・漢籍及び英式兵学を修む○小学校教員となる、熊本県会議員、同副議長、同議長、高瀬町長、勧業諮問会員、地方森林会議員となる、また熊本県衛生会副会長、同農会長、同畜産会名誉会員、肥後山林協議会、国産奨励会各評議員、熊本県神職会顧問となる○当選二回(4補 5)○大正11年5月21日死去

村上 國吉 京都府第三区選出 日本進歩党
明治9年1月生・京都府出身・明治31年大阪府立農学校卒○農事試験場技手、農事巡回教師兼農事試験場長、県立熊本農業学校教諭を歴任、のち村上農園を経営す、何鹿郡会議員、同議長、綾部町会議員、京都府会議員、同参事会員、農林省嘱託、阿部内閣の農林政務次官となる、また何鹿郡農会長、京都府農会副会長、帝国農会、農地開発営団各評議員、何鹿郡畜産、同米穀同業、同養蚕業各組合長、京都府養蚕業組合連合会議員となる・派遣軍慰問のため議員団長として満州へ派遣さる○当選六回(15 16 17 19 20 21)○昭和32年12月13日死去

村上 清治 秋田県第二区選出 自由党
明治28年3月生・秋田県出身・大正5年東北帝国大学農学実科卒○農業を営む、秋田県会議員となり、次いで東京世田谷中学校教諭となる、のち上郷村長、由利郡仁賀保町村長会長、県町村長会評議員となる、また不動建物㈱取締役社長、上郷村農業会長、同森林組合長、上郷文化協会長、由利郡農業会長会副会長、民主自由党政調会庶務部長、幹事となる○当選二回(23 24)○昭和30年10月13日死去

村上 太三郎 静岡県郡部選出 無所属団
安政4年9月生・東京都出身○多年株式仲買業に従事す、東京株式取引所仲裁委員、東京商業会議所議員、横浜四品取引所理事、日本精製糖、日本石油精製、日本製粉、日本重石、小樽木材、九州炭礦汽船、日本醤油醸造、宝石油、日本活動写真、東京澱粉各㈱取締役、営口水道電気、旭製

薬各株監査役となる、また鉱山業を経営す○当選一回(12)○大正4年4月25日死去

村上先　岩手県郡部選出　立憲政友会

文久2年1月生・東京都出身・英学、漢学及び法律学を修む○鳥取県東伯郡長、北海道札幌支庁長、台北弁務署長、臨時土地調査局事務官、塩水港庁長、台南庁長を歴任す、のち塩水港製糖㈱監査役となる㊟「学制大全」「北海道区制正解」○当選一回(10)○死去

村上元吉　北海道第二区選出　翼賛議員同盟

明治11年10月生・北海道出身○農業を営む、比布村長、北海道会議員、同副議長、同議長となる、また北海道農会長、上川外四郡農会長、比布村産業組合長、北海道産業組合連合会理事、比布村産業組合長、上川郡近文東土功組合長、北海道工業振興会顧問となる○当選一回(20補)○昭和16年11月8日死去

村上紋四郎　愛媛県第三区選出　翼賛議員同盟

慶応元年8月生・愛媛県出身・漢籍を修む○宮窪村長、愛媛県会議員、同参事会員、同議長、所得調査委員、徴兵参事員、地方衛生会議員となり、今治市長となる、また越智郡漁業組合連合会長、愛媛県遠海出漁団体連合会副会長、愛媛県水産組合組長、越智郡水産会長となる○当選五回(15 17 18 19 20)○昭和20年1月21日死去

村上芳太郎　愛媛県第二区選出　同志会

安政5年7月生・愛媛県出身・漢学を修む○中浜町会議員、今治町会議員、同町長、連合町村会議員、愛媛県会議員、同参事会員、同議長、所得税調査委員、学務委員となる、また伊予木綿会社社長、伊予紡績㈱常務取締役、今治米穀取引所創立委員長、同理事、四国鉄道㈱創立委員長、同取締役、東予汽船㈱相談役、日本紡績連合会常務委員となる○当選一回(4)○明治42年1月15日死去

村澤義二郎　石川県第一区選出　無所属倶楽部

明治40年3月生・石川県出身・専門学校入学者検定試験並びに高等試験司法科合格○弁護士の業務に従事す、大政翼賛会石川県支部庶務部長となる○当選一回(21)

村島喜代　新潟県第一区選出　民主党

明治25年10月生・新潟県出身・明治44年県立長岡女子師範学校卒、津田女子英学塾に学ぶ○県立新潟高等女学校家庭寮々監、日本青少年団新潟市支部副団長、日本婦人会新潟県支部理事、新潟家庭裁判所調停委員、私立服装技芸学校長となる、また日本進歩党婦人部長となる○当選一回(22)

村瀬庫次　愛知県第四区選出　無所属

慶応2年5月生・愛知県出身・漢学を修む○丹羽郡所得税調査委員となる、また愛北物産資社長、名古屋米商会所肝煎、鉄道車両製造所取締役、名古屋商品取引所理事長、丹葉銀行副頭取となる○当選二回(5 6)○大正11年5月2日死去

村瀬武男　愛媛県第二区選出　日本進歩党

明治12年5月生・愛媛県出身・明治31年広島修道学校卒○大井村助役、大井村長、越智郡会議員、同議長、愛媛県会議員、同副議長、同議長となる、また愛媛県農会副会長、越智郡農会長、今治市畜産組合長、愛媛県山林会郡支会長、越智郡畜産組合長となる○当選二回(20 21)○昭和34年2月3日死去

村瀬宣親　愛媛県第二区選出　自由民主党

明治35年1月生・愛媛県出身・神戸高等商業学校に学ぶ○興亜院嘱託、青島港建設事務局会計課長、青島埠頭㈱総務課長となる、終戦後引揚げ、乃万村長となる、第一次鳩山内閣の経済審議政務次官、衆議院科学技術振興対策特別委員長、第一次池田内閣の法務政務次官となる、また民主党農政部長、遊説部長、党務部長、総務、国民民主党組織局次長、総務委員、改進党政策委員長代理、党本部事務局長、副幹事長、青年局長となる・中共訪問国会議員団として中共各地を視察す○当選四回(23 24 26 28)

村田虎次郎　滋賀県大津市選出　中正会

明治2年11月生・滋賀県出身○大津市長、大津商業会議所特別議員、京都信託㈱監査役となる、また立憲政友会総務となる○当選二回(10 11)○昭和17年10月30日死去

村田虎之助　熊本県第一区選出　立憲政友会

明治10年1月生・大阪府出身○日の丸電線㈱取締役、村田商事㈱社長となる○当選三回(14 17 18)○昭和20年11月10日死去

村田不二三　北海道第一区選出　第一控室

明治2年3月生・鳥取県出身・明治24年東京法学院卒○弁護士の業務に従事す、北海道会議員、同参事会員、同副議長、同議長、札幌市会議員、同議長となる、また札幌弁護士会長、同常議員会議長、札幌商業会議所特別議員、北海酸素㈱社長、登別グランドホテル、札幌松竹座各㈱取締役、北海道製鋼、札幌グランドホテル各㈱監査役となる○当選一回(17)○昭和32年11月10日死去

村野山人　兵庫県第二区選出　無所属

嘉永元年7月生・兵庫県出身○飾磨五等警部、兵庫県出仕、神戸区長兼八部郡長、兵庫県書記官を歴任し、商業講習所監督、神戸商法会議所会頭、鉄道会議議員となる、また山陽鉄道㈱副社長、豊州鉄道㈱支配人、同常務取締役、南海鉄道、京阪電気鉄道、浪速軌道各㈱取締役、神戸電気鉄道㈱取締役社長、神戸商業会議所特別会員となる、伏見桃山に乃木神社を建立す㊟「報国真随」「静子夫人伝」○当選二回(2 3)○大正10年1月13日死去

村野常右衛門　東京府郡部選出　立憲政友会

安政6年7月生・東京都出身・漢籍を修む○農業を営む、融貫政社を起し、自由民権運動に従事す、戸長、鶴川村会議員、神奈川県会議員、同常置委員となり、衆議院議員選挙法改正調査会委員となる、また横浜鉄道㈱監査役、横浜倉庫㈱専務取締役、立憲政友会幹事長、総務、顧問となる○当選八回(6 7 8 9 10 11 12 13)・(貴二勅選)○昭和2年7月30日死去

村松愛蔵　愛知県郡部選出　立憲政友会

安政4年3月生・愛知県出身・漢籍及び英、露語を学ぶ○自由民権運動に従事、自由党の創立に参加す、日露実業協会幹事となる○当選四回(5 8 9 10)○昭和14年4月11日死去

村松亀一郎　宮城県第一区選出　立憲民政党

嘉永6年1月生・宮城県出身・東京法律学舎に学ぶ○代言人となり、次いで弁護士の業務に従事す、仙台市会議員、同参事会員、同議長、宮城県会議員、同副議長、同議長となり、衆議院議員選挙法改正調査会委員となる、また仙台瓦斯㈱監査役となる○当選九回(2 7 8 9 10 11 12 13 15補)○昭和3年9月22日死去

村松山壽　宮城県仙台市選出　憲政会

慶応3年2月生・宮城県出身・米国に留学、ミシガン州オリヴェット大学文学部に学び、明治24年ミシガン州立大学法科卒○第二高等学校講師となる、のち弁護士の業務に従事す、またバンコックにおいて法律事務に従事し、シャム国法廷及び英国法廷の弁護士たることを免許さる○当選一回(12)○昭和12年10月18日死去

村松甚蔵　山梨県第一区選出　立憲民政党
明治2年12月生・山梨県出身・山梨県師範学校及び同人社卒○山梨県会議員、同参事会員となる、また砂糖卸商を営み、甲府商業会議所議員、大日本製粉㈱専務、南日本製糖、日新館製糸各㈱取締役、山梨林業㈱社長、日清製粉、富士川電力各㈱監査役となる、甲府市に南塘書庫及び図書館「汲故館」を設立す○当選一回(15補)○昭和20年2月9日死去

村松恒一郎　愛媛県第三区選出　立憲民政党
元治元年4月生・愛媛県出身・明治17年同人社卒○高野山大学林の英学教師となり、関西日報、国会新聞、中央新聞、東京朝日新聞、大阪朝日新聞各記者を経て、政治雑誌「大国民」を発刊、また日刊大東通信社長となる、のち著述業に従事し、東京市会議員、同参事会員、麻布区会議員、社会事業調査会委員、立憲民政党総務となる・第二十五回列国議会同盟会議(ベルリン)に参列す○当選五回(10 11 13 16 17)○昭和15年6月5日死去

村松久義　宮城県第二区選出　自由民主党
明治31年7月生・宮城県出身・大正12年東京帝国大学独法科、同14年経済科卒○司法官試補、検事代理、名古屋地方裁判所判事を歴任、のち弁護士の業務に従事す、大政翼賛会国民生活動員本部長、厚生省委員、農商省行政委員、衆議院農林水産委員長となる、また日ソ漁業対策協議会、アジア農業技術交流協会各会長、三宝物産㈱社長となる、日本民主党政調会副会長、同厚生部長、自由民主党総務となる○当選六回(18 19 20 21 25 27)・(参)一回(5)

村山喜一郎　秋田県第二区選出　立憲民政党
明治5年8月生・秋田県出身○呉服商及び林業を営む、南秋田郡会議員、同議長となり、また秋田山林会、帝国森林会各評議員となる・第二十四回列国議会同盟会議(パリ)に参列す○当選二回(14 15)

村山金平　栃木県宇都宮市選出　立憲政友会
明治元年2月生・栃木県出身○肥料及び塩商を営む、宇都宮市会議員、同議長となる、また宇都宮商業会議所副会頭、下野銀行、下野倉庫、下野電力、豊島特産、下野米券倉庫各㈱取締役、宇都宮銀行監査役、栃木県肥料商組合副組合長となる○当選一回(12)○大正10年5月17日死去

村山龍平　大阪府第四区選出　無所属
嘉永3年4月生・大阪府出身○商業を営み、のち大阪朝日新聞を創刊、次いで東京朝日新聞、大阪公論、東京公論、国会新聞を発刊し、大阪朝日、東京朝日各新聞社長となる、大阪府会議員、大阪市会議員、同参事会員となる○当選三回(1補2 3)・(貴)勅選○昭和8年11月24日死去

紫安新九郎　大阪府第二区選出　日本自由党
明治6年8月生・兵庫県出身・明治32年東京専門学校邦語政治科卒○鎮西日報主筆、万朝報記者となる、のち大阪市商工課長、同南区長となり、大蔵省副参政官、第二次若槻内閣の拓務政務次官となる、また出羽石油、大阪水産、城東土地、京畿鉄道各㈱取締役、立憲民政党総務となる・永年在職議員として院議表彰さる○当選十回(11 12 13 14 15補 16 17 19 20 21)○昭和27年7月8日死去

室孝次郎　新潟県第八区選出　憲政本党
天保10年9月生・新潟県出身・漢学、国学、剣道を修む○高田藩校修道館助教、弥彦神社宮司、第八大区長兼高田中学校長、西頸城郡長となる、退官後信越鉄道の敷設に尽力す、のち愛媛県知事となる○当選五回(1 2 3 4 6)○明治36年6月21日死去

室木彌次郎　石川県第四区選出　立憲民政党
明治15年10月生・石川県出身・明治38年京都帝国大学独法科卒○司法省試補、大阪区裁判所、大阪地方裁判所各判事、大阪控訴院判事代理を歴任、のち弁護士及び特許弁理士の業務に従事す、また熊木銀行取締役、能登銀行監査役、小田製糸㈱社長となる○当選二回(12 15)

室木彌八郎　石川県郡部選出　立憲政友会
嘉永6年3月生・石川県出身○農業を営む、庄屋、戸長、石川県会議員、村会議員、鹿島郡会議員、同議長、所得税調査委員、勧業諮問会員、地方森林会議員となる、また宝達軌道㈱社長、七尾共成㈾社長、熊木銀行頭取、能登銀行取締役、国分銀行監査役となる○当選一回(7)○明治36年2月8日死去

室原重福　福島県郡部選出　立憲政友会
安政元年11月生・福島県出身・英学を修む○同人社英学教員となり、のち外務省翻訳局御用掛、長崎県立中学校長となる、のち翻訳、著作に従事す○当選二回(7 8)○昭和9年3月26日死去

めの部

目黒孝平　新潟県郡部選出　憲政会
明治10年3月生・新潟県出身・慶応義塾及び同志社に学ぶ○農業を営む、須原村長となる、また東洋調帯、戦友共済生命保険各㈱取締役となる○当選二回(11 12)○大正8年10月10日死去

目黒貞治　秋田県郡部選出　立憲政友会
嘉永5年7月生・秋田県出身・漢学及び法律学を修む○農業を営む、滝川村地主総代、勧業試験場担当人、地価評定会議員となり、秋田県会議員、同常置委員、勧業諮問会委員、徴兵参事員となる、また畜産会協議員会長、公立秋田病院長、奥羽鉄道敷設委員となる○当選三回(3 4 7)○大正6年5月21日死去

目黒徳松　新潟県第七区選出　無所属
安政元年4月生・新潟県出身○戸長、新潟県会議員となる、また小学校、銀行、会社を創立し、県道開鑿、大河津分水、上越鉄道敷設運動等公共事業に尽力す○当選一回(2)○明治32年12月31日死去

もの部

最上直吉（もがみなおきち）　秋田県第七区選出　革新倶楽部
明治5年5月生・秋田県出身・明治27年慶応義塾卒○農業を営む、角間川町学務委員、修養団支部長となる、また地方公共事業に尽す ○当選一回(14)○昭和2年7月5日死去

最上英子（もがみひでこ）　群馬県第三区選出　民主党
明治35年12月生・群馬県出身・大正8年和洋女子学院卒○最上女塾々長、群馬県婦人厚生協会長となり、第一次岸内閣の郵政政務次官となる、また民主党会計監督、改進党郵政部長、日本民主党婦人局次長、逓信部長、政調会副会長、自由民主党婦人局次長となるほか、群馬県総合開発審議会、同観光協会各顧問となる ○当選二回(22・23)・(参)二回(3・5)

最上政三（もがみまさぞう）　群馬県第二区選出　日本進歩党
明治24年8月生・群馬県出身・大正7年中央大学法律科卒、のち欧米各国に留学す○万朝報政治部記者となり、日独戦役に従軍記者としてシベリアに派遣さる、同社政治部長となる、退社後、交通研究社主となり、また日本蚕糸統制㈱設立委員、鉄道省委員となる、のち群馬電通興業㈱取締役会長となる・南洋方面及び南米視察のため派遣され、また派遣軍慰問のため議員団長として南支那へ派遣さる㊟「南方遊記」「満支通信読本」「南アメリカ」○当選四回(17・19・20・21)

藻寄鐵五郎（もよりてつごろう）　石川県郡部選出　立憲政友会
慶応2年5月生・石川県出身○多年鉱山業に従事す○当選四回(5・8・9・10)○昭和10年9月8日死去

毛利莫（もうりまだむ）　大分県第一区選出　国民協会
天保12年9月生・大分県出身・漢学を修む○区長、大分県出仕、司法省出仕、大分県警部、玖珠郡長、大分県師範学校長を歴任す、また豊州会を結成し幹事長となり、鶴崎愛郷会長となる○当選一回(4)○大正9年2月22日死去

毛利松平（もうりまつへい）　愛媛県第三区選出　自由民主党
大正2年7月生・愛媛県出身・昭和13年慶応義塾大学法学部政治科卒○南満州鉄道㈱に入社、社員会青年部長、副参事、撫順炭礦労務課長となる、終戦により引揚げ、爾来会社役員を歴任、また日本民主党政調会民情部次長、自由民主党幹事となる・政治経済調査のため欧米、東南アジア各国を視察、さらに世界情勢視察のため欧米、南米、東南アジア、ソ連およびその衛星国を視察す㊟「日本経済の現状と課題」「あすの日本と世界」○当選一回(28)

毛里保太郎（もうりやすたろう）　福岡県第三区選出　立憲政友会
元治元年2月生・福岡県出身・叡麓塾に漢学及び政治、経済学を修む○京都日報社に入り、論説を担当す、のち静岡大勢新聞社主筆となり、門司新報社長となる、また門司市会議員、同参事会員となる○当選四回(7・9・13・14)○昭和13年5月13日死去

持田直（もちだちょく）　埼玉県第五区選出　立憲政友会
安政3年2月生・埼玉県出身・漢学、語学及び法律学を修む○小学校訓導、同校長となる、のち公証人となりその業務に従事し、埼玉県会議員、同常置委員、児玉郡参事会員、本庄町会議員、同町長となる○当選二回(5・6)○昭和12年11月3日死去

持田若狭（もちだわかさ）　栃木県郡部選出　大同倶楽部
万延元年9月生・旧名(若佐)・栃木県出身・専修学校に学ぶ○戸長、村会議員、下都賀郡会議員、同参事会員、栃木県会議員、同常置委員、同参事会員、徴兵参事員、勧業諮問会員、教育諮問会員、農林会特別会員、地方森林会議員となる、また野州日報社長、野州石材㈱監査役となる ○当選四回(6補・7・8・9)○昭和6年2月28日死去

持永義夫（もちながよしお）　宮崎県第二区選出　自由党
明治26年6月生・宮崎県出身・大正10年京都帝国大学英法科卒○内務属、和歌山県西牟婁、海草各郡長、広島県理事官、社会局事務官、第十二回国際労働会議(ジュネーブ)政府代表随員、内務省社会部福利、保護、庶務各課長、厚生大臣官房会計課長、傷兵保護院業務局長、愛媛県知事、厚生省労働、職業、勤労各局長、三重、兵庫各県知事、北海道庁長官を歴任、のち弁護士の業務に従事す、また持永林炭㈱社長、自由党政調会労働部長となる㊟「社会事業行政」○当選二回(25・26)

望月右内（もちづきうない）　東京府郡部選出　立憲政友会
安政5年5月生・和歌山県出身○和歌山県会議員、同常置委員、同議長、鉄道会議議員となる、また全国鉄道同志会を設立その会頭となり、鉄道事業に尽すほか、東京電燈㈱支配人、同取締役、同副社長となる○当選七回(3・4・7・8・9・10・11)○大正6年1月28日死去

望月長夫（もちづきおさお）　滋賀県郡部選出　立憲国民党
元治元年1月生・滋賀県出身・明治22年明治法律学校卒○弁護士の業務に従事す、滋賀県会議員、同常置委員、滋賀地方森林会議員となる、また大津地方裁判所所属弁護士会副会長、同会長となる ○当選六回(6・7・8・9・12・13)○大正9年2月9日死去

望月圭介（もちづきけいすけ）　広島県第二区選出　第一一議員倶楽部
慶応3年2月生・広島県出身・攻玉社、共立学校、明治英学校等に学び、のち政治、経済、法律学を修む○鉱業及び船舶運漕業を営む、農商務参事官、田中内閣の逓信大臣、次いで内務大臣となり、岡田内閣の逓信大臣、米内内閣の内閣参議となる、また立憲政友会幹事長、総務、党務委員長となる・浦塩派遣軍慰問のためシベリアに派遣さる・永年在職議員として院議表彰さる○当選十三回(6・8・10・11・12・13・14・15・16・17・18・19・20)○昭和16年1月1日死去

望月小太郎（もちづきこたろう）　山梨県第四区選出　新党倶楽部
慶応元年11月生・山梨県出身・明治15年山梨県師範学校卒、のち慶応義塾に学び、英国に留学、ロンドン大学を経てミヅルテンプル大学法科卒、バリストルの学位を受く○ロンドンにて日本実業雑誌を発刊す、露国皇帝戴冠式に山縣遣露大使に随行、次いで伊藤博文に随行し英国女王即位六十年祝典に参列す、大蔵省、農商務省の嘱託をうけ欧米各国の財政経済を調査す、のち英文通信社を創立し社長となり、日刊英文通信、英文日本財政月報を発刊、欧米各国に日本事情を紹介す、また憲政会総務となる・米国視察のため派遣さる㊟「独逸の現勢」(英文)「日本と亜米利加」「現時の日本」○当選七回(7・8・9・12・13・14・15)○昭和2年5月19日死去

望月政友（もちづきまさとも）　和歌山県第三区選出　立憲政友会
明治17年2月生・和歌山県出身・明治41年東京帝国大学独法科卒○農商務省勤務、のち玉川水道㈱取締役となる○当選一回(14補)○昭和19年3月1日死去

元田肇（もとだはじめ）　大分県第二区選出　立憲政友会
安政5年1月生・大分県出身・明治13年東京大学法律科卒○代言人となり、次いで弁護士の業務に従事す、三度衆議院副議長、拓殖局総裁、第一次山本内閣の逓信大臣、原内閣の鉄道大臣、次いで高橋内閣に留任、衆議院議長となり、枢密顧問官となる、また立憲政友会総務、政友本党総務となる

る○当選十六回(12補3456789101112131415 16)○昭和13年10月1日死去

本島百合子　東京都第三区選出　民主社会党

明治40年8月生・福岡県出身・昭和4年日本大学高等師範部卒○万朝報、婦人毎日新聞記者、日本社会党本部書記、同党東京都連合会婦人部長となる、また東京都議会議員、東京都未亡人会々長、世田谷婦人問題研究会々長、日本家族計画連盟、東京都家族計画協会各理事、全国戦争犠牲者援護会顧問、民主社会党生活対策本部長となる・訪中地方議員団代表として新中国を視察す○当選一回(28)

本山健治　新潟県第七区選出　議員集会所

嘉永元年3月生・新潟県出身○十一大区副長、村会議員、新潟県会議員となる、また新潟農工銀行監査役となる○当選二回(12)○大正8年3月14日死去

基俊貎　鹿児島県第七区選出　弥生倶楽部

文政9年3月生・鹿児島県出身○薩摩藩島吏となる、のち鹿児島県出仕、大島郡書記、金久支庁御用掛、同庁属となる、また大島興業株社長、大阪七十九銀行大島支店支配人となる○当選一回(1)○明治37年5月15日死去

籾木卿太郎　宮崎県選出　立憲政友会

慶応3年11月生・宮崎県出身・明治20年鹿児島医学校卒○医師となる、東諸県郡医会長、郡医、校医、日本赤十字社準備医員嘱託となる○当選一回(9)○大正5年8月7日死去

粟山博　福島県第一区選出　自由民主党

明治17年10月生・福島県出身・明治45年早稲田大学政治経済学部卒、のち米国に留学、カリフォルニア州立大学及びノースカロライナ大学院卒、マスター・オブ・アーツの学位を受く○濱口内閣の海軍参与官となる、また日本絹網(株)を創立し顧問となる、改進党顧問、両院議員総会長、日本民主党顧問、自由民主党相談役となる・議員団長として朝鮮、満州、蒙古方面視察のため派遣さる㊟「普通選挙論」、(訳書)「パナマ運河と列国の貿易競争」○当選丸回(14補15161719202526272829)○昭和34年9月20日死去

百瀬清治　長野県郡部選出　立憲政友会

文久3年5月生・長野県出身・明治25年専修学校理財科卒○農業を営む、芳川村会議員、同村長、東筑摩郡会議員、長野県会議員、同参事会員、地方衛生会員となる、また信濃民報(株)社長、信濃商業銀行監査役及び専務取締役となる○当選一回(13)○昭和18年4月7日死去

百瀬渡　長野県第四区選出　同交会

明治7年2月生・長野県出身○信濃毎日新聞、信濃自由新聞、信濃日報各記者となる、日露戦役に従軍す、東筑摩郡会議員、同参事会員、長野県会議員、同参事会員、松本市長となる、また信濃日報社長となる○当選四回(17181920)○昭和20年12月21日死去

桃原茂太　沖縄県選出　日本進歩党

明治25年11月生・東京都出身・大正7年東京帝国大学独法科卒○弁護士の業務に従事す、東洋拓殖(株)参事、同社太田及び釜山支店支配人、日鮮石油販売(株)専務取締役となる○当選一回(21)

守島伍郎　福岡県第一区選出　自由党

明治24年5月生・福岡県出身・大正6年東京帝国大学独法科卒○外務属、領事官補、外交官補、大使館三等書記官(独国)、外務事務官、大使館二等書記官(米国)、公使官一等書記官(中国)、アジア局第一課長、大使館参事官、在ソ連邦大使館付特命全権公使を歴任す、のち弁護士となり、参議院外務委員会専門調査員、衆議院外務委員長となる、また世界経済調査会常務理事、民主自由党渉外局長、国際学友会、善隣学生会館各理事長となる・サンフランシスコ平和会議に派遣さる㊟「苦悩する大使館」○当選一回(24)

守田道輔　山口県第二区選出　日本社会党

明治27年11月生・山口県出身○全国農民組合山口県連合会主事、同中央委員、同会長、日本大衆党中央委員、同県連合会委員長、日本共産党徳山地区責任者、都農合同労働組合委員長、日本社会党県連合会農民部長、日本農民組合県連合会長となる、また山口県食糧、農地各委員、光市第二区農地委員会長、下松洋服商業協同組合理事長となる○当選一回(23)

守野爲五郎　徳島県第二区選出　立憲改進党

嘉永4年11月生・徳島県出身・漢学、数学を学ぶ○農業を営む、副戸長、戸長、徴兵議員、学区取締、那賀郡勧業世話役、徳島県会議員となり、那賀郡書記となる○当選三回(123)○明治39年5月28日死去

守屋榮夫　宮城県第一区選出　日本進歩党

明治17年11月生・宮城県出身・明治43年東京帝国大学独法科卒○千葉、愛知各県理事官、内務省監察官、同参事官、朝鮮総督府事官、兼朝鮮総督秘書官、内務省社会部長を歴任、のち弁護士の業務に従事す、岡田内閣の農林政務次官、塩竈市長となる、また海軍経理学校講師、海外移住組合連合会、中央朝鮮協会、中央教化団体連合会、大東文化協会各理事となる、大政翼賛会中央協力会議々員となる・第七回国際労働総会(ジュネーブ)に政府代表委員として出席す○当選六回(16171819 2021)

守屋此助　東京府郡部選出　憲政会

文久元年5月生・東京都出身・明治17年東京法学校卒○代言人となり、次いで弁護士の業務に従事す、東京電車鉄道株監査役、京浜電気鉄道株取締役となり、東亜起業株取締役会長、平沼製糸(株)社長、神中鉄道、山東起業、満州製麻、青島電気、横浜桟橋倉庫各株取締役、日本火薬製造、火薬工業、東亜勧業各株監査役、膠澳電気股份有限公司副董事長となる、また法政大学理事となる○当選八回(34789101112)○昭和6年6月9日死去

守屋松之助　岡山県第五区選出　庚申倶楽部

明治10年2月生・岡山県出身・東京農科大学選科に学ぶ○矢掛町会議員、同町長、岡山県会議員となる、また町農会長、郡農会議員、県果物同業組合長、岡山染織整理(株)常務取締役、(株)井原織物所社長、井笠鉄道、中国合同電気、奨農土地、井上鉄道、合同貯蓄銀行、岡山製作所各(株)取締役、日本真田(株)監査役となる○当選一回(14)○昭和26年12月23日死去

守山又三　熊本県郡部選出　立憲同志会

明治2年3月生・熊本県出身・東京高等商業学校に学ぶ○熊本軌道(株)取締役、讃岐電気軌道(株)監査役、京都電気(株)取締役社長となる○当選二回(1011)○昭和15年5月19日死去

森榮藏　奈良県選出　立憲政友会

明治6年10月生・奈良県出身○吉野郡会議員、同参事会員、奈良県会議員、所得税調査委員、大誌村長となる、また吉野鉄道、大和鉄道、南和鉄道各(株)取締役、吉野製薬(株)取締役社長、(株)森組取締役となる○当選一回(20)○昭和20年6月23日死去

森恪　栃木県第一区選出　立憲政友会

明治16年2月生・大阪府出身・商工中学校卒、のち三井物産会社の支那修業生として上海に留学す

○三井物産(株)社員となり、天津支店長を経て、中日実業(株)常務取締役、小田原紡績、東洋炭礦各株取締役、上海印刷、満州採炭各株社長、小田原電気鉄道(株)副社長となる、田中内閣の外務政務次官、犬養内閣の書記官長となる、また立憲政友会幹事長、総務となる○当選五回(14 15補 16 17 18)○昭和7年12月11日死去

森 清(もり きよし) 千葉県第三区選出 自由民主党

大正4年10月生・東京都出身・昭和13年京都帝国大学理学部卒○満州鉱業開発(株)勤務を経て日本冶金工業(株)に入り、のち同社取締役、昭和火薬(株)取締役社長となる、第二次鳩山内閣の行政管理政務次官となる、また自由党婦人青年部長、国会対策副委員長、日本民主党人事局次長、国会対策副委員長、自由民主党副幹事長、広報委員会副委員長、玉川学園常任理事となる・昭和31年日ソ交渉全権団と事務打合せのため党代表として渡米、また欧米各国、東南アジア、中近東諸国を視察す○当選四回(25 26 27 28)

森 國造(もり くにぞう) 山梨県郡部選出 立憲政友会

慶応3年11月生・山梨県出身○農業を営む、山梨県農工銀行、甲府電力、甲州電力各(株)取締役、山梨印刷(株)監査役となる○当選一回(10)○昭和13年3月29日死去

森 兼道(もり けんどう) 東京府第四区選出 立憲民政党

明治20年12月生・鹿児島県出身・大正11年日本大学専門部法律科卒○警視庁巡査、警部補となり、のち弁護士の業務に従事す、本所区会議員、東京市会議員、同学務委員、同財政調査会長となり、鹿児島地方、同家庭各裁判所調停員となる○当選一回(19)

森 源三(もり げんぞう) 北海道庁札幌区選出 同志倶楽部

天保6年11月生・北海道出身・和漢学及び砲術を修む○長岡藩少参事、開拓使出仕、開拓大主典、札幌学校副校長、開拓権少書記官、農商務権少書記官、札幌農学校長、農商務少書記官、札幌農業事務所長、兼宮内省御用掛新冠牧馬場事務長、北海道庁農学校長、亀田―上磯―茅部―山越郡長を歴任す、のち農場を開設経営し、札幌区会議員となる○当選一回(7)○明治43年6月1日死去

森 幸太郎(もり こうたろう) 滋賀県選出 自由党

明治22年7月生・滋賀県出身・明治39年県立長浜農学校卒○農業を営む、竹生村会議員、滋賀県会議員、同参事会員となり、第一次吉田内閣の農林政務次官、第二次吉田内閣の国務大臣、第三次吉田内閣の農林大臣、再度衆議院懲罰委員長、滋賀県知事となる、また養蚕業全国組合連合会副会長、全国漁業組合連合会監事、県水産業会理事長、全国内水面漁業協同組合連合会長となる、日本自由党総務、民主自由党相談役、自由党顧問となる・派遣軍慰問のため南支那に派遣され、また米国農業立法調査のため議員団長として派遣さる○当選七回(19 20 22 23 24 25 26)

森 暁(もり さとる) 千葉県第三区選出 自由党

明治40年6月生・千葉県出身・昭和9年京都帝国大学社会科卒○日本電気工業(株)入社後、日本火工、森興業、昭和火薬、日本鍛工、勝山鍛工、東信電気各(株)取締役等を経て朝鮮電工、日本火工、森興業、日本冶金工業、昭和電工各(株)取締役社長となり、次いで昭和火薬工業、ナスステンレス製作所、日本精線各(株)社長、昭和油化(株)監査役となる、また玉川学園、千葉工業大学各理事長、民主自由党政調会経済安定部長、日本経営者団体連盟常任理事、ステンレス協会長となる○当選二回(22 23)

森 茂生(もり しげお) 三重県郡部選出 立憲政友会

慶応元年5月生・三重県出身・慶応義塾に学ぶ○

益生村会議員、町村組合会議員、桑名郡会議員、同参事会員、同議長、三重県会議員、同参事会員、同副議長、桑名町長となる、また桑名商業銀行頭取、桑名米穀取引所理事、桑名商業会議所副会頭、桑名商工会長となる○当選四回(8 9 10 11)○昭和4年8月22日死去

森 秀次(もり しゅうじ) 大阪府郡部選出 憲政会

安政2年9月生・大阪府出身○さきに医業に従事、のち農業を営み、細河村会議員、組合会議員、学区会議員、豊能郡会議員、大阪府会議員、同郡部会副議長、同副議長、同議長となる、多年地価修正問題につき全国二府二十四県地価修正同盟の常務委員として解決に尽力す、また阪神土地(株)取締役、硫酸肥料(株)監査役、大阪朝報社常務取締役となる○当選四回(8 9 10補 13)○大正15年9月9日死去

森 昇三郎(もり しょうざぶろう) 愛媛県第二区選出 立憲政友会

明治25年10月生・東京都出身・大正7年明治大学法律科卒、経済学研究のため、欧米各国に留学す○十五銀行に入り、次いで東明銀行清算人となり、のち朝日土地(株)取締役、千代田商事(株)社長、日本肥料工業(株)専務取締役、帝国商事(株)取締役社長となる、また国際親善協会理事長となる○当選一回(18)

森 正則(もり せいそく) 北海道第一区選出 立憲政友会

明治5年4月生・北海道出身・漢学を修む○小樽区会議員、北海道会議員、小樽市会議員となる、また早川商店を経営し、小樽商業会議所会頭、小樽慈恵病院理事長、小樽市火災予防組合連合会長、小樽商工会議所議員、小樽取引所理事長、大正証券、北海道製紙各(株)取締役社長となる・中華民国視察のため派遣さる○当選一回(16)○昭和11年1月23日死去

森 清蔵(もり せいぞう) 山口県第一区選出 無所属

天保9年4月生・山口県出身○山口藩整武隊長、副参謀、権少参事となり、勧農権頭、租税寮出仕となる、のち山口県会議員、厚狭郡長となる○当選一回(3)○明治41年12月10日死去

森 隆介(もり たかすけ) 茨城県第四区選出 東洋自由党

安政3年10月生・茨城県出身・漢、英学を学ぶ○絹水社、同舟社、常総共立社等を創立し、自由民権運動に従事、自由党の結成に参加す、茨城県会議員となる、のち雑誌「常総の青年」を刊行す㊱「憲政私義」「純正昭和公論」○当選二回(1 2)○昭和8年2月27日死去

森 正(もり ただし) 奈良県郡部選出 憲政会

慶応3年4月生・奈良県出身・英、米各国に留学す○中央商業銀行頭取、工商貯蓄銀行、日本製糸、大和電気各(株)取締役、三輪素麺同業組合長となる○当選二回(10 12)○昭和18年1月14日死去

森 達三(もり たつぞう) 愛媛県第二区選出 立憲民政党

明治22年10月生・愛媛県出身・大正5年東京帝国大学独法科卒○三菱(資)社員となり、のち弁護士の業務に従事す、中外壁紙(株)取締役、東京調味(株)社長となる○当選二回(14 17)

森 環(もり たまき) 大分県選出 憲政会

明治9年6月生・大分県出身・県立尋常中学校修○農業及び酒造業を営む、大分県会議員、同参事会員、地方森林会議員、上井田村長となる、また県農工銀行取締役、大野郡畜産、同家畜保険各組合長、大寒耕地整理組合長、大分県耕地協会副会長、同畜産組合連合会副会長、同山林会評議員、上井田水力電気(株)取締役社長となる○当選一回(12)○昭和25年12月21日死去

森 懋(もり つとむ) 和歌山県和歌山市選出 立憲政友会

安政2年6月生・和歌山県出身・藩校学習館に学

び、のち英学を修む○代言人となり、次いで弁護士の業務に従事す、和歌山県会議員、和歌山市会議員、同議長、破産管財人となる、また和歌山組合代言人会長、和歌山弁護士会長、県実業会長となる○当選二回(89)○大正9年10月31日死去

森　東一郎（もり・とういちろう）　愛知県第五区選出　立憲政友会

弘化4年12月生・愛知県出身・漢学を修む○愛知県会議員、同常置委員、同議長、中島郡会議員、同議長、大和村会議員、同議長、所得税調査委員、地方衛生会員、徴兵参事員となり、また一宮紡績、愛知染色各(株)社長、県農工銀行取締役、一宮清酒(株)監査役、一宮米穀取引所理事長となる○当選四回(1236)○昭和8年5月15日死去

森　時之助（もり・ときのすけ）　東京府第十区選出

天保12年8月生・千葉県出身○東京市会議員、同府会議員となる、また第六十国立銀行頭取となる○当選一回(1○)死去

森　年（もり・とし）　香川県第五区選出　無所属

安政6年10月生・旧名(輝見)・香川県出身・皇漢学及び英学を修む○香川県会議員、同常置委員、郡連合会議員となる○当選二回(34)○大正12年12月17日死去

森　直次（もり・なおじ）　佐賀県選出　民主自由党

明治32年3月生・佐賀県出身・早稲田大学に学ぶ○中華民国新民会嘱託、同中央総会首席参事となり、のち内務省大臣官房事務取扱、内務大臣秘書官、内閣総理大臣の秘書事務嘱託となる○当選一回(23)○昭和27年4月9日死去

森　喜藏（もり・のぶぞう）　千葉県第三区選出　立憲政友会

明治17年10月生・千葉県出身○総房水産(株)専務取締役を経て東信電気、昭和肥料各(株)専務取締役となり、昭和肥料、日本電気工業、硫安販売、森興業、日本火工、昭和鉱業、中央電気工業、昭和火薬、姫川電力、日本硫安、昭和電工各(株)等の社長または会長となるほか、カーバイト組合、日本アルミニウム工業組合、日本肥料(株)各理事長、電力管理準備局参与、長野、千葉各県地方工業化委員会顧問等となる○当選三回(151617)○昭和16年3月1日死去

森　肇（もり・はじめ）　愛媛県郡部選出　中央倶楽部

元治元年6月生・愛媛県出身・明治38年英吉利法律学校卒○弁護士及び特許代理の業務に従事す、猟友雑誌主幹、伊予日日新聞社長、弁護士会評議員、日本赤十字社正社員となる○当選三回(79

10)○昭和2年1月23日死去

森　肇（もり・はじめ）　長崎県第二区選出　日本進歩党

明治6年10月生・長崎県出身・明治34年東京専門学校政治経済科卒○小学校訓導となる、のち長崎新報記者、同編集長を経て、長崎日日新聞主筆兼編集長、長崎新聞主筆、総顧問となる、長崎県会議員、同参事会員、岡田内閣の農林参与官となる、また長崎教育会理事、大政翼賛会議会局参与となる・満、鮮、蒙古方面視察のため派遣さる○当選六回(15 16 18 19 20 21)○昭和34年10月28日死去

森　三樹二（もり・みきじ）　北海道第五区選出　日本社会党

明治36年6月生・北海道出身・昭和12年中央大学法学部卒○弁護士の業務に従事す、衆議院皇室経済法施行法案特別委員長、同懲罰委員長、同公職選挙法改正に関する調査特別委員長となる、また日本弁護士協会理事、中央大学評議員、日本社会党会計監査、同両院議員総会副会長、憲法擁護特別委員会副委員長となる・第四十三回列国議会同盟会議ウィーンに参列、欧米各国を視察す(著)「日本国憲法要義」○当選六回(22 23 25 26 27 28)○昭和33年12月1日死去

森　峰一（もり・みねいち）　佐賀県第二区選出　国民同盟

明治16年12月生・佐賀県出身・麻布中学校に学び、のち清国天津にて支那語を学ぶ○天津にて商業を営むほか、南満州安東県において貿易及び鉱山業に従事す、また郷里有田において陶磁器製造を始め森製陶会社々長となる○当選三回(16 17 18)○昭和25年10月2日死去

森　由己雄（もり・ゆきお）　宮崎県選出　国民協同党

明治25年9月生・宮崎県出身・大正7年東京帝国大学独法科卒○司法官試補となり、のち弁護士の業務に従事す、宮崎市会議員、同県会議員、小林町長となる、また町農会長、町農業会長、協同民主党常任中央委員、国民協同党中央常任委員となる○当選一回(22)昭和3年8月6日死去

森丘　覺平（もりおか・かくへい）　富山県郡部選出　憲政会

明治7年5月生・富山県出身・慶応義塾に学ぶ○大布施村会議員、同村長、下新川郡会議員、同副議長、同郡立図書館長、富山県会議員、同参事会員、同議長、地方森林会議員となる、また郡教育会副会長、桜庄銀行、生地銀行各取締役、魚津銀行監査役となる○当選三回(11 12 13)○昭和2年12月1日死去

森岡　京次郎（もりおか・きょうじろう）　奈良県第二区選出　無所属

明治12年2月生・奈良県出身・明治43年東京帝国大学政治科卒○森岡銀行頭取、日本紙業、玉造倉庫運輸信託各(株)社長となる○当選一回(14)○大正9年6月27日死去

森川　寛衛（もりかわ・かんえ）　岐阜県第三区選出　国民協会

天保6年9月生・岐阜県出身・漢学を修む○農業及び酒造業を営む、吉里村戸長、岐阜県会議員、海津郡会議員、所得調査委員、徴兵参事員となる○当選一回(5)○明治41年1月8日死去

森川　源吾（もりかわ・げんご）　滋賀県郡部選出　立憲政友会

明治9年2月生・滋賀県出身・明治33年東京法学院卒○司法官試補、検事代理、判事となる、のち弁護士の業務に従事す、大津弁護士会長となる○当選一回(11)○昭和32年9月25日死去

森川　仙太（もりかわ・せんた）　和歌山県第二区選出　日本進歩党

明治28年10月生・和歌山県出身・大正3年県立和歌山中学校卒○箕島町会議員、有田市長となる、また箕島信用組合、日本除虫菊輸出組合各理事、県除虫菊製品工業組合専務理事、帝国除虫菊、北海道除虫菊工業各(株)取締役社長を経て紀ノ川製粉、キング除虫菊、北王製油各(株)取締役社長となる○当選一回(21)

森川六右衛門（もりかわ・ろくえもん）　三重県第六区選出　三四倶楽部

安政元年8月生・三重県出身・和漢学を修む○商業を営む、福居町会議員、連合町村会議員、阿拝―山田郡会議員、同議長、福居町戸長、三重県会議員、同常置委員、同副議長、勧業委員、所得税調査委員、徴兵参事員、地方衛生会委員、阿山郡参事会員となる、また上野銀行、東海製糸(株)各取締役、上野米穀取引所理事長、伊賀商業銀行頭取となるほか、私塾を開き地方青年の教育に尽す○当選一回(6)○明治38年10月15日死去

森久保　作蔵（もりくぼ・さくぞう）　東京府郡部選出　立憲政友会

安政2年6月生・東京都出身○農業を営む、神奈川県会議員、同常置委員、東京府会議員、同常置委員、東京市会議員、同参事会員となり、徴兵参事員、日本大博覧会評議員となる○当選五回(4補9 10 11 12)○大正15年11月4日死去

森口　淳三（もりぐち・じゅんぞう）　静岡県第三区選出　日本進歩党

明治30年10月生・静岡県出身・大正6年市立浜松商業学校卒○農業を営む、陸軍歩兵中尉となり、支那事変に従軍す、気賀町長、静岡県会議員、同

副議長となる、また在郷軍人会郡連合分会長、農林省一般農林水産物価格形成専門委員会委員、大政翼賛会静岡県支部顧問、同引佐郡壮年団長となる○当選一回(21)

森崎了三(もりさきりょうぞう)　兵庫県第一区選出　民主党

明治30年3月生・兵庫県出身・大正8年神戸高等商業学校卒○兵庫県会議員、同市部会議長となる、また神戸商工会議所議員、県商工経済会理事、県貨物自動車運送事業組合理事長、全国貨物自動車運送事業組合連合会理事、同監事、日本自動車輸送研究所理事長、県トラック協会長、全国通運業連盟副会長、近畿通運連絡会長、日本食堂㈱取締役、大同通運、兵庫タイヤ販売各㈱取締役社長となる、日本自由党政調会陸運部長となる○当選一回(22)

森下亀太郎(もりしたかめたろう)　大阪府第一区選出　庚申倶楽部

明治2年11月生・岡山県出身・明治27年明治法律学校法律科卒○司法官試補、判事、前橋区裁判所、大阪控訴院検事を歴任し、のち弁護士の業務に従事す、大阪市会議員、大阪弁護士会長となる○当選一回(14)○昭和21年4月26日死去

森田小六郎(もりたころくろう)　愛知県郡部選出　憲政会

明治10年12月生・愛知県出身・明治36年東京帝国大学政治科卒○東京市吏員となり、のち米国オクデン市の日本雑貨店支配人を経てサクラメント市において邦字日刊新聞桜府日報を創刊経営す、帰朝後日華興業㈱相談役、日進鉱業㈱取締役となる、鉱山業を経営す、またサンフランシスコ万国大博覧会評議員となる○当選二回(11・12)○昭和31年10月8日死去

森田茂(もりたしげる)　京都府第一区選出　立憲民政党

明治5年8月生・高知県出身・明治法律学校に学ぶ○弁護士となり、高知県会議員となる、のち京都地方裁判所検事となり退職後、再び弁護士の業務に従事し、京都府会議員、同副議長、京都市会議員、同議長、衆議院議長、京都市長となる、また憲政会総務、立憲民政党総務となる・第二十三回列国議会同盟会議(ワシントン・オッタワ)に議員団長として参列す○当選六回(12・13・14・15・16・17)○昭和7年11月30日死去

森田重次郎(もりたじゅうじろう)　青森県第一区選出　改進党

明治23年5月生・青森県出身・明治44年青森県師範学校卒○小学校訓導、同校長となる、のち弁護士試験に合格、弁護士の業務に従事す、文部省委員、内閣行政委員、幣原内閣の文部参与官となる、また改進党中央常任委員、政策委員会地方行政部長、国会法改正特別委員長となる・派遣軍慰問のため満州及び北支那へ派遣さる○当選三回(20・21・25)

森田俊左久(もりたしゅんざく)　広島県郡部選出　立憲政友会

元治元年4月生・広島県出身・私立中学洗心館及び慶応義塾に学ぶ○根野村会議員、同村長、地方森林会議員、高田郡会議員、同議長、広島県会議員、同常置委員、同議長、広島市会議員となる、また牧畜業を営み、広島殖産銀行頭取、吉田貯蓄銀行監査役、中国牧畜、広島印刷各(資)社長となる○当選二回(10・11)○昭和18年1月31日死去

森田卓爾(もりたたくじ)　広島県郡部選出　憲政本党

慶応2年2月生・広島県出身・慶応義塾に学び、明治18年東京専門学校法律科卒○弁護士の業務に従事す、広島弁護士会長となる○当選三回(7・8・9)○昭和3年4月13日死去

森田徳兵衛(もりたとくべえ)　奈良県郡部選出　憲政本党

元治元年4月生・奈良県出身・漢学及び数学を修む○戸長、松山町会議員、同町長、宇陀郡会議員、同議長となり、組合町村会議員、学務委員、破産管財人、所得税調査委員、県蚕糸業連合組合会議員、地方森林会議員、大和山林会評議員となる、また大和銀行取締役、私立養蚕伝習所長となる○当選一回(7)○大正10年10月12日死去

森田豊壽(もりたとよひさ)　静岡県選出　日本自由党

明治28年2月生・静岡県出身・大正6年千葉県立高等園芸学校卒○沼津市会議員、同議長となり、第五次吉田内閣の経済審議政務次官となる、また農業を営み、沼津市販売購買利用組合長、同信用組合長、同農会長、県信用組合、同信用購買販売利用組合各連合会長、同農業会長、県農業会長、全国農業会長、県農業協同組合中央会、同共済農業協同組合連合会、同畜産組合連合会各会長となるほか、沼津倉庫、静岡県食糧品工業、同蚕糸各株社長、駿河銀行取締役、庵原農薬㈱会長となる○当選一回(22)・(参二回(1・3)○昭和37年1月6日死去

森田福市(もりたふくいち)　広島県第三区選出　大日本政治会

明治23年6月生・広島県出身・日本大学法科に学ぶ○広島市会議員、同県会議員、同副議長となり、阿部内閣の司法政務次官となる、また広島商工会議所会頭、同顧問、広島県下商工団体連合会

森下國雄(もりしたくにお)　栃木県第二区選出　自由民主党

明治29年6月生・栃木県出身・大正6年早稲田大学政治科卒、のちコロンビア大学に学ぶ○小磯内閣の外務参与官、第三次鳩山内閣の外務政務次官となる、また日本民主党政調会副会長兼大蔵部長、両院議員総会副会長、自由民主党岸総裁付、中南米問題調査会副会長、代議士会長、総裁指名総務となるほか、国会議員中南米研究会副会長、日本ボリビア協会々長、ラテン・アメリカ協会副会長となる・特派大使としてペルー国及びボリビア国大統領就任式典に参列、次いで日本政府代表としてボリビア国との移住協定を締結す、また岸首相特使としてフィリピン国に赴くほか、欧米、東南アジア各国を視察す○当選六回(19・20・21・25・27・28)

森下孝(もりしたこう)　栃木県第二区選出　自由党

大正3年6月生・栃木県出身○森房繊維科学研究所に勤務し、のち織物業を経営す、また栃木県紋染商事㈱常務取締役、三国産業、三国商会各㈱常務取締役、神戸生糸、帝国鉄工、日本染工各株取締役となる○当選一回(24)

森島守人(もりしまもりと)　神奈川県第三区選出　日本社会党

明治29年2月生・石川県出身・大正8年東京帝国大学独法科卒○外務属、外交官補、ワシントン会議全権委員随員、大使館三等書記官(米国)、外務省情報部第一課長、在奉天領事、満州派遣特命全権大使随員、在ハルピン総領事、大使館一等書記官、外務省東亜局長、大使館参事官(中国、米国)、在紐育総領事、在ボルトガル公使を歴任、日本社会党国際局事務局長、欧米部長、外交部長、国際団体部長、政審会外務部長となる・アジア社会党会議に党代表として二回(インド及びビルマ)出席、また訪ソ議員団党代表として参加、訪米使節団員として米国へ派遣さる㊙「陰謀・暗殺・軍刀」「真珠湾・リスボン・東京」○当選二回(27・28)

森田金蔵(もりたきんぞう)　兵庫県第一区選出　実業同志会

慶応2年7月生・兵庫県出身○神戸商業会議所副会頭、神戸貿易同業組合長、神戸市基督教青年会理事長、同会商業学校、同外国語学校各校長、神戸貿易青年会長、同会英語学校長となるほか、赤心㈱社長、大沢商会、昭和金鉱、茂世路鉱業各㈱常務取締役、神戸生糸、帝国鉄工、日本染工各株取締役となる○当選一回(15)○昭和15年1月18日死去

長、中国四国商工会議所連合会長、中国陶業株監査役、日東鉱業汽船、森田工業、東亜貿易、広島水産、日栄木材、森田商店各株取締役社長、早山石油、三原タクシー、相鉄運輸各株取締役、立憲政友会総務となる・第二十六回列国議会同盟会議（ロンドン）並びに第十六回万国議院商事会議（ブラッセル）に参列す、また派遣軍慰問のため北支那へ派遣さる○当選三回（18 20 21）・貴三多額○昭和20年8月6日死去

森田正路　福岡県郡部選出　立憲政友会

安政3年12月生・福岡県出身○農業を営む、早良郡会議員、同参事会員、学校組合会議員、鳥飼村会議員、同村助役、同村長、学務委員、福岡県会議員、同常置委員、同議長となる、また福岡日日新聞社長となる○当選一回（13）○昭和4年5月17日死去

森田正義　栃木県第二区選出　無所属倶楽部

明治40年12月生・栃木県出身・昭和7年東京帝国大学経済科卒○農業を営む、寒川村長となる、支那事変に従軍し陸軍主計曹長となる、のち内務省委員となる○当選一回（21）

森田政義　大阪府第四区選出　立憲政友会

明治17年9月生・大阪府出身・大正3年明治大学法律科卒○司法官試補となり、のち大阪において弁護士の業務に従事す、また立憲政友会総務となる○当選六回（15 16 17 18 19 20）○昭和14年3月21日死去

森田勇次郎　静岡県郡部選出　立憲国民党

慶応元年4月生・静岡県出身・東京専門学校政治経済科卒○新聞記者となり、傍ら静岡商業会議所書記長、同特別議員、市教育会評議員となる、また静岡民友新聞主筆となる○当選二回（8 10）○大正9年11月10日死去

森谷新一　岡山県第一区選出　無所属倶楽部

明治36年3月生・岡山県出身・早稲田大学電気科に学ぶ○日生町会議員、同町長となる、また日生町会商工会長、岡山県翼賛壮年団副団長兼本部長、筏橋電気株常務取締役、長興電気株取締役兼主任技術者、日生土地、中日生土地各株取締役、児島窯業、日生造船造機、玄洋漁業各株社長、中国木造船協議会長となる○当選一回（21）

森戸辰男　広島県第三区選出　日本社会党

明治21年12月生・広島県出身・大正3年東京帝国大学経済科卒○東京帝国大学法科大学助教授、大原社会問題研究所常務理事、日本文化人連盟事務局長、片山内閣及び芦田内閣の文部大臣となり、のち広島大学学長となる、また日本社会党中央執行委員、政務調査会長、相談役、外交対策特別委員長となるほか、日本ユネスコ国内委員会、ガンジー平和連盟、日本社会教育連合会、全日本放送教育連合会各会長、労働科学研究所理事長となる・第八回及び第九回ユネスコ総会に出席、また国際大学協会総会に出席す㊟「戦争と文化」「労働者問題」「キリスト教と社会主義運動」「平和革命の条件」「（訳書「エンゲル・ベルギー労働者の生活費」○当選三回（22 23 24）

森部隆輔　福岡県第一区選出　日本進歩党

明治24年1月生・福岡県出身・明治44年東京高等農学校卒○福岡県会議員、同参事会員、同副議長、内務省委員となる、また福岡県農会長、同農業協力会理事長、福岡県青果統制会社々長、全国拓殖農協連合会々長、全国農業協同組合中央会副会長、県信用農業協同組合、県共済農業協同組合各連合会長となる○当選一回（21）

森本確也　三重県郡部選出　無所属

文久2年4月生・三重県出身・明治10年三重県師範学校卒、のち同人社英学科及び漢学科卒、次いで専修学校に学ぶ○農業を営む、三重県会議員、同常置委員となる○当選五回（3 4 5 6 8）○昭和2年2月10日死去

森本一雄　大阪府第四区選出　第一控室

明治20年4月生・兵庫県出身・大正4年早稲田大学政治経済学部卒○敦賀町長、初代敦賀市長となる、また国民同志会理事となる○当選一回（17）○昭和13年11月7日死去

森本荘三郎　兵庫県郡部選出　立憲政友会

文久3年6月生・兵庫県出身○篠山町会議員、兵庫県会議員、同常置委員、同郡部会議長、所得税審査委員となり、のち篠山町長となる、また蚕糸業組合長、共同貯蓄銀行、百三十七銀行各取締役、多紀郡醸造組合長となるほか、製紙場、製糸場、篠山電話会、篠山電燈会社を創立し、地方産業の発達に尽力す○当選二回（4補 8）○明治44年7月31日死去

森本是一郎　広島県郡部選出　新政会

明治2年8月生・広島県出身・明治26年広島県師範学校講習科卒、のち法律学を学ぶ○小学校教員、御調郡書記、川源村会議員、豊田郡会議員、広島県会議員となる、また実業女学校を設立し校主並びに校長となる○当選一回（13）

森本省一郎　長野県第四区選出　無所属

文久元年9月生・長野県出身・明治12年長野師範学校卒○小学校訓導、埴科郡書記、長野県会議員となる㊟「松沢求策伝」○当選二回（3 4）○大正8年2月7日死去

森本靖　高知県選出　日本社会党

大正8年9月生・高知県出身・昭和11年大阪逓信講習所卒○大阪府東能勢、同船場郵便局、高知県野市郵便局等に勤務、のち全逓高知地区委員長、高知県総評副会長となり、高知県地方労働委員会委員となる、また日本社会党調査企画局企画部副部長、政策審議会逓信部長、郵政部長、国会共斗会議副議長、四国開発特別委員長となる○当選二回（27 28）

森本千吉　奈良県選出　立憲政友会

元治元年9月生・奈良県出身○土木建築請負業森本組を主宰す、また大和鉄道㈱社長、奈良新温泉㈱監査役、浪速製氷、南和電気鉄道各㈱取締役となる・第十五回万国議院商事会議（ベルリン）に参列す○当選一回（16）○昭和12年12月13日死去

森本駿　兵庫県郡部選出　立憲政友会

安政5年12月生・旧姓（櫻井）・兵庫県出身・和、漢、英、経済及び財政学を修む○大蔵属、大蔵大臣秘書官、日本勧業銀行監査官、日本大博覧会評議員、出石町長となる、また政友会報記者、鮮満木材車輛、播州水力電気鉄道各㈱取締役、山東起業、関西土地信託各㈱監査役となる○当選四回（7 8 9 10）○昭和19年10月17日死去

森本藤吉　奈良県第三区選出　無所属

嘉永2年8月生・明治28年旧姓（穆井）に復帰す・奈良県出身・漢学を修む○肥前島原において東洋社会党を結成す、のち清韓問題、大陸政策に尽瘁し、東洋学館上海設立に参加す、また朝鮮羅南、清国漢口にて鉱山を経営す㊟「大東合邦論」「明治維新発祥記」○当選一回（2）○大正11年10月25日死去

森本義夫（もりもとよしお）　福岡県第二区選出　日本社会党

明治26年1月生・福岡県出身・大正8年東京帝国大学独法科卒○法制局属、鉄道属、鉄道局副参事、在外研究員、国際観光局書記官、鉄道局参事、鉄道省大臣官房保健課長、鉄道調査部長を歴任し、のち鉄道省、陸軍省、華中鉄道公司各嘱託を経て大日本労務報国会厚生局長、同理事となり恩給金庫評議員、鉄道会議議員となる、また大和運輸㈱顧問、大阪東運送㈱相談役となる○当選一回(22)○昭和29年12月6日死去

森保祐昌（もりやすすけまさ）　広島県第一区選出　立憲民政党

明治13年11月生・広島県出身・明治38年早稲田大学法律科卒○弁護士の業務に従事す、広島県会議員、同市部会議長、広島市会議員、同議長となる○当選一回(16)○昭和20年8月12日死去

森山儀文治（もりやまぎぶんじ）　長野県第二区選出　憲政会

文久2年3月生・長野県出身・漢学、数学及び法律学を修む○代言人となり、次いで弁護士の業務に従事す、松本町会議員、東筑摩郡会議員、同議長、松本市会議員、同議長、長野県会議員となる○当選一回(14)○昭和20年2月9日死去

森山欽司（もりやまきんじ）　栃木県第一区選出　自由民主党

大正6年1月生・栃木県出身・昭和16年東京帝国大学法律科卒○外務書記生、外交官補、軍需省需官、終戦連絡中央事務局連絡官を歴任し、物価調査会常任理事となり、衆議院社会労働委員長となる、また写真工業振興会長、日本写真機検査協会理事長となる、日本民主党政調会通産副部長、自由民主党全国組織委員会労働局長、労働問題特別調査会事務局長となる・欧米亜各国を視察す○当選三回(24 25 27)

森山武彦（もりやまたけひこ）　宮崎県第二区選出　労働者農民党

明治31年10月生・宮崎県出身・大正9年法政大学専門部法律科卒○森山航空精工所を東京市及び都城市に設置経営す、のち木材業を営む○当選二回(23)

森山ヨネ（もりやまよね）　福岡県第一区選出　民主党

明治24年1月生・福岡県出身・大正2年奈良女子高等師範学校卒、のち文部省より米国に留学し、コロンビア大学に学ぶ○鹿児島県立国分高等女学校教諭、三重、福岡各県女子師範学校教諭、奈良女子高等師範学校助教授、福岡県女子専門学校教授を歴任し、私立精華高等女学校講師となる、また日本進歩党常議員、渉外連絡部副部長となる○当選一回(22)

盛島明長（もりしまめいちょう）　沖縄県選出　立憲政友会

明治13年12月生・沖縄県出身・明治35年沖縄師範学校、同41年長崎医学専門学校卒○小学校訓導となり、のち医師を開業す、沖縄県会議員、同副議長、同議長となる、また宮古郡織物同業組合長、宮古郡医師会長、同砂糖同業組合長となる○当選二回(19 20)○昭和16年3月24日死去

両角彦六（もろずみひころく）　長野県郡部選出　中正倶楽部

慶応元年6月生・長野県出身・明治21年東京帝国大学仏法科卒○判事試補、代言出願人試験委員、司法省参事官試補、司法省試補、宮城控訴院書記長、函館地方裁判所判事、横浜区裁判所兼同地方裁判所判事を歴任す、のち弁護士の業務に従事す、また明治法律学校、和仏法律学校、専修学校各講師となる○当選二回(7 8)○明治41年3月21日死去

師岡榮一（もろおかえいいち）　埼玉県第二区選出　日本社会党

明治38年2月生・埼玉県出身・大正15年明治大学専門部法律科卒○武州産業㈱代表取締役となるほか、木工業大栄商会を創立し経営す、また労農党中央委員、全国労農大衆党中央執行委員、社会大衆党中央執行委員、社会大衆党西多摩支部長、日本社会党中央委員となる○当選一回(23)

門司亮（もんじりょう）　神奈川県第一区選出　民主社会党

明治30年12月生・福岡県出身○横浜市会議員、神奈川県会議員となり、衆議院地方行政委員長となる、また社会民衆党、社会大衆党各中央委員、日本労働総同盟横浜支部、日本農民組合神奈川県各連合会長、日本駐留軍労働組合中央執行委員長、日本社会党中央執行委員、会計監査、政策審議会副会長、民主社会党中央執行委員、地方行財政政策、中小企業対策各委員長となる・米国地方自治体の機構調査のため派遣さる㊒「戦後の地方行財制」「農村はなぜ貧乏か」○当選六回(23 24 25 26 27 28)

門田新松（もんでんしんまつ）　埼玉県第三区選出　立憲政友会

明治9年9月生・東京都出身・明治36年東洋協会専門学校卒○海軍嘱託として日露戦役に従軍す、のち大連市において日清興信所を設立経営す、また関東州経済調査委員、大連株式商品取引所理事長、大連郊外土地、大連株式信託ハルピン取引所、教育貯蓄銀行各㈱監査役、大連商品信託、満州不動貯金各株取締役、第一無尽、日清印刷所各株式社長となる○当選四回(14 17 18 19)○昭和34年4月11日死去

門馬尚經（もんまたかつね）　福島県第五区選出　憲政本党

嘉永4年4月生・福島県出身・明治21年東京専門学校卒○戸長兼学区取締、福島県御用掛、文部属となり、両潤社員(国後硫黄礦事務長)を経て佐賀県私立中学鎔造館教師兼幹事、評議員となる、のち農業を営む、また中央炭礦㈱の創立に参画し取締役となる○当選二回(5 6)○大正4年7月23日死去

八重樫利康（やえがしりこう）　岩手県選出　日本自由党

明治27年7月生・岩手県出身○農業を営む、笹間村会議員、同村長、同農地委員会長、花巻市長となる、また岩手県養豚組合、同有畜農業会各理事、岩手県興農協会、同緬羊協会各会長、同農業会、同酪農協会、同開拓協会、同畜産会各副会長、同養鶏組合連合会長、日本緬羊㈱取締役、花巻冷凍倉庫、岩手ブロック工業各㈱取締役社長、(名)八重樫農場長となる○当選一回(22)

八百板正（やおいたただし）　福島県第一区選出　日本社会党

明治38年4月生・福島県出身・県立福島中学校に学ぶ○大正13年日本フェビアン協会に参加し、社会運動に入り、日本労農党結成に参加、次いで日本大衆党、全国労農大衆党、社会大衆党の各役員となり、全国農民組合福島県連合会書記長、同会長、日本農民組合中央執行委員長、日刊タイムス論説委員となる、また福島県農地委員、中央農地委員会委員となる、日本社会党代議士会長、中央執行委員、組織局農民部長、国会対策委員長、東北綜合開発特別委員長、議会局長、選挙対策委員

長となる・第四十四回列国議会同盟会議（ヘルシンキ）に参列し、欧米各国を視察す○当選六回（23 24 25 26 27 28）

八尾信夫（やお・のぶお）　三重県郡部選出　無所属

嘉永5年2月生・三重県出身・藩学校及び慶応義塾に学ぶ○若松県出仕、若松、福島、栃木、三重各県警部、警視庁警部、福島県郡山、白河、三重県津各警察署長、警視庁巡査長、三重県巡査教習所長、阿山郡長、上野町長を歴任、また阿山郡全町村学校組合管理者、同郡農会、教育会、衛生会各会長、同郡興農会総理、神職管理所郡支所長となる○当選一回（7）○昭和4年9月17日死去

八木一郎（やぎ・いちろう）　愛知県第五区選出　自由民主党

明治34年7月生・愛知県出身・大正12年東京高等蚕糸学校卒○愛知県、東京府、農林省、興亜院、大東亜省等を歴任し勅任技師となり、退官後全国農業会参事となる、衆議院内閣委員長、石橋内閣及び第一次岸内閣の農林政務次官となる、また全国養蚕信用基金協会理事長、豊川用水土地改良区理事、自由党政調会副会長、総務、議員総会副会長、自由民主党議員総会副会長、総務となる・蚕糸業調査のためしばしば中国に出張す、また第二回国際絹業大会へ日本代表として渡米す㊂「絹の将来をアメリカに観る」○当選五回（23 24 26 27 28）

八木逸郎（やぎ・いつろう）　奈良県選出　翼賛議員同盟

文久3年9月生・奈良県出身・明治15年医科大学別課卒、のちドイツに留学、ロストック大学に学びドクトル・メジチーネの学位を受く○東京帝国大学医科大学附属第一医院副手となる、留学帰朝後医業に従事、奈良町会議員、添上郡会議員、奈良市会議員、奈良県会議員、同参事会員、市及び県医師会長となる、また渡良瀬水電、京成電気鉄道各㈱監査役、日本医師共済生命保険㈲専務取締役、政友本党総務、立憲民政党総務となる・永年在職議員として院議表彰さる○当選十回（10 11 13 14 15 16 17 18 19 20）○昭和20年1月4日死去

八木一男（やぎ・かずお）　奈良県選出　日本社会党

明治44年6月生・奈良県出身・昭和10年東京帝国大学商科卒○日本生命保険㈱、産業設備営団、閉鎖機関整理委員会、社団法人研究資材協会等に勤務し、のち奈良県全労働組合協議会書記長、同地方労働組合総評議会事務局長となる、日本社会党奈良県支部連合会顧問、奈良県地方労働組合総評議会顧問、社会保障制度審議会第二委員長となる○当選四回（25 26 27 28）

八木幸吉（やぎ・こうきち）　兵庫県第三区選出　第一控室

明治28年2月生・大阪府出身・大正6年慶応義塾大学理財科卒○鐘淵紡績㈱兵庫工場長、実業同志会理事、時事新報社協議員、兵庫県工業会副理事長、同労働委員長、大日本蚕糸会評議員、国民会館、国民同志会各理事となるほか、南米拓殖㈱監査役、㈱八木商店顧問となる・第一回国際労働会議備主代表武藤山治に随行渡米す○当選一回（17）・（参二回（13）

八木佐太治（やぎ・さたじ）　兵庫県第二区選出　民主党

明治24年6月生・兵庫県出身・東京電機学校に学ぶ○神戸市会議員、兵庫県会議員、同市部会議長、神戸地方裁判所調停委員、六甲高等女学校理事となる、また東洋電波㈱常務取締役、東亜無尽㈱取締役、八木商会、宮崎工務店各㈱取締役、協立電業㈱取締役会長、神戸精機、日本洗濯各㈱取締役となる、日本進歩党総務委員となる○当選一回（22）

八木宗十郎（やぎ・そうじゅうろう）　山口県第二区選出　日本進歩党

明治32年9月生・山口県出身・大正12年明治大学専門部商科卒○山口県会議員、同参事会員、商工

省委員となる、また山口商業学校理事、山口市体育会長、山口県繊維製品配給統制㈱取締役社長、㈱ちまきや百貨店取締役社長、日本放送協会経営委員となる○当選一回（21）

八木徹雄（やぎ・てつお）　愛媛県第二区選出　自由民主党

大正5年1月生・愛媛県出身・昭和12年大倉高等商業学校卒○日本高周波重工業㈱に入社、のち南方軍政最高顧問砂田重政秘書としてシンガポールに駐在す、帰郷後タバコ耕作、青果、畜産、養蚕等各農協団体役員を勤め、乃万村会議員、同副議長、愛媛県議会議員となる、また民主党県連幹事長、自由民主党県連政務調査、総務各会長、同党政調会文教部会副部長、全国組織委員会婦人局次長、愛媛県タバコ耕作組合連合会長となる・政治経済実状調査のため欧米各国を視察す○当選一回（28）

八木昇（やぎ・のぼる）　佐賀県選出　日本社会党

大正10年12月生・佐賀県出身・昭和17年早稲田大学専門部政治経済科卒○九州電力㈱社員となり、日本電気産業労働組合中央本部常任委員、同組合九州地方本部副委員長、佐賀県支部委員長、佐賀県労働組合総評議会議長、佐賀県労働委員等を歴任、また日本社会党佐賀県連委員長、同党会計監査、国土開発特別委員会副委員長、組織委員会労働部長、佐賀県労働金庫理事長となる・列国議会同盟春季会議（ジュネーブ）に出席のため派遣さる○当選二回（27 28）

八木元八（やぎ・もとはち）　静岡県第一区選出　日本進歩党

明治16年2月生・静岡県出身・外務省留学生として露国にて露語及び露国事情を研究、次いで支那、厦門の瀛華書院、米国コロンビア大学に学ぶ○外務省書記生、在長沙、北京、天津各副領事、在青島、ニューオルレアンス各領事、在ハルピン総領事を歴任す、のち鴨緑江採木公司理事長、安東土地建物会社長、鴨緑江林業㈱社長となる、また外務省委員となる○当選一回（21）○昭和21年10月29日死去

八坂甚八（やさか・じんぱち）　佐賀県郡部選出　無所属団

嘉永6年10月生・佐賀県出身・漢学を修む、また英式練兵を学ぶ○農業を営む、轟木村長、佐賀県会議員、同参事会員、鳥栖町会議員、三養基郡会議員、所得税調査員となる、また佐賀農工銀行頭取、日本通業㈱取締役、鳥栖町耕地整理委員長、肥前織物同業組合組長、無限責任三養基信用購売生産組合長となる○当選一回（11）・（貴三多額）○昭和4年3月29日死去

八坂善一郎（やさか・ぜんいちろう）　大分県選出　民主党

明治28年1月生・大分県出身・早稲田大学政治経済科に学ぶ○八坂村会議員、大分県会議員となり、杵築市長となる、また県養鶏組合連合会長、県農業会理事、県自動車協会副会長、県商工経済会評議員、司法保護委員、大分交通、大分工業各㈱取締役、別杵自動車、大分自動車販売、東豊運送各㈱取締役社長、別府合同タクシー㈱常務取締役となる○当選一回（22）

八島成正（やしま・なりまさ）　福島県郡部選出　憲政本党

天保14年10月生・福島県出身・漢学を修む○農業を営む、祠官、戸長、学区取締、福島県会議員、同常置委員、同副議長、同議長、石戸村長、伊達郡会議員となり、県蚕糸業組合頭取、蚕糸業中央部会議員、所得税調査委員、福島県蚕業学校評議員、同会長となる、また蚕種製造改良を企画し、山戸田組を創立し頭取となり、伊達郡生糸改良のため扶桑社を設立す○当選一回（7）○大正7年1月29日死去

八角三郎（やすみ・さぶろう）　岩手県第一区選出　日本進歩党

明治13年12月生・岩手県出身・明治34年海軍兵学校、同43年海軍大学校卒○海軍少尉より同中将に

累進、その間日露戦役に従軍、遣支艦隊参謀、公使館附武官、軍艦利根、三笠、磐手、金剛各艦長、第一、第二水雷戦隊各司令官、海軍水雷学校長、大湊要港部司令官を歴補す、第一次近衛内閣の拓務政務次官、鈴木内閣の内閣顧問、行政査察使、鉄道会議議員となる、また立憲政友会総務、大政翼賛会中央訓練所長、同中央協力会議員、日本進歩党総務委員、岩手県総合開発顧問、日本遺族会常任理事、鹿島建設(株)顧問、東北電気製鉄(株)参与となる・派遣軍慰問のため南支那へ派遣さる○当選四回(18 19 20 21)

八束 可海 (やつか かいい) 静岡県郡部選出 中央倶楽部

明治5年3月生・愛媛県出身・明治26年日本法律学校卒○弁護士の業務に従事す、藤枝競馬倶楽部理事、東京市会議員となる○当選一回(10)○大正5年1月13日死去

八並 武治 (やつなみ たけじ) 東京府第七区選出 日本進歩党

明治10年12月生・大分県出身・明治42年東京帝国大学独法科卒○弁護士の業務に従事す、逓信大臣秘書官、大礼使典儀官、加藤(高明)内閣の司法参与官、第二次若槻内閣及び齋藤内閣の各司法政務次官となる、また憲政会幹事長、党務委員長、立憲民政党総務となる○当選七回(14 15 17 18 19 20 21)

○昭和22年7月10日死去

八並 達雄 (やつなみ たつお) 東京都第七区選出 民主党

明治34年11月生・大分県出身・大正14年東京帝国大学独法科卒○東京、横浜、前橋各地方裁判所兼同区裁判所判事、東京刑事、民事各地方裁判所判事、同控訴院判事、横浜地方裁判所部長、東京控訴院部長を歴任す、のち弁護士の業務に従事す○当選一回(23)

八幡 信太 (やわた しんた) 島根県第六区選出 無所属

弘化2年10月生・島根県出身・和漢学を修む○農林業を営む、区戸長、村戸長、大区副区長、島根県会議員、徴兵参事員となる、また三等郵便局長となる○当選一回(3)○大正14年12月20日死去

八巻 九萬 (やまき くまん) 山梨県第一区選出 巴倶楽部

嘉永5年11月生・山梨県出身・慶応義塾に学ぶ○区長総代理、学区総取締、山梨県会議員、同議長となる、また甲信鉄道敷設に尽力す、のち山梨共修社を創立し郷党子弟の育英に尽す○当選一回(1)○昭和4年4月1日死去

矢尾 喜三郎 (やを きさぶろう) 滋賀県選出 日本社会党

明治34年9月生・滋賀県出身・昭和2年立命館大学法律科卒○大津市会議員、滋賀県会議員、滋賀県地方労働委員会委員、衆議院地方行政委員長となる、また日刊滋賀日日新聞社々長、日本社会党中央執行委員、労働政策委員長、教育宣伝局遊説部長、国会対策副委員長、全日本農民組合政治部長となる(著)「滋賀県社会運動史」○当選六回(22 23 25 26 27 28)

矢後 嘉藏 (やご かぞう) 富山県第一区選出 日本社会党

明治33年9月生・富山県出身・大正9年私立東京主計学校修○富山市会議員となる、また労働農民党富山県支部連合会、富山県農民組合連合会各会長、全国農民組合富山県連合会常任執行委員、社会大衆党富山県支部連合会中央委員会長、日本社会党富山県支部連合会長、同党中央執行委員、全日本農民組合富山県連合会長となる、また(株)富山協同青果市場社長となる○当選一回(23)

矢島 浦太郎 (やじま うらたろう) 長野県郡部選出 憲政会

万延元年2月生・長野県出身・長野県立師範学校に学び、のち法律学を修む○弁護士の業務に従事す、長野町会議員、上水内郡会議員、長野市会議員、同参事会員、長野県会議員となる、また港鉄道、産業銀行、東京生命各(株)取締役、茨木炭礦(株)監査役となる○当選五回(8 9 10 11 12)○大正6年10月17日死去

矢島 作郎 (やじま さくろう) 山口県第四区選出 無所属

天保10年1月生・山口県出身・和漢学を修む、のち英国に留学し、経済学を修む○ドイツにおいてわが国紙幣の創造を監す、のち紙幣助となる、東京貯蔵銀行、大阪三軒屋紡績会社、東京電燈(株)を設立し、重役となるほか、訓盲啞院、正則英語学校を創設す、また周陽銀行取締役頭取となる○当選一回(1補)○明治44年11月7日死去

矢島 專平 (やじま せんぺい) 山口県第七区選出 庚申倶楽部

明治9年3月生・山口県出身・明治31年陸軍士官学校卒○陸軍歩兵少尉より同大尉に累進、その間日露戦役に従軍す、のち長周銀行頭取、下松銀行、北満州金鉱(株)各取締役となる○当選一回(14)○昭和30年6月17日死去

矢島 中 (やじま なか) 栃木県宇都宮市選出 立憲政友会

嘉永4年7月生・本姓(矢嶋)・栃木県出身・漢学を修む○宇都宮町長、同市長、栃木県会議員、同常置委員となる、また宇都宮商業会議所特別議員、同農会名誉会員、同商工会顧問、立憲政友会栃木支部長となる○当選四回(7 8 9 10)○大正11年1月26日死去

矢島 八郎 (やじま はちろう) 群馬県高崎市選出 憲政会

嘉永3年11月生・群馬県出身・漢学を学ぶ○副区長、郡吏、所得税調査委員、高崎町会議員、同町長、同市長、群馬県会議員となる、また高崎米穀取引所頭取、上野鉄道(株)取締役となる、また高崎商工会頭、高崎自治会、高崎尚武会を創設し会長となる○当選三回(2 11 12)○大正10年9月7日死去

矢土 勝之 (やつち かつゆき) 三重県第四区選出 自由党

嘉永2年3月生・三重県出身・漢学を修む○太政官に奉職す○当選一回(5)○大正9年11月28日死去

矢野 丑乙 (やの うしおと) 愛媛県第六区選出 政友本党

明治3年3月生・大阪府出身・明治28年東京高等工業学校機械科卒○大阪府会議員、同参事会員となる、また日本防水布(株)取締役社長、別府土地信託(株)専務取締役、南予製糸(株)監査役、大阪信用組合、大阪工業会、大阪日露貿易協会各理事となる○当選一回(14)○昭和20年8月16日死去

矢野 鉉吉 (やの げんきち) 東京府第二区選出 立憲政友会

慶応3年1月生・群馬県出身・群馬県立中学校卒、のち米国に遊学す○下谷区会議員、同議長、東京府会議員、同議長、同市会議員となる、また東京器機標本(株)取締役、多摩川水力電気(株)監査役となる○当選二回(15 16)○昭和30年4月14日死去

矢野 才治郎 (やの さいじろう) 岐阜県第四区選出 大成会

安政5年12月生・岐阜県出身・明治8年大垣師範学校卒○小学校教員、大野—池田郡書記、唐栗村外六箇村戸長、岐阜県会議員、同常置委員、徴兵参事員、連合町村会議員となる、農業を営む○当選一回(1)○明治32年5月21日死去

矢野 庄太郎 (やのしょうたろう) 香川県第二区選出 民主党

明治19年1月生・香川県出身・明治40年明治大学法学部卒○台湾総督府属、香川県警部、同木田郡長を歴任す、のち勝光山クレー(資)代表社員となる、平沼内閣の大蔵参与官、幣原内閣の厚生政務次官、片山内閣の大蔵大臣となるほか、日本医療団評議員、内閣委員となる、また日本自由党戦災復興特別委員長、総務、選挙対策部長、政調会財政部長、民主党顧問となる・大蔵省より経済財政事情調査のため欧米各国に派遣さる○当選七回(17 18 19 20 21 22 23)○昭和24年6月21日死去

矢野荘三郎　愛媛県郡部選出　立憲政友会
慶応3年8月生・愛媛県出身・明治19年府立大阪商業学校卒、のち慶応義塾に学ぶ○鉱業に従事し、伊予製鉱、宇和紡績、第二十九銀行各(株)取締役、明治製煉(株)専務取締役、愛媛鉄道、竜野電気鉄道各(株)取締役となる○当選一回(11)○大正14年9月25日死去

矢野晋也　鳥取県選出　立憲政友会
明治21年4月生・東京都出身・明治43年早稲田大学政治経済科卒○中央新聞記者となり、次いで二六新報社に入り、のち二六新報社長となる○当選二回(16・18)○昭和23年3月2日死去

矢野政男　栃木県第一区選出　民主党
明治31年12月生・栃木県出身・大正5年県立烏山中学校卒○宇都宮市会議員、栃木県会議員となる、また矢野自動車、栃木県中央貨物自動車、宇都宮自動車、芳南交通、両毛酸素、三共工業、茨城県日産自動車販売、東野鉄道、那須高原開発、金桝商会、東野観光、北関運輸各(株)取締役社長、東武宇都宮百貨店、三共物産各(株)会長となる○当選一回(23)

矢野力治　宮崎県選出　立憲政友会
元治元年2月生・宮崎県出身・明治23年明治法律学校法律科及び政治科卒○代言人、次いで弁護士となり、のち山林業に従事す、東臼杵郡会議員、宮崎県会議員、県産業調査会員、県協賛会評議員となる○当選一回(16)○昭和11年9月10日死去

矢部藤七　栃木県第一区選出　日本進歩党
明治18年7月生・栃木県出身・明治36年県立栃木中学校卒○陸軍歩兵少尉となる、酒造業を営み、西方村長、栃木県会議員、同副議長となる、また上都賀郡農会長、県農会長、西方村産業組合長、県信用購買販売利用組合連合会副会長、農林省委員となる○当選一回(21)○昭和34年4月11日死去

矢本平之助　宮城県第二区選出　立憲政友会
慶応元年3月生・宮城県出身・国漢学及び政治、法律学を修む○農業を営む、大塩村会議員、同村長、宮城県会議員、同議長となり、県町村長会議員、桃生郡農会議員、県農会議員、港湾調査会評議員、県水会会長となる○当選一回(16)○昭和13年9月15日死去

谷口武雄　茨城県第三区選出　国民協同党
明治40年8月生・茨城県出身・昭和9年中央大学法学部卒○昭和機械工業(株)社長、帝都高速度交通営団参与、昭和鉄工(株)顧問となる、また国民協同党文化部長となる○当選一回(23)

谷津新八郎　茨城県第二区選出　立憲政友会
万延元年2月生・茨城県出身○下中妻村会議員、徴兵参事員、学校組合議員、東茨城郡会議員、同参事会員、茨城県会議員、同参事会員となる○当選一回(14)○昭和10年10月7日死去

薬師神岩太郎　愛媛県第三区選出　自由党
明治22年2月生・愛媛県出身○来村会議員、同村長、宇和島市会議員、同副議長、同議長、同参事会員となり、衆議院建設委員長となる、また村農会長、市及び県農業会長、県農業協同組合協議会長、県収用審査委員となるほか、四国日日新聞社長、宇和島通運(株)代表取締役、南予通運、宇和島港運各(株)取締役社長、民主自由党総務となる㊒「時事独断」○当選二回(22・24)○昭和28年8月27日死去

安井大吉　東京都第三区選出　自由党
明治24年2月生・東京都出身・日本大学法学部に学ぶ○内務属、岐阜県羽島郡長、同県地方、庶務各課長、東京都区政、財務各課長、清掃部長、厚生局長、生活局長を歴任し、浦和市長となる、また自由党人口対策特別副委員長、食糧対策特別委員長、輸入自動車協会副会長、大洋自動車株顧問、大洋商事(株)社長となる○当選一回(26)

安井丈夫　岡山県郡部選出　立憲政友会
明治5年7月生・岡山県出身・法律及び経済学を修む○小学校教員、県吏となり、のち神戸家畜(株)専務取締役社長、岡山銀行、岡山貯蓄銀行各専務取締役、美作銀行、中備銀行、物産貿易会社各重役となり、内外物産会社大阪支店長、加島家広岡商業部主事兼加島銀行監督、岡山日報社名誉社員となる、また北清貿易を営む○当選一回(8)○大正9年3月22日死去

安井吉典　北海道第二区選出　日本社会党
大正4年10月生・北海道出身・昭和15年東北帝国大学法科卒○三菱鉱業(株)勤務、退職後帰郷、農業に従事す、東神楽村長、北海道水害予防組合連合会副会長、北海道治水砂防促進同盟副会長、北海道農業会議員、北海道社会教育委員、上川農民同盟監査委員等を歴任す、また日本社会党政策審議会税制部副部長、北海道連顧問となる○当選一回(28)

安岡雄吉　高知県郡部選出　猶興会
安政元年3月生・高知県出身・福沢塾に学ぶ○元老院御用掛、内務省取調局事務取扱、東京府御用掛となる○当選二回(29)○大正9年11月1日死去

安川寛三郎　千葉県選出　無所属
安政元年11月生・千葉県出身・漢学を修む○製茶、機業及び醤油製造業を営み、茂原町会議員、同町長、千葉県会議員、長生郡会議員、同議長となり、県勧業諮問会員、郡所得税調査委員となる○当選二回(78)○大正15年7月22日死去

安川敬一郎　福岡県福岡市選出　無所属
嘉永2年4月生・福岡県出身・慶応義塾に学ぶ○福岡藩執政局出仕となる、のち実業界に入り、石炭販売業及び炭礦経営に従事す、明治鉱業(株)を創立し、取締役社長となるほか、明治紡績資代表社員、若松築港、筑豊興業、九州鉄道、安川電機製作所、九州製鋼、黒崎窯業各(株)取締役となる、また戸畑市に明治専門学校を創立す、男爵を授けらる○当選一回(11補)・(貴男爵○昭和9年11月30日死去

安川繁成　東京府第一区選出　憲政本党
天保10年3月生・東京都出身・開成所及び慶応義塾に学ぶ○行政官制度寮書記、同録事、権少史、正院出仕、大主記、左院少議生、議官、印刷局副長、地方官会議書記官、工部少丞、工部省検査局長、工部権大書記官、同大書記官、会計局長、検査官兼統計院幹事、工部省書記局長、会計検査院部長を歴任す、のち東京市会議員、同参事会員、日本鉄道(株)検査委員となる㊒「英国新聞紙開明鑑記」「英国政治概論」○当選一回(6)○明治39年8月29日死去

安川保次郎　長野県郡部選出　立憲政友会
明治3年2月生・長野県出身・漢学を修む○村会議員、学区組合会議員、水利組合会議員、更級郡会議員、同参事会員、更級蚕種検査所主事、長野県会議員、同参事会員、地方森林会議員となる、また蚕種製造業を営み、更埴蚕業会社幹事、更埴蚕種業組合監査役、更級蚕種同業組合長、更級銀行頭取、小島田信用組合理事長、長野新聞社監査役となる○当選一回(10)○大正7年6月19日死去

安田伊左衛門　岐阜県郡部選出　憲政会

明治5年7月生・岐阜県出身・明治26年東京帝国大学農学乙科卒○陸軍騎兵少尉より、同大尉に累進、その間日清、日露の戦役に従軍す、農業を営む、郡会議員、同参事会員となる、また七十六国立銀行、全国肥料取次所各取締役、尾張土管㈱社長となる、のち東京競馬倶楽部を創立しその理事、副会長、会長となり、次いで競馬協会長、日本競馬会副理事長、理事長となる○当選二回(11 12)○昭和33年5月18日死去

安田　勲　千葉県選出　憲政本党

嘉永6年6月生・千葉県出身・慶応義塾に学ぶ○千葉県代議人、千葉中学校及び師範学校教官、千葉県御用掛、同属となり、千葉県会議員、同常置委員、徴兵参事員となる、また牧畜業に従事す○当選六回(1378補10)○大正6年6月9日死去

安田桑次　岐阜県第二区選出　日本自由党

明治30年5月生・岐阜県出身・大正6年小野補修農業学校研究科卒○和合村書記、同村会議員、同村長、岐阜県会議員、同参事会員、同副議長、農林省委員となる、また岐阜県蛍石鉱業会長、同県鉱業会理事、岐阜県種苗、東海農事、安田商店、共栄百貨店各㈱社長となる○当選一回(21)

安田耕之助　京都府第一区選出　立憲民政党

明治16年3月生・京都府出身・明治41年東京帝国大学政治科卒○税務監督局属、同試補、司税官、税務監督局事務官、税務監督官、大蔵事務官兼朝鮮総督府事務官を歴任す、のち京都市長となる、また大蔵省嘱託として欧米各国を視察す○当選一回(17)○昭和19年12月28日死去

安田正男　千葉県第三区選出　立憲民政党

明治17年7月生・千葉県出身・大正6年東京帝国大学英法科卒○名古屋電燈㈱に入社、庶務課長、同秘書役となり、大同電力、天竜電力各㈱創立事務主任となる、のち弁護士の業務に従事す、逓信大臣秘書官となる○当選一回(17)○昭和21年6月15日死去

安田益太郎　京都府第三区選出　自由党

安政4年4月生・京都府出身○酒造業を営み、村長、農会長等となる○当選二回(3 4)○大正5年8月19日死去

安田幹太　大分県第二区選出　民主党

明治33年1月生・大分県出身・大正12年東京帝国大学英法科卒、法学博士○司法官試補、予審判事、東京地方裁判所判事、京城帝国大学助教授、同教授、朝鮮総督府司法法規改正委員を歴任す、のち弁護士の業務に従事し、京城保護観察所嘱託保護司、日本社会党大分県支部連合会長、八幡大学教授、同学長となる㊟「民法批判」「私法転化ノ段階トシテノ調停」○当選一回(23)

安田愉逸　宮崎県第二区選出　無所属

嘉永6年11月生・宮崎県出身・測量術を修む○教師、造兵局通訳官、外務省訳官、長崎県属となる、明治22年擾国皇族ハンリート・バルジー殿下来朝の際殿下に随行し通訳として全国を巡遊す、農業を営む○当選二回(13)○明治37年8月23日死去

安原仁兵衛　滋賀県選出　立憲政友会

明治7年10月生・滋賀県出身・明治法律学校に学ぶ○滋賀県会議員、同議長となる、また近江重布㈱取締役、高島銀行取締役となる○当選二回(14 16)○昭和6年8月6日死去

安平鹿一　愛媛県第二区選出　日本社会党

明治35年1月生・愛媛県出身○東京府荏原町会議員、東京市会議員、同府会議員、東京都、愛媛県各労働委員、衆議院労働委員長となる、また全国労働組合統一会議、日本労働組合全国評議会各常任中央執行委員、日本無産党中央執行委員、組織部長となり、戦後労働組合総同盟結成発起人、中央常任執行委員、日本社会党結成発起人、中央執行委員、総務部長、組織局長となる・訪中使節議員団として中国を視察、また第四十六回列国議会同盟会議(ロンドン)に参列し、欧米各国を視察す○当選五回(22 23 25 26 27)

安村竹松　神奈川県郡部選出　立憲政友会

明治6年10月生・和歌山県出身・明治34年明治法律学校卒○司法官試補となり、のち弁護士の業務に従事す○当選一回(11)○昭和21年12月2日死去

保岡武久　鹿児島県奄美群島区選出　自由民主党

明治35年11月生・鹿児島県出身・昭和2年東京帝国大学政治科卒○警視庁牛込早稲田、巣鴨各警察署長、同庁警務部防空、警防各課長、大阪府刑事課長、海軍司政官(南方派遣、奈良県内政部長、厚生省衛生局防空課長、同勤労局管理課長、宮城県警察部長、鹿児島県内務部長、同県副知事を歴任、また鹿児島県織物工業協同組合理事長、鹿児島水産加工㈱取締役社長となる、自由民主党全国組織委員会産業局次長、政調会農林副部長、同内閣部長となる○当選二回(26特 28)

梁井淳二　佐賀県選出　民主自由党

明治30年5月生・佐賀県出身・大正10年東京帝国大学政治科卒○内務属、熊本県書記、新潟県警視、徳島県学務部長、大分、滋賀各県警察部長、新潟県経済部長、総務各部長、拓務書記官、台湾総督府文教局長、台北州知事を歴任す、のち台湾拓殖㈱東京支社嘱託、戦時建設団九州地方団長、佐賀県文化振興会理事、大成建設㈱顧問となる○当選一回(23)

柳川宗左衛門　茨城県第一区選出　日本進歩党

明治28年7月生・茨城県出身・大正2年東京市京北中学校卒○農業を営む、茨城県信用組合連合会副会長、同購買販売組合連合会、全国購買組合連合会、全国農業会長、茨城県農業会理事、全国農業会専務理事、若松郵便局長、全国購買組合連合会専務理事、茨城県経済連合会長となる、また日本肥料、日本瓦斯木炭、農機具配給各㈱監査役、茨城相互銀行社長、柳川本店代表取締役となる○当選一回(21補)・(参)一回(1)

柳澤義男　千葉県第一区選出　自由党

明治40年8月生・千葉県出身・昭和6年中央大学法学部卒、同大学院において研究後、パリ大学に学ぶ、法学博士○弁護士、計理士の業務に従事す、中央大学教授、同評議員、千葉県地方労働委員、松戸商工会議所会頭、司法会計研究所長、日本厚生事業協会理事長、京葉興業、三和自動車各㈱社長となる、また自由党党務局人事部長、政調会法務副部長となる・自治体の機構調査のため米国へ派遣さる○当選一回(24)

柳瀬春次郎　愛媛県第二区選出　自由党

嘉永5年2月生・愛媛県出身・京都同志社に学ぶ○伊予本木㈱取締役、伊予晒粉㈱監査役、伊予興業資業務担当社員、柳瀬商行社長となる○当選一回(3)○明治43年5月28日死去

柳田宗一郎　東京府第三区選出　立憲民政党

明治22年5月生・茨城県出身・明治45年中央大学法律科卒○弁護士となり、のち青森区裁判所兼同地方裁判所検事、大館区裁判所兼秋田地方裁判所大館支部検事、仙台地方裁判所検事を歴任後、再び弁護士の業務に従事し、東京市会議員となる○

当選一回(18)〇昭和8年6月18日死去

柳田藤吉（やなぎだとうきち） 北海道庁根室外三支庁管内選出　立憲政友会

天保8年12月生・北海道出身〇海産物貿易業、刻昆布製造業、漁業、硫黄鉱業等を営み、函館府生産方商法掛、開拓使外国輸出品調所手代、根室郡総代、水産諮問会員、根室水産税区会議員、北海道会議員となる、また大日本水産会名誉会員、根室昆布営業組合、同鮭営業組合各頭取、根室漁業組合副頭取、根室銀行頭取、函館商業会議所特別議員となる〇当選一回(9)〇明治42年5月10日死去

柳田秀一（やなぎだひでかず） 京都府第二区選出　日本社会党

明治38年5月生・京都府出身・昭和7年岡山医科大学卒後京都帝国大学大学院にて内科学を専攻す、医学博士〇逓信局医官、舞鶴簡易保険相談所長、京都府舞鶴保健所長、舞鶴市長、第四十九回列国議会同盟会議日本議員団代表となる、また日本社会党京都府連執行委員長、同党統制委員、政策審議会主査、政策審議会事務局長、調査企画局調査部長、両院議員総会副会長、国会対策副委員長、災害対策副委員長となる・予算制度調査のため欧米各国へ派遣さる、また東京オリンピック組織委員としてローマ大会を視察す〇当選四回(25 26 27 28)

柳原九兵衛（やなぎはらくひょうえ） 福井県第二区選出　政友本党

万延元年5月生・福井県出身〇農業を営む、小学校教員、村長、福井県会議員、同参事会員となる、また福井県絹織物同業組合長、朝鮮公州電気(株)重役、福井中央館、福井食糧品市場各(株)社長、大演化学工業(株)重役となる、福井日報新聞社及び福井民友新聞社を経営す〇当選二回(13 14)〇昭和20年1月29日死去

柳原三郎（やなぎはらさぶろう） 岐阜県第一区選出　日本民主党

大正3年7月生・岐阜県出身・昭和7年県立岐阜中学校卒〇岐阜県会議員、司法保護委員となる、また柳原工業(株)工場長、同取締役副社長となり、岐阜商工会議所議員、岐阜県体育協会長となるほか、岐阜青年連盟主幹となり、月刊「暁鐘」を主宰す、民主党遊説副部長、国際局情報部長、改進党中央常任委員、組織委員会副委員長、中小企業兼労働組織部長、党務副委員長、日本民主党遊説局次長となる〇当選三回(24 25 26)

柳谷清三郎（やなぎやせいざぶろう） 秋田県第一区選出　自由民主党

明治33年10月生・秋田県出身・昭和3年東京帝国大学政治科卒〇東北木材(株)社員、満州土地開発(株)参事、日本国際航空(株)香港工場事務処長、秋田県地方木材(株)総務部長、能代商工会議所会頭、秋田県健康保険団体連合会理事長、秋田県木工業協同組合連合会長となる、また秋田県能代港町学務課長、同町助役となり、能代市長となる、自由民主党幹事、政調会社会副部長、全国組織委員会官公労働部長となる〇当選一回(28)

山内確三郎（やまのうちかくさぶろう） 福岡県第十区選出　立憲政友会

明治4年8月生・東京都出身・明治31年東京帝国大学独法科卒、法学博士〇司法官試補、検事代理、大阪区裁判所判事、大阪、神戸、東京各地方裁判所部長、大阪控訴院、東京控訴院各判事、検事兼司法省参事官、東京地方裁判所検事、大審院検事、司法省民事局長、同次官、東京控訴院長を歴任し、その間法律取調委員会、臨時法制審議会各幹事、大礼使典議官、特殊財産管理局、帝都復興院各参与、判検事登用第二回試験委員長、特殊権利審査会、司法資料調査会各会長となる、のち弁護士の業務に従事す、また日本大学教授となる〇当選一回(15)〇昭和22年1月20日死去

山内吉郎兵衛（やまのうちきちろべえ） 広島県第九区選出　無所属

嘉永2年8月生・広島県出身・国学及び神仏学を学ぶ〇村吏、広島藩御用掛、戸長、学区取締、地租改正代議員、小区及び村総代、地租改正米価選定委員となり、広島県会議員、同常置委員、同副議長、同議長、地方衛生委員、検疫委員となる、また弁護士の業務に従事す〇当選一回(6)〇昭和2年8月21日死去

山内範造（やまのうちはんぞう） 福岡県第十一区選出　立憲政友会

慶応元年4月生・福岡県出身・漢学を学ぶ〇農業を営む、村長、筑紫郡会議員、同参事会員となり、郡農会特別議員、県農会特別議員、同評議員、帝国農会議員、同評議員、地方森林会議員となる、また筑紫銀行頭取、住吉銀行取締役となる〇当選三回(12 13 15)〇昭和20年3月17日死去

山内亮（やまのうちりょう） 青森県第一区選出　立憲民政党

明治19年12月生・青森県出身・明治39年県立八戸中学校卒〇小学校准訓導、陸軍歩兵中尉、上長苗代村会議員、同村長、三戸郡会議員、青森県会議員、八戸市長となる、また農業、牧畜業を営み、県産馬畜産組合連合会評議員、八戸産馬畜産組合副長、八戸産牛畜産組合長、県農業協同組合中央会、同経済農業協同組合連合会各会長、八戸畜産農業協同組合理事長、青森湾埋立、南部鉄道各(株)社長となる〇当選一回(17)〇昭和35年7月26日死去

山移定政（やまうつりさだまさ） 熊本県第五区選出　憲政会

慶応2年7月生・熊本県出身・明治23年明治法律学校卒〇九州学院理事兼教師、陸軍省雇員、通訳、台湾総督府台南県通訳、同台中県弁務署主記となる、のち弁護士の業務に従事す、また台湾新聞社長、海南製粉、台中製糖、日本拓殖各(株)取締役となる〇当選一回(14)〇大正11年5月21日死去

山岡國吉（やまおかくにきち） 鹿児島県鹿児島市選出　立憲政友会

安政3年9月生・鹿児島県出身・官立長崎師範学校卒〇小学校長となる、のち弁護士の業務に従事す、鹿児島市会議員、同議長、鹿児島商業会議所特別議員、鹿児島弁護士会長となる、また鹿児島新聞、豊蘿金山(株)各社長、曽木電気(株)取締役、枕崎製氷、山川製氷各(株)監査役、万瀬水力電気(株)社長となる〇当選一回(10)〇昭和5年12月17日死去

山蔭靜夫（やまかげしずお） 広島県第六区選出　進歩党

万延元年3月生・広島県出身〇農業を営む、竹仁村長、豊田郡農会長、広島県会議員となる〇当選一回(5)〇昭和23年2月22日死去

山川賴三郎（やまかわよりさぶろう） 兵庫県第五区選出　翼賛議員同盟

明治6年7月生・兵庫県出身〇農業を営む、養蚕製糸教師、日野製糸(株)現業部長、近江製糸(株)工業長となり、福住郵便局長、福住村長、同村会議員、多紀郡会議員、兵庫県会議員、同郡部会副議長、同参事会員となる、また郡農会長、県農会議員、県山林会理事、全国山林会連合会参与、地方森林委員、県森林組合連合会長、福住信用販売購買組合理事、同施業土木森林組合長となる・派遣軍慰問のため北支那へ、またタイ国視察のため派遣さる〇当選一回(20)〇昭和31年12月19日死去

山木武夫（やまきたけお） 山形県選出　無所属倶楽部

明治26年4月生・山形県出身・明治43年県立庄内農学校卒〇農業を営む、新堀村長、酒田市会議員、同議長となる、また村産業組合、県産業組合連合会、農業指導団体北斗会、県農業会各理事、村農業会長、庄内農業倉庫協会長、県信用農業協同組合連合会長となる〇当選一回(22)

山際七司（やまぎわしちじ） 新潟県第一区選出　無所属

嘉永2年1月生・新潟県出身〇農業を営む、新潟区長、新潟県会議員、同常置委員となる、東洋自由新聞を発刊す、また北越自由党総裁となる〇当

選一回(1)○明治24年6月9日死去

山際敬雄（やまぎわよしお） 新潟県郡部選出 立憲政友会

明治5年4月生・新潟県出身・和漢学を修む○農業を営む、道路調査会設置、信濃川埋立工事等に尽す○当選一回(10)○昭和9年8月27日死去

山口嘉七（やまぐちかしち） 福井県第五区選出 立憲政友会

安政4年7月生・福井県出身○弁護士の業務に従事す、町会議員、郡会議員、同参事会員、福井県会議員となる、また若狭商業銀行、小浜電燈会社、若狭自動車会社各監査役、若狭電気(株)社長、江若鉄道(株)取締役、小浜実業会長となる○当選二回(12 15補)○昭和8年1月6日死去

山口嘉蔵（やまぐちかぞう） 鳥取県第三区選出 政友本党

慶応元年3月生・大阪府出身○日本毛織(株)監査役、(株)東洋製鋼所取締役社長、大日本窯業、日本機械製造、山陰紡織、倉吉紡績、長門起業炭礦各(株)取締役となる○当選一回(14)○昭和18年8月4日死去

山口喜久一郎（やまぐちきくいちろう） 和歌山県第一区選出 自由民主党

明治30年5月生・和歌山県出身・早稲田大学商科に学ぶ○和歌山県会議員、同議長、逓信省委員、運輸通信省委員、戦災復興院政務官となり、衆議院議院運営委員長、同予算委員長、第三次吉田内閣及び第二次岸内閣の国務大臣、賠償庁長官、科学技術行政協議会副会長、行政管理庁長官、北海道開発庁長官を歴任し、また日本自由党副幹事長、民主自由党総務、自由党国会対策委員長、代議士会長、副幹事長、自由民主党総務、相談役となる、農場を経営す・サンフランシスコ平和会議、新安保条約調印式に議員団長としてそれぞれ派遣さる、中共、欧米各国を視察す㊟「和歌山県政史譚」「国会の運営」「保守党から見た新中国」「欧米旅抄」○当選八回(21 22 23 24 25 26 27 28)

山口義一（やまぐちよしかず） 大阪府第六区選出 立憲政友会

明治21年1月生・大阪府出身・大正4年東京帝国大学政治科卒、のち京都帝国大学大学院に入り社会政策を研究す○陸軍三等主計となる、社会事業調査会臨時委員、田中内閣の大蔵参与官となる、また立憲政友会総務、幹事長となる○当選五回(14 15 16 17 18)○昭和10年4月15日死去

山口小一（やまぐちこいち） 佐賀県郡部選出 立憲政友会

天保12年2月生・佐賀県出身○奥羽征討に従軍す、武雄軍団所史生、副戸長、長崎県会議員、佐賀県会議員、同常置委員となり、佐賀県属、同県土木課副長となる、のち農業を営み、組合村会議員、武雄町会議員、学務委員、地方森林会議員、杵島郡会議員、同議長、郡農会議員となる○当選一回(9)○明治44年8月27日死去

山口好一（やまぐちこういち） 栃木県第二区選出 自由民主党

明治36年11月生・栃木県出身・昭和2年東京帝国大学英法科卒○栃木商業学校教諭、明治大学、日本大学講師を歴任、衆議院地方行政委員長、同懲罰委員長、第三次吉田内閣の法務政務次官となる、また日本自由党幹事、同党県連支部長並びに総務会長、民主自由党総務、日本民主党顧問、総務、自由民主党総裁代行委員鳩山一郎付幹事、政調会法務部長、総務局長となる、弁護士、税理士の業務に従事す○当選六回(22 23 24 26 27 28)

山口光一郎（やまぐちこういちろう） 栃木県選出 民主党

明治22年6月生・栃木県出身・明治45年栃木県師範学校本科第一部卒○小学校訓導、同校長となり、三好村会議員、同村長、同村農業会長、司法大臣官房臨時企画部参与、日本進歩党常任幹事となる、のち石灰業を経営、栃木県石灰工業協同組合専務理事となる○当選一回(22)○昭和23年7月8日死去

山口左一（やまぐちさいち） 神奈川県第六区選出 新正倶楽部

明治8年6月生・神奈川県出身・京都同志社卒○農業を営む、高部屋村収入役、同村長、同村会議員、所得税調査委員となる、また中郡農会副会長、県農会議員、帝国農会議員、産業組合中央会県支会副会長、伊勢原銀行頭取、伊勢原電気、横浜興業信託、相武電力、県農工銀行各(株)取締役、相模銀行、農工信託各(株)監査役となる○当選一回(15)○昭和11年9月8日死去

山口左七郎（やまぐちさしちろう） 神奈川県第六区選出 自由倶楽部

嘉永2年5月生・神奈川県出身○農業を営む、名主、神奈川県蚕種世話役、神奈川県第三課地理掛、大住—陶綾郡長となり、神奈川県会議員、同常置委員、高部屋村会議員、所得税調査委員となる、また伊勢原銀行頭取、相模銀行監査役となる○当選一回(1)○明治45年2月21日死去

山口左右平（やまぐちそうへい） 神奈川県第三区選出 日本進歩党

明治37年6月生・神奈川県出身・昭和5年京都帝国大学経済科卒○産業組合中央会総務部企画課長、同文書課長、満州国開拓協力協議会幹事となる、また農林省委員となる、農業を営む○当選一回(21)○昭和24年3月26日死去

山口シヅエ（やまぐちしづえ） 東京都第六区選出 日本社会党

大正6年10月生・旧名(静江)・東京都出身・昭和10年府立第七高等女学校卒○(株)山口自転車工場、千代田興業、台東ビル各(株)取締役となる、また日本社会党中央委員、会計監査、婦人対策委員会主査、中小企業政策委員会主査、恩賜財団同胞援護会評議員、海外抑留同胞救出国民運動総本部常任委員、母子福祉対策、科学技術振興、日中貿易促進各議員連盟理事となり、世界連邦日本国会委員会、世界連邦建設同盟各理事、全国婦人連盟会長となる・サンフランシスコ講和会議の際オブザーバーとして渡米す、また東南アジア視察のため派遣さる○当選七回(22 23 24 25 26 27 28)

山口俊一（やまぐちしゅんいち） 京都府郡部選出 憲政会

万延元年1月生・京都府出身・漢籍を修め、数学、法律学を学ぶ○農業を営む、戸長、天田郡書記、同郡会議員、京都府会議員、同副議長、同議長、同郡部会副議長及び同議長、同参事会員、徴兵参事員、府教育会郡部会副会頭となり、のち新舞鶴町長となる、また福知山米穀生糸取引所理事長、京都土木、帝国用達各(株)社長となる○当選四回(5 7 12 13)○昭和8年10月1日死去

山口丈太郎（やまぐちじょうたろう） 兵庫県第二区選出 日本社会党

明治42年4月生・兵庫県出身○大阪府労働者災害保障保険、大阪地方労働、大阪地方労働者教育諮問各委員会委員となる、京阪神急行電鉄(株)に入社し、同社労働組合副委員長、日本私鉄労働組合総連合関西地方連合会委員長、同中央委員、ILO協会近畿支部、大阪労働協会各常任理事、大阪勤労者信用組合、大阪労働金庫各理事となる、日本社会党中央委員、会計監査、同党兵庫県支部連合会副会長、顧問となる○当選三回(25 26 27)

山口新一（やまぐちしんいち） 長崎県第二区選出 無所属

弘化2年12月生・長崎県出身・漢学を修む○諫早好古館教諭となる、のち諫早校々長を経て県立諫早中学校長、佐賀県立神崎中学校長となり、長崎県会議員となる、また諫早銀行を創立し、頭取となる○当選一回(3)○明治42年11月28日死去

山口武秀（やまぐちたけひで） 茨城県第一区選出 日本共産党

大正3年8月生・茨城県出身・県立鉾田中学校に学ぶ○日本農民組合連合会書記長、常東農民組織総協議会委員長となる、著述業に従事す㊟「戦後日本農民運動史」「農民運動入門」「青年運動の理論」「農民運動家の記録」○当選二回(23 24)

山口達太郎（やまぐちたつたろう） 新潟県郡部選出 憲政本党
安政5年6月生・新潟県出身・漢学を修む○地租改正用係、小坂神社祠掌、戸長、労務委員、郡衛生会員、郡農会名誉会員となる、また長岡銀行頭取、新潟県農工銀行、百三十九銀行、柏崎銀行、日本石油㈱各取締役、北越水力電気㈱社長となる○当選一回(9)○大正9年8月9日死去

山口千代作（やまぐちちよさく） 福島県第四区選出 立憲革新党
嘉永元年2月生・福島県出身○福島県会議員、同副議長、同議長となる○当選三回(123)○明治39年2月12日死去

山口忠五郎（やまぐちちゅうごろう） 静岡県第一区選出 日本進歩党
明治15年1月生・静岡県出身○農業を営む、西益津村長、同村会議員、志太郡会議員、静岡県会議員、同参事会員、同副議長、同議長となり、全国町村長会長、県茶業組合連合会頭、県農会長、県畜産組合、同農業保険組合各連合会長、帝国農会議員、蚕業中央会評議員、帝国畜産会監事となるほか、藤枝合同運送、太陽アルミニューム、東海遠洋漁業、静岡日産自動車販売各㈱社長、遠州銀行、日本紅茶、静岡新報各㈱取締役となる、また立憲政友会総務、大政翼賛会中央協力会議員となる・派遣軍慰問のため中支那へ派遣さる○当選五回(16 18 19 20 21)○昭和30年10月8日死去

山口恒太郎（やまぐちつねたろう） 福岡県第一区選出 立憲政友会
明治6年2月生・福岡県出身○国民新聞記者、福岡日日新聞主筆となり、福岡市会議員、同参事会員となる、また博多株式取引所理事長、博多商業会議所会頭、中央新聞社副社長、日本電報通信社常務取締役、東京通信社長、東邦電力、九州電気軌道、博多湾鉄道、朝鮮煙草興業、九州送電、鯛生金山、大阪タクシー自動車各㈱取締役、朝鮮京南鉄道㈱相談役となるほか、立憲政友会総務となる○当選三回(13 15 16)○昭和16年4月6日死去

山口定省（やまぐちていせい） 福井県第四区選出 立憲政友会
安政5年2月生・福井県出身○農業を営む、研才学校訓導補、同学務委員、戸長、今富村長、遠敷郡会議員、同参事会員、福井県会議員、同参事会員となる、また福井県農工銀行取締役となる、のち朝鮮において貿易業に従事す○当選一回(6)○大正15年1月20日死去

山口半七（やまぐちはんしち） 大分県第六区選出 立憲革新党
嘉永6年1月生・大分県出身・慶応義塾に学ぶ○慶応義塾分校中津市学校教員、大分県会議員、同副議長、同議長となる、慶応義塾出版局を設立するほか、商取引業日津会社を創立す、また豊中製糸、中津紡績各㈱社長、鐘ヶ渕紡績、耶馬渓鉄道、大分セメント各㈱監査役、大分県農工銀行頭取となる○当選一回(3)○昭和7年6月9日死去

山口久吉（やまぐちひさきち） 東京府第七区選出 昭和会
明治25年5月生・東京都出身・日本医学校に学び、大正9年明治大学法律科卒○医師となり、警視庁検疫医員、長谷川病院医員、仁寿生命保険㈱審査医となる、のち弁護士の業務に従事し、東京市会議員、同都議会議員となる、また精工塗料資代表社員、東洋青物市場㈱取締役、東京都指圧師会長となる○当選一回(19)

山口馬城次（やまぐちまきじ） 大分県第二区選出 日本進歩党
明治25年8月生・大分県出身・大正3年早稲田大学専門部政治経済科卒○農業を営む、麻布村会議員、同村長、大分県会議員、同副議長、同議長となる、また郡農会長、県養蚕業組合連合会副会長、大日本山林会評議員、県森林審議会長、中津銀行監査役、久恒鉱業㈱監査役、同取締役となる・派遣軍慰問のため中支那へ派遣さる○当選一

山口政二（やまぐちまさじ） 埼玉県第三区選出 新正倶楽部
明治20年8月生・埼玉県出身・大正3年東京帝国大学独法科卒○朝鮮総督府試補、同道事務官、陸軍省御用掛、青島守備軍民政部事務官を歴任す、のち弁護士を開業し、その業務に従事す○当選一回(15)○昭和2年2月23日死去

山口熊野（やまぐちゆや） 和歌山県第四区選出 政友本党
元治元年11月生・東京都出身・和歌山医学校及び東京外国語学校に学ぶ○米国において在留日本人愛国同盟を組織す、また邦字新聞「新日本」を発刊す、のち和歌山県会議員、熊本移民資業務担当人、京浜銀行監査役、新聞自由社長、自由新聞記者、自由通信社長となる○当選七回(5 6 7 8 9 10 14)○昭和25年6月24日死去

山口六郎次（やまぐちろくろうじ） 埼玉県第二区選出 自由民主党
明治29年7月生・埼玉県出身・大正9年明治大学政治経済科卒○第三次吉田内閣の行政管理政務次官、衆議院法務委員長となる、また報知新聞記者、明治大学役員、大日本体育協会、全日本陸上競技連盟常務理事、埼玉県体育協会、同自転車競技連盟、同振興会各会長(全日本副会長、極東オリンピック(マニラ)日本代表役員、成均学園理事、一日一善会々長、埼玉新聞社理事、全国亜炭統制組合理事長、徳山林業開発営団社長となる、民主自由党総務、政調会内閣部長、自由党政調会副会長、自由民主党全国組織委員会副委員長、広報委員会遊説局長兼副委員長、副幹事長となる○当選四回(23 24 26 28)○29・昭和36年11月28日死去)

山崎岩男（やまざきいわお） 青森県第一区選出 自由党
明治34年1月生・青森県出身・大正15年中央大学法学部英法科卒○県立商業学校教諭、大湊町助役、同町長、青森県会議員、同参事会員となり、衆議院水害地対策特別委員長、同厚生委員長、第三次吉田内閣の労働政務次官、再度青森県知事となる、また弁理士の業務に従事し、大湊町産業組合理事長、県教育振興会参与、東北整機、大東内燃機各㈱取締役社長、青森印刷、下北セメント、大湊化工各㈱取締役となる、民主党遊説部長、総務、自由党議員総会副会長、総務となる○当選五回(22 23 24 25 26)

山崎巌（やまざきいわお） 福岡県第三区選出 自由民主党
明治27年9月生・福岡県出身・大正8年東京帝国大学独法科卒○長崎県工場監督官補、同警察部工場課長、社会局事務官兼内務事務官、内務書記官兼内務大臣秘書官、社会局部長、厚生省社会局長、静岡県知事、内務省土木局長、警保局長、警視総監、内務次官、海軍司政長官、再び内務次官を歴任し、東久邇宮内閣の内務大臣、衆議院予算委員長、憲法調査会副会長、第一次池田内閣の自治大臣、国家公安委員長となる、また自由党総務、憲法調査会長、自由民主党総務、憲法調査会長、北海道開発特別委員長となるほか、全国国民健康保険団体中央会長となる・第四十五回列国議会同盟会議(バンコック)に議員団長として参列す○当選四回(25 26 27 28)

山崎延吉（やまざきえんきち） 愛知県第四区選出 第一控室会
明治6年6月生・石川県出身・明治30年東京帝国大学農芸化学科卒○福島県立蚕業学校、大阪府立農学校各教諭、愛知県技師、同県立農林学校長、同農事試験場長兼農事講習所長を歴任し、日英博覧会の視察、欧州における産業組合の調査、欧米各国における地方改良事業調査のため出張す、のち帝国農会幹事、特別議員、相談役となる、また県農会顧問、帝国経済会議員となる㊟「農村の経営」「農村教育論」「農村計画」「農村の自治研究」○当選一回(16)・(貴)勅選○昭和29年7月19日死去

山崎釵二（やまさきけんじ）　静岡県第二区選出　第一控室

明治35年9月生・静岡県出身・大正4年御殿場実業学校卒○無産階級解放運動に携わり、傍ら著述業に従事し、全国農民組合中央委員、全国労農大衆党常任執行委員、社会大衆党中央執行委員となるほか、沼津市会議員、静岡県会議員となる、また静岡産業通信社を創立し「静岡産業通信」を発行、山野パルプ工業㈱重役となる・派遣軍慰問のため北支那へ派遣さる○当選二回(19 20)○昭和33年1月31日死去

山崎猛（やまさきたけし）　茨城県第二区選出　自由党

明治19年6月生・茨城県出身・第一高等学校に学ぶ○代用教員、京城日報記者、麻布中学校、京城日報社各理事、遼東新報、満州日日新聞、満州日報各社長、電報通信社、電通映画社各取締役となり、水戸市長、文部大臣、司法大臣各秘書官、廣田内閣の農林政務次官、衆議院議長、第三次吉田内閣の運輸大臣、国務大臣、経済審議庁長官となる、また立憲政友会政務調査会長、顧問、日本自由党代議士会長、民主自由党幹事長、自由党総務となる・米国の議会制度調査のため議員団長として派遣さる○当選十回(14 16 17 18 19 22 23 24 25 26)○昭和32年12月27日死去

山崎達之輔（やまさきたつのすけ）　福岡県第三区選出　日本進歩党

明治13年6月生・福岡県出身・明治39年京都帝国大学独法科卒○台湾総督府属、同参事官、文部省参事官、大臣官房会計課長、図書監修官、実業学務局長、普通学務局長を歴任す、田中内閣の文部政務次官、岡田内閣の農林大臣、林内閣の農林大臣兼通信大臣、東條内閣の農林大臣、次いで農商大臣となる、また立憲政友会総務、政務調査会長、大政翼賛会総務、翼賛政治会政務調査会長、常任総務、代議士会長となる○当選七回(15 16 17 18 19 20 21)○昭和23年3月15日死去

山崎常吉（やまさきつねきち）　愛知県第一区選出　日本社会党

明治24年1月生・愛知県出身○文房具製造業を営む、愛知県会議員、厚生省及び愛知県貨金、健康保険、職業紹介各委員となる、また愛国従業員組合総連盟会長、愛国労働組合全国懇話会中部地方委員長、日本社会党中央執行委員、会計監督、愛知県連合会政調会委員長となる㊟「大日本忠孝労働組合結成ニ際シテ」○当選三回(20 21 22)○昭和36年1月5日死去

山崎傳之助（やまさきでんのすけ）　和歌山県第一区選出　立憲民政党

明治4年6月生・和歌山県出身・明治33年日本法律学校卒○和歌山県会議員となる、また和歌山日日新聞社を創立しその社長となる㊟「和歌山県人材録」「大言壮語録」「酒と人生」「世相録」「新聞人之声」○当選二回(16 17)○昭和16年2月7日死去

山崎友親（やまさきともちか）　滋賀県第二区選出　弥生倶楽部

弘化元年1月生・滋賀県出身○膳所藩大参事となり、のち滋賀県出仕、権少属、岐阜県権少属、滋賀県権少属、警部、栗太郡長、栗太—野州郡長を歴任す○当選一回(1)○明治30年11月2日死去

山崎始男（やまさきもとお）　岡山県第二区選出　日本社会党

明治37年3月生・岡山県出身・昭和6年慶応義塾大学政治科卒○岡山県教育委員、岡山県教育委員会副委員長となる、また山陽工業、旭輸出敷物各㈱取締役社長、平和タクシー㈱会長となる、日本社会党中央委員、同党岡山県連合会長、同顧問となる○当選四回(25 26 27 28)

山崎庸哉（やまさきつねや）　岩手県第二区選出　憲政本党

文久元年1月生・岩手県出身・済生学舎に学び、のち陸軍軍医講習生を経て、明治17年陸軍軍医学校卒○陸軍三等軍医より同三等軍医正に累進、その間日清、日露の戦役に第六、第八各師団に属し従軍、弘前予備陸軍病院長となる、のち医師を開業

す、また函館警察署嘱託医となる○当選一回(6補)○大正5年2月11日死去

山崎艮純（やまさきよしずみ）　鹿児島県郡部選出　立憲政友会

安政3年11月生・鹿児島県出身○西南の役に従軍す、のち鹿児島県会議員、同議長となる、また鹿児島授産会社々長となるほか、製糸事業を経営す○当選一回(9)○大正7年10月㋃日死去

山道襄一（やまじじょういち）　広島県第二区選出　衆議院議員倶楽部

明治15年3月生・広島県出身・明治39年早稲田大学政治経済科卒○鳥取新報、大韓日報各主筆となり、韓国政府次いで統監府の嘱託を受け、韓国の旧慣調査事務に従事す、のち京城にて雑誌「新半島」を経営、主幹となる、加藤(高明)内閣及び第一次若槻内閣の文部参与官、濱口内閣の鉄道政務次官となる、また中国新聞社客員、憲政会幹事長、総務、立憲民政党幹事長、政務調査会長、国民同盟総務となる・第二十六回列国議会同盟会議(ロンドン)に参列す・永年在職議員として院議表彰さる㊟「日本再建論」○当選十回(11 12 13 14 15 16 17 18 19 20)○昭和16年5月11日死去

山下榮二（やましたえいじ）　兵庫県第二区選出　民主社会党

明治34年10月生・鹿児島県出身・大正12年関西商工学校卒○尼崎市会議員、兵庫県会議員、同参事会員、兵庫県地方労働委員会委員、衆議院文教委員長となる、また日本労働総同盟尼崎連合会長、社会大衆党中央委員、日本社会党兵庫県支部連合会長、党労働政策委員長、会計監査、国会対策副委員長、選挙対策副委員長、民主社会党選挙制度対策委員長となる・社会主義インターナショナル大会(ロンドン)、同第三回大会(ストックホルム)及びアジア社会党大会開催準備会(ラングーン)に出席し、欧州、東南アジア各国の労働運動並びに政治経済の実情を視察す○当選六回(22 23 25 26 27 28)

山下重威（やましたしげたけ）　大阪府大阪市選出　猶興会

弘化4年2月生・大阪府出身・漢籍を修む○高知藩致道館教授役、同藩従事となる、のち大阪府取締小区長、同大区長を経て代言人となり、次いで弁護士の業務に従事し、大阪府会議員、同副議長、同議長、大阪市会議員、同議長、大阪市長となる、また大阪代言人組合副会長、破産管財人、弁護士の業務に従事す○当選一回(9)○大正8年10月18日死去

山下谷次（やましたたにじ）　香川県第二区選出　立憲政友会

明治5年2月生・東京都出身・明治20年香川県琴平明道黌、同24年京都尽誠舎卒○京都尽誠舎幹事兼講師、同温智学会東山学院教員、東京郁文館講師を経て、東京商工学校を創立し校主兼校長となる、犬養内閣の文部参与官となる・派遣軍慰問のため満州に派遣さる㊟数学、漢文、政治、思想方面に関する著書二十余種がある○当選五回(15 16 17 18 19)○昭和11年6月5日死去

山下千代雄（やましたちよお）　山形県郡部選出　立憲政友会

安政4年9月生・山形県出身・藩黌興譲館に入り皇漢の学を修む、のち司法省法律学校卒○明道館を創立し、自由民権を首唱す、内務省県治局長となる、のち代言人となり、次いで弁護士及び特許弁理士の業務に従事す○当選五回(3 4 6補 7 8)○昭和4年2月4日死去

山下ツる（やましたつる）　熊本県選出　日本社会党

明治32年1月生・熊本県出身・大正9年東京女子高等師範学校文科卒○長崎県立五島高等女学校、同女子師範学校、私立上林高等女学校、熊本県立第一高等女学校各教諭となるほか、婦選獲得同盟熊本支部を創設す、のち日本文学研究婦人団体一葉会を創立、婦人問題研究会を併置し、次いで日本母性連盟縁会を結成主宰者となる、また国民党党務部副部長となる㊟詩集「落葉」、句集「寒雲」○

当選一回(22)

山下春江（やました はるえ） 福島県第二区選出 自由民主党

明治34年8月生・福島県出身・大正11年日本女子体育専門学校卒○広島県立呉高等女学校教諭、大阪毎日新聞記者、山下繊維工業所社長となる、また衆議院海外同胞引揚及び遺家族援護に関する調査特別委員長、第三次鳩山内閣の厚生政務次官、第四十九回列国議会同盟会議日本議員団代表となる、改進党代議士会 副会長、政策委員会 厚生部長、自由党政調会社会部長、婦人部長、自由民主党代議士会副会長、全国組織副委員長、国民生活局長、総務、社会保障調査会副会長、福島県連会長となる・第四回国際連合総会捕虜特別 委員会(ジュネーブ)に政府代表として出席、また新安保条約調印式に党派遣議員団員として渡米す○当選六回(22 23 25 26 27 28)

山科慎次郎（やましな しんじろう） 広島県第三区選出 無所属

慶応2年11月生・広島県出身・明治25年東京法学院卒○代言人となり、次いで弁護士の業務に従事す、尾道市会議員、同議長、尾道商業会議所特別議員、破産管財人となる○当選一回(14)○昭和10年5月5日死去

山科禮蔵（やましな れいぞう） 広島県郡部選出 無所属

元治元年1月生・広島県出身・和漢学、英学、経済学及び工学を修む○日本輔仁会を創立し会長となる、のち海事工業所を設立し、築港、架橋、船渠、岩礁破砕、難波船引揚及び埋立等の事業に従事す、また海事工業㈱取締役、山科汽船㈱監査役、東京商業会議所議員、同副会頭となる○当選一回(7)○昭和5年8月24日死去

山瀬幸人（やまぜ さちと） 鳥取県第二区選出 無所属

安政2年2月生・東京都出身・鳥取藩校尚徳館に学ぶ○小学校 訓導、倉吉農学校長、鳥取県会議員、同議長、東伯郡参事会員、県農会長、地方森林会議員、倉吉町会議員、学務委員となる、また鳥取新報社員、因伯時報社を創設す、また鳥取新報社員、因伯時報編集員、秋田魁新報主筆、東邦協会幹事、善隣義塾幹事、立憲革新党幹事、常議員、憲政本党評議員となるほか、朝鮮に赴き朝鮮協会を創立す○当選二回(7 8)○明治39年3月7日死去

山田猪太郎（やまだ いたろう） 秋田県郡部選出 憲政本党

安政4年6月生・秋田県出身・明治11年秋田県師範学校伝習科卒○成章学校長、北秋田郡書記、秋田県会議員となる、また秋田新報社長となる、また秋田銀行監査役、日本進歩党常議員、遊説部副部長、憲政本党評議員、衆議院議員(一回)○昭和11年12月3日死去

山田永俊（やまだ えいしゅん） 岐阜県第一区選出 政友本党

明治5年10月生・岐阜県出身・東京医学専門学校済生学舎に学ぶ○医師を開業す、連合区会議員、同議長、岐阜市会議員、同議長となる、また市医師会幹事、県医師会長、同会健康保険部長、県結核予防会副会頭、日本医師会議員、同理事、同副会長となる・派遣軍慰問のため北、中支那に派遣さる○当選一回(14)○昭和31年9月24日死去

山田嘉穀（やまだ かこく） 神奈川県第四区選出 自由党

安政元年3月生・神奈川県出身・漢学を修む○神奈川県会議員、海老名村長となる、また神奈川県農工銀行監査役、日本酒造組合副組合長、神奈川県酒造組合長となる○当選三回(2 3 4)○昭和3年12月2日死去

山田喜之助（やまだ きのすけ） 東京府第三区選出 憲政本党

安政6年6月生・大阪府出身・明治15年東京大学法律科卒○代言人となり、東京代言人組合会長となる、東京専門学校及び東京法学院の創立に尽し、東京法学院教授、海軍主計学校教授となる、また司法省権少書記官、同参事官、東京控訴院、大審院各検事、大審院判事を歴任し、法典調査委員となる、のち弁護士の業務に従事し、東京弁護士会長、衆議院書記官長、司法次官となる○当選二回(5 6)○大正2年2月20日死去

山田毅一（やまだ きいち） 富山県第二区選出 立憲民政党

明治20年1月生・富山県出身・東京外国語学校、早稲田大学に学ぶ○東京日日新聞、やまと新聞、国民新聞各記者となり、その間、樺太、沿海州、支那、台湾、南洋方面及び欧米各国等を巡遊視察す、のち復興通信社を創立し、社長となる、また南方産業調査会を興し、機関紙「南進」の社長となる・朝鮮、支那視察のため派遣さる○当選二回(16 17)○昭和28年4月15日死去

山田清（やまだ きよし） 東京府第六区選出 翼賛政治会

明治23年8月生・千葉県出身・大正4年東京慈恵会医科大学卒○山田病院を開設経営す、大島町会議員、東京府会議員、東京市会議員、同参事会員となる、また府医師会議員、日本医師会顧問、東京タクシー自動車業、全国自動車業各連合会長、東京タクシー運送事業組合 顧問、品川運輸㈱取締役会長、大和運輸㈱顧問、私立桜ヶ丘商業学校理事となる・派遣軍慰問のため中支那へ派遣さる○当選二回(20 21)○昭和17年12月28日死去

山田悟六（やまだ ごろく） 群馬県選出 民主党

明治31年8月生・群馬県出身・大正7年県立勢多農林学校農林科卒○采女村長、経済安定本部事務嘱託、言語文化研究所 嘱託となる、また采女剛志、大正用水各耕地整理組合長、采女農業協同組合長、伊勢崎鉄工㈱(資)代表社員、伊勢崎重工業、伊勢鉄 航空工業、日本樽材工業、山田不動産 各㈱社長、武部シャリング工業、十王自動車各㈱取締役となる、日本進歩党常議員、遊説部副部長となる○当選一回(22)

山田佐一（やまだ さいち） 愛知県第二区選出 立憲政友会

明治19年7月生・愛知県出身○亀崎町会議員、知多郡会議員、同参事会員、愛知県会議員、同参事会員、半田市会議員、同議長、第三次吉田内閣の賠償政務次官、参議院郵政、予算、議院運営各委員長となる、また木綿織布業を営み、知多白木綿同業組合連合会長、日本織物同業組合長、県織物同業組合連合会代表員、(資)山田商店代表社員、山田紡織㈱会長、中央会評議員、日本輸出綿織物同業組合 顧問、山田織布㈱取締役、自由党総務となる○当選二回(18 19)・(参一回(1)○昭和35年4月2日死去

山田珠一（やまだ しゅいち） 熊本県熊本市選出 憲政会

慶応元年1月生・熊本県出身・漢学を修め、のち私立済々黌卒○熊本市会議員、同議長、熊本県会議員、同参事会員、同副議長、熊本市長となる、また熊本商業会議所議員、肥後慈恵会常議員、肥後製糸、熊本電気各㈱取締役、九州日日新聞社主幹、同社長となる○当選五回(7 10 11 12 13)○昭和9年4月17日死去

山田順一（やまだ じゅんいち） 新潟県第六区選出 三四倶楽部

安政3年8月生・新潟県出身・東京湯島共慣義塾及び麻布学農社に学ぶ○新潟県会議員となる、また柏崎米穀取引所理事長、日宝石油、日東石油、東京石油、百三十九銀行各㈱取締役、七十七銀行、石地銀行各監査役となる○当選一回(6補)○大正8年10月19日死去

山田順策（やまだ じゅんさく） 静岡県第一区選出 日本進歩党

明治20年2月生・静岡県出身・明治44年東京歯科医学専門学校卒○東京歯科医学専門学校助手となり、のち歯科医師を開業す、静岡市会議員、同参事会員、静岡県会議員、同参事会員、商工省委員、静岡市長となる、また静岡商工会議所議員、県歯科医師会長、日本歯科医師会議員、全国乗合自動

車運送事業組合連合会理事、県旅客貨物自動車運送事業組合 理事長、静岡自動車、静岡交通 自動車、静岡貨物自動車、草薙運送、遊覧運輸、丸中青果各(株)社長、静岡信用金庫理事長となる○当選二回(20 21)○昭和36年6月19日死去

山田 荘哉(やまだ しょうさい) 長野県第二区選出 立憲政友会

嘉永4年4月生・旧名(荘左衛門)・長野県出身・漢学を修む○農業及び酒造業を営む、長野県会議員、下高井郡会議員となる○当選一回(6)・(貴)(多額)○大正6年10月1日死去

山田 助作(やまだ すけさく) 新潟県第一区選出 立憲民政党

明治19年2月生・新潟県出身・明治41年盛岡高等農林学校卒○農業を営む、西蒲原郡農会長、所得税調査委員となる、また新潟県農工銀行監査役、北越商業銀行、新潟電鉄各(株)取締役、新潟新聞社長となる○当選二回(15 18)○昭和22年9月3日死去

山田 省三郎(やまだ せいざぶろう) 岐阜県郡部選出 大同倶楽部

天保13年12月生・岐阜県出身・漢学を修む○農業を営む、名主、庄屋、加納藩堤防普請掛となる、のち佐波学校幹事、学務委員、水利土功会議員、岐阜県会議員、同常置委員、同参事会員、稲葉郡農会議員、県農会名誉会員、地方森林会議員となる、また加納輪中堤防委員、伏越水利組合総理となり、多年河川改修等の治水事業に尽す○当選三回(7 8 9)○大正5年3月4日死去

山田 正年(やまだ せいねん) 富山県郡部選出 憲政会

明治12年4月生・富山県出身・県立農学校に学ぶ○酒造業を営む、福野町会議員、富山県会議員、所得調査委員、東砺波郡工業部会長となる、また福野電燈(株)社長、両砺銀行取締役頭取となる○当選二回(12 13)

山田 善三(やまだ ぜんぞう) 福岡県第一区選出 日本自由党

明治22年12月生・福岡県出身・明治41年日本体育会体操学校高等本科卒○県立福岡、同京都各高等女学校教諭、県立宗像高等実業女学校、同宗像農学校各校長兼教諭、福岡県女子専門学校講師を歴任す、また県中等学校購買組合 専務理事、県洋服、同武道具各統制組合理事長、全中制服工業(株)取締役、日本衣料製品統制(株)監事となる○当選一回(22)○昭和22年11月9日死去

山田 泰造(やまだ たいぞう) 神奈川県第二区選出 自由党

天保14年1月生・神奈川県出身・弁護士試験合格○弁護士の業務に従事す○当選五回(1 2 3 4 5)○大正6年9月12日死去

山田 正年(やまだ せいねん) 富山県郡部選出 憲政会

明治12年4月生・富山県出身・県立農学校に学ぶ○酒造業を営む、福野町会議員、富山県会議員、所得調査委員、東砺波郡工業部会長となる、また福野電燈(株)社長、両砺銀行取締役頭取となる○当選二回(12 13)

山田 善三(やまだ ぜんぞう) 福岡県第一区選出 日本自由党

明治22年12月生・福岡県出身・明治41年日本体育会体操学校高等本科卒○県立福岡、同京都各高等女学校教諭、県立宗像高等実業女学校、同宗像農学校各校長兼教諭、福岡県女子専門学校講師を歴任す、また県中等学校購買組合 専務理事、県洋服、同武道具各統制組合理事長、全中制服工業(株)取締役、日本衣料製品統制(株)監事となる○当選一回(22)○昭和22年11月9日死去

山田 泰造(やまだ たいぞう) 神奈川県第二区選出 自由党

天保14年1月生・神奈川県出身・弁護士試験合格○弁護士の業務に従事す○当選五回(1 2 3 4 5)○大正6年9月12日死去

山田 竹治(やまだ たけじ) 東京府第四区選出 日本進歩党

明治18年3月生・東京都出身○日露戦役に従軍す、東京市会議員、同府会議員、同議長となる、また江東運輸、三友タクシー各(株)社長となるほか、長野県に温泉旅館を経営す○当選一回(21)○昭和35年2月15日死去

山田 武(やまだ たけし) 栃木県第四区選出 憲政本党

安政5年8月生・栃木県出身・栃木師範学校卒、法律学を修む○小学権中授業、同訓導となる、のち代言人となり、次いで弁護士の業務に従事す、栃木県会議員、同参事会員となる、また宇都宮代言人組合会長、同弁護士会長となる○当選一回(6)○明治34年10月6日死去

山田 武甫(やまだ たけとし) 熊本県第五区選出 弥生倶楽部

天保2年12月生・熊本県出身・陽明学を学び、武道を修む○熊本藩会計権判事、同少参事となり、熊本県参事、内務省出仕、敦賀県令を歴任後、郷里において実業界に入り蚕業会社々長となる、また共立学舎を創立し後進の育英に尽し、次いで熊本県師範学校長となる○当選二回(1 2)○明治26年2月25日死去

山田 忠兵衛(やまだ ちゅうべえ) 東京府第二区選出 進歩党

天保12年8月生・東京都出身○東京府会議員、同常置委員、芝区長心得、東京市会議員、同参事会員、東京市収入役、東京府属となる、また東京商工銀行頭取、三田銀行取締役、芝浦鉱泉(株)取締役となる○当選一回(4)○死去

山田 長司(やまだ ちょうじ) 栃木県第二区選出 日本社会党

明治41年3月生・栃木県出身・昭和7年日本大学法律科卒○時事新報、名古屋新聞各記者、情報局嘱託、日本移動展協会専務理事、日本興論研究所長、日米会話学院理事長、日本週報社長となる、また日本無産党栃木県支部連合会長、日本農民組合栃木県連顧問、全国借地借家人組合副委員長、日中友好協会 理事、全日本農民組合中央執行委員、日本社会党栃木県連合会長、党調査会企画局情報部長、政審会決算部長、綱紀粛正特別委員長、会計監査となる○当選四回(25 26 27 28)

山田 禎三郎(やまだ ていさぶろう) 長野県郡部選出 無所属団

明治4年3月生・長野県出身・明治27年高等師範学校卒、のち英、仏、独各国に留学す○千葉県尋常師範学校教諭、茨城県師範学校長となる、また普及舎社長、帝国書籍(株)取締役、帝国教育会終身会員となる、のち電気事業に従事す○当選一回(11)○昭和5年10月6日死去

山田 東次(やまだ とうじ) 神奈川県第三区選出 日本自由党

安政5年6月生・神奈川県出身・明治18年東京法学校卒○法律雑誌発行に従事す、また和仏法律学校理事となる○当選三回(1 2 3)○明治32年12月18日死去

山田 桃作(やまだ ももさく) 山口県郡部選出 立憲政友会

安政4年3月生・山口県出身○防長米改良組合長、所得税調査委員、大津郡会議員、同参事会員、三隅村会議員、山口県会議員となる、また萩銀行、東洋漁業各(株)取締役、大韓勧農(株)取締役社長となる○当選一回(10)○大正4年1月13日死去

山田 平太郎(やまだ へいたろう) 新潟県郡部選出 憲政本党

文久元年5月生・新潟県出身・漢学を修む○農業を営む、所得税調査委員、西蒲原郡会議員、同参事会員、新潟県会議員となる、また燕銀行、農工銀行各取締役、北越商業銀行、三条銀行各監査役となる○当選一回(9)○明治43年9月8日死去

山田 又司(やまだ またじ) 新潟県第三区選出 立憲政友会

明治17年9月生・新潟県出身・明治41年慶応義塾大学政治科卒○鉱業を営む、長岡市会議員、新潟県会議員となる、また長岡市青年会長、新潟港湾調査会 顧問、長岡商業会議所 特別議員、日本金鉱、会津石膏各(株)社長、大阪機械製作所、日蘭公司、北越新報、中央証券取引所各(株)取締役、長岡鉄道、北越印刷各(株)監査役となる・朝鮮、満州及び支那視察のため派遣さる○当選五回(15 16 17 18 19)

山田 又七(やまだ またしち) 新潟県郡部選出 立憲国民党

安政2年8月生・新潟県出身○鉱業を営む、長岡商業会議所議員、長岡鉱業会議所幹事長となる、また宝田石油(株)社長、宝山製材、国油共同販売所各(株)取締役、北越製紙、中越銀行各(株)監査役となる○当選二回(9 補10)○大正6年12月21日死去

山田 道兄(やまだ みちえ) 岐阜県第一区選出 立憲民政党

明治13年9月生・岐阜県出身・明治40年早稲田大学政治経済科卒○小学校訓導となる、のち扶桑新聞主筆、東京毎日新聞、読売新聞各記者を経て、民友社を創立し、社長となる、また濱口内閣の農

林参与官となる○当選四回(15 16 17 19)○昭和11年8月27日死去

山田彌一(やまだやいち)　静岡県第二区選出　自由民主党

明治39年4月生・静岡県出身・昭和3年早稲田大学専門部商科卒○熱海町会議員、熱海市会議員、同議長、静岡県会議員、同議長となり、第一次池田内閣の運輸政務次官となる、全国都道府県議長団代表として地方自治制度視察のため渡米す、また(株)大月ホテル会長、全国旅館環境衛生同業組合連合会長となる、自由党県支部幹事長、自由民主党中小企業対策特別委員会副委員長となる○当選三回(25 26 28)

山田理兵衛(やまだりへえ)　長野県第二区選出　自由党

嘉永2年4月生・長野県出身・漢学を修む○農業を営み、平野村長、下高井郡会議員、長野県会議員となる○当選一回(5)○明治33年12月26日死去

山田六郎(やまだろくろう)　福島県第三区選出　日本進歩党

明治6年3月生・福島県出身・明治33年福島県立蚕業学校別科卒○郡書記、上岡村会議員、同村長、福島県会議員となる、また農業を営み、富岡輸出羽二重(株)専務取締役、(株)双葉館取締役社長、双葉郡農会長、同養蚕業組合長、県養蚕業組合連合会長、全国養蚕業組合連合会副会長、日本中央蚕糸会議員、県信用組合連合会監事、帝国耕地協会理事、日本蚕糸統制(株)設立委員となる・派遣遭慰問のため満州へ派遣さる○当選二回(20 21)○昭和27年6月8日死去

山手滿男(やまてみつお)　三重県第一区選出　自由民主党

大正2年1月生・三重県出身・昭和12年京都帝国大学法学部卒○東洋紡績(株)社員、三重繊維工業、興亜商事、四日市織物各(株)重役、伊勢毛織協同組合理事長となる、第三次鳩山内閣の大蔵政務次官となる、また国民民主党遊説部長、改進党資金局経理部長、政策委員会総合開発部長、通産部長、中小企業組織部長、日本民主党代議士会副会長、政調会副会長、副幹事長、自由民主党政調会副会長となる・視察議員団員として東南アジアに派遣さる、また日中貿易協商委員として中国を訪問す○当選五回(24 25 26 27 28)

山名義芳(やまなぎほう)　兵庫県第四区選出　民主自由党

明治28年10月生・兵庫県出身・大正13年大谷大学卒○僧侶となり、大阪少年審判所嘱託、少年保護司となる、のち真宗大谷派岐阜、高岡、神戸、富山各教務所長、同派教学局顧問となり、鹿児島教務所長となる○当選一回(23)

山中吾郎(やまなかごろう)　岩手県第一区選出　日本社会党

明治43年7月生・岩手県出身・昭和8年東京高等師範学校文科卒○県立山形中学校、三重県師範学校、京都府師範学校等の教諭、岩手県学務課長兼厚生課長、労働部長、教育部長、岩手県教育委員会教育長、公共企業体等労働委員会地方調停委員を歴任、また岩手大学講師、私立修紅短期大学助教授となる、日本社会党岩手県連合会顧問、政審会文教副部長となる○当選一回(28)

山中貞則(やまなかさだのり)　鹿児島県第三区選出　自由民主党

大正10年7月生・鹿児島県出身・昭和16年台湾総督府立台北第二師範学校演習科卒○高雄州公立学校教員となる、のち南日本新聞支局長となり、鹿児島県議会議員、第二次岸内閣の大蔵政務次官となる、また自由党幹事、青年部副部長、自由民主党遊説部長、政調会副会長、税制調査会副会長、オリンピック準備特別委員長、精薄対策専門委員長、医療対策特別委員長となる・議会制度調査視察のため欧米各国へ派遣さる○当選三回(26 27 28)

山中日露史(やまなかひろし)　北海道第四区選出　日本社会党

明治39年2月生・北海道出身・昭和2年中央大学法律科卒○弁護士となる、室蘭市会議員、北海道会議員、同参事会員、北海道総合開発調査委員、家事、民事各調停委員、北海道地方労働委員会長となる、また日本社会党統制委員長代理、綱紀粛正副委員長、北海道日胆地区協議会議長、室蘭支部顧問、両院議員総会副会長、代議士会副会長、院内役員会副会長となる○当選四回(23 25 26 28)

山中義貞(やまなかよしさだ)　愛媛県第二区選出　日本進歩党

明治30年3月生・愛媛県出身・慶応義塾大学理財科に学ぶ○土居村会議員、愛媛県会議員、小作調停委員となり、村農会長、宇摩郡煙害調査会長、県山林会評議員、県公安委員となる、また芸備銀行、伊予電気鉄道各(株)監査役を経て愛媛新聞、山中商店、南海放送各(株)社長、第一石産、日本ベルト各(株)会長、広島銀行、伊予鉄道各(株)取締役、愛媛県工業倶楽部会長となる○当選一回(21)

山中隣之助(やまなかりんのすけ)　埼玉県第五区選出　議員集会所

天保11年7月生・埼玉県出身○東京府会議員、同市会議員となる、また第三十二国立銀行取締役、日本鉄道会社理事となり、東京毛織物、紅葉館、富士製紙、富士身延鉄道、豊川鉄道、帝国製糖、東京瓦斯各(株)取締役、東洋汽船、日清紡績各(株)監査役、山中銀行頭取、東京商業会議所議員となる○当選一回(1)○大正8年5月19日死去

山根正次(やまねまさつぐ)　山口県郡部選出　無所属

安政4年12月生・山口県出身・明治15年東京大学医学部卒、のち欧州各国に留学し、法医学を専攻す○長崎県医学校一等教諭、兼検疫官、兼長崎病院内科医長、司法省雇、留学帰朝後、警察医長、医務局長、警視庁第三部長を歴任、その間司法省裁判医務取調、恩給局常任顧問医、印刷局衛生医務嘱託、臨時検疫部次長、中央衛生会員、日本体育会幹事等となる、のち東京市会議員、同参事会員、麹町区会議員となるほか、市衛生顧問、市学務委員長、法律取調委員、朝鮮総督府衛生事務嘱託となる、また日本医学専門学校長となる・万国医事会議(パリ)に参列す㊟虎列剌病況論」「赤痢病予防法」「梅毒亡国論」「禁酒論」「禁煙論」、(翻訳)「オッペンハイム医権論」、(仏文)「日本火葬論」「日本体育論」○当選六回(7 8 9 10 12 13)○大正14年8月29日死去

山野平一(やまのひらかず)　大阪府第三区選出　無所属倶楽部

明治20年8月生・大阪府出身・明治38年府立八尾中学校卒○大阪市会議員、同副議長となり、借地借家調停委員、北区町会連合会長、都島簡易裁判所調停委員、大阪調停協会長、大阪市社会福祉協議会副会長となる、また都島商事㈱社長、大阪地下街㈱監査役となる○当選一回(21)

山花秀雄(やまはなひでお)　東京都第七区選出　日本社会党

明治37年3月生・東京都出身○友愛会に加入、日本労働組合評議会、労働農民党を経て、労農党、日本労働組合評議会、全国労農大衆党、日本無産党等の各常任中央執行委員、日本労働組合全国評議会書記長、日本労働組合同盟副会長、総評化学産業労働組合同盟中央執行委員長となるほか、日本社会党教育部長、中央執行委員、軍事基地対策委員長、教育宣伝局長、組織局長を歴任す、また衆議院懲罰委員長となる・ILOアジア会議(セイロン)、MRA(米国)に出席、日中国交回復促進のため党代表として中華人民共和国を訪問す、また訪伯豪親善使節議員団として派遣さる○当選六回(22補 23 25 26 27 28)・(参)一回(2)

山邊常重(やまべつねしげ)　長野県第二区選出　立憲民政党

明治9年8月生・東京都出身・明治35年東京法学院卒○東京株式取引所仲買人、巴商会支配人となり、日本紙器製造、三協商事、日本護謨工業、妙高温泉土地各(株)監査役、日本勧業、中央屑物市場、帝国澱粉、日本化学産業、日本電気窯業、大雄山鉄道各(株)取締役となる、また、杉田日進堂

(資)代表社員、大原簿記学校理事、専修商業学校顧問となる○当選四回(14 16 17 19)○昭和19年7月29日死去

山枡 儀重 (やまます のりしげ) 鳥取県選出 立憲民政党

明治22年4月生・鳥取県出身・大正6年京都帝国大学哲学科選科卒○小学校教員、愛知県第一師範学校教諭、大阪市視学を歴任、文部省より欧米の実業教育状況調査のため欧米各国を視察す、のち文部省嘱託、内閣総理大臣秘書官、岡田内閣の文部参与官となる、また鳥取新聞社長、日本美術学校長となる(著)「欧米革新教育ノ実際」「私有財産制度ト国家社会主義」「大人の教育」「欧米政治行脚」○当選五回(15 17 18 19 20)○昭和12年12月25日死去

山宮 藤吉 (やまみや とうきち) 神奈川県第五区選出 立憲民政党

文久2年3月生・神奈川県出身○農業を営む、鶴巻村長、神奈川県会議員、所得調査委員となる、また江陽銀行専務取締役、同監査役となるほか、萩園報徳社長、大日本報徳社講師となる○当選三回(11 12 15)○昭和8年1月4日死去

山村 庄之助 (やまむら しょうのすけ) 大阪府第一区選出 自由民主党

明治22年2月生・奈良県出身・明治41年長野県上田蚕業学校卒○奈良県養蚕組合教師兼農業補習学校教師、台湾総督府蚕業技術官となり、大阪府会議員、同参事会員、大阪府副知事となる、また台湾産業社、大阪食料社各社長、大阪瀆物荷受(株)取締役社長、大阪食料社各社長、大阪瀆物荷受(株)取締役となる・世界戸根金属工業(株)取締役となる・世界国際見本市博覧会(アルゼンチン)の開会式及び英国女王戴冠式に参列す○当選一回(28)○昭和34年3月18日死去

山村 新治郎 (やまむら しんじろう) 千葉県第二区選出 自由民主党

明治41年3月生・千葉県出身・大正15年県立佐原中学校卒○千葉県会議員、第一次吉田内閣の逓信参与官、第三次吉田内閣の労働政務次官、衆議院議院運営委員長、第四十九回列国議会同盟会議日本議員団代表となる、また香取地方事務所参与、千葉県食糧営団理事長、山村産業(株)社長となる、民主自由党総務、自由党総務、副幹事長、日本民主党副幹事長、国会対策副委員長、自由民主党総務、相談役、総務会副会長となる・議会制度調査会制度視察及びユーゴー視察のため、また各国議会制度視察及びユーゴースラヴィア訪問親善使節議員団長として欧米各国に派遣さる○当選七回(22 23 24 25 26 27 28)

山村 豊次郎 (やまむら とよじろう) 愛媛県第三区選出 立憲政友会

明治2年3月生・愛媛県出身・明治28年日本法律学校卒○弁護士の業務に従事す、宇和島町長、宇和島市会議員、同議長、宇和島市長となる、また北宇和郡水産会長、市及び郡畜産組合長、宇和島湾産業社、大阪食料社各社長、大阪瀆物荷受(株)取締役、宇和島運輸(株)専務取締役、宇和島水電、第三宇和島土地、宇和島窯業各(株)取締役、日本酒類醸造、明治製糸、別府温泉土地栽培各(株)監査役、宇和島鉄道、南予時事新聞各(株)取締役社長となる○当選三回(9補 18 19)○昭和13年9月20日死去

山邑 太三郎 (やまむら たさぶろう) 兵庫県第二区選出 無所属

明治13年2月生・兵庫県出身・明治30年大阪高等商業学校卒○日露戦役に従軍、陸軍二等主計となる、魚崎村会議員、魚崎村長、同町長となる、また武庫郡東郷酒造組合長、東醤油(株)社長、山邑酒造、日章火災海上再保険、名古屋信託各(株)取締役、日章信託、太平洋水産、帝国紡績、日清生命保険各(株)監査役となる○当選二回(14 16)○昭和3年2月28日死去

山本 市英 (やまもと いちえい) 北海道第四区選出 立憲政友会

明治24年1月生・北海道出身・大正4年早稲田大学専門部政治経済科卒○小樽新聞政治経済部記者、同社岩見沢支局長、小樽商業会議所総務課長となり、北海道会議員、同参事会員、岩見沢市長となる、また大正製薬化学(株)監査役、北都製薬(株)取締役社長となる○当選一回(18)

山本 勝市 (やまもと かついち) 埼玉県第四区選出 自由民主党

明治29年3月生・埼玉県出身・大正12年京都帝国大学経済科卒、経済学博士○和歌山高等商業学校教授、国民精神文化研究所員、教学局教学官を歴任、その間経済学及び社会運動研究のため再度欧米各国に在留を命ぜらる、東京府立高等学校講師、大東文化学院教授、第一次鳩山内閣の通商産業政務次官、衆議院大蔵委員長となる、また日本畜産興業(株)社長、国際技術協力協会理事、日本自由党経済再建委員長、自由党政審会副会長、日本民主党総務、自由民主党総務、政調会財政部長、税制調査会副会長となる(著)「マルキシズムを中心として、其の説明と批判」「資本主義と社会主義」「計画経済批判」○当選四回(22 26 27 28)

山本 勝次 (やまもと かつじ) 静岡県第九区選出 立憲民政党

明治13年10月生・静岡県出身・明治33年東京専門学校政治科卒○農業を営む、浜名郡会議員、同参事会員、静岡県会議員、同参事会員、白須賀町長となる、また県立浜松中学校書記、同校助教諭心得、県地方森林会員、同農会特別議員、同畜産組合連合会会副会長、同蚕糸業組合連合会評議員、郡農会長、同畜産組合長となる○当選一回(15)○昭和3年1月10日死去

山本 貴三郎 (やまもと きさぶろう) 福岡県第七区選出 憲政本党

弘化3年11月生・福岡県出身・和漢学、武術及び英学を修む○戊辰の役に従軍す、のち天草、松島、平戸等において採炭の業務に従事、次いで豊国炭坑を経営す、また金辺鉄道(株)取締役、小倉電燈(株)相談役、若松鉄道創立委員長となり、小倉町会議員となる○当選一回(6)○明治32年12月22日死去

山本 粂吉 (やまもと くめきち) 茨城県第三区選出 自由民主党

明治26年7月生・東京都出身・明治大学に学ぶ○弁護士の業務に従事す、東京弁護士会副会長、司法省委員、幣原内閣の大蔵参与官、塩増産本部参与、裁判官弾劾裁判所第一代理裁判長、衆議院内閣委員長となる、また広瀬川電力、下館木工、茨城篠竹各(株)取締役、日立セメント(株)取締役社長を経て矢祭温泉(株)取締役社長、大市土地、三昧荘各(株)取締役、日立セメント(株)顧問となる、改進党党務委員長、日本民主党会計監督、国会対策副委員長、自由民主党総務となる○当選五回(19 20 21 25 27)

山本 幸一 (やまもと こういち) 岐阜県第一区選出 日本社会党

明治43年2月生・岐阜県出身○昭和3年労農党入党、のち社会大衆党岐阜県連合会書記長、日本社会党岐阜県連合会書記長及び会長となり、同党中央執行委員、青年婦人局長、原水爆禁止運動特別委員長、国会対策委員長を歴任す、また衆議院大蔵委員長、第四十九回列国議会同盟会議日本議員団代表となる・東南アジア視察のため、次いで議会制度調査視察のため欧米各国に派遣さる、また金融、税制調査のため再度欧米各国を歴訪す(著)「社会主義と青年」○当選五回(23 25 26 27 28)

山本 厚三 (やまもと こうぞう) 北海道第一区選出 日本進歩党

明治14年5月生・北海道出身・明治36年東京高等商業学校卒○小樽区会議員、小樽市会議員となり、濱口内閣の鉄道参与官、廣田内閣の文部政務次官となる、また海運、農林業等を営み、小樽商工会議所顧問、小樽倉庫、小樽商船各(株)社長、北日本汽船、北海道製綿、大正製麻、小樽新聞各(株)取締役、北海道煉乳、定山渓鉄道各(株)監査役、松前造林資社長、立憲民政党総務となる・永年在職議員として院議表彰さる○当選八回(14 15 16 17 18 19 20 21)○昭和25年1月18日死去

山本 實彦 (やまもと さねひこ) 鹿児島県選出 協同民主党

明治18年1月生・東京都出身・日本大学法律科に学ぶ○やまと新聞記者、門司新聞主筆を経て東京毎日新聞社長となる、のち出版業に入り、改造社

を創立し社長となる、また文部省、農商務省各嘱託、東京市会議員、麻布区会議員、大東亜省顧問となるほか、日本協同党委員長、協同民主党委員長となる・英国国王戴冠式に参列す㊟「満鮮」「蒙古」「支那」「蘇聯瞥見」「巨いなる歩み」「我観南国」「政界の寵児」○当選二回(17 22)○昭和27年7月1日死去

山本三太郎(やまもとさんたろう) 愛知県第十区選出 進歩党

天保8年8月生・愛知県出身・漢学を修む○戸長、郡会議員、県会議員となる、製油販売業を営む○当選一回(4)○明治30年2月4日死去

山本繁造(やまもとしげぞう) 兵庫県神戸市選出 立憲政友会

安政元年8月生・兵庫県出身○葺合村会議員、戸長、神戸市会議員、同参事会員、葺合区会議員、兵庫県会議員、所得税調査委員、神戸港改築委員となる、また神戸市商品取引所株理事長、神戸魚鳥青物市場、神戸葺合港湾改築各(株)取締役となる、のち真宗本願寺派教師となり、大阪府三島郡大光寺副住職となる○当選二回(5 9)○大正12年3月3日死去

山本七朗(やまもとしちろう) 石川県郡部選出 立憲政友会

明治8年10月生・石川県出身○酒造業を営む、石川県会議員、同参事会員、相続税審査委員となる、また田鶴浜銀行取締役となる○当選一回(11)○大正14年12月18日死去

山本正一(やまもとしょういち) 神奈川県第二区選出 自由民主党

明治34年4月生・東京都出身・日本大学専門部法律科に学ぶ○弁護士の業務に従事す、鎌倉市会議員、神奈川県会議員、第五次吉田内閣の北海道開発政務次官、内閣総理大臣秘書官、裁判官弾劾裁判所裁判長となり、のち鎌倉市長となる、また自由党総務、国会対策副委員長、日本民主党経理局長、遊説局次長、副幹事長、自由民主党国会対策副委員長、出版局長、政調会内閣部長となる○当選五回(22 25 26 27 28)

山本条太郎(やまもとじょうたろう) 福井県選出 立憲政友会

慶応3年10月生・東京都出身○三井物産株社に入社、上海支店長、理事心得を経て三井物産株常務取締役となる、のち日本水力、日本火薬製造、日支紡織、大同肥料各(株)取締役社長、大同電力、京浜電力、満州製麻、朝鮮紡織各(株)取締役、中日実業、日蘭貿易各(株)相談役、日華学会理事等となり、鉄道会議議員、行政制度審議会委員、南満州鉄道株社長、同総裁となる、立憲政友会総務、政務調査会長、幹事長となる○当選五回(14 15 16 17 18)・(貴)(勅選)○昭和11年3月25日死去

山本慎平(やまもとしんぺい) 長野県第一区選出 立憲政友会

明治9年1月生・長野県出身・明治34年早稲田大学政治経済科卒○長野新聞、新潟日報各主筆及び社長となり、長野県会議員、同参事会員、稲荷山町長となる、また鹿曲川水力電気(株)取締役となる・中華民国視察のため派遣され、また第十五回万国議院商事会議(ベルリン)に参列す㊟「時局ト現代思想」「新農村論」「嘲罵録」「恋、仏、天」○当選三回(15 16 18)○昭和23年5月21日死去

山本清三郎(やまもとせいざぶろう) 愛知県第六区選出 政友本党

明治9年11月生・兵庫県出身・慶応義塾普通部卒、のち米国に留学し、エール大学及びコロンビア大学に学ぶ○鐘洋電燈、有馬土地各(株)取締役、(株)東洋製鋼所社長となる○当選一回(14)○昭和8年11月30日死去

山本宣治(やまもとせんじ) 京都府第二区選出 第一控室会

明治22年5月生・京都府出身・カナダ、ブリタニア・ハイスクール修学、大正9年東京帝国大学動物科卒、同大学院に学ぶ○同志社大学予科、京都帝国大学医学部、同理学部各講師となる、大正12年以降無産階級解放運動の諸方面に参加するほか、京都労働学校を創設し校長となり、次いで月刊雑誌「産児調節評論」、のち改題「性と社会」を発刊し社長兼主筆となる、また議会解散請願運動全国協議会委員長、労働農民党京都府支部連合会執行委員長となる㊟訳書「ニコライ・戦争進化ト生物学的批判」、「性教育」「恋愛革命」「生物人類」○当選一回(16)○昭和4年3月5日死去

山本荘一郎(やまもとそういちろう) 長野県第二区選出 立憲政友会

明治10年5月生・長野県出身・明治28年小県蚕業学校卒○小県郡会議員、同参事会員、同議長、長野県会議員、同参事会員、同副議長、同議長、東内村長となる、また県農会長、産業組合中央会長野県支会理事、信濃銀行頭取となる・派遣軍慰問のため満州に派遣さる○当選一回(18)○昭和15年12月20日死去

山本猛夫(やまもとたけお) 岩手県第一区選出 自由民主党

明治36年6月生・東京都出身・大正12年日本大学政治科卒○時事新報社、毎日新聞社政治部記者となり、のち東洋鋼材工業、東京製糖各(株)取締役社長となる、衆議院懲罰委員長、第三次吉田内閣の郵政政務次官となる、また民主自由党情報部長、常任総務、選挙対策部長、遊説部長、自由民主党総務となる・ローマに開催の国際会議に日本代表として出席、欧米の国会制度、住宅建設、道路整備の情況を視察す、なお戦犯死刑囚助命のためローマ法王に謁見す、また世界連邦会議(コペンハーゲン)に出席、北欧各国を視察す○当選四回(23 24 27 28)

山本唯次(やまもとただじ) 兵庫県第三区選出 立憲政友会

明治14年5月生・兵庫県出身・明治40年東京帝国大学独法科卒○陸軍三等主計となる、のち台湾銀行員となり、台北本店、上海支店勤務を経て、弁護士の業務に従事し、第二東京弁護士会常議員となる○当選一回(16)○昭和9年1月31日死去

山本悌二郎(やまもとていじろう) 新潟県第一区選出 立憲政友会

明治3年1月生・新潟県出身・独、英両国に留学、ライプチッヒ大学に学び、ドクトル・フィロソフィエ及びボナールム・アルチウム・マギステルの学位を受く○宮内省御料局に入り、のち第二高等学校教授となる、次いで日本勧業銀行鑑定課長を経て、台湾製糖(株)専務取締役、同社長、糖業連合会長、南国産業、台湾倉庫、亜細亜煙草各(株)重役等となり、田中内閣及び犬養内閣の農林大臣、経済審議会副会長となる、立憲政友会総務、顧問、日独協会、畜産協会各会長となる・永年在職議員として院議表彰さる○当選十一回(9 10 11 12 13 14 15 16 18 19 20)○昭和12年12月14日死去

山本藤助(やまもととうすけ) 鳥取県第一区選出 庚申倶楽部

明治7年6月生・大阪府出身・明治28年京都府立商業学校卒○帝国海上保険会社々員となり、のち鉄鋼商及び海運業を営み、大阪市会議員、同参事会員となる、また大阪商業会議所常議員、日本海員掖済会常議員、山本汽船(株)代表取締役、大阪製鉄、南洋製糖、東印度貿易、日本簡易火災保険、実用自動車製造各(株)取締役等となるほか、帝塚山学院を創設し常任理事となる○当選一回(14)○大正15年8月15日死去

山本利壽(やまもととしなが) 島根県選出 自由民主党

明治29年11月生・島根県出身・大正12年関西学院文学部社会学科卒、のち米国南メソヂスト大学、同大学院卒、マスター・オブ・アーツの学位を受く、さらにカリフォルニア大学、コロンビア大学院に教育社会学を研究す○関西学院講師、馬来軍政監部附陸軍司政官、島根県会議員、参議院商工委員長となる、また民主党渉外部長、国民民主党総務委員、改進党代議士会副会長、外交政策部長、日本民主党文化局次長、自由民主党政調会外交部長、総務となる・東南アジア視察のため派遣され、中近東、欧州各国を視察、第四十六回列国

議会同盟会議（ロンドン）にオブザーバーとして出席す○当選二回（24・27）・（参）一回（4補）

山本 友一（やまもと ともいち） 愛媛県第三区選出 自由民主党

明治38年4月生・愛媛県出身○宇和島市会議員、愛媛県会議員、同議長となる、また盛運汽船㈱取締役社長、伊達倉庫、南予通運各㈱取締役、自由党宇和島支部連合会幹事長、自由民主党政調会交通部長、総務となる○当選二回（26・27）

山本 登（やまもと のぼる） 和歌山県第三区選出 紀州組

安政5年2月生・和歌山県出身・田辺藩学校に学ぶ○小学校訓導、戸長、上南部村会議員、和歌山県会議員、同副議長となる、また和歌山米穀株式取引所理事長となる、のち珊瑚採取業に従事す○当選一回（2）○大正5年10月16日死去

山本 久雄（やまもと ひさお） 広島県第一区選出 自由党

明治19年10月生・広島県出身○広島市会議員、同議長、広島県会議員、同副議長、同市部会副議長、広島市第一助役、市長代理助役となる、また広島県復興㈱取締役、広島薪炭㈱常務取締役、広菱倉庫運輸、竹原海運各㈱取締役、山陽ゴム㈱会長、自由党総務となる・万国郵便会議（ブラッセル）に日本代表として出席す○当選一回（24）○昭和37年12月9日死去

山本 平三郎（やまもと へいさぶろう） 兵庫県第二区選出 立憲民政党

明治8年3月生・兵庫県出身○鉄工業、建築請負業及び海運業を営む、神戸市会議員となる、また兵庫県土木建築請負業組合長、神戸市土木建築請負業組合相談役、神戸商業会議所議員、桜麦酒㈱取締役、相良銀行、相良運輸各㈱取締役となる○当選一回（17）○昭和6年1月31日死去

山本 盛信（やまもと もりのぶ） 愛媛県松山市選出 中正倶楽部

安政元年3月生・愛媛県出身・普通学を修む○町会議員、町村連合会議員、郡会議員、同副議長、同議長となる、また（名）向陽社長、松山醤油、愛媛新報社各㈱社長、松山米穀株式取引所監査役、松山商業銀行取締役となる○当選一回（8）○大正12年5月20日死去

山本 幸彦（やまもと ゆきひこ） 高知県高知市選出 立憲政友会

弘化元年11月生・高知県出身・漢学、英学を修む○高知県属、戸長、高知中学校長、高知師範学校長、高知女子師範学校長を歴任す○当選三回（6・8・9）○大正2年5月23日死去

山本 芳治（やまもと よしじ） 大阪府第二区選出 日本進歩党

明治14年9月生・兵庫県出身・明治42年東京帝国大学独法科卒○司法官試補となる、のち弁護士の業務に従事し、破産管財人、大阪市会議員、同参事会員、陸軍々法会議指定弁護士となり、第一次近衛内閣の厚生参与官となる、また大阪地方裁判所々属弁護士会副会長、立憲政友会総務となる○当選五回（15・18・19・20・21）○昭和25年12月28日死去

山本 六彦（やまもと むつひこ） 山口県第五区選出 無所属

安政4年1月生・山口県出身○農業を営む○当選一回（4補）○明治32年6月25日死去

山本 隆太郎（やまもと りゅうたろう） 和歌山県郡部選出 立憲政友会

文久2年9月生・和歌山県出身○農業を営む、和歌山県会議員、同常置委員、同参事会員となる、また和歌山米穀株式綿糸取引所理事、関西土地興業㈱取締役となる○当選五回（3・4・5・7・8）○昭和17年8月7日死去

山元 亀次郎（やまもと かめじろう） 鹿児島県第三区選出 衆議院議員倶楽部

明治27年5月生・鹿児島県出身・日本大学専門部法科に学ぶ○全国学生同盟を組織、普選運動に従事し、雑誌「革新運動」を創刊す、また日本労働党、労働農民党、社会民衆党を経て日本国家社会党の創立に参加し、常任中央執行委員となる、のち奄美大島において マンガン鉱山を経営す㊒「新日本の活路とその原動力」「日本労働党の綱領」○当選一回（20再）○昭和37年3月27日死去

山森 隆（やまもり たかし） 石川県金沢市選出 立憲政友会

安政5年9月生・石川県出身・明治8年石川県師範学校速成科卒○小学校訓導となる、のち連合町会議員、同議長、学務委員、県教育会議員、金沢区書記となり、金沢市会議員、同参事会員、石川県会議員、金沢市長となる、また書籍商を営み、石川新聞、金沢紡績各㈱社長となる○当選二回（7・9）○昭和4年12月13日死去

山森 利一（やまもり りいち） 埼玉県第三区選出 立憲民政党

明治22年6月生・富山県出身・明治44年早稲田大学大学部商科卒○富山日報記者となり、陸軍参謀本部支那経済調査員として広東、広西両省を踏査す、帰朝後報知新聞社に入り、ワシントン会議特派員、支那政情視察特派員を経て、北支那開発㈱嘱託、報知新聞社論説委員、同相談役、早稲田大学商議員となる、のち富山県教育委員長、呉羽町長となる○当選一回（19）

山谷 徳治郎（やまや とくじろう） 岡山県第七区選出 立憲政友会

慶応2年3月生・東京都出身・東京帝国大学医学部に学ぶ、のちドイツに留学、ギーセン及びゲッチンゲン大学に学び、ドクトル・メジチーネの学位を受く、医学博士○津山町に私立病院を創立し医業に従事す、のち大阪私立清野病院副院長、三共㈱資理事となる、また㈱日新医学社を創立し取締役社長となり、医学雑誌、図書の出版に従事す○当選一回（15㈱）○昭和15年5月27日死去

山谷 虎三（やまや とらぞう） 岡山県郡部選出 立憲民政党

万延元年7月生・岡山県出身・明治15年明治法律学校卒○代言人となり、次いで弁護士の業務に従事す、勝山町会議員、中国鉄道㈱支配人、阿哲銀行頭取、吉備貯蓄銀行監査役となる○当選二回（11・12）○昭和2年1月15日死去

ゆ の 部

由谷 義治（ゆたに よしはる） 鳥取県選出 日本進歩党

明治21年3月生・鳥取県出身・早稲田大学に学ぶ○鳥取市会議員、同参事会員、鳥取県会議員、同参事会員、内務省嘱託、大蔵省委員となる、また八千代生命保険㈱監査役、日ノ丸運送㈱社長、扶桑相互銀行取締役となる・満州、朝鮮及び台湾視察のため議員団長として派遣さる○当選六回（15・~~16~~17・18・19・20・21）○昭和33年10月8日死去

由布 惟義（ゆふ これよし） 福岡県郡部選出 立憲政友会

嘉永2年11月生・福岡県出身・藩校伝習館に学ぶ○奥羽征討に従軍し、柳河藩小隊長となる、のち村会議員、郡会議員、福岡県会議員、同常置委員、同議長、県教育会長となる、のち立花伯爵家家令を委嘱さる○当選三回（7・8・9）○大正14年7月22日死去

柚木 慶二（ゆのき けいじ） 鹿児島県郡部選出 立憲政友会

安政6年9月生・鹿児島県出身○西南の役に従軍し、役後戦亡諸士の子弟教育に従事、次いで育英屢を設立し、多数子弟の教育に従事するほか、三

州社常議員、同志会常務委員、立憲政友会県支部幹事等となり、鹿児島県会議員となる、また鹿児島新聞社監督となる○当選六回(7 8 9 10 11 12)○大正5年2月11日死去

湯淺貞太郎(ゆあさまだたろう)　徳島県第一区選出　自由党

嘉永3年2月生・徳島県出身・私塾に学ぶ○小松島村会議員、同村長、小松島町会議員、同町長、徳島県会議員となり、所得税調査委員、勝浦郡教育会長となる○当選二回(3 4)○明治44年8月16日死去

湯淺治郎(ゆあさじろう)　群馬県第五区選出　弥生倶楽部

嘉永3年10月生・群馬県出身・漢学、算術を修む○学務委員、碓氷郡書記、群馬県会議員、同常置委員、同議長となる、また味噌醤油醸造業を営み、県下安中町に私設図書館便覧社、キリスト教徒たる士族授産のための養蚕場碓氷会堂、機械製糸事業国光社、キリスト教書籍出版業警醒社等を設立経営するほか、碓氷銀行頭取、日本鉄道会社理事、日本組合キリスト教会の伝導会常置委員、同志社資産管理委員、同理事、国民新聞社創立委員となる○当選二回(12)○昭和7年6月7日死去

湯淺凡平(ゆあさぼんぺい)　広島県第十一区選出　新正倶楽部

慶応3年11月生・広島県出身・明治24年慶応義塾卒、のち明治大学法科に学ぶ○日本郵船(株)社員となり、のち朝鮮慶尚南道密陽において農事を経営し、密陽銀行業務執行社員、上南水利組合長となる、また横浜市会議員、同参事会員となる・第二十回列国議会同盟会議(ウイーン)に参列す○当選五回(11 12 13 14 15)○昭和18年5月17日死去

湯本義憲(ゆもとよしのり)　埼玉県第四区選出　無所属

嘉永2年2月生・埼玉県出身・漢学及び武術を修む○学区取締兼農務取締、埼玉県会議員、三郡土木集会議員、同議長、所得税調査委員、土木会委員となり、岐阜県知事となる、のち郷里において農業の多角経営に従事し、利根治水同盟会長、内務省治水調査委員となる○当選四回(1 2 3 4)○大正7年11月15日死去

湯山壽介(ゆやまじゅかい)　静岡県郡部選出　立憲政友会

安政5年10月生・静岡県出身○農業を営む、菅沼村会議員、同議長、菅沼村ー足柄村組合村長、同組合村会議員、静岡県会議員、同常置委員、同副議長、同参事会員、同議長、徴兵参事員、地方衛生会委員となる、また郡農会長、県農会議員、五県連合農会議員、全国農事会幹事、静岡農工銀行、富士紡績、御殿場委託、御殿場馬車鉄道各(株)監査役、御殿場銀行、駿東実業銀行、駿東貯蓄銀行各取締役となる○当選二回(8 9)○大正12年12月18日死去

遊田研吉(ゆうだけんきち)　岩手県郡部選出　立憲政友会

慶応2年3月生・岩手県出身・漢学、英語学を修む○上郷村長、岩手県会議員、同参事会員、地方森林会議員となる○当選一回(9)○昭和8年10月9日死去

行吉角治(ゆきよしかくじ)　岡山県第一区選出　翼賛議員同盟

明治23年6月生・岡山県出身○逓信事業を経営し、善光寺登山鉄道(株)重役、連合通信社、行吉商事各(株)取締役社長となり、(株)日本建材工業取締役社長となる・派遣軍慰問のため北支那へ派遣さる○当選二回(19 20)○昭和20年3月5日死去

雪澤千代治(ゆきざわちよじ)　長崎県第一区選出　自由党

明治22年4月生・長崎県出身・大正8年東京帝国大学英法科卒○静岡県属、内務属、地方事務官、新潟県学務部長、内務省土木局港湾課長、大臣官房都市計画課長、岩手、熊本、愛知、京都各府県知事、愛媛県知事兼四国地方行政協議会長、松山海運局長、四国軍需管理部長を歴任し、日本医療団副総裁となる、のち日本繊維工業(株)顧問、東北電気製鉄(株)取締役、東北製塩化学工業(株)社長となる○当選一回(25)

横井甚四郎(よこいじんしろう)　愛知県郡部選出　立憲政友会

万延元年10月生・愛知県出身・愛知県第一区選出　自由民主党

学校卒、のち漢学を修む○一宮町長、愛知県会議員、同郡部会副議長となる、また呉服商、蚕糸繭問屋業を営み、一宮銀行取締役となる○当選五回(5 7 8 9 10)○明治42年8月16日死去

横井善三郎(よこいぜんざぶろう)　愛知県第三区選出　弥生倶楽部

安政3年8月生・愛知県出身・国漢学を修む○下小田井村会議員、西枇杷町長、西春日井郡会議員となる、また日本共立汽船、六条生命保険、真宗生命保険各(株)取締役、愛知実業銀行取締役、愛知貯蓄銀行、各古屋商品取引所各監査役となる○当選一回(2)○昭和4年9月28日死去

横井太郎(よこいたろう)　愛知県第一区選出　自由民主党

明治32年6月生・愛知県出身・大正10年農林省水産講習所漁撈科卒○名古屋市会議員、愛知県会議員となる、また名古屋毎日新聞政治部長、県翼賛壮年団総務、名古屋魚(株)会長、名古屋水産物卸売協会長、名古屋冷蔵(株)取締役、朝日土地(株)取締役社長となる○当選一回(27)

横井藤四郎(よこいとうしろう)　福井県郡部選出　正交倶楽部

元治元年2月生・福井県出身・漢、数、英学を修む○日清、日露の戦役に従軍す、のち共立物産(株)支配人を経て同社取締役、沖台拓殖製糖(株)取締役となる、また中立砂糖(株)監査役、ユニオン硝子(株)専務取締役、江若鉄道(株)取締役となる○当選一回(13)○昭和8年6月11日死去

横井時雄(よこいときお)　岡山県郡部選出　立憲政友会

安政4年5月生・熊本県出身・熊本洋学校、開成学校に学び、明治12年同志社英学校卒、のち米国エール大学哲学科に学ぶ○基督教伝道に従事す、同志社々員となり、欧米漫遊、米国遊学を経て帰朝後、同志社々長兼校長となる、のち逓信省官房長となり、東京日日新聞主幹となる○当選二回(9 10)○大正15年1月19日死去

横尾輝吉(よこおてるきち)　栃木県郡部選出　憲政会

安政2年5月生・栃木県出身・早稲田大学及び立教大学に学ぶ○栃木県会議員、同常置委員、同参事会員、同副議長、同議長となり、連合町村会議長、勧業諮問会員、教育諮問会員、所得税調査委員、徴兵参事員となる、また日刊新聞新下野を発